

都城市所在

ひら みね い せき
平 峰 遺 跡 (1次・2次調査)

一般国道10号都城道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 3

序

宮崎県教育委員会では、一般国道10号都城道路建設工事に伴い、平成19年度から平成20年度にかけて平峰遺跡（第1次・第2次）の埋蔵文化財発掘調査を実施しました。本書はその発掘調査報告書です。

今回の調査では、古墳時代や古代を中心に多くの遺構や遺物が検出されました。特に古墳時代中期では30軒を超す竪穴建物群が検出されており、この時期の集落としては都城地域で初めての発見となりました。集落の中には南九州では類例のない多角形竪穴建物跡を始め、鍛冶工房跡なども検出されており、当時の南九州の文化や地域交流の様相を知る上で貴重な資料になるものと考えられます。

本書が学術資料となるだけでなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、また、埋蔵文化財保護に対する理解の一助になれば幸いです。

最後に、調査にあたって御協力いただいた関係諸機関・地元の方々、並びに御指導・御助言を賜った先生方に対して、厚くお礼申し上げます。

平成24年2月

宮崎県埋蔵文化財センター

所長 森 隆茂

例　　言

- 1 本書は、一般国道10号都城道路建設に伴い、宮崎県教育委員会が実施した、宮崎県都城市平塚町に所在する平峰遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、国土交通省九州地方整備局宮崎河川国道事務所の委託を受け、宮崎県教育委員会を主体に宮崎県埋蔵文化財センターが以下の通り実施した。
【1次調査】 2007(平成19)年5月21日から 2008(平成20)年3月21日まで
【2次調査】 2008(平成20)年12月15日から 2009(平成21)年3月18日まで
- 3 発掘調査は、1次調査及び2次調査とともに橋本恵二が主として行った。また現地調査における図面作成及び写真撮影については、主に橋本恵二、森田利枝、福田光宏、甲斐康大が発掘作業員の協力を得て作成した。なお発掘調査の組織については、第1章第2節に詳細に述べた。
- 4 整理作業は、宮崎県埋蔵文化財センター本館及び分館で行い、本書に係る業務については、橋本が整理作業員の協力を得て行った。
- 5 平峰遺跡(1次・2次調査)では、以下の業務に関しては、委託をして行った。
空中写真撮影：有限会社ふじた
基準点測量：南九州測量
自然科学分析：パリノサーヴェイ株式会社、パレオ・ラボ株式会社、株式会社古環境研究所
金属学的調査：株式会社九州テクノリサーチTACセンター
なお、自然科学分析並びに金属学的調査の分析成果については、第IV章に収録した。
- 6 本書の執筆は、第1章第1節を調査第一課副主幹飯田博之が、その他の執筆及び編集は、永友良典、吉本正典、和田理啓、大村公美恵、橋本恵二が行った。なお、整理作業・報告書作成についての組織は、第1章第2節に詳細に述べた。
- 7 調査で出土した遺物、その他の諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターにおいて保管している。

凡　　例

- 1 本書で使用した地図(周辺遺跡分布図)は、国土地理院発行の1/50,000の図『都城』をもとに作成した。
- 2 本書で使用した方位は、国土座標第II系(日本測地系)の座標北、標高については、海拔絶対高を示す。
- 3 本書で使用した土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』に準じた。
- 4 註及び参考・引用文献については、各節末尾に記した。

本文目次

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯	(飯田)	1
第2節 調査の組織	(和田)	2

第Ⅱ章 遺跡の歴史的環境と地理的環境

第1節 地理的環境	(永友)	3
第2節 歴史的環境	(永友)	3

第Ⅲ章 調査の記録

第1節 調査の概要	(大村・橋本)	9
第2節 基本層序	(大村・橋本)	12
第3節 編文時代の遺構と遺物	(吉本)	13
第4節 弥生時代の遺構と遺物	(吉本)	20
第5節 古墳時代の遺構と遺物	(吉本・和田)	23
第6節 古代以降の遺構と遺物	(吉本・和田)	157

第Ⅳ章 自然科学分析

第1節 テフラ分析・樹種同定①・放射性炭素年代測定①・赤色顔料分析①	164
第2節 樹種同定②・放射性炭素年代測定②・赤色顔料分析②	180
第3節 樹種同定③・種実同定・放射性炭素年代測定③	191
第4節 金属学的調査①	198
第5節 金属学的調査②	224

第Ⅴ章 総括

第1節 多角形竪穴建物について	(和田)	264
第2節 銅冶関連遺構・遺物について	(大村・橋本)	269
第3節 平峰遺跡の各時代の様相	(和田・2項のみ吉本)	270

挿図目次

第1図	平峰遺跡位置図	3
第2図	平峰遺跡周辺遺跡分布図	6
第3図	平峰遺跡周辺地形図	10
第4図	平峰遺跡(1次・2次) 遺構分布図・グリッド配置図	11
第5図	基本層序図	12
第6図	1号土坑・1号土坑出土遺物①	14
第7図	1号土坑・1号土坑出土遺物②	15
第8図	2号土坑・2号土坑出土遺物	15
第9図	縄文土器①	16
第10図	縄文土器②	17
第11図	縄文時代の石器	18
第12図	3号土坑	21
第13図	3号土坑出土遺物	21
第14図	弥生土器	22
第15図	1号竪穴建物跡	24
第16図	1号竪穴出土遺物	25
第17図	2号竪穴建物跡	26
第18図	2号竪穴出土遺物①	27
第19図	2号竪穴出土遺物②	28
第20図	3号竪穴建物跡	29
第21図	3号竪穴出土遺物	30
第22図	4号竪穴建物跡	32
第23図	5号竪穴建物跡	33
第24図上	4号竪穴出土遺物	34
第24図下	5号竪穴出土遺物	34
第25図	6号竪穴建物跡	35
第26図	6号竪穴出土遺物	36
第27図	7号竪穴建物跡	37
第28図	7号竪穴出土遺物①	38
第29図	7号竪穴出土遺物②	39
第30図	8号竪穴建物跡	40
第31図	8号竪穴出土遺物①	41
第32図	8号竪穴出土遺物②	42
第33図	9号竪穴建物跡	44
第34図	9号竪穴出土遺物	45
第35図	10号竪穴建物跡	46
第36図	10号竪穴出土遺物①	47
第37図	10号竪穴出土遺物②	48
第38図	10号竪穴出土遺物③	49
第39図	11号竪穴建物跡	50
第40図	11号竪穴出土遺物①	51
第41図	11号竪穴出土遺物②	52
第42図	12号竪穴建物跡	53
第43図	12号竪穴出土遺物①	54
第44図	12号竪穴出土遺物②	55
第45図	12号竪穴出土遺物③	56

第46図	13号竪穴建物跡	57
第47図	13号竪穴出土遺物①	58
第48図	13号竪穴出土遺物②	59
第49図	13号竪穴出土遺物③	60
第50図	13号竪穴出土遺物④	61
第51図	14号及び17号竪穴建物跡	63
第52図	15号竪穴建物跡	64
第53図	16号竪穴建物跡	65
第54図	14号竪穴出土遺物①	66
第55図	14号竪穴出土遺物②	67
第56図	15号竪穴出土遺物①	68
第57図	15号竪穴出土遺物②	69
第58図	15号竪穴出土遺物③	70
第59図	16号竪穴出土遺物①	71
第60図	16号竪穴出土遺物②	72
第61図	16号竪穴出土遺物③	73
第62図	16号竪穴出土遺物④	74
第63図	17号竪穴出土遺物	75
第64図	18号竪穴建物跡	76
第65図	18号竪穴出土遺物①	77
第66図	18号竪穴出土遺物②	78
第67図	19号竪穴建物跡	79
第68図	19号竪穴出土遺物①	80
第69図	19号竪穴出土遺物②	81
第70図	19号竪穴出土遺物③	82
第71図	19号竪穴出土遺物④	83
第72図	20号竪穴建物跡	84
第73図	20号竪穴出土遺物①	85
第74図	20号竪穴出土遺物②	86
第75図	20号竪穴出土遺物③	87
第76図	21号竪穴建物跡	88
第77図	21号竪穴出土遺物①	89
第78図	21号竪穴出土遺物②	90
第79図	21号竪穴出土遺物③	91
第80図	21号竪穴出土遺物④	92
第81図	21号竪穴出土遺物⑤	93
第82図	22号竪穴建物跡	94
第83図	22号竪穴出土遺物①	95
第84図	22号竪穴出土遺物②	96
第85図	22号竪穴出土遺物③	97
第86図	23号竪穴建物跡	99
第87図	23号竪穴出土遺物①	100
第88図	23号竪穴出土遺物②	101
第89図	24号竪穴建物跡	102
第90図	24号竪穴出土遺物①	103
第91図	24号竪穴出土遺物②	104
第92図	24号竪穴出土遺物③	105
第93図	24号竪穴出土遺物④	106
第94図	25号及び27号竪穴建物跡	107

図版目次

第95図	26号竪穴建物跡	108
第96図	25号竪穴出土遺物①	109
第97図	25号竪穴出土遺物②	110
第98図	26号竪穴出土遺物	111
第99図	27号竪穴出土遺物	111
第100図	28号竪穴建物跡	112
第101図	28号竪穴出土遺物①	113
第102図	28号竪穴出土遺物②	114
第103図	28号竪穴出土遺物③	115
第104図	28号竪穴出土遺物④	116
第105図	28号竪穴出土遺物⑤	117
第106図	29号竪穴建物跡①	118
第107図	29号竪穴建物跡②	119
第108図	29号竪穴出土遺物①	121
第109図	29号竪穴出土遺物②	122
第110図	29号竪穴出土遺物③	123
第111図	30号竪穴建物跡	124
第112図	30号竪穴出土遺物①	125
第113図	30号竪穴出土遺物②	126
第114図	31号竪穴建物跡	127
第115図	31号竪穴出土遺物①	128
第116図	31号竪穴出土遺物②	129
第117図	4号及び5号土坑	131
第118図	4号土坑出土遺物①	132
第119図	4号土坑出土遺物②	133
第120図	5号土坑出土遺物	133
第121図	遺構外出土遺物	133
第122図	竪穴状遺構	158
第123図	竪穴状遺構出土遺物	159
第124図	道路状遺構	160
第125図	道路状遺構埋土	161
第126図	道路状遺構埋土中遺物	161
第127図	6号土坑・その他の遺構出土遺物	162
第128図	3次調査出土の平底瓶	265
第129図	百済地域の大型多角形建物	266
第130図	平峰遺跡の古墳時代集落変遷図	271
図版 1 調査区遠景・調査区全景		
図版 2		
1号竪穴建物跡完掘状況		
2号竪穴建物跡完掘状況		
3号竪穴建物跡完掘状況		
4号竪穴建物跡床面検出状況		
5号竪穴建物跡完掘状況		
6号竪穴建物跡完掘状況		
7号竪穴建物跡・4号土坑検出状況		
7号竪穴建物跡完掘状況		
図版 3		
8号竪穴建物跡遺物出土状況		
10号竪穴建物跡建物出土状況		
11号竪穴建物跡遺物出土状況		
12号竪穴建物跡床面検出状況		
13号竪穴建物跡完掘状況		
13号竪穴建物跡灰色粘土塊と羽口片出土状況		
13号竪穴建物跡羽口片出土の炉跡		
14号竪穴建物跡完掘状況		
図版 4		
15号竪穴建物跡遺物出土状況		
16号竪穴建物跡完掘状況		
14号・15号・16号・28号竪穴建物跡検出状況		
17号竪穴建物跡完掘状況		
18号竪穴建物跡完掘状況		
19号竪穴建物跡検出状況		
20号竪穴建物跡・竪穴状遺構検出状況		
21号竪穴建物跡完掘状況		
図版 5		
22号竪穴建物跡完掘状況		
23号竪穴建物跡完掘状況		
24号竪穴建物跡完掘状況		
25号竪穴建物跡完掘状況		
25号竪穴建物跡鍛冶炉検出状況		
25号竪穴建物跡鍛冶炉遺物出土状況①		
25号竪穴建物跡鍛冶炉遺物出土状況②		
26号竪穴建物跡完掘状況		
図版 6		
25号(鍛冶工房)・26号・29号竪穴建物跡検出状況		
27号竪穴建物跡遺物出土状況		
28号竪穴建物跡完掘状況		
29号竪穴建物跡遺物出土状況		
30号竪穴建物跡完掘状況		
31号竪穴建物跡検出状況		
竪穴状遺構遺物出土状況		

挿表目次

第1表	周辺遺跡一覧	7
第2表	縄文土器観察表	19
第3表	石器計測表①	19
第4表	弥生土器観察表	20
第5表	古墳時代土器・土製品観察表	135
第6表	石器計測表②	155
第7表	古代土器観察表	163

竪穴状遺構完掘状況	
図版 7	279
4号土坑完掘状況	
溝状遺構検出状況 (A-1区南西より)	
溝状遺構検出状況 (A-2区)	
18号・31号竪穴建物跡・溝状遺構検出状況 (A-1区北東より)	
A-1区遺構検出状況 (北東より)	
A-1区ピット検出状況 (南側)	
B区遺構検出状況 (北西より)	
B区遺構検出状況 (南東より)	
図版 8	280
1号土坑出土遺物 (土器)	
1号土坑・2号土坑出土遺物 (石器)	
縄文時代出土遺物① (土器)	
縄文時代出土遺物② (土器)	
縄文時代出土遺物③ (石器)	
図版 9	281
弥生時代出土遺物① (土器)	
弥生時代出土遺物② (土器)	
1号竪穴建物跡出土遺物① (土器)	
1号竪穴建物跡出土遺物② (石器・軽石)	
2号竪穴建物跡出土遺物 (土器)	
6号竪穴建物跡出土遺物 (土器)	
図版 10.....	282
7号竪穴建物跡出土遺物 (土器)	
8号竪穴建物跡出土遺物 (土器)	
9号竪穴建物跡出土遺物 (土器)	
10号竪穴建物跡出土遺物① (土器)	
10号竪穴建物跡出土遺物② (石器)	
図版 11.....	283
11号竪穴建物跡出土遺物 (土器)	
12号竪穴建物跡出土遺物① (土器)	
12号建物竪穴跡出土遺物② (土器)	
12号竪穴建物跡出土遺物③ (羽口)	
図版 12.....	284
12号竪穴建物跡出土遺物④ (石器・軽石)	
13号竪穴建物跡出土遺物① (土器)	
13号竪穴建物跡出土遺物② (土器)	
図版 13.....	285
14号竪穴建物跡出土遺物 (土器)	
15号竪穴建物跡出土遺物① (土器)	
15号竪穴建物跡出土遺物② (土器)	
図版 14.....	286
16号竪穴建物跡出土遺物① (土器)	
16号竪穴建物跡出土遺物② (土器)	
17号竪穴建物跡出土遺物 (土器)	
図版 15.....	287
18号竪穴建物跡出土遺物 (土器)	
19号竪穴建物跡出土遺物① (土器)	
19号竪穴建物跡出土遺物② (石器・軽石)	
図版 16.....	288
20号竪穴建物跡出土遺物① (土器)	
20号竪穴建物跡出土遺物② (土器)	
21号竪穴建物跡出土遺物① (土器)	
21号竪穴建物跡出土遺物② (土器)	
21号竪穴建物跡出土遺物③ (土器)	
図版 17.....	289
21号竪穴建物跡出土遺物④ (仕切付角鉢)	
21号竪穴建物跡出土遺物⑤ (石器・軽石)	
22号竪穴建物跡出土遺物 (土器)	
図版 18.....	290
23号竪穴建物跡出土遺物① (土器)	
23号竪穴建物跡出土遺物② (土器)	
24号竪穴建物跡出土遺物 (土器)	
25号竪穴建物跡出土遺物① (土器)	
25号竪穴建物跡出土遺物② (石器・軽石)	
図版 19.....	291
26号竪穴建物跡出土遺物 (土器)	
28号竪穴建物跡出土遺物 (土器)	
29号竪穴建物跡出土遺物① (土器)	
図版 20.....	292
29号竪穴建物跡出土遺物② (石器)	
30号竪穴建物跡出土遺物① (土器)	
30号竪穴建物跡出土遺物② (石器・軽石)	
31号竪穴建物跡出土遺物① (土器)	
31号竪穴建物跡出土遺物② (土器)	
図版 21.....	293
4号土坑・5号土坑・遺構外出土遺物 (土器・羽口)	
竪穴建物跡出土遺物① (須恵器)	
竪穴建物跡出土遺物② (鉄器・石器)	
図版 22.....	294
竪穴建物跡出土遺物③ (高杯脚転用羽口)	
竪穴状遺構出土遺物 (古代)	
その他の遺構出土遺物 (古代)	

第Ⅰ章 はじめに

第1節 調査に至る経緯

平成6年12月に地域高規格道路として計画された都城志布志道路は、宮崎県都城市から鹿児島県志布志市に至る総延長約40kmが計画されている。このうち九州縦貫自動車道宮崎線都城インター（エンジ）から都城市五十町の一般国道10号インター予定地までの約13.4kmを都城道路、五十町の10号インターから鹿児島県境までの約8kmを都城東環状線として事業が進んでいる。都城志布志道路は、九州縦貫自動車道宮崎線、志布志港及び東九州自動車道との連結により、南九州の拠点的支えとなる幹線道路としての期待がなされている。

都城道路の埋蔵文化財取扱協議は、平成9年度から始まり、平成9年5月7日付けで県都市計画課長から県文化課（現文化財課）長に対して「都城道路の都市計画決定に係る関係課との調整について」照会があった。この文書を受けて平成9年6月13日付けで文化課長名で、計画決定について支障はないが、周知の埋蔵文化財包蔵地が13箇所あり、取扱協議が必要である旨を回答した。その後、平成11年11月29日付けで建設省（現国土交通省）宮崎工事事務所（現宮崎河川国道事務所）長から宮崎県教育委員会教育長あてに、「一般国道10号都城道路の文化財有無について」と照会があり、同年12月10日付けで周知の埋蔵文化財包蔵地と未周知の協議必要箇所合わせて15箇所を回答した。その後、路線の計画変更等を含め埋蔵文化財取扱協議を重ねてきた結果、道路計画の変更が困難であり、工事により影響を受ける範囲については記録保存の措置を講ずることとなつた。

まず、発掘調査に向けて協議を開始したのは、平塚インターから五十町インターまでの約2km区間と、県営経営体育成基盤整備事業地と隣接する平田遺跡である。平田遺跡については、平成15年度と16年度にかけて調査を実施し終了。平塚・五十町間の2km区間は、平峰遺跡を含む周知の埋蔵文化財包蔵地5箇所が分布しており、協議の中で追加された未周知2箇所の計7箇所約76,100m²の協議を行っていった。用地買収等は平成16年度から始まり、平成17年5月に墳堀遺跡の確認調査を最初に、順次遺構・遺物の検出された箇所から本発掘調査を進めていった。

平峰遺跡は、平成18年10月25日～27日、11月1日～2日の計5日間にわたり確認調査を実施し、大小8本のトレンチ約1,300m²を実掘し竪穴建物跡を6軒、溝状遺構1条、ピットを多数検出、弥生土器や土師器片が出土し弥生～古墳時代にかけての集落遺跡が存在することが把握された。確認調査の結果、平峰遺跡の本発掘調査の対象範囲を19,600m²として国土交通省九州地方整備局宮崎河川国道事務所に報告し、本発掘調査の着手に向けて具体的に協議を開始した。

埋蔵文化財発掘通知は、平成19年1月22日付けで国土交通省宮崎河川国道事務所長から提出され、同年2月14日付けで宮崎県教育委員会教育長から発掘調査の指示を回答している。

本発掘調査は用地取得が完了していない箇所があり、ある程度まとまって調査を実施できる部分から着手することにした。調査初年度の平成19年度は、14,500m²を対象に調査を実施し、残りの5,100m²は20年度以降に実施し、21年度に終了した。

第2節 調査の組織

平峰遺跡の発掘調査・整理作業及び報告書作成は下記の組織で実施した。

調査主体：宮崎県教育委員会

調査機関：宮崎県埋蔵文化財センター

調査協力：都城市教育委員会

平成19年度発掘調査

宮崎県埋蔵文化財センター

所長	清野 勉	副所長	加藤 悟郎
総務課長	宮越 尊	総務担当リーダー	高山 正信
総務担当	主査 甲斐 和也	主事	遠目塚尚子
調査第二課長	石川 悅雄		
調査第四担当リーダー	近藤 協		
調査第四担当	主査 橋本 恵二	主事	森田 利枝
調査員	福田 光宏	調査員	甲斐 康大
調査第三担当	主査 谷口 千尋		
事業調整	宮崎県教育庁文化財課 埋蔵文化財担当	主査	飯田 博之

平成20年度 発掘調査及び整理作業

宮崎県埋蔵文化財センター

所長	福永 展幸	副所長	加藤 悟郎
副所長兼総務課長	長友 英嗣	総務担当リーダー	高山 正信
総務担当	主査 古市 篤志		
調査第二課長	石川 悅雄		
調査第四担当リーダー	近藤 協		
調査第四担当	主査 橋本 恵二	主査	黒木 俊彦
主任主事	二宮 満夫		
事業調整	宮崎県教育庁文化財課 埋蔵文化財担当	主査	飯田 博之
調査指導	愛媛大学教授 村上 恭通		

平成21年度 整理作業

宮崎県埋蔵文化財センター

所長	福永 展幸	副所長兼総務課長	長友 英嗣
総務担当リーダー	高山 正信	総務担当 主査	古市 篤志
調査第二課長	石川 悅雄		
調査第四担当リーダー	近藤 協		
調査第四担当	主査 橋本 恵二		
事業調整	宮崎県教育庁文化財課 埋蔵文化財担当	主査	日高 広人
調査指導	交野市教育委員会 真鍋 成史		

平成22年度 整理作業

宮崎県埋蔵文化財センター

所長	森 隆茂	副所長	北郷 泰道
総務課長	矢野 雅紀	総務担当リーダー	長友由美子
総務担当	主査 古市 篤志	専門主事	青木 英子
調査第二課長	永友 良典		
調査第四担当リーダー	大村公美恵		
調査第四担当	主査 橋本 恵二		
調査第三担当リーダー	吉本 正典		
調査第三担当	主査 和田 理啓		
事業調整	宮崎県教育庁文化財課 埋蔵文化財担当	主査	日高 広人

第Ⅱ章 遺跡の歴史的環境と地理的環境

第1節 地理的環境

平峰遺跡の所在する都城市は宮崎県の南西部に位置し、人口16万人の県内第2の都市である。2006（平成18）年に隣接する山田町、高崎町、高城町、三股町と合併し市の面積が653km²と県内最大となった。北から南東部にかけては高原町、宮崎市、三股町、日南市、串間市と隣接し、南西部は鹿児島県（曾於市）と接しており、ほぼ全域が都城盆地に含まれる。

都城盆地は北東部の諸県丘陵、南東部の鶴塚山系、北西部の霧島山系に囲まれてあり、南北約33km、東西約13km、面積約760km²、北東から南西を長軸にした橢円形をなしている。盆地底の標高は約150mで北へ向かって緩やかに傾斜している。盆地の中央には大淀川が北流し、西から丸谷川、庄内川、横市川、東から萩原川、沖水川等の支流が合流している。

今回調査した平峰遺跡は、都城市平塚町に所在する。市の中心部から南西約3.7kmの鹿児島県境の国道10号線沿いに位置する。一帯は大淀川上流左岸に位置する五十市地区にあたる。横市川流域の低地面を挟んで南北に成層シラス（二次シラス）台地である蓑原・月見野台地が広がる。南北を東流する大淀川とその支流の野間谷川の浸食によって形成された鹿児島県側（曾於市末吉町）から拡がる標高約170～180mの舌状の成層シラス（二次シラス）台地上に立地する。周辺では入戸火碎流（A.T.、約28,000年）、桜島11テフラ（Sz-11、P11、約8,000年前）、鬼界アカホヤ火山灰（K-A h、約7,300年前）、霧島御池軽石（Kr-M、約4,600年前）、桜島文明軽石（Sz-3、P3、AD1,471）など年代指標となる広域テフラが堆積している。

遺跡の周辺には国道10号を挟んで南側に巣女木遺跡が隣接し、谷を隔てた北側の丘陵に諸麦遺跡、南側の丘陵に筆無遺跡など都城道路や都城東環状道路事業に伴う遺跡が分布する。



第1図 平峰遺跡位置図

第2節 歴史的環境

1 旧石器時代

県内では300カ所近い旧石器時代の遺跡が確認されているがその大半は県北五ヶ瀬川流域と宮崎平野に集中する。県西部や県南部の地域ではシラスをはじめとする火碎流や火山灰堆積の厚いため現在確認されている遺跡数は極端に少ない。都城盆地では大岩田村上遺跡、中床丸遺跡、池塘遺跡、雀ヶ野第3遺跡がある。

いずれも細石刃石器群が確認されている。

2 縄文時代

都城盆地においては草創期の遺跡は未だ確認されていない。

早期の遺跡では南九州では珍しい全面に縄文が施されている円筒形土器の「五十市式土器」が完形品として採集された宮野・立野（五十市）遺跡が知られている。この期の土器としては円筒形土器のほか吉田式土器、条痕文土器、突文帯土器、貝殻文円筒形土器を中心に押型文土器、手向山土器、平柄式土器、塞ノ神式土器、捺糸文土器などが出土している。田尻・尻枝遺跡で落し穴2基とピット群、加治屋B遺跡で集石遺跡19基、立岩遺跡で集石遺構31基と土坑6基、働く木遺跡で集石遺構1基と土坑1基、松ヶ迫遺跡では連穴土坑が検出されている。伊勢谷第1遺跡では黒曜石の石核が検出されており石器製作が行われてと考えられている。

前期は、鬼界アカホヤ火山灰降灰の影響のためか遺跡数は激減する。笹ヶ崎遺跡では前期後半の曾畠式土器が出土している。加治屋A遺跡では陥し穴遺構が検出されている。

中期も霧島御池軽石降灰の影響があるのか遺跡数は少ない。都城周辺の地域から瀬戸内系の船元式土器が出土している。伊勢谷第1遺跡では落し穴10基のほか国内最古と思われる火山による焼失住居が検出された。田尻・尻枝遺跡でも陥し穴が見られる。

後期に入ると遺跡数が増加する。土器では凹線文土器、綾式土器、指宿式土器、中尾田3類土器、岩崎下層式土器、市来式土器、中岳式土器、三万田式土器、丸野式土器、西平式土器のほか、黒色磨研の精製土器と組成土器も出現する。立岩遺跡では竪穴住居跡2軒と土坑数十基、中尾田3類土器、中岳式土器等が出土している。今房遺跡では磨製石斧と磨石を埋納した土坑が検出された。上牧第2遺跡では九州では発見例の少ない後期初頭の竪穴住居跡が確認され床面中央には焼土を含み炉と思われ土坑が設けられている。

晩期には条痕文土器や組織痕土器、突帯文土器や孔列文土器が見られる。大岩田村ノ前遺跡では柱穴と見られるピットが楕円形状に巡る竪穴状遺構、中尾山・馬渡遺跡では土坑6基、横尾原遺跡では隅丸方形の小型の竪穴住居跡1軒が検出されている。横尾原遺跡、黒川遺跡、筆無遺跡、働く木遺跡では後期～晩期の土器、中尾山・馬渡遺跡、油田遺跡では晩期の土器が出土している。

3 弥生時代

九州南部での縄文晩期から弥生時代にかけての稻作の可能性を確実にする遺跡が都城盆地の横市川流域で確認された。黒土遺跡では擦り切り孔を持つ石庖丁と初痕の残る土器片が検出された。肱穴遺跡では刻目突帯文土器と擦り切り孔を持つ石庖丁を伴う縄文時代晩期末から弥生時代前期にかけての韓国松菊里型の円形竪穴住居跡や土掘具の石斧が検出された。対岸の坂元A遺跡では疑似畦畔によって区画された一区画約10m²の不整形な検出された。さらに弥生時代早期・前期後半・中期後半・古代・中世の時期の水田跡が検出されている。

中期にはいると遺跡数も急激に増加する。坂元A遺跡では中期後半の水田層から南九州では検出例の少ない木製農具が出土した。大岩田村ノ上遺跡では竪穴状遺構から熊本の黒髪式の甕、牧の原第2遺跡や諸麦遺跡では竪穴式住居跡から瀬戸内系の凹線文土器が出土している。また、在地系の山ノ口式土器

や中溝式土が出現する。加治屋B遺跡では竪穴式住居跡40軒が、立岩遺跡では検出例の少ない独立棟持柱をもつ掘立柱建物跡が検出された。向原第1遺跡では住居跡床面から鋳造剥片と思われる微小鉄片が検出され併せて加熱を受けた台石や小型砥石、敲石が出土しており住居跡内で小鋸冶が行われていたと思われる。隣接する土女木遺跡では間仕切部及びベット状遺構を伴うものが主流の竪穴住居跡12軒のほか竪穴状遺構1基、掘立柱建物跡2棟、土壙2基等が検出され、瀬戸内系の壺や矢羽根透かし高杯が出土している。

後期に入ると集落遺跡が増加する。加治屋A遺跡ではベット状遺構を伴う竪穴住居跡や周溝状遺構が検出され絵画土器や鉄斧が出土している。中期後半から後期初頭の平田遺跡D・E地点からは住居跡内から約32cmの長鋒型の鉄矛が出土している。後期後半から古墳時代初頭にかけての集落遺跡も各地に見られる。

祝吉第1遺跡では間仕切り（花弁形）住居跡4軒、と小型の方形住居3軒が検出され間仕切りの一画が磨製石器の作業場と思われる。また、記号（絵画）文の線刻土器が多く出土している。前畠遺跡は竪穴住居跡27軒（方形プラン14軒、円形プラン1軒、方形基調の花弁プラン10軒、円形基調の花形プラン1軒、プラン不明1軒）の集落遺跡である。方形基調の花弁プランの住居跡は古墳時代初頭にあたる。間仕切り（花弁形）住居跡は平野部では弥生時代後期後半で姿を消すが、内陸部では古墳時代初頭まで残る。下大五郎遺跡では検出例の少ない棟持柱を有する掘立柱建物跡が検出され注目される。

4 古墳時代

都城盆地は県内内陸部では唯一前方後円墳が分布する地域で、地下式横穴墓も併せて分布している。横穴墓は分布しない。

高城牧ノ原古墳群（前方後円墳3基、円墳10基）、志和地古墳群（前方後円墳1基、円墳10基）、高崎塚原古墳群（前方後円墳1基、円墳18基）の盆地北部に所在する3古墳群で前方後円墳が分布する。

地下式横穴墓は雀ヶ野地下式横穴墓群1基、高崎塚原地下式横穴墓群6基、横尾（繩瀬）地下式横穴墓群5基、原村上地下式横穴墓群7基、築池地下式横穴墓群（志和地古墳内）6基、下川東牧ノ原地下式横穴墓群26基、菓子野地下式横穴墓群9基、香禅寺地下式横穴墓群1基に分布している。

その他の墓制として香禅寺地下式横穴墓群で地下式板石積石棺が1基、高城牧ノ原古墳群で箱式石棺4基が分布する。

地下式横穴墓の副葬品には直刀、鉄剣、刀子、鐵鏡、鐵鐸、蛇行剣などの鉄製品、ガラス製小玉や勾玉などの玉類、鏡が見られる。また、南海産のイモガイやゴホウラなど利用した貝釧は県内の内陸部に多い。

古墳時代の集落遺跡は弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての集落に引き続き、前期の集落遺跡も數例所見られる。

中期の集落遺跡はこれまで確認されておらず、今回の平峰遺跡の調査が注目される。

後期にはいると横市川流域で大規模集落が見られる。鶴喰遺跡では68軒の竪穴住居が確認されそのうち28軒でかまどが付設されていた。宮崎県内でのかまど導入初期の時期に当たる。蓑原遺跡では一辺が6～7mの大形住居が検出された。



第2図 平峰遺跡周辺遺跡分布図 (S=1/50000)

第1表 周辺遺跡一覧

遺跡名	所在地	主な時代	遺跡名	所在地	主な時代
1 平峰遺跡	平塚町	繩・古墳・中	32 正坂原遺跡	志比田町	繩・中
2 諸麦遺跡	平塚町	弥	33 祝吉遺跡	祝吉町	弥・古墳・中
3 動女木遺跡	平塚町	繩・弥	34 松原地区遺跡群	郡元町	中・近
4 筆無遺跡	今町	繩・弥・古代・中	35 久玉遺跡	郡元町	中・近
5 坂ノ下遺跡	今町	弥・中	36 池島遺跡	早水町	繩・弥・中
6 鴉尾遺跡	今町	古代・中	37 大鳥畠田遺跡	金田町	古代・中
7 西原第2遺跡	久保原町	繩	38 宮ノ下遺跡	金田町	弥
8 都城跡	都鳥町	中	39 大久保第2遺跡	乙房町	弥・近
9 渕戸ノ上遺跡	都北町	繩・中・近	40 菓子野地下式横穴墓	菓子野町	古墳
10 岩立遺跡	五十市町	繩・弥	41 金石城跡	庄内町	中
11 油田遺跡	五十市町	中	42 脇穴遺跡	横市町	弥・近
12 黒土遺跡	大岩田町	弥	43 鶴喰遺跡	横市町	古墳
13 横尾原遺跡	大岩田町	繩・古代	44 母智丘谷遺跡	横市町	中
14 大岩田村ノ前遺	大岩田町	繩・弥・古代・中	45 田畠遺跡	横市町	中
15 大岩田上村遺跡	大岩田町	旧・繩・中	46 新宮遺跡	横市町	中
16 宮尾・立野遺跡	今町	繩	47 母智丘第2遺跡	横市町	古墳・近
17 梅北針谷遺跡	梅北町	古代	48 月野原第2遺跡	横市町	弥・古代・近
18 梅北城跡	梅北町	中	49 牧の原第2遺跡	横市町	繩・古墳・中
19 笹ヶ崎遺跡	梅北町	古代	50 上牧第2遺跡	横市町	繩
20 尾崎第1遺跡	梅北町	古墳・近	51 今房遺跡	横市町	繩・中
21 王子原遺跡	安久町	繩	52 平田遺跡	南横市町	弥・古代・中・近
22 城ヶ尾遺跡	下長飯町	古墳	53 加治屋A遺跡	南横市町	弥
23 姫城城跡	姫城町	中	54 加治屋B遺跡	南横市町	繩・弥・古代・中
24 八幡遺跡	八幡町	近	55 田尻・尻枝遺跡	南横市町	繩・中・近
25 天神遺跡	天神町	中・近	56 坂元A遺跡・B遺跡	南横市町	弥・中
26 柳川原遺跡	中町	弥・中	57 江内谷遺跡	蓑原町	古代・中
27 中町遺跡	中町	繩・古代・近	58 中尾遺跡	蓑原町	古墳・中
28 小松原焼跡	小松原町	近	59 葦原遺跡	蓑原町	古墳・中
29 上ノ園第2遺跡	早鈴町	弥・近	60 中尾山・馬渡遺跡	南横市町	繩・古代
30 年見川遺跡	早水町	弥	61 池原遺跡	蓑原町	弥
31 二夕元遺跡	志比田町	繩・古墳・古代・近	62 馬渡遺跡	蓑原町	繩・弥・古代・中

※ 旧：旧石器時代 繩：縄文時代 弥：弥生時代 古墳：古墳時代 古代：古代 中：中世 近：近世

5 古代

古代は平安時代が中心となるが、集落遺跡としては8世紀後半から営まれるものとして上ノ園遺跡、肘穴遺跡がある。上ノ園遺跡は掘立柱建物31棟や溝状遺構、道路状遺構からなる集落で10世紀前半まで続く。肘穴遺跡は豎穴住居16軒と庇つき建物を含む掘立柱建物9棟が検出され、豎穴住居はかまどを有する。9世紀前半までを中心とし10世紀まで続く。9世紀後半から営まれる集落としては中尾山・馬渡遺跡、加治屋B遺跡、江内谷遺跡、梅北針谷遺跡、筆無遺跡がある。掘立柱建物跡や豎穴状遺構、溝状遺構、道路状遺構などからなる集落で、中尾山・馬渡遺跡や加治屋B遺跡は10世紀前半まで、江内谷遺跡、梅北針谷遺跡、筆無遺跡は13~14世紀まで続く。集落の特徴としては上ノ園遺跡や中尾山・馬渡遺跡などに見られる地方豪族層と思われる居宅跡が大淀川や横市川流域に点在する。特に代表する居宅跡として大島畠田遺跡がある。

江内谷遺跡ではふいごの羽口や鋳治滓などの鋳冶関連遺物が出土している。梅北針谷遺跡では掘立柱建物内の焼成土坑があり鋳冶関連のものと思われる遺構が検出されている。いずれも金属製品の生産が行われていたことを示す。

【参考文献】

- 都城市史料編纂委員会 2006 「都城市史 資料編 考古」 都城市
都城市教育委員会 1986 「都城市遺跡詳細分布調査報告書(市内中央部)」 都城市文化財調査報告書第5集
都城市教育委員会 1987 「都城市遺跡詳細分布調査報告書(市内南部)」 都城市文化財調査報告書第6集
宮崎県埋蔵文化財センター 2007 「平田遺跡D地点・E地点」 宮崎県埋蔵文化財調査報告書第160号
宮崎県埋蔵文化財センター 2008 「筆無遺跡」 宮崎県埋蔵文化財調査報告書第166号
宮崎県埋蔵文化財センター 2008 「諸麥遺跡」 宮崎県埋蔵文化財調査報告書第168号
宮崎県埋蔵文化財センター 2011 「梅北針谷遺跡」 宮崎県埋蔵文化財調査報告書第204号
宮崎県埋蔵文化財センター 2011 「働女木遺跡」 宮崎県埋蔵文化財調査報告書第205号
宮崎県 1989 「宮崎県史 資料編 考古1」
宮崎県 1993 「宮崎県史 資料編 考古2」
宮崎県 1997 「宮崎県史 通史編 原始・古代1」

第Ⅲ章 調査の記録

第1節 調査の概要

1 1次調査

平峰遺跡の調査にあたっては、調査対象となった約19,500m²のうち、用地買収並びに工事計画等に基づき、買収済みの土地から調査に入った。調査期間は5月21日から3月21日である。市道を挟んで大きくA区とB区に分け、試掘の結果に基づき竪穴住居跡が多数検出されるであろう面積の広いA区から調査を開始した。

A区は、東西にA-1区、A-2区に分け、交互に廃土置き場を設定する形でA-1区から調査を進めた。竪穴建物跡が多数検出されることが考えられたため、調査期間も考慮しながら、桜島文明ボラ層（第Ⅱ層）下の黒色土の第Ⅳ層下面を基準に掘り下げ、御池ボラ層（第Ⅵ層）の上面のボラ混じりの黒色土（第Ⅴa層）面を中心にはむ層削除及び精査を行った。A-1区では、多角形住居跡（五角形2、六角形1）を含む12軒の竪穴建物跡と平安期と思われる竪穴状遺構1軒、2基の土坑、南北に延びる溝状遺構3条を確認した。また、8月19日には当センター普及事業の一環として発掘体験を開催した。さらに10月21日、現地説明会を開催し、102名の参加者を得た。反転したA-2区では、更に六角形の竪穴建物跡1軒を含む7軒の竪穴建物跡、A-1区とつながる溝状遺構3条を確認した。その内の1軒は、床面が御池ボラ層（第Ⅵ層）を掘り抜いてアカホヤ層（第Ⅷ層）上面まで掘り込んでいた。また鉄滓や鋳造片が多数検出された。さらに南端の面からは多数のビットを検出した。

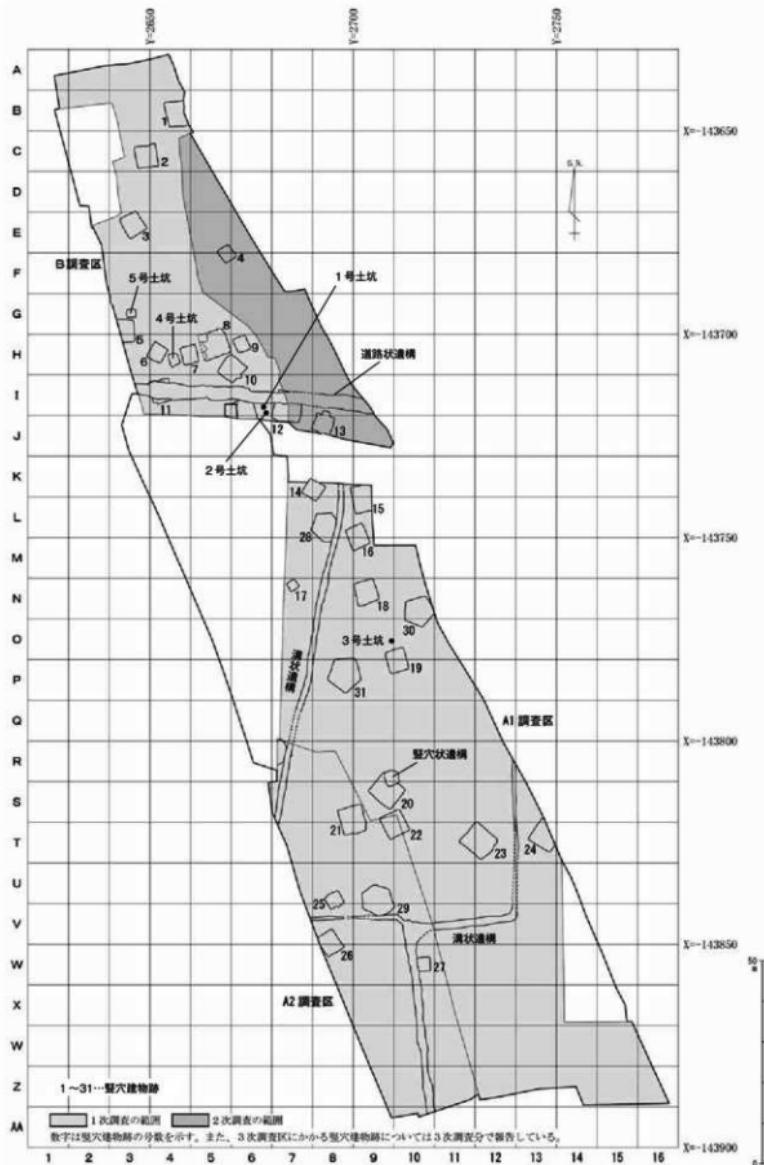
B区は、A-1区の調査終了後、A-2区の調査と並行して表土掘削を行い、A区同様に第Ⅴa層面で遺構の検出を行った。試掘の段階では未調査であったが、高低差5mある北側の低い面で4軒、さらに市道に近い上段面で9軒、合計13軒の竪穴建物跡を検出した。また、土坑6基と東西に延びる道路状遺構1条も確認した。下段のグリッドでは、遺構を伴わない形での弥生土器、縄文晩期の土器を検出した。さらに竪穴建物跡1軒については、A-2区同様小鋳冶場の可能性を持った鋳冶関連遺物が出土した。

2 2次調査

2次調査は、前年度の1次調査の残地となった部分と用地買収が成立した場所について調査を行った。12月15日から調査を開始した。1次調査の成果により、道路状遺構1条の続き、竪穴建物跡1軒を検出した。重機による検出において中段面で1軒、竪穴建物跡2軒、時期不明の土坑数基を検出した。その内、1次で約半分を検出した28号建物跡、鋳冶関連遺物を検出した34号建物跡の調査を中心に作業を行った。また、2月12日～13日、愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター所長の村上恭通教授を招聘し、1次の遺物を見ていただくとともに、鋳冶遺構に関する基礎的な整理方法や保存等の指導を受けた。3月15日埋め戻しを開始し、3月18日に調査を終了した。



第3図 平峰遺跡周辺地形図 ($S = 1/5000$ 、網掛け部分は1~3次調査の範囲)



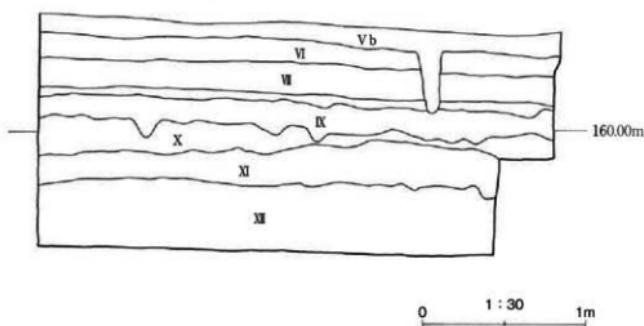
第4図 平峰遺跡(1・2次)遺構分布図・グリッド配置図(S=1/1200)

第2節 基本層序

平峰遺跡で確認された層序は、12層である。調査においては、都城での遺構検出の鍵層である第VI層の霧島御池軽石層（通称：御池ボラ、約4,600年前）の上面である御池ボラと黒色土の混在する第Vb層を基準として遺構検出を行った。

第I層は表土で、層厚は約30～40cmである。第II層は桜島文明軽石層（1471年～1476年）であるが、調査区内で明確に残っていた部分でも層厚約5～10cmと残存状況は良好とはいえない。特にA区は元ゴボウ畑であったため御池ボラ層まで削平・攪乱されており、ほとんどの地点で堆積が確認できなかった。第III層は黄橙色粒が少量混入した黒色土で、層厚は約15～30cmである。第IV層は黄橙色粒が少量混入した褐色土で、やや粘性がある。層厚は約20～30cmである。第V層の漸移層とみられる。第Va層は黒色土で御池ボラが5%以下で混入している。層厚は約10～15cmである。なお第III層から第Va層が土器等の出土が多い遺物包含層である。第Vb層は黒色土に御池ボラが5%以上混入している。層厚は約10～15cmで、第Va層と比較するとやや明るい色調である。第VI層は霧島御池軽石層（通称：御池ボラ、4,600年前降下）である。調査区一帯に堆積する層であり、層厚は約40～60cmである。第VII層は黒色土で黄橙色と赤褐色の粒が混入している。第VIII層は鬼界アカホヤ火山灰層（k-Ah：約7,200年前）である。調査区全体に堆積しているが、遺構検出においてこの面が確認されたのは、16号建物跡（SA16、鋳造工房）の床面のみである。土層確認トレンチでの層厚は60cm～80cmであった。第IX層は黄橙色の粒が混入する黒色土である。粘性があり、平均層厚は約10cmである。第X層は黄色粒が混入する褐色土で、深さは表土から約2mを超える。第XI層は褐色土に少量の黄橙色粒が少量混入する層である。第XII層は褐色土に黄橙色土のブロックが混入している。

なお、各層のテフラについては、第IV章自然科学分析第1節の中で詳述している。



第5図 基本層序図

第3節 縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の遺構・遺物に関しては、土坑2基が検出されたほか、IV層や古墳時代以後の遺構埋土中より土器や石器が出土している。IV層が縄文時代後期～晚期の遺物包含層であると考えられるが、むしろ古墳時代の遺構埋土より出土する個体数の方が多い、後代の遺構構築の影響を受けていることがうかがえる。

2基の土坑はB区南端近くの近接した位置にある。遺物のほとんどは晚期に属するもので、中でも中葉に位置づけられている黒川式に該当する個体が目立つ。

1号土坑（第6図）

I-6区で検出された楕円形の土坑。規模は東西方向の長軸が1.55m、短軸が1.05mで、検出面からの深さは約35cmである。埋土は黒色基調のシルト質土で、御池ボラ粒を含む。図面に表現されている北東隅と南西隅のピットは当該土坑を切る後世のものである可能性が高い。遺物は掘り込み中央付近の検出面近くのレベルで出土している。

1号土坑出土遺物（第6図・第7図）

深鉢形土器（1～4）、浅鉢形土器（5・6）、鉢形土器（7）、剥片（8）、石鏃（9・10）が出土している。深鉢形土器は工具による器面調整痕が残り、多孔質に仕上げている。一方、浅鉢はミガキ調整が施され、黒色に近い色調を呈し、光沢を有する。断面はサンドイッチ状となり、芯の部分は灰色を呈する。4は黒川式に特徴的な底面が外方に張り出す形状の底部である。5は口縁端部の外に浅い沈線を施し、内面は抉り状の段を形成して口縁端部を区画している。7は丁寧なナデ調整を施しており、精製・粗製の度合いからすれば粗製深鉢と精製浅鉢のちょうど中間にあたる。9は五角形の平面形を呈する石鏃である。

2号土坑（第8図）

径1.2～1.35mの円形の土坑。1号土坑同様、埋土は黒色基調のシルト質土で御池ボラ粒を含んでおり、いわゆるレンズ状の堆積状況を呈している。

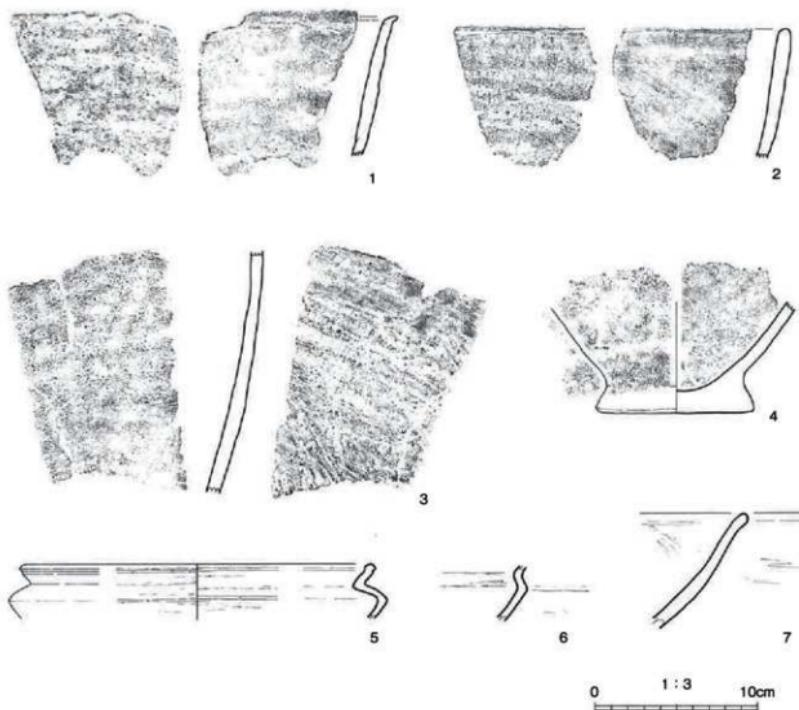
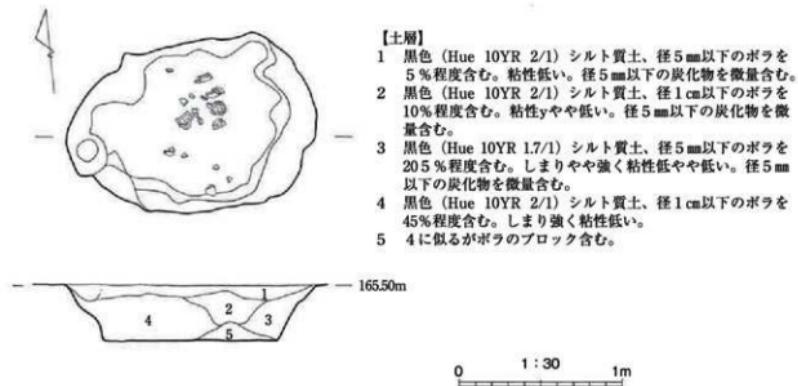
2号土坑出土遺物（第8図）

浅鉢形土器（11・12）、石鏃（13・14）、剥片（15）が出土している。11は口縁端部の外・内面に沈線を巡らせて端部を区画する。12は脣部の屈曲部であり、接合面で剥離している。浅鉢はいずれもミガキ調整で、器面はわずかながら光沢を有する。

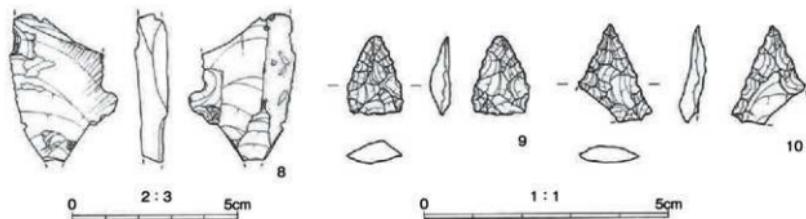
遺構外出土遺物（第9図）

縄文時代後期に属すると目される16以外は、晚期前葉から中葉にかけての土器である。19～21は弧状の沈線文を施す深鉢であり、晚期前葉の特徴を示している。22は黒川式の特徴である鰐状突起を口縁部に付す。内面には浅い区画沈線を施しており、抉り状の段の痕跡と考えられる。25はB区南端近くの12号竪穴建物の西でまとめて出土したものである。また24と29はこの付近を通る道路状遺構の埋土中より出土しており、付近では当該期の遺物が数多く出土している。26は外面の区画沈線がごく浅くなっている。浅鉢はいずれもミガキ調整を施し、光沢を有する。一方、31の鉢は、深鉢と同様に外面は工具ナデによって外面を多孔質に仕上げている。煮沸効率を上げるためにの技法であろう。

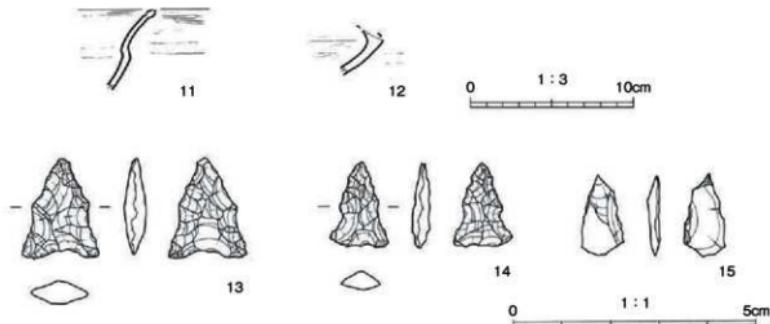
石器は包含層や後の時代の遺構埋土中より出土したものを持載した。個々の細かな所属時期は不明である。36は縄文系の玉である。浅緑色の「ヒスイ」製で上面と下面是緩い平坦面を形成する。



第6図 1号土坑・1号土坑出土遺物①



第7図 1号土坑・1号土坑出土遺物②



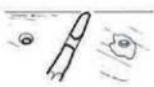
第8図 2号土坑・2号土坑出土遺物



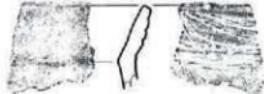
16



17



18



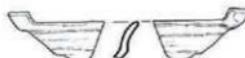
19



20



21



22



23



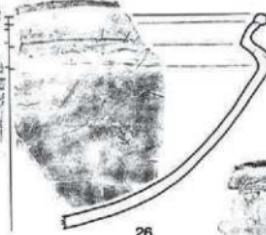
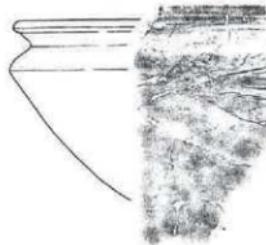
24



25

0 1 : 3 10cm

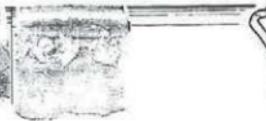
第9図 縄文土器①



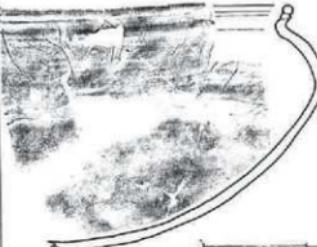
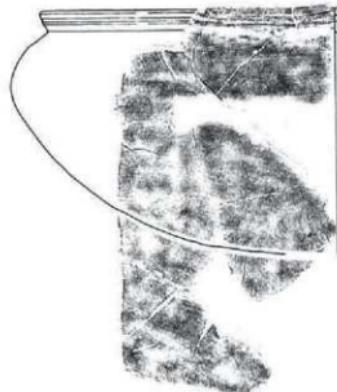
26



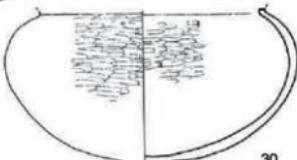
27



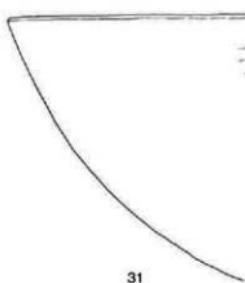
28



29



30

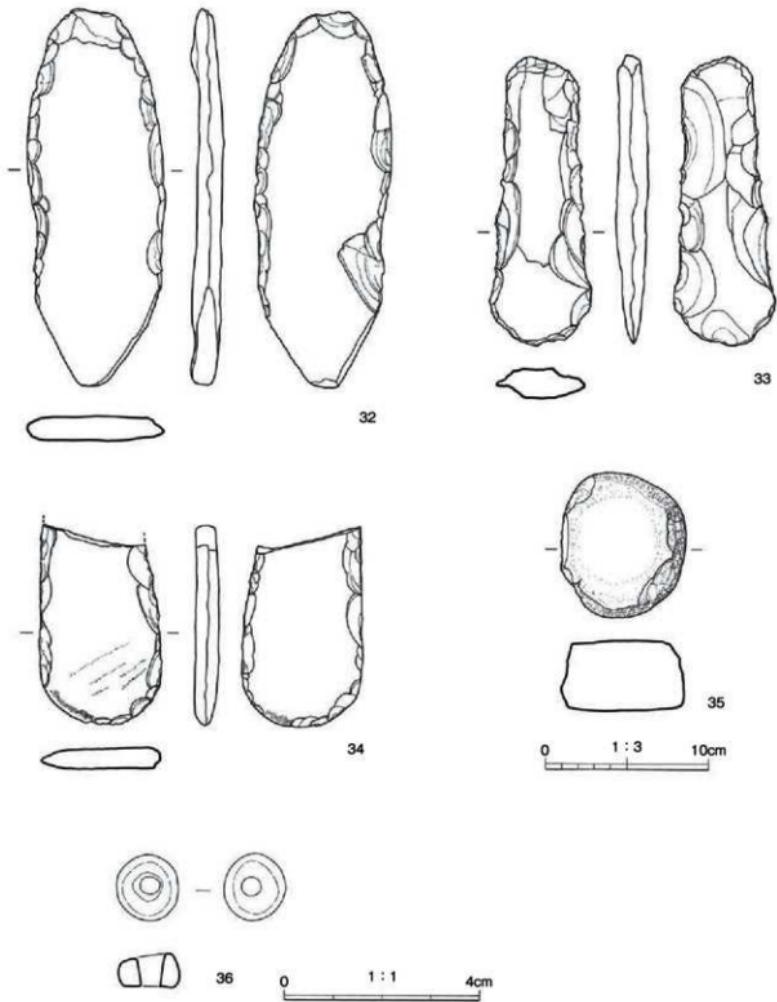


31



0 1 3 10cm

第10図 縄文土器②



第11図 縄文時代の石器

第2表 繩文土器觀察表

番号	掲載図	出土地點	器種	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴(混入物)	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面	
1	第6回	1号土坑	深鉢				工具ナデ	灰黄褐 (10Y R 5/2)	褐灰 (10Y R 4/1)	3mm以下の黒色・透明白光沢粒、1mm以下の灰白・にぶい橙色粒	外面スス付着
2	#	#	#				工具ナデ	黄灰 (25Y 5/1)	黄灰 (25Y 5/1)	2mm以下の透明・光沢粒、2mm以下の灰場・褐灰・灰白色粒	外面スス付着
3	#	#	#				工具ナデ	黄灰 (25Y 5/4)	にぶい黄褐 (25Y R 4/4)	4mm以下のにぶい黄褐色・褐灰粒、2mm以下の透明白光沢粒	
4	#	#	#	9.7			工具ナデ	黄褐 (25Y R 4/4)	黒褐 (25Y R 2/2)	2mm以下の透明白光沢粒、微細な黑色光沢粒	
5	#	#	浅鉢	21.9			ミガキ	三ガキ (25Y 1/3)	黒場 (25Y 1/3)	2mm以下の白色粒	
6	#	#	#				ミガキ	三ガキ (25Y 1/3)	黒場 (25Y 1/3)	1mm以下の白色粒	
7	#	#	鉢				丁寧なナデ	三ガキ (25Y 1/3)	にぶい黒場 (25Y R 4/5), 黒場 (25Y R 1/2)	3mm以下の褐色粒、1mm以下の白色粒	
11	第8回	2号土坑	浅鉢				ミガキ	三ガキ・ナデ (25Y 1/4)	黒場 (25Y 1/4)	2mm以下の白色粒	
12	#	#	#				ミガキ	三ガキ (25Y 1/3)	黒場 (25Y 1/4)	1mm以下の白色粒	
16	第9回	12号墳	深鉢				ナデ・沈縁文 例文	ナデ (25Y R 1/2)	にぶい黒場 (25Y R 4/5), 黒場 (25Y R 2/4)	1mm以下の透明白・白色粒	
17	#	H 4	#				ミガキに近い ナデ	黒場 (25Y 1/3)	にぶい黒場 (25Y R 4/5)	2mm以下の光沢・白色・灰色粒	
18	#	S 8	#				ミガキに近い ナデ	黄灰 (25Y 1/4)	暗灰黃 (25Y 2/4)	5mm以下の赤褐色・灰色粒、微細な白色粒	表面からの穿孔あり (外) 表面スス付着
19	#	21号墳	#				ナデ・沈縁文	ナデ (10Y R 6/2)	にぶい黄褐 (10Y R 6/2)	5mm以下の赤褐色・灰色粒	
20	#	26号墳	#				ナデ・沈縁文	ナデ (10Y R 6/2)	にぶい黄褐 (10Y R 6/2)	2mm以下の赤褐色・灰色粒	
21	#	U 8	#				ナデ・沈縁文	ナデ (10Y R 6/3)	にぶい黄褐 (10Y R 6/3)	4mm以下の赤褐色・灰色・白色粒	
22	#	-	浅鉢				ミガキ	三ガキ (25Y 1/4)	黄灰 (25Y 1/4)	微細な黑色粒	錆状突起
23	#	15号墳	鉢か				ミガキ	三ガキ・ナデ (25Y 1/3)	黄灰 (25Y 1/3)	10mm以下の赤褐色・4mm以下の黑色粒 3mm以下の灰白色粒、微細な透明白光沢粒	表面に接合痕あり
24	#	道路状	深鉢				ナデ	ナデ (10Y R 6/2)	にぶい黄褐 (10Y R 6/2)	2mm以下の黒・透明白光沢粒、3mm以下の黒・灰場・白・透明白光沢粒	表面スス付着
25	#	17号墳	深鉢	9.9			工具ナデ	工具ナデ (25Y R 6/6)	灰場 (25Y R 5/1)	4mm以下の黒色粒、2mm以下の灰白色粒、微細な黑色粒	
26	第10回	14	浅鉢(31)				ミガキ	ミガキ (25Y R 7/6)	にぶい黒場 (25Y R 7/4)	1mm以下の乳白色粒、微細な黒・黒色粒	外面に黒斑
27	#	3D	浅鉢				ミガキ	ナデ (10Y R 3/1)	黒場 (10Y R 4/1)	2mm以下の灰白色、にぶい褐色の砂粒を含む。	
28	#	14	浅鉢(32)				ミガキ	三ガキ (10Y 2/1)	黒 (10Y 2/1)	2mm以下の黒・1mm以下の灰白色粒、微細な透明白光沢粒	
29	#	17号墳	浅鉢(363)				ミガキ	ミガキ (10Y R 4/2)	灰場 (10Y R 4/1)	1mm以下の灰褐色、微細な光沢粒	
30	#	3D	浅鉢				ミガキ・ナデ	ナデ (10Y R 3/1)	黒場 (10Y R 4/1)	2mm以下の灰白・にぶい橙色粒	表面スス付着 内部変形化物付着
31	#	4号土坑	鉢(486)				ナデ	三ガキ (25Y 3/1)	黄灰 (25Y 7/2)	3mm以下の乳白色粒、微細な透明白光沢粒	

第3表 石器計測表①

番号	出土位置	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石 材	備 考
8	1号土坑	剥片	4.5	3.1	1.7	8.64	黒曜石	気泡多い
9	#	石鏟	1.5	1.1	0.3	0.63	安山岩	
10	#	"	1.9	-	0.3	0.76	チャート	欠損
13	2号土坑	"	2.1	1.5	0.45	1.01	安山岩	
14	#	"	1.7	1.2	0.25	0.48	チャート	
15	#	剥片	1.6	0.8	0.15	0.26	チャート	
32	H 3	石斧か	23.1	8.6	1.4	505	流紋岩	
33	S 8	石斧	18.1	6.4	1.7	235	流紋岩	
34	U 10	石斧	-	7.5	1.2	230	流紋岩	
35	道路状	磨石	9.3	-	4.5	510	凝灰岩	
36	2号墳	玉	1.35	1.25	0.7	2.10	ヒスイ	未鑿定

第4節 弥生時代の遺構と遺物

明確な遺構は3号土坑の1基のみである。そのほか、古墳時代の遺構埋土中より土器が出土している。

3号土坑（第12図）

A区の19号竪穴の近くで検出された。やや不整な方形を呈する。長軸1.9m×短軸1.45mで検出面からの深さは約35cm。床面は平坦となる。西側には風倒木痕があつてその影響を受けている。埋土はシルト質の黒色土で、御池ボラ粒が混入している。

遺物は埋土の上位より出土しており、使用時の状態を留めているとは言いたい。遺構廃絶後に流れ込んだと目される。

3号土坑出土遺物（第13図）

37の1点のみ図化している。壺の胴部であり、遺構の北東側端部より出土している。胴部に巡る断面三角形の突帯が3条認められる。胎土中にウンモを含んでいる。口縁部と底部を欠くため判断が難しいが、突帯は中期中葉の特徴を備えている。

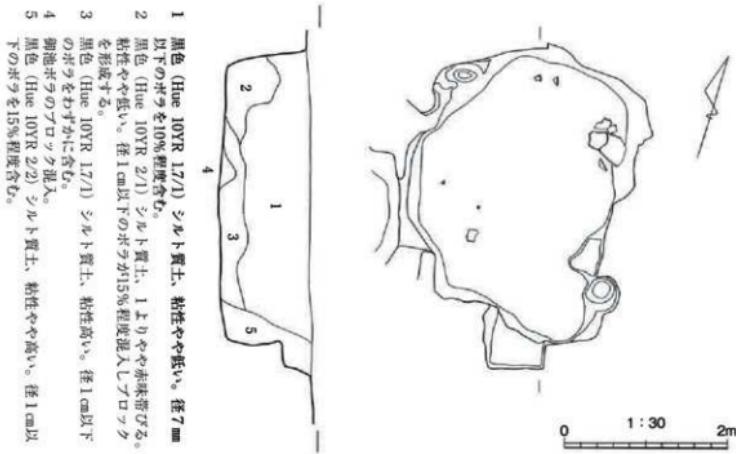
遺構外出土遺物（第14図）

38は比較的大きな破片である。厚めの口縁部、いわゆるミミズバレ状の突帯、黒褐色を呈する器面の色調など、霧島山麓一帯から鹿児島県域北部に分布する「山間部の弥生土器」に似る。40も同様でとりわけ器壁が厚い。口唇部と突帯に細かな刻みを付し、口縁部と突帯の間に列点による文様を施している。39と41は逆L字形の口縁部を有するもので、口唇部は沈線状に凹ませる。口縁下には三角突帯が巡る。44はグリップエンド状の底部。底面は上げ底となる。38と40以外の個体には胎土中にウンモを含む。特に41には多く混入している。

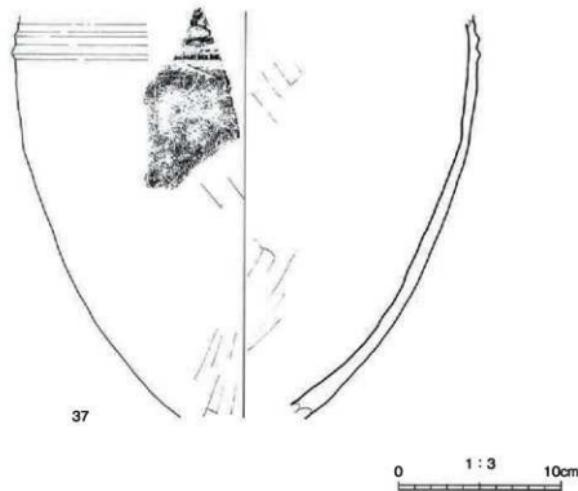
これらの土器は、逆L字状の口縁部の特徴から、中期中葉を中心とする時期の所産と考えられる。44のやや上げ底を呈する底部は新しい様相を示すものであろうか。

第4表 弥生土器観察表

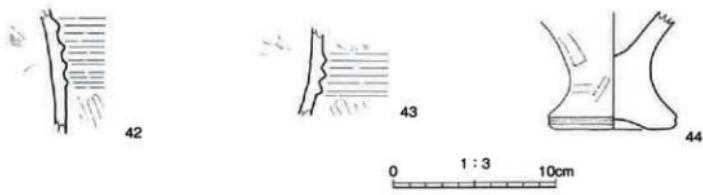
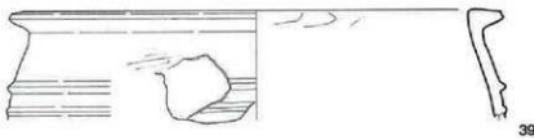
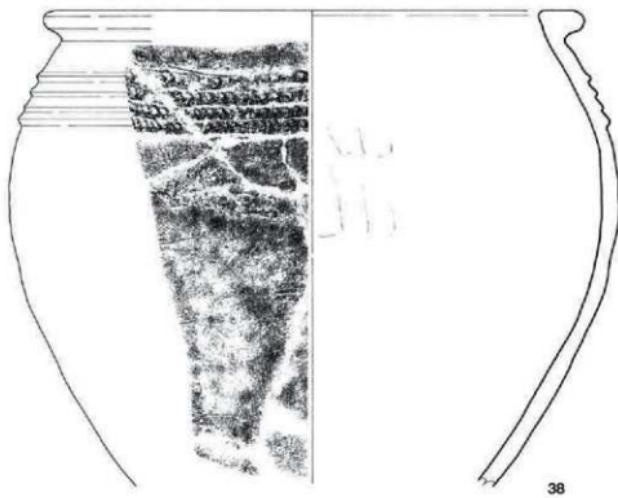
番号	掲載図	出土地点	器種	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴(混入物)	備考
				口径	底径	器高	外面	内面	外	内	
37	第13図	3号土坑	壺			ミガキに近い ナデ	にぶ1場 (7SY R 5/3)	にぶ1場 (7SY R 5/4)	3mm以下の褐灰・灰白・黄褐色 ウンモ		
38	第14図	2号竪	壺	33.2		ナデ	根	根	3mm以下の乳白色・黒色粒・光沢 程		外面スス付着
39	#	V・R10	#	30.2		ナデ	ナデ	根	1mm以下の白色・黒色光沢粒・ウ ニセ毛		外面一部剥離
40	#	2号竪	#			ミガキに近い ナデ・別点文	にぶ1場 (10Y B 5/2)	にぶ1場 (10Y R 5/3)	3mm以下の橙・灰黄・灰白粒・透 明光沢程		外面スス付着
41	#	D 3	#	22.8		ナデ	ナデ	にぶ1場 (7SY R 5/4)	にぶ1場 (SY R 5/4)	3mm以下の白色粒・ウンモ	外面スス付着
42	#	N 7	#			ナデ	ナデ	にぶ1場 (7SY R 3/1)	にぶ1場 (SY R 5/4)	2mm以下の白色・灰白色程・ウン モ	外面スス付着
43	#	3号竪	#			ナデ	ナデ	にぶ1場 (7SY R 3/1)	にぶ1場 (SY R 5/4)	2mm以下の白色・赤褐色・灰白色 程・ウンモ	外面スス付着
44	#	A 1区	#	7.4		ナデ	ナデ	にぶ1場 (7SY R 5/3)	にぶ1場 (SY R 5/4)	3mm以下の白色粒・ウンモ	



第12図 3号土坑



第13図 3号土坑出土遺物



第14図 弥生土器

第5節 古墳時代の遺構と遺物

1 竪穴建物

平峰跡の1次・2次調査では、古墳時代の竪穴建物が34軒検出された。うち3軒は一部が3次調査の調査区に含まれていたので、本報告書では扱わない。なお、遺構の時期については各出土遺物から中村編年（中村直子2002）と今塩屋・松永編年（今塩屋毅行・松永幸寿2002）に準拠し、以後、それぞれ「中村○期」「今塩屋・松永○期」⁽¹⁾と記す。以下、各竪穴建物とその出土遺物について記述する。

1号竪穴建物（遺構：第15図 出土遺物：第16図45～51）

B区の北、調査区の東壁に接して検出された方形の竪穴建物である。検出された一辺は5.7mで、一部または全部が調査区外にある他の3辺も同程度であると予想できる。主柱穴は4本と予想され、床面は貼床、中央に炉の跡が確認できる。壁溝は確認されていない。

出土遺物は、刻目突帯をもつ櫛、平底の壺の底部、鉢が出土しているが遺構の掘削時や廃棄時に伴うものかは判然としない。また、中央に穴が穿ってある軽石製品やチャートの剥片も出土している。チャートについては、埋没時や掘削時における混入であろう。遺構の時期決定は困難だが、最も完形に近い平底の鉢を遺構に伴うとすれば、中村1期、今塩屋・松永2期に併行するか。突帯甕を伴うと考えると、中村4期、今塩屋・松永6期に併行するとみるべきか。

2号竪穴建物（遺構：第17図 出土遺物：第18図・第19図52～74）

B区の北中央部で検出された東西4.8m、南北5.3mの方形竪穴建物である。主柱穴は4本で貼床、壁溝は確認されていない。中央に焼土を含む土坑が確認されている。

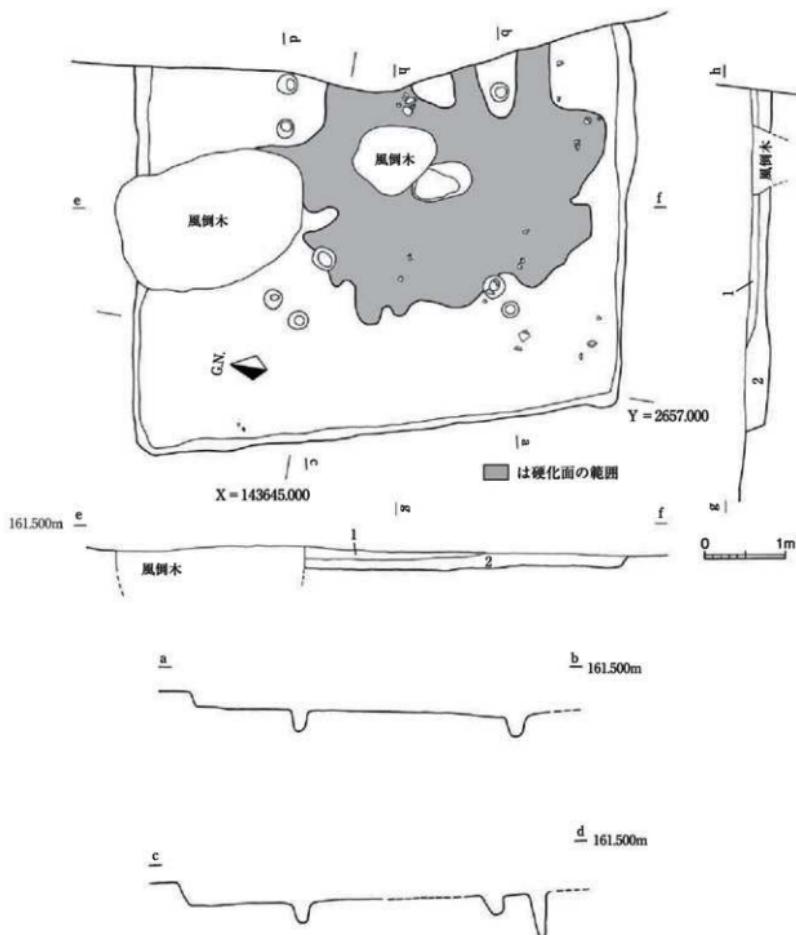
出土遺物は、櫛・壺・高坏、水晶製の切子玉、ヒスイ製小玉などのほか、靴の羽口（高坏の脚部を転用したものを含む。）、鉄錆の付着した砥石（金床石の破片の可能性もある。）、鉄滓などの鏡冶間連遺物の出土が目立っている。遺物の状況からは精鍊鍛冶を行っていたとは考えにくいが、小鍛冶の作業場ではあったのかも知れない。

遺構に伴う遺物を明確に判別することは困難だが、土師器の時期は中村3期、今塩屋・松永4～5期に集中するようである。

3号竪穴建物（遺構：第20図 出土遺物：第21図75～80）

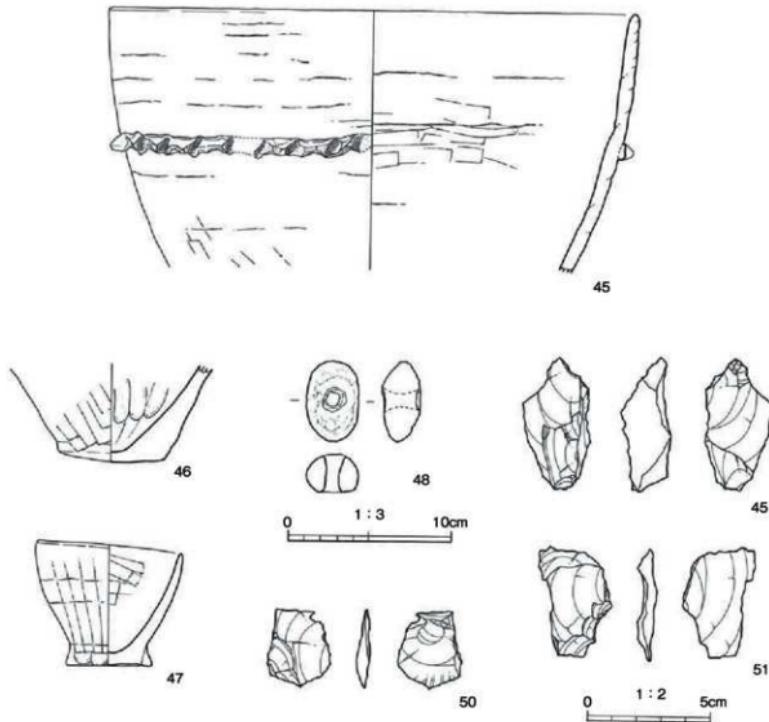
B区の北西側で検出された方形の竪穴建物である。東西4.5m、南北5.1mを測り壁溝はない。主柱穴は4本で中央に焼土を含む土坑がある。南側の主柱穴間から南壁の間に床面が硬化した部分があるが貼床を施した形跡は認められない。

出土遺物は、櫛、壺の底部、鉄鎌、靴の羽口のほか、用途不明の軽石、磨石の破片などが出土している。遺物の出土状況の記録に不備があり遺構に伴う遺物は判然としないが、出土した甕は中村4期、今塩屋・松永6期以降に位置づけられるものである。しかしながら、鉄鎌は中型の圭頭斧箭鎌で、かつ非常に薄手であり、むしろ古手の特徴を示し、5世紀を下るものとは考え難い。鉄鎌は検出面レベルで確認できたと記録があるので、あるいは包含層からの混入とみるべきかもしれない。甕の年代観に従うか、甕が破片であり、良好な出土状況を呈していたとは考えがたいので、ほぼ完全な形態を示す鉄鎌の年代

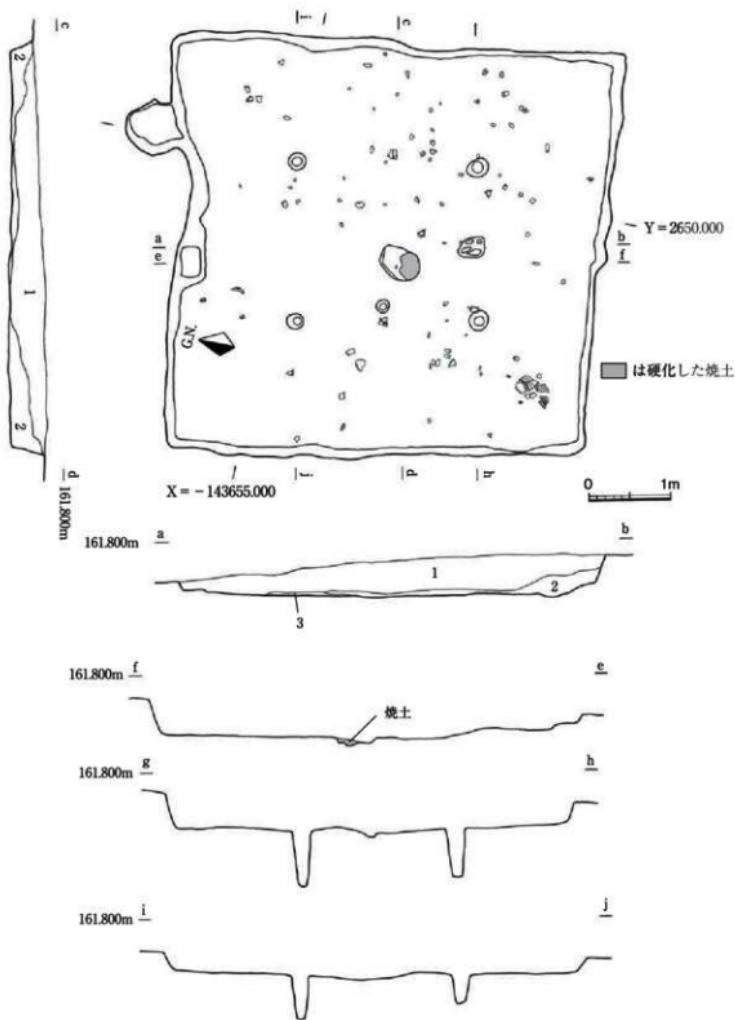


- 1 黒色土 (Hue 10YR 2/1) 径1cm以下の御池ボラ粒が5%程度混じる。粘性はほとんどない。
 2 黒色土 (Hue 10YR 2/1) 径1aとはほぼ同一であるがわずかに暗い。

第15図 1号竖穴建物跡 (S = 1/60)

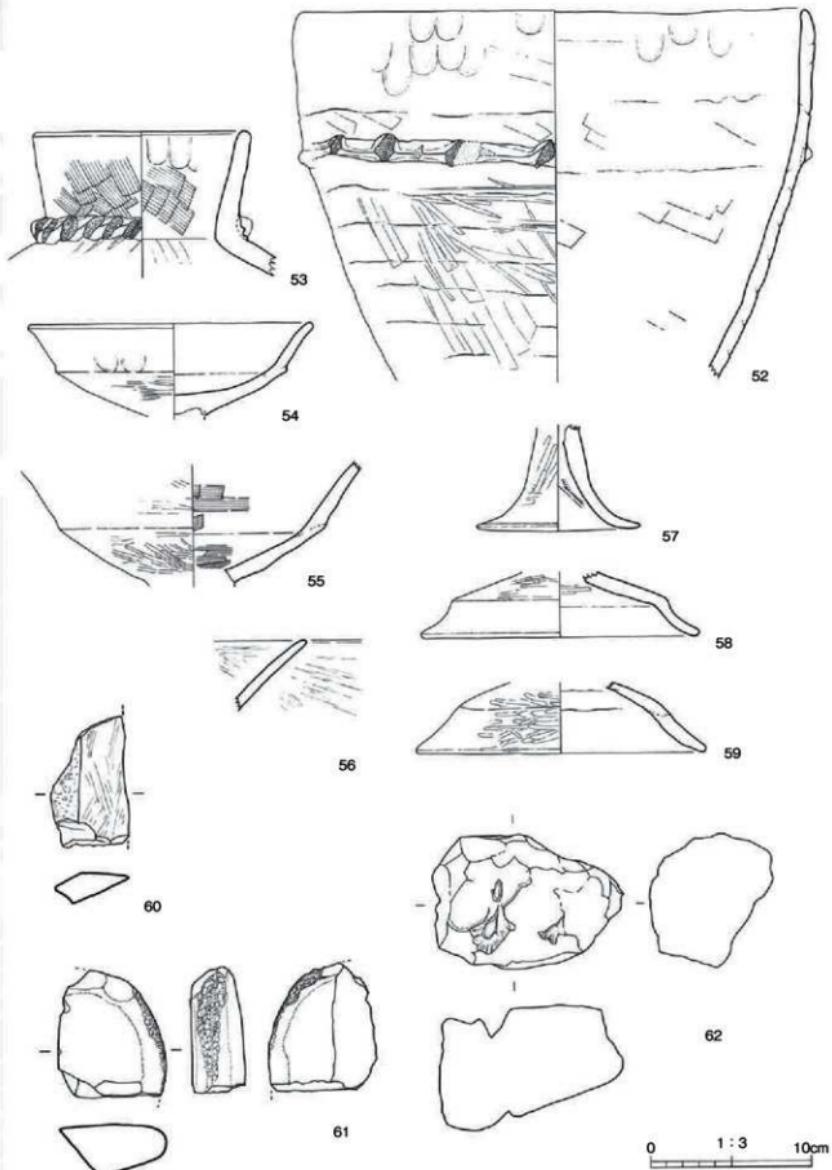


第16図 1号竪穴出土遺物

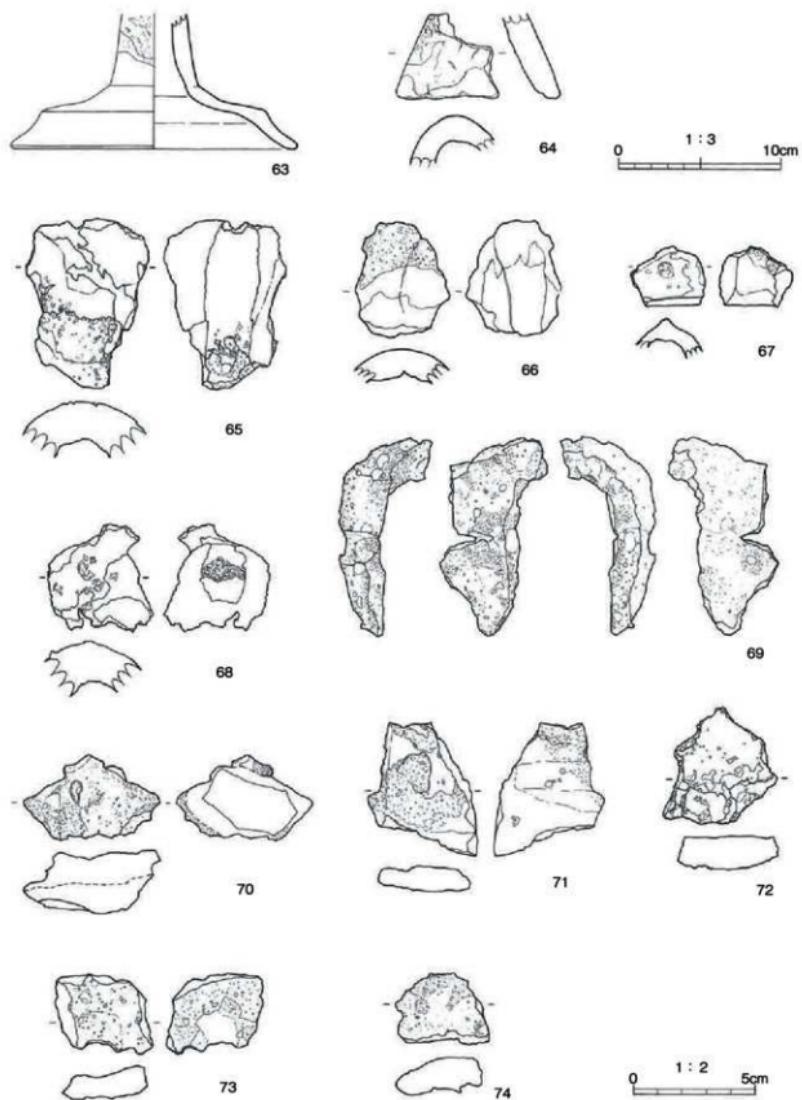


- 1 黒色土 (Hue 10YR 2/1) シルト質土、径7mm以下の御池ボラ粒を5%含む。粘性が低く、しまりが弱い。5mm以下の炭化材をわずかに含む。
- 2 黒色土 (Hue 10YR 1.7/1) シルト質土、径7mm以下の御池ボラ粒を15%含む。粘性が低く、しまりがやや強い。径5mm以下の炭化材を少量含む。1よりは多い。
- 3 黒色 (Hue 10YR 2/1) シルト質土、径5mm以下の御池ボラ粒を20%含む。粘性がやや高く、しまりがやや強い。

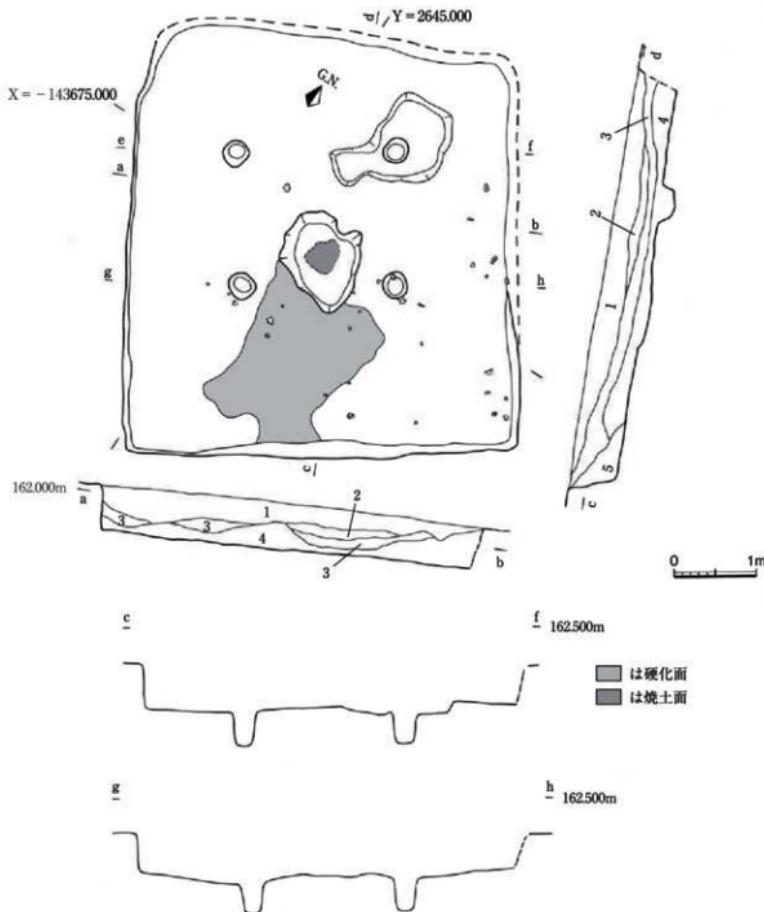
第17図 2号竖穴建物跡 (S = 1/60)



第18図 2号竪穴出土遺物①

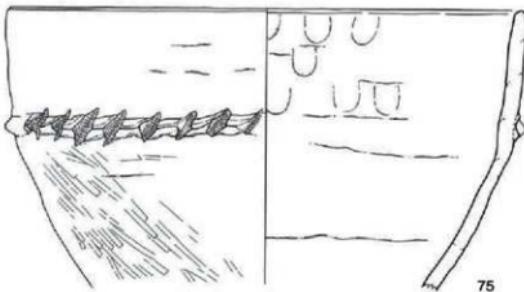


第19図 2号竪穴出土遺物②



- 1 黒褐色土 (Hue 10YR 2/2) シルト質土、御池ボラ粒を 3% 含む。しまりがやや弱い。
- 2 黒色土 (Hue 10YR 2/1) シルト質土、御池ボラ粒を 3% 含む。1より粘性がやや高くしまりはやや弱い。
- 3 黒色土 (Hue 10YR 1.7/1) シルト質土、径 5mm 以下の御池ボラ粒を 7% 含む。粘性がやや高くしまりは弱い。
- 4 黒色土 (Hue 7.5YR 2/1) シルト質土、径 7mm 以下の御池ボラ粒を 20% 含む。径 3~15mm の炭化物粒を含む。粘性低くしまりがやや強い。
- 5 黒色土 (Hue 7.5YR 1.7/1) シルト質土、径 5mm 以下の御池ボラ粒を 15% 含む。粘性低くしまりがやや強い。

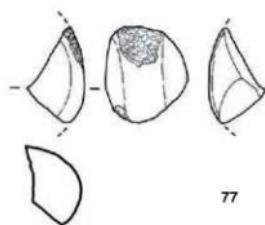
第20図 3号竖穴建物跡 (S = 1/60)



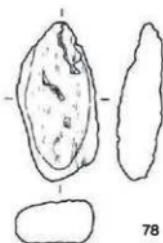
75



76



77

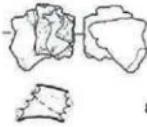


78

0 1 : 3 10cm



79



80

0 1 : 2 5cm

第21図 3号竪穴出土遺物

観で考えるかで大きく評価が変わるといつていいだろう。

4号竪穴建物（遺構：第22図 出土遺物：第24図81～82）

B区の東側中央で検出された方形の竪穴建物である。東西3.2m、南北3.8mで主柱穴は2本である。貼床は施されず、貼床や炉などの屋内施設も検出されていない。出土遺物は土師質の土器片が2点出土している。破片が小片で器形・時期などは確定しがたい。

5号竪穴建物（遺構：第23図 出土遺物：第24図83～91）

B区の南寄り西壁に接して検出された方形の竪穴建物である。検出された1辺は4.8m、主柱穴は4本と考えられる。床面中央に炉跡があり貼床が施される。壁溝はない。

出土遺物は甕、高坏、鞆の羽口、鉄滓、敲打痕が残り一部熱で赤変している砥石などがある。甕は中村4期に相当しそうであるが、高坏は中村2～3期、今塩屋・松永4期に相当するとみられ、1世纪近い間隔がある。鞆の羽口、鉄滓、金床石として転用したと考えられる砥石などの存在からは、何らかの鋳冶作業を行っていたと考えられるが、大規模なものではなかったようである。

6号竪穴建物（遺構：第25図 出土遺物：第26図92～106）

B区の南西部で検出された方形の竪穴建物である。規模は東西で3.4m、南北で4.0m、主柱穴は4本である。貼床が施されており、中央に焼土を含む炉跡がある。壁溝はない。

出土遺物は甕・壺・高坏・鞆の羽口・鉄滓（未図化）・鉄分の付着した岩片などである。甕・壺に関しては中村3～4期におさまると判断でき、高坏に関しては同様である。坏部の形状からは、今塩屋・松永3～4期に位置づけても違和感はないが、やや下るとみて今塩屋・松永5期、TK47～MT15型式に併行する時期としておきたい。遺物から、5号竪穴建物同様、小規模な鋳冶を行っていたと考えられる。

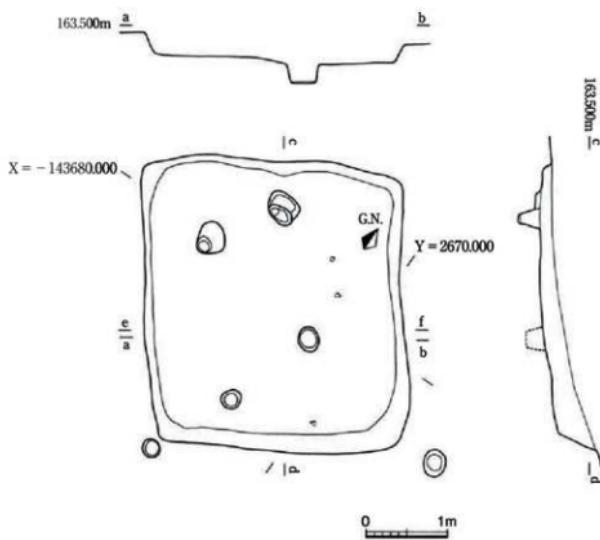
7号竪穴建物（遺構：第27図 出土遺物：第28図・第29図107～121）

B区の南寄り中央、6号竪穴建物の東で検出された方形の竪穴建物である。規模は南北3.8m、東西は攪乱が激しく判然としない。主柱穴は4本と考えられる。床面中央南寄りに土坑があるが焼土や炭化物は含まれない。床面には貼床が施されるが壁溝はない。

出土遺物は甕・壺・高坏・坏・鞆の羽口・被熱して発泡している土器口縁部・被熱により赤変している軽石などが出土している。発泡している土器口縁部に関しては、鞆の羽口に転用されたものと考えられる。軽石については、炉の壁材として使用されたものか。5号・6号竪穴建物と同様に小規模な鋳冶を行っていたと考えられる。遺物の時期については、甕・壺・高坏は中村3期に、高坏・坏の形状から今塩屋・松永の4期に相当する。

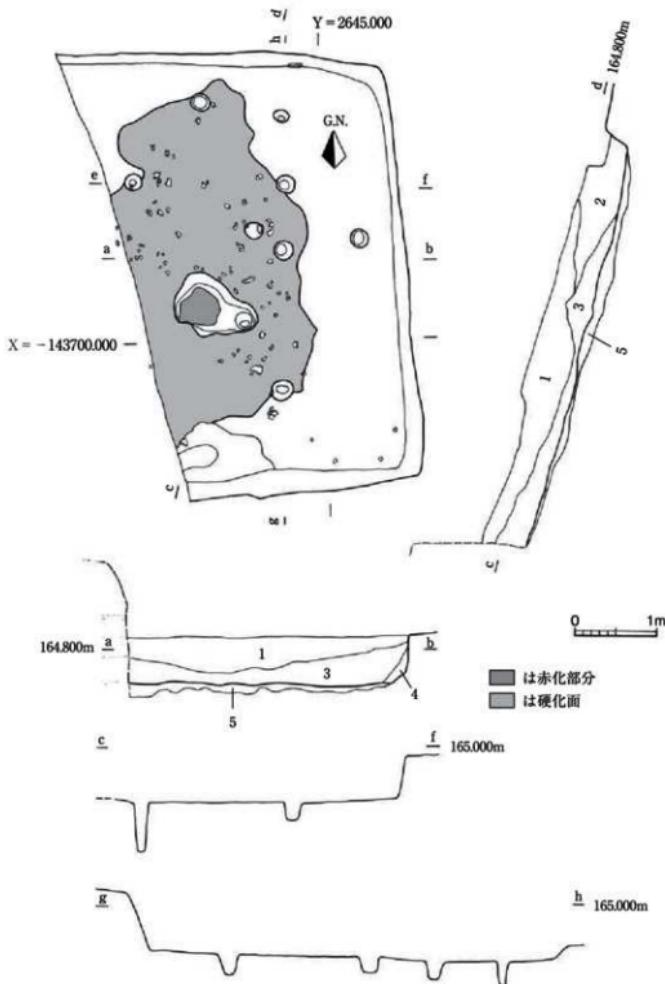
8号竪穴建物（遺構：第30図 出土遺物：第31図・第32図122～139）

B区の南寄り中央、7号竪穴建物の東で検出された方形の竪穴建物である。東西6.1m強、南北5.8mを測り、主柱穴は4本である。中央に炉跡があり貼床が施される。壁溝はない。



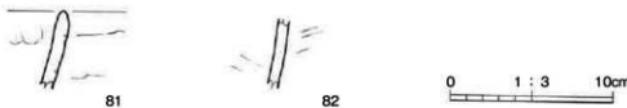
- 1 黒褐色土 (Hue 7.5YR 3/2) 竹根による擾乱が激しく、土質ははっきりしない。
- 2 黒褐色土 (Hue 7.5YR 2/2) 1～5mmの御池ボラ粒を10%含む。1より粘性がやや高くしまりが強い。
- 3 黒褐色土 (Hue 7.5YR 2/2) 御池ボラ粒を10～20%含む。2より粘性がやや高くしまりが強い。
- 4 黒褐色土 (Hue 7.5YR 2/2) 御池ボラ粒を25～50%含む。3より粘性がやや高くしまりが強い。
- 5 黒褐色土 (Hue 7.5YR 3/2) 1～5mmの御池ボラ粒を含む。竹根による擾乱が激しい。

第22図 4号竪穴建物跡 (S = 1/60)

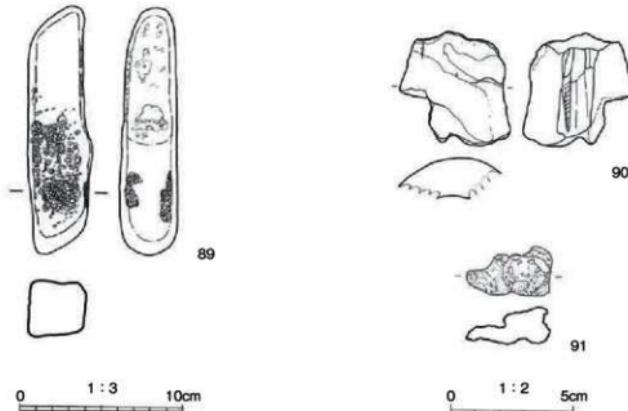
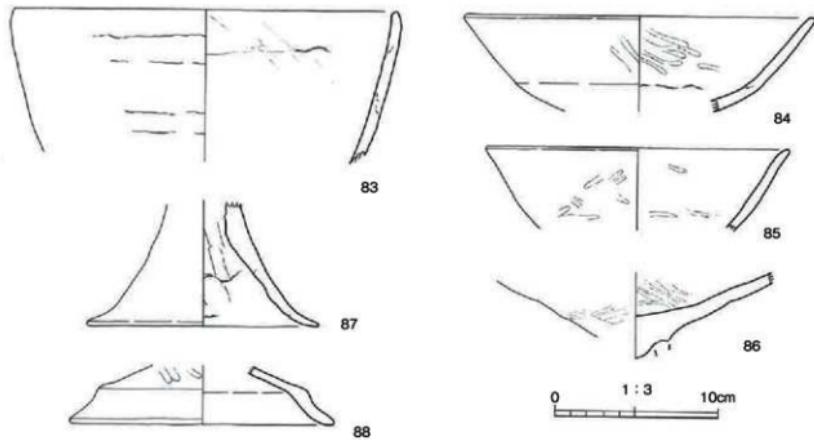


- 1 黒褐色土 (Hue 10YR 2/2) シルト質土、径3mm以下の御池ボラ粒を3%含む。
- 2 黒色土 (Hue 10YR 2/1) シルト質土、径5mm以下の御池ボラ粒を7%含む。しまり、粘性ともやや弱い。
- 3 黒色土 (Hue 10YR 2/1) シルト質土、径10mm以下の御池ボラ粒を25%含む。径2mm程度の黒色土やアカホヤのブロックを多く含む。しまり、粘性ともやや弱い。
- 4 黒褐色土 (Hue 10YR 2/1) アカホヤ、御池ボラがブロックが混入する。しまりが強い。堅穴建物の貼床を成す。

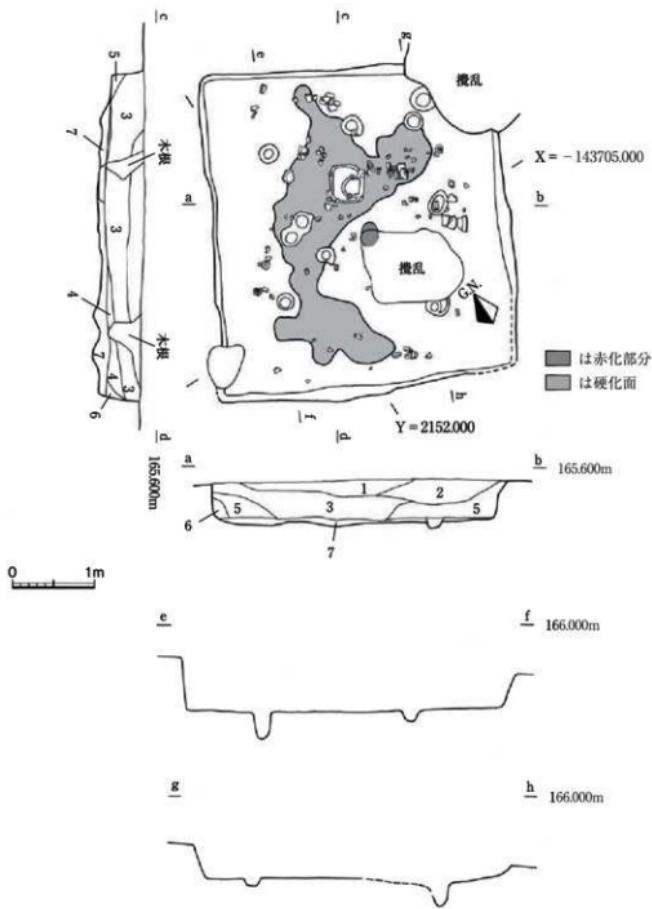
第23図 5号堅穴建物跡 (S = 1/60)



第24図上 4号竪穴出土遺物

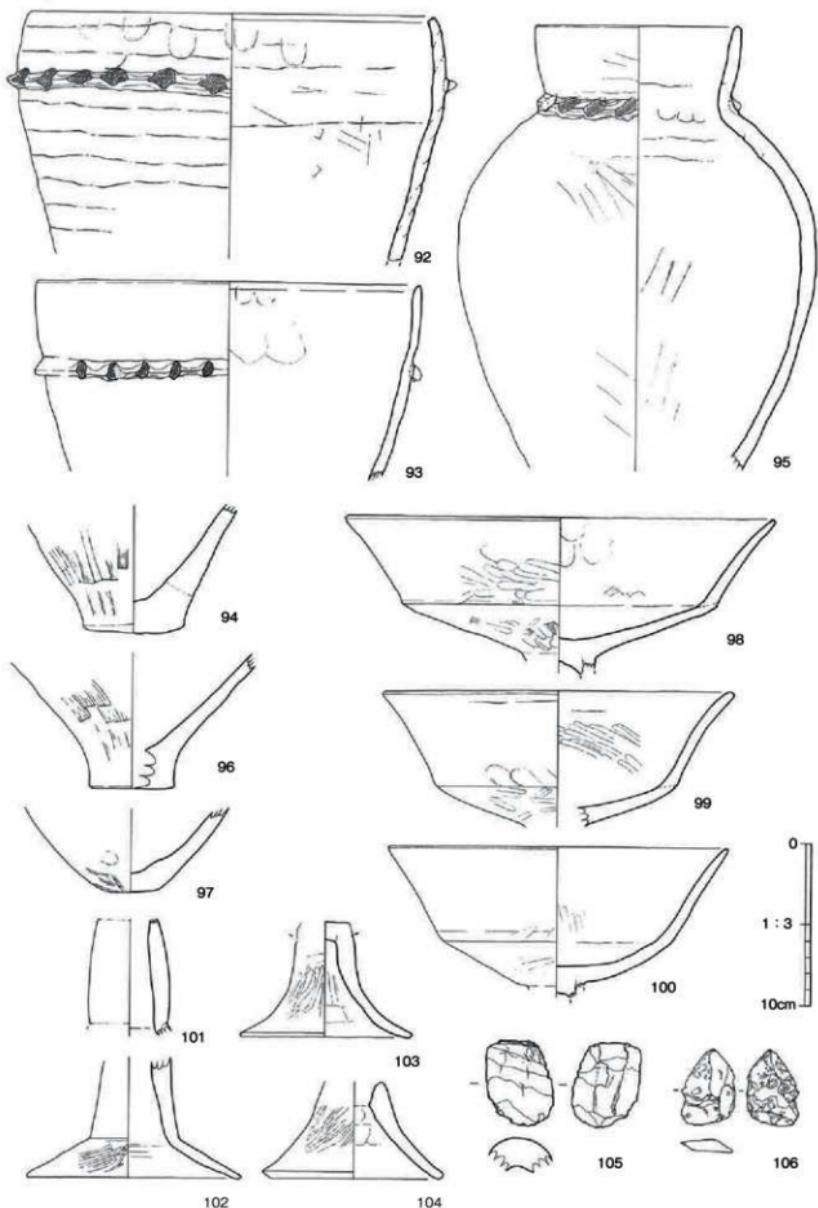


第24図下 5号竪穴出土遺物

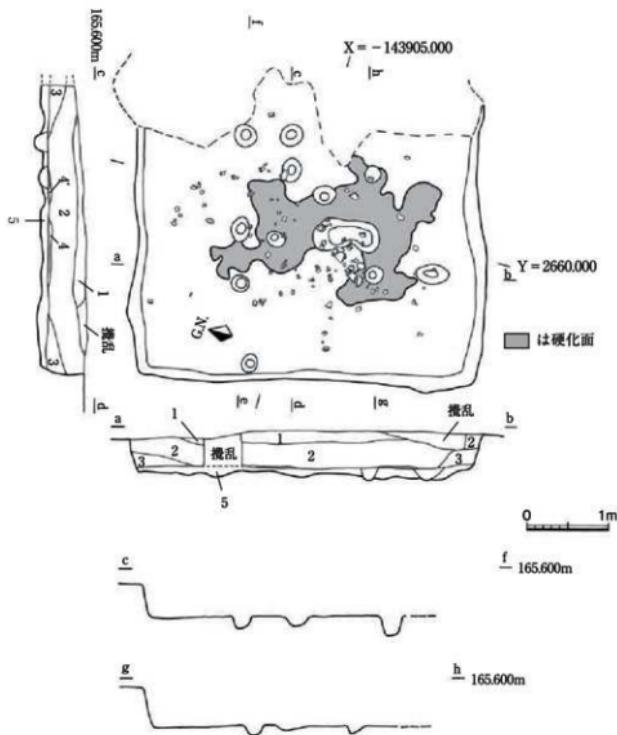


- 1 黒褐色土 (Hue 10YR 3/1) 御池ボラ粒を10%含む。しまりが弱い。
- 2 黒色土 (Hue 10YR 2/1) 御池ボラ粒を15%含む。しまりが弱い。
- 3 黒褐色土 (Hue 10YR 3/1) 御池ボラブロックを25%含む。焼土や炭化物粒がわずかに混ざる。
1よりややしまりが強い。
- 4 黒色土 (Hue 10YR 2/1) 御池ボラ粒を20%含む。しまりが弱い。
- 5 黒色土 (Hue 10YR 2/1) 御池ボラ粒を30%含む。しまりが強い。
- 6 黒色土 (Hue 10YR 3/1) 御池ボラ粒を40%含む。しまりが強い。
- 7 黒色土 (Hue 10YR 1.7/1) 御池ボラ粒をわずかに含む。しまりが非常に強い。貼床土。

第25図 6号竪穴建物跡 (S = 1/60)

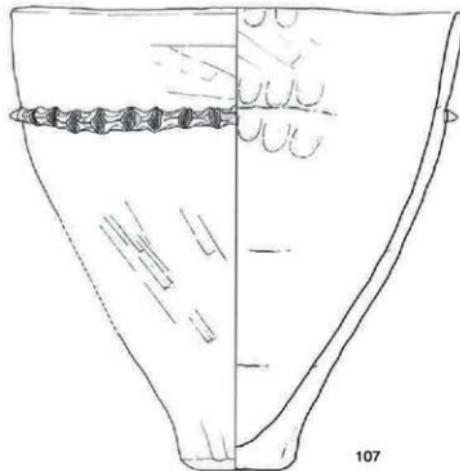


第26図 6号竖穴出土遺物

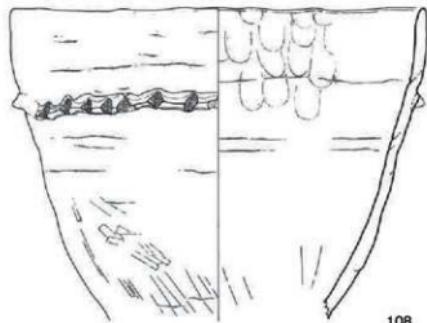


- 1 黒褐色土 (Hue 10YR 3/1) 御池ボラ粒を10%含む。しまりが弱い。
- 2 黒褐色土 (Hue 10YR 3/1) 御池ボラ粒を20%含む。しまりが弱い。
- 3 黒色土 (Hue 10YR 2/1) 御池ボラ粒を10~30%含む。ややしまりが強い。
- 4 黒色土 (Hue 10YR 2/1) 御池ボラ粒を25%含む。しまりはやや弱い。
- 4' 御池ボラブロック混入土。しまりがやや強い。
- 5 御池ボラブロック混入土。しまりが強い。貼床土。

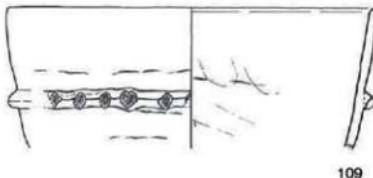
第27図 7号竪穴建物跡 (S = 1/60)



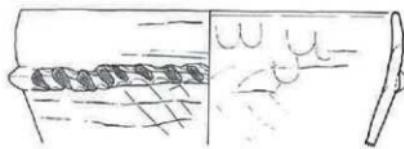
107



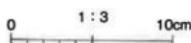
108



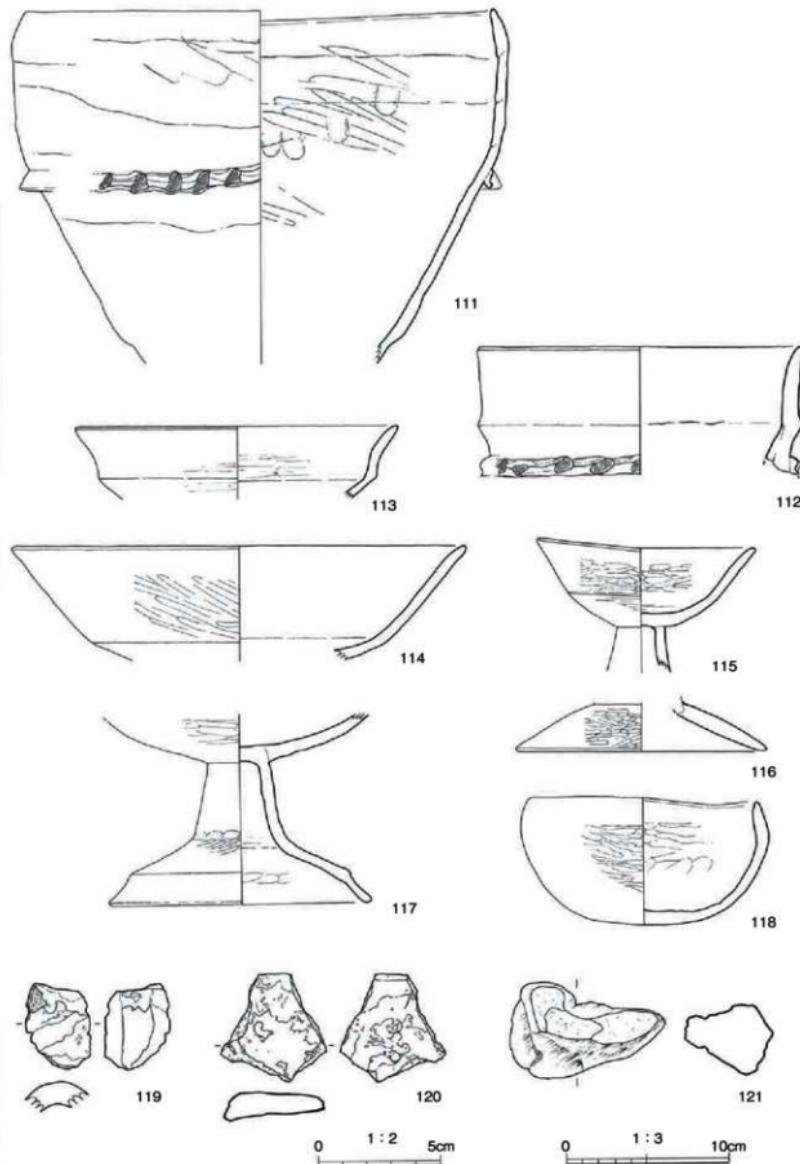
109



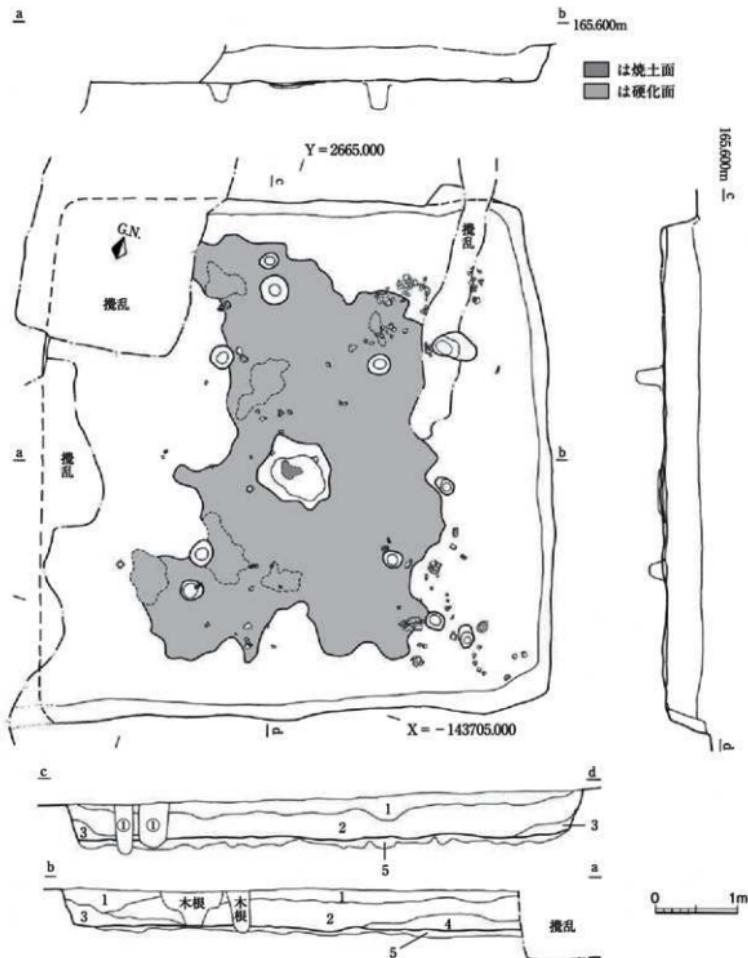
110



第28図 7号竪穴出土遺物①

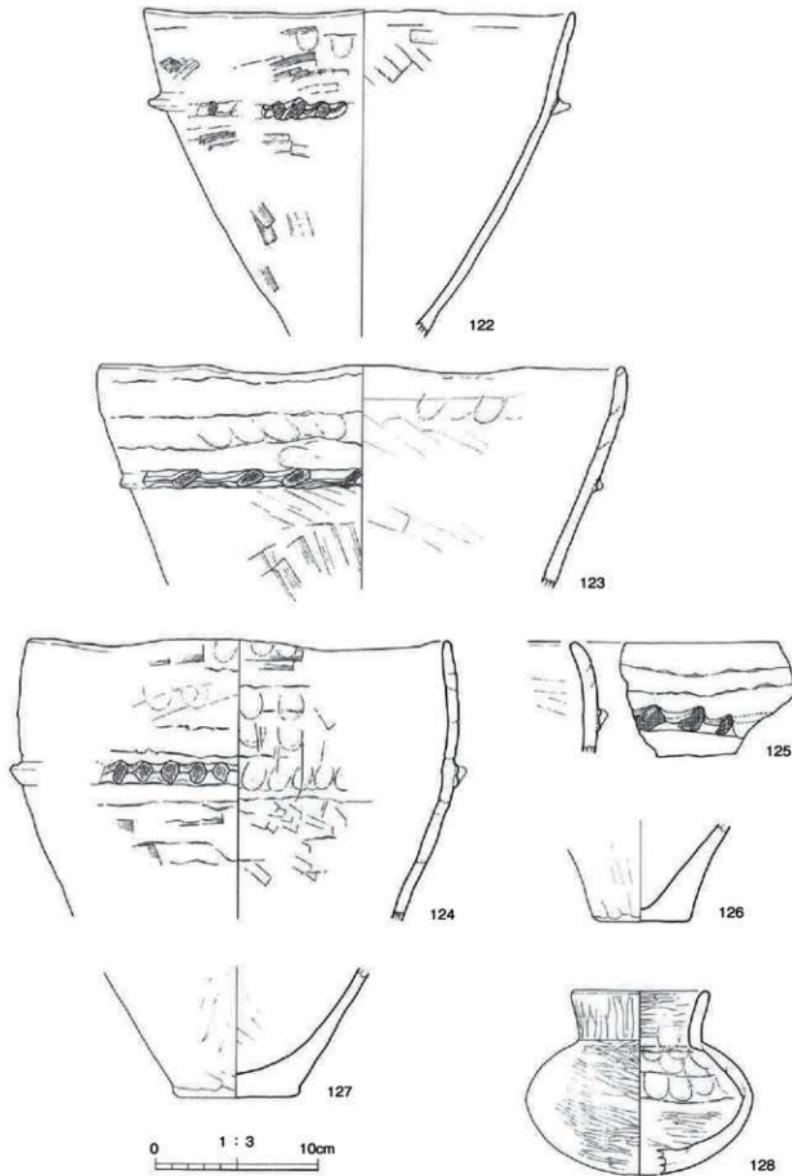


第29図 7号竪穴出土遺物②

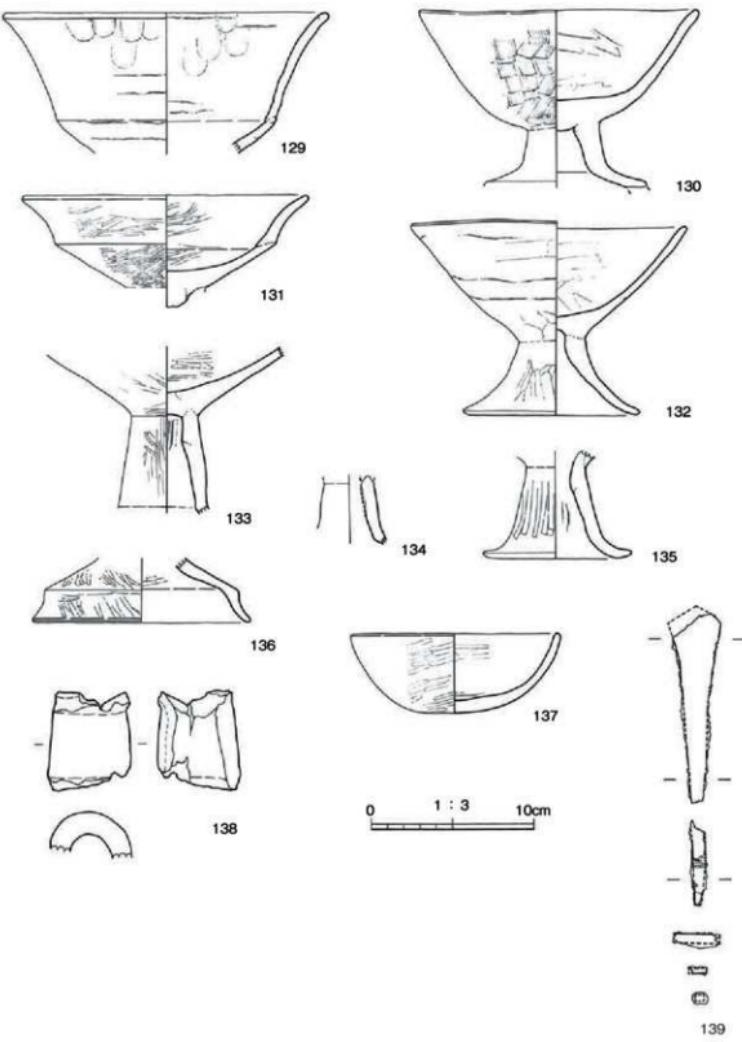


- 1 黒色土 (Hue 10YR 2/2) シルト質、径3mm以下の御池ボラ粒を3%含む。しまりが弱い。
- 2 黒色土 (Hue 10YR 2/1) シルト質、径5mm以下の御池ボラ粒を20%含む。しまりがやや弱い。
- 3 黒色土 (Hue 10YR 1.7/1) シルト質、径3mm以下の御池ボラ粒を1~3%含む。しまりが弱い。
- 4 黒色土 (Hue 10YR 1.7/1) シルト質、径2mm以下の御池ボラ粒を2%含む。5mm大の御池ボラブロックを混入。
- 5 黒色土・御池ボラブロック・アカホヤブロック混入土。しまりが強い。貼床。

第30図 8号竖穴建物跡 (S = 1/60)



第31図 8号竪穴出土遺物①



第32図 8号竪穴出土遺物②

出土遺物は、甕・小型壺・高壺・壺・高壺脚部転用の羽口・鐵鎌などが出土している。甕は6号竪穴建物と同様、中村3～4期のものと考えられる。高壺・壺は今塙屋・松永4～5期に相当すると考えられる。鎌について調査者は主頭斧箭鎌と判断しているが、刃部が欠損しており鎌平面形を確定できない。調査者の推定が正しいとすれば、小型の主頭斧箭鎌であり出土土器から考えられる年代より古手の様相を示す。鎌は床面に近い位置から出土しているので、あるいは、こちらで年代を考えるべきかも知れな

い。高坏脚部の転用羽口については、二次焼成の度合いが弱く発泡や溶融はしていないが、形状と被熱の状態などから羽口に転用されたものと判断した。

9号竪穴建物（遺構：第33図 出土遺物：第34図140～148）

B区の南寄り中央、8号竪穴建物の東側で検出された方形の竪穴建物である。東西3.1m、南北3.6mを測り主柱穴は2本である。壁溝はない。床面中央に焼土を含む浅い土坑があり貼床が施される。

出土遺物は、甕・壺・脚付の鉢・金床石・鉄滓などが出土している。中村3～4期、壺の形状からは今塩屋・松永4～5期に相当するか。金床石と判断したものは、全体に被熟し赤化しており表面に敲打痕が残る。また、敲打部には錆化した鉄分が付着しており、鉄器製作時の鍛打によることは明白である。また、碗型滓の一部と考えられる鉄滓などが出土しており、大規模なことは考えられないが、一部精鍊鍛冶が行われていた可能性もある。

10号竪穴建物（遺構：第35図 出土遺物：第36図・第37図・第38図149～172）

B区の南中央、8号竪穴建物の南で検出された方形の竪穴建物である。東西4.7m、南北4.6mを測り主柱穴は4本と判断したが、南側の2本は掘方が浅い。壁溝はなく床面中央に焼土を含む浅い土坑がある。また、貼床は施されている。

出土遺物は甕・鉢・高壺・壺などの土器類、砥石や敲打痕のある台石、鍛打用の鎌に使用されたと考えられる敲き石、刀子などがある。土器類は概ね中村4期の範疇で捉えられそうであるが、鉢（第38図167）など古手の様相を残すものがある。台石（第38図170）には、敲打痕が残るが肉眼観察では鉄分の付着などは認められず被熱部分も認められない。一方、敲き石（第38図171）は被熱部分が認められ敲打部に鉄分が付着している。

11号竪穴建物（遺構：第39図 出土遺物：第40図・第41図173～184）

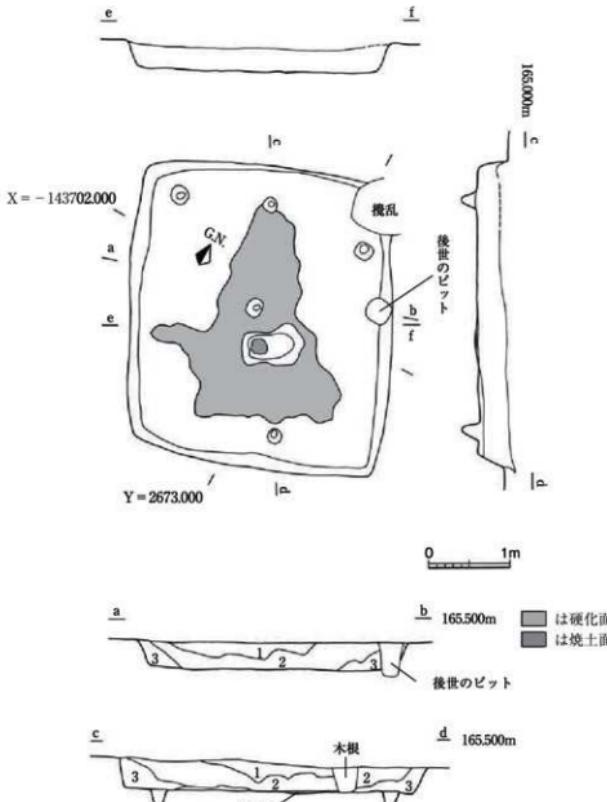
B区の南、調査区の西壁側で確認された方形の竪穴建物である。東西4.7m、南北5.1mを測り主柱穴は4本、壁溝はもたない。床面には貼床が施され、中央には浅い土坑がある。

出土遺物は、甕・壺・高壺・壺・刀子・砥石などがあり、砥石には被熟して赤変した部分や鉄分がこびりついた部分が確認できる。時期はほぼ中村3期におさまると考えられる。高壺、壺の形状からは今塩屋・松永4期に併行するとみてよかろう。

12号竪穴建物（遺構：第42図 出土遺物：第43図・第44図・第45図185～219）

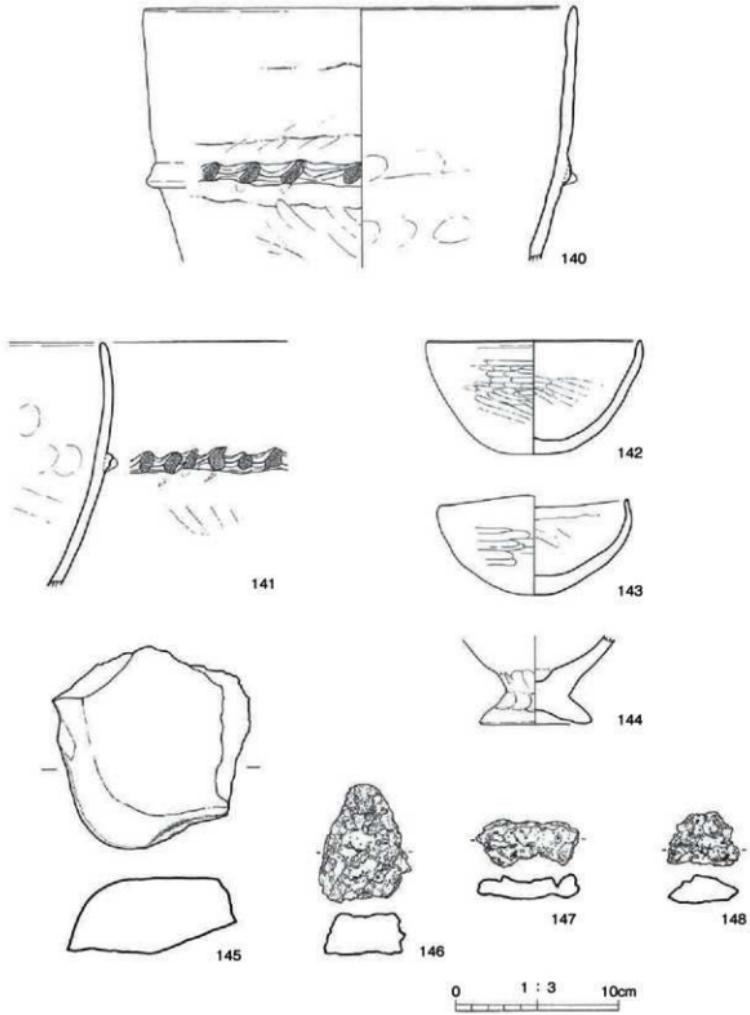
B区の南、やや東寄りで確認された方形の竪穴建物である。東西約6.5m、南北約6.9mを測り、主柱穴は4本と考えられるが、西側の2本は判然としない。床面には貼り床が施され、中央に焼土を含む浅い土坑がある。壁溝はない。

出土遺物は、甕・壺・高壺・壺・須恵器の甕・輪の羽口・鉄滓・金床石・砥石・鉄鎌などがある。出土土器は全体に中村3期、今塩屋・松永4期に併行するとみて良さそうであるが、最も依存状態の良い複合口縁壺はやや古手の様相を残し、古墳時代前期末葉のものと似る。集落内から出土する壺とは形状が異なっており、祭祀用の土器かも知れない。また、破片資料であるが底部に格子のタタキを有する甕

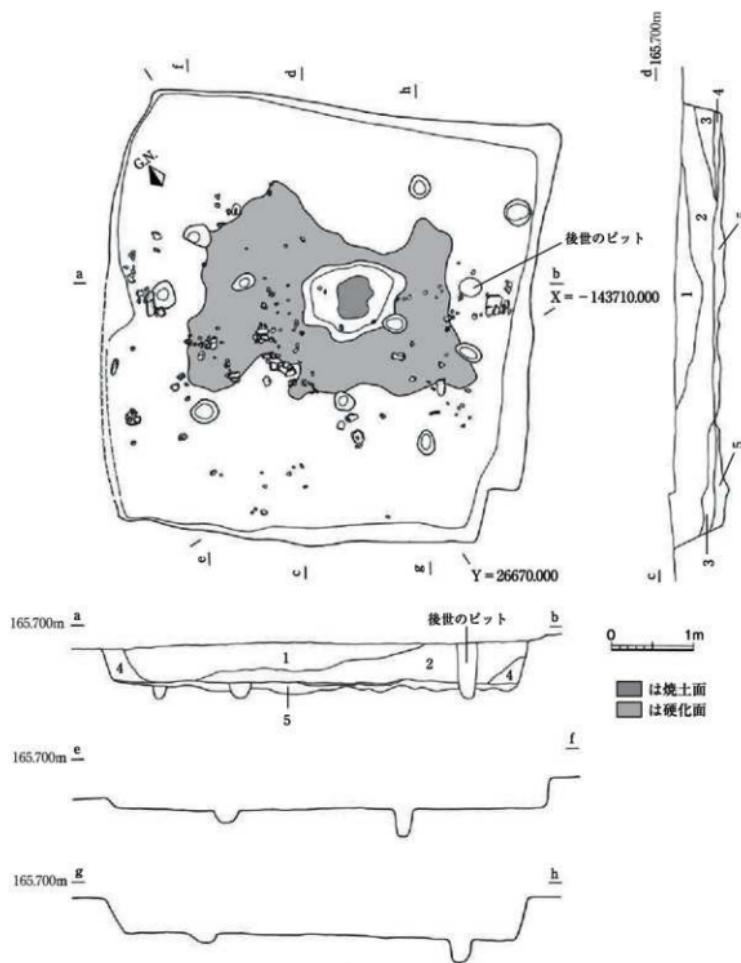


- 1 黒褐色土 (Hue 10YR 3/1) 御池ボラ粒を20%含む。しまりが弱い。
- 2 黒褐色土 (Hue 10YR 3/1) 御池ボラブロックを20%含む。しまりが強い。炭化物をわずかに含む。
- 3 黒褐色土 (Hue 10YR 3/1) 御池ボラ粒を10~30%含む。
- 4 黒色土 (Hue 10YR 2/1)

第33図 9号竪穴建物跡 (S = 1/60)

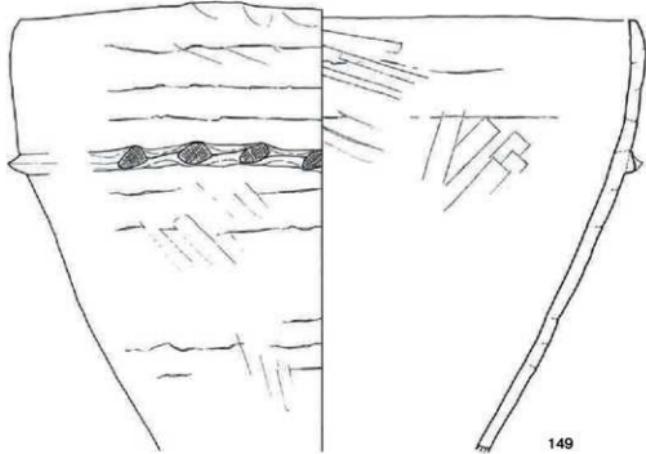


第34図 9号竪穴出土遺物

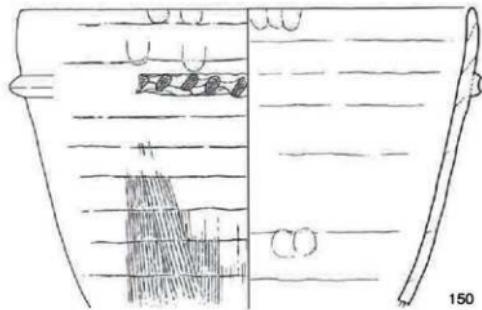


- 1 黒褐色土 (Hue 10YR 2/2) 径 5 mm以下の御池ボラ粒を 5 % 含む。しまりが弱い。
- 2 黒色土 (Hue 10YR 2/1) 径 7 mm以下の御池ボラ粒を 20% 含む。しまりがやや強い。
- 3 黒色土 (Hue 10YR 1.7/1) 径10mm以下の御池ボラ粒を 3 % 含む。アカホヤブロックをわずかに含む。しまりが強い。
- 4 御池ボラ、御池ボラ混じり黒色土、黒色土のブロックからなる混成土。貼床を成す。

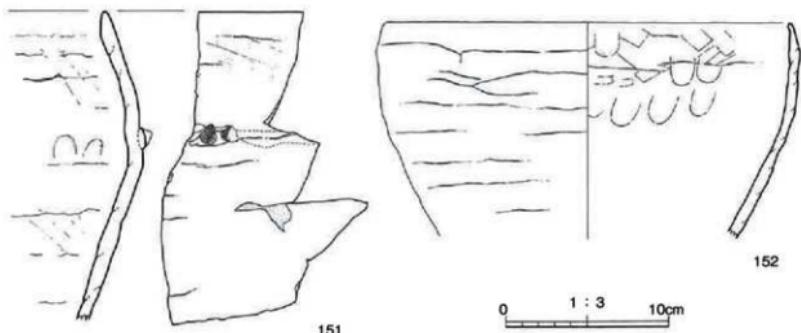
第35図 10号竖穴建物跡 (S = 1/60)



149



150

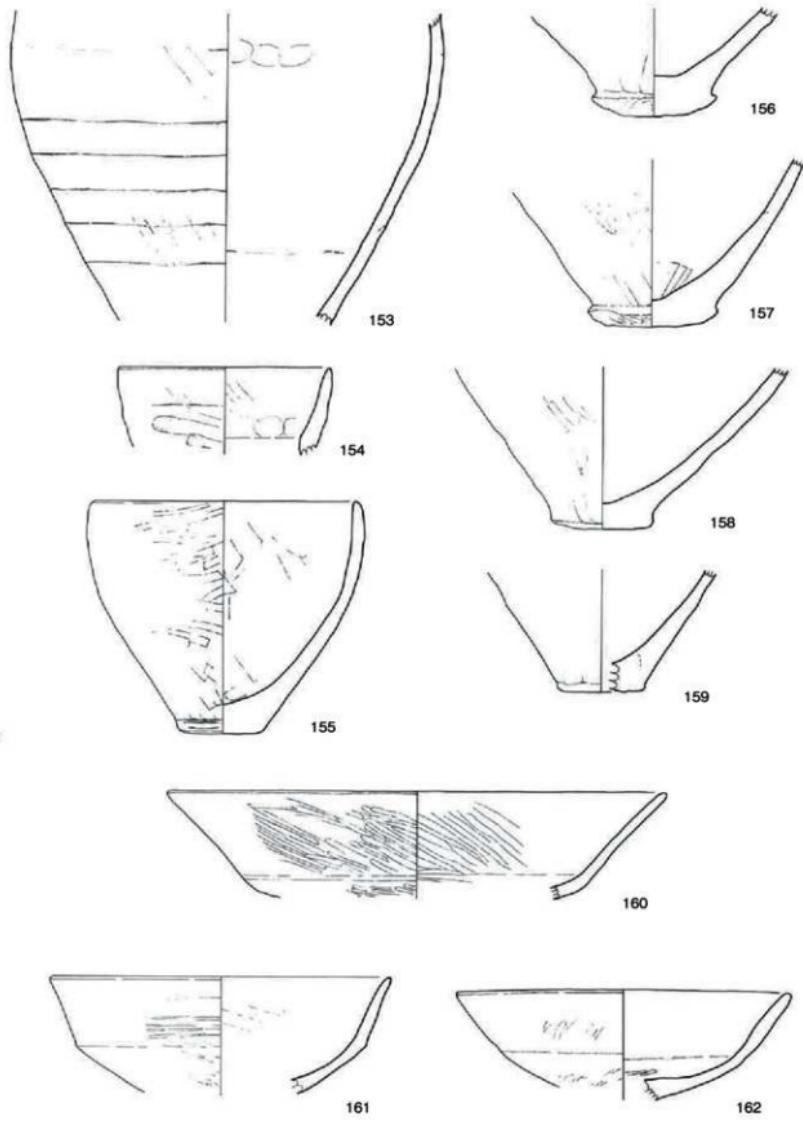


151

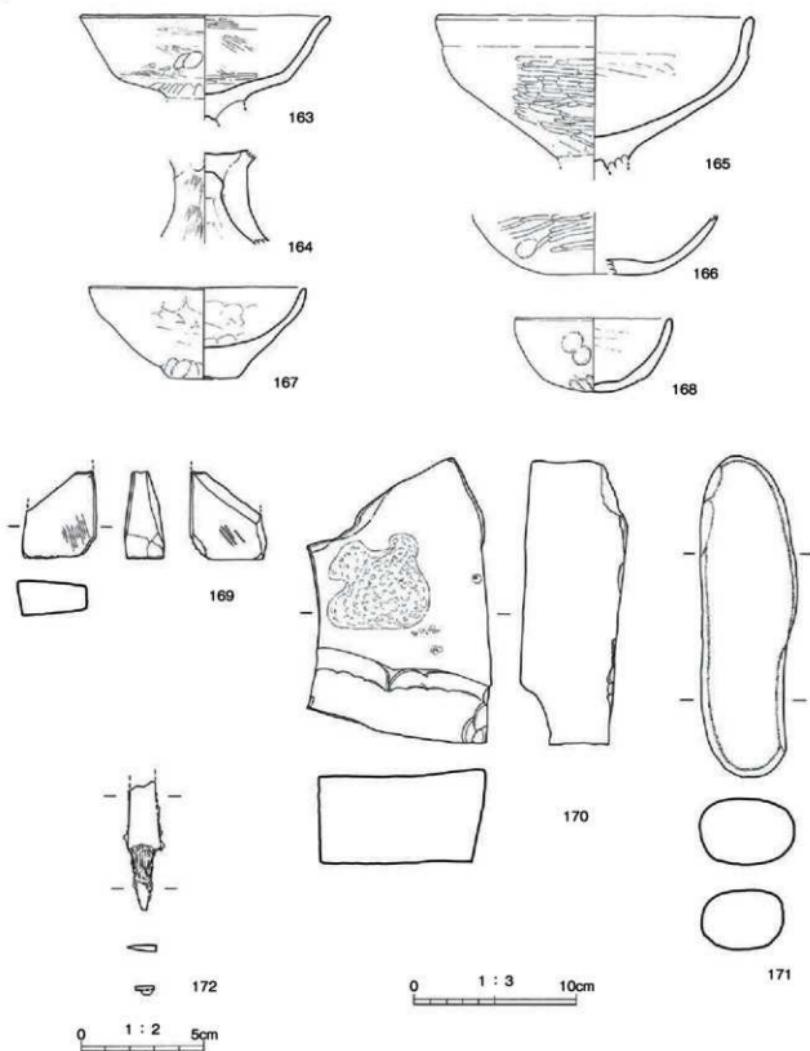
152

0 1 : 3 10cm

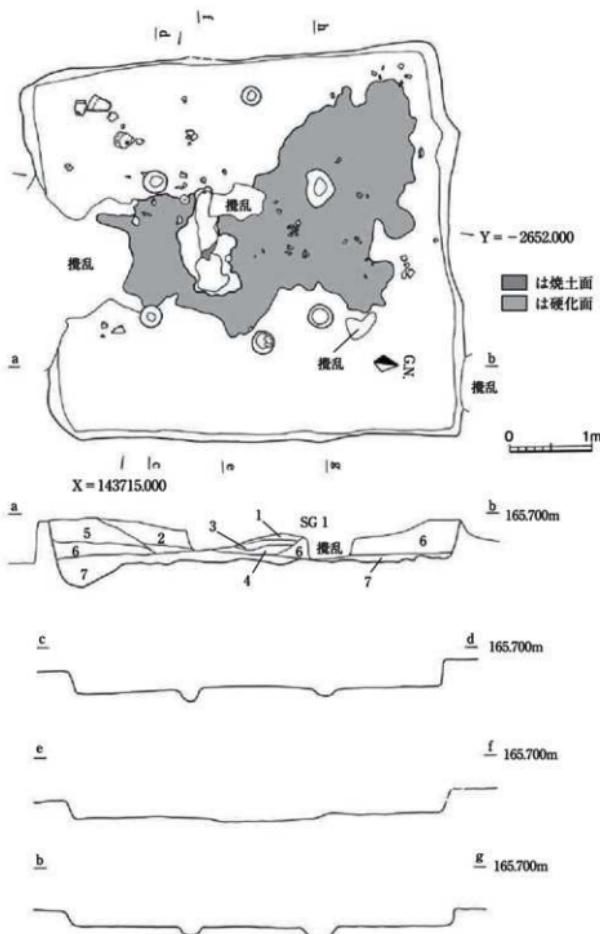
第36図 10号竪穴出土遺物①



第37图 10号竖穴出土遗物②

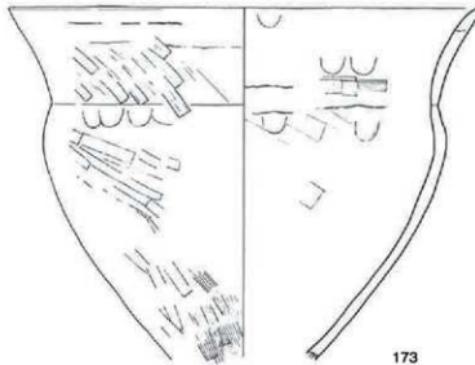


第38图 10号竖穴出土遗物③

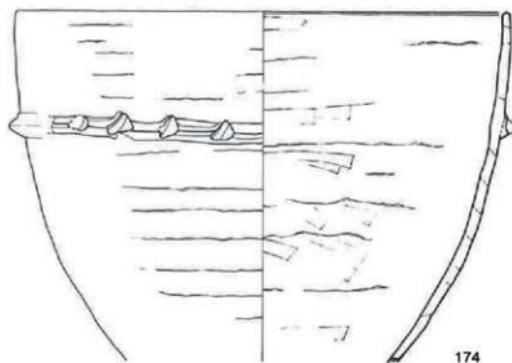


- 1 道路状遺構の硬化面。
- 2 暗褐色土 御池ボラ粒をわずかに含む。しまりが弱い。
- 3 暗褐色土 御池ボラ粒を30%含む。しまりがやや強い。
- 4 暗褐色土 御池ボラ粒を10%含む。しまりが弱い。
- 5 暗褐色土 御池ボラ粒を20%含む。しまりがやや強い。
- 6 暗褐色土と御池ボラブロックの混成土。しまりが強い。
- 7 壁穴建物の貼床

第39図 11号竖穴建物跡 (S = 1/60)

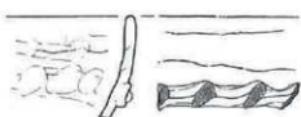


173

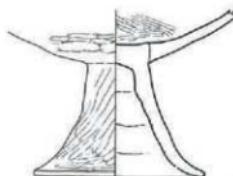


174

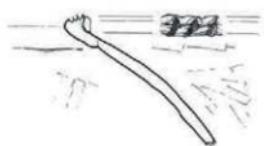
10cm
1 : 3
0



175



177

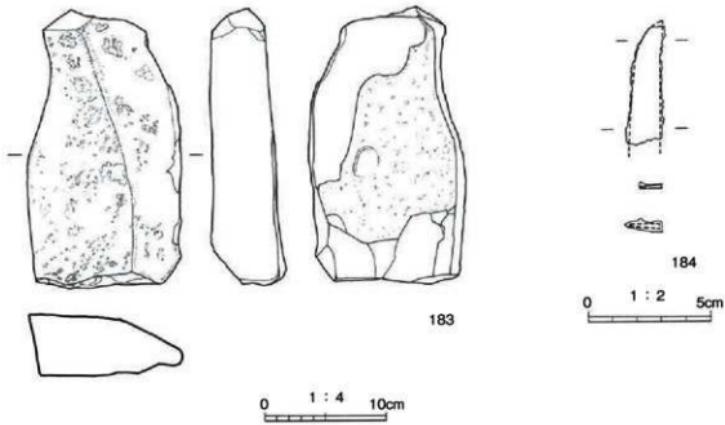
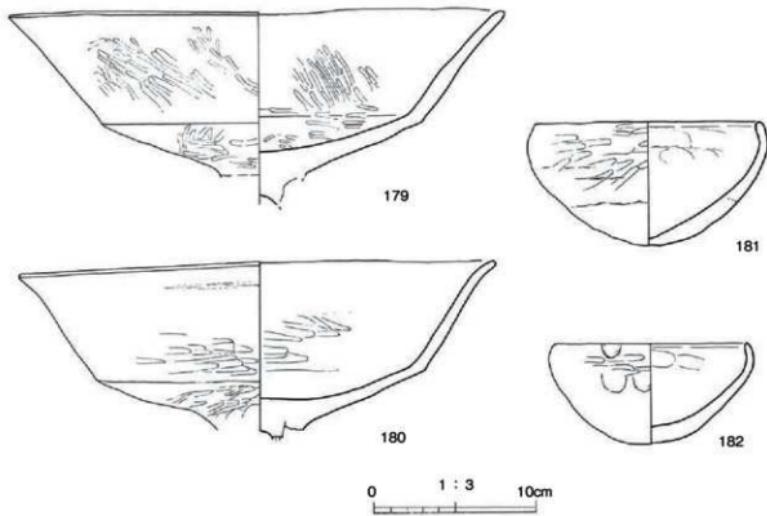


176

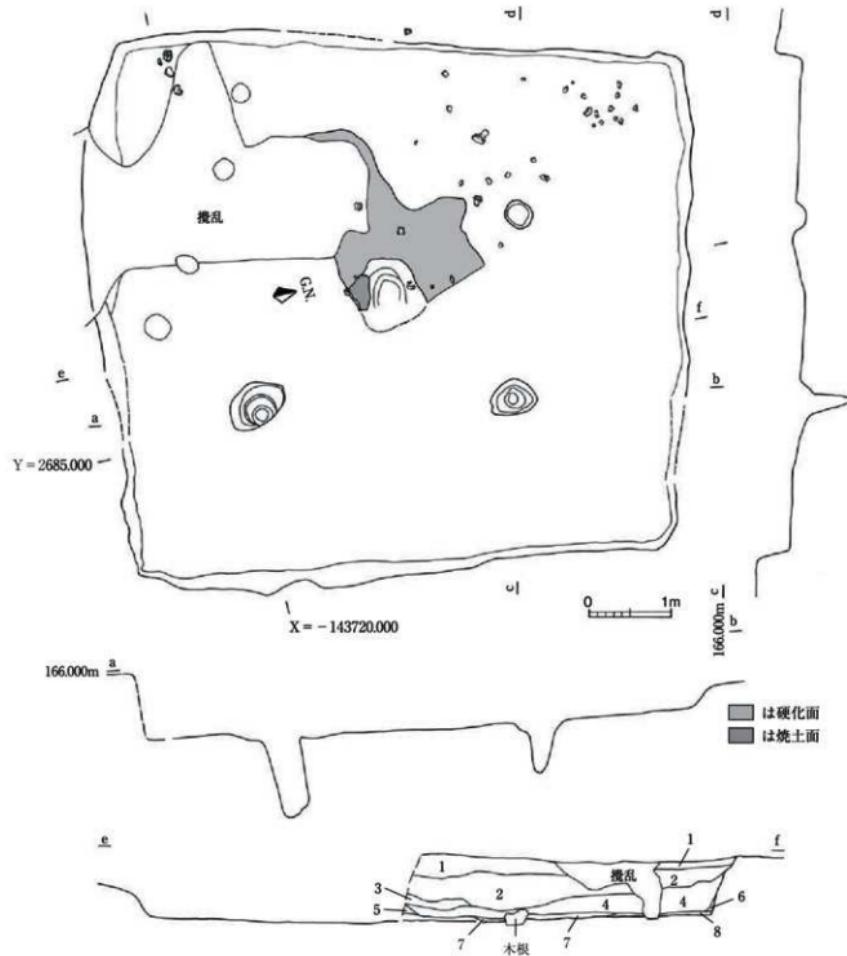


178

第40図 11号竪穴出土遺物①

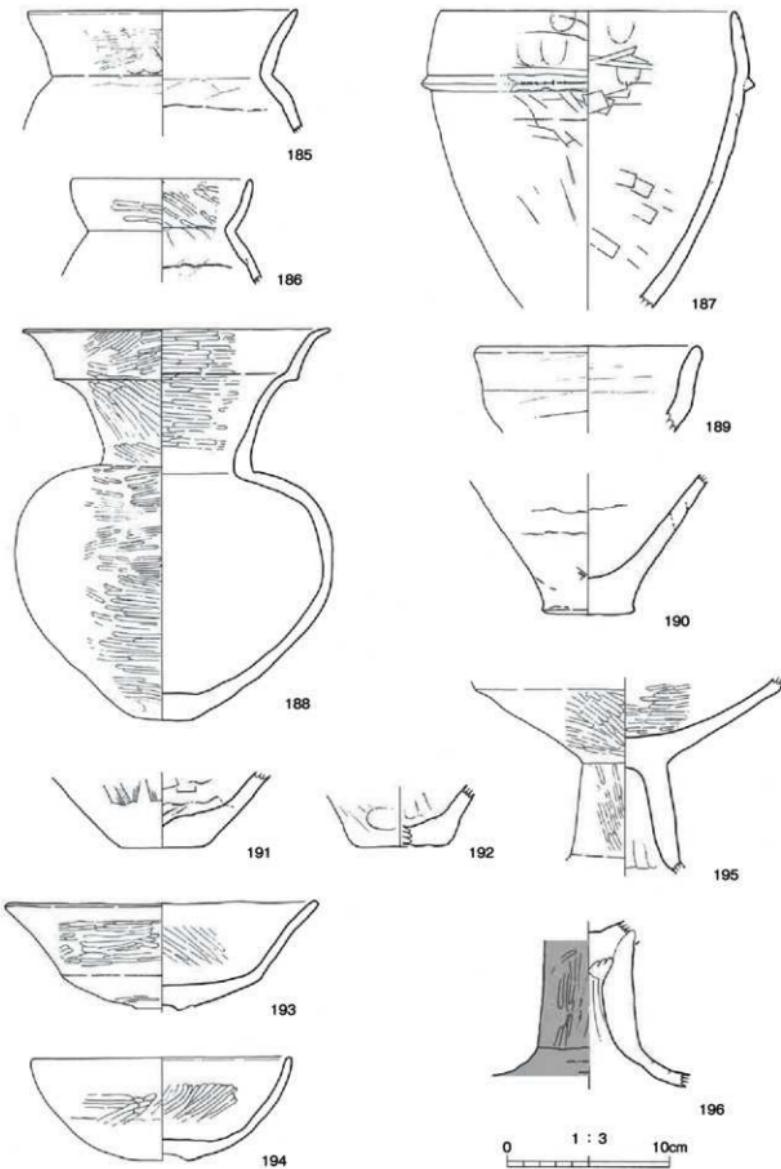


第41図 11号竪穴出土遺物②

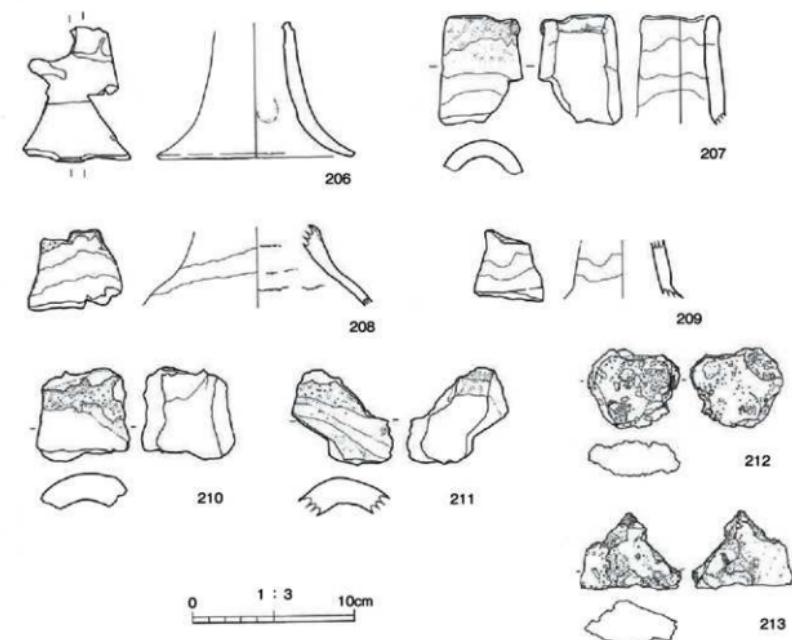
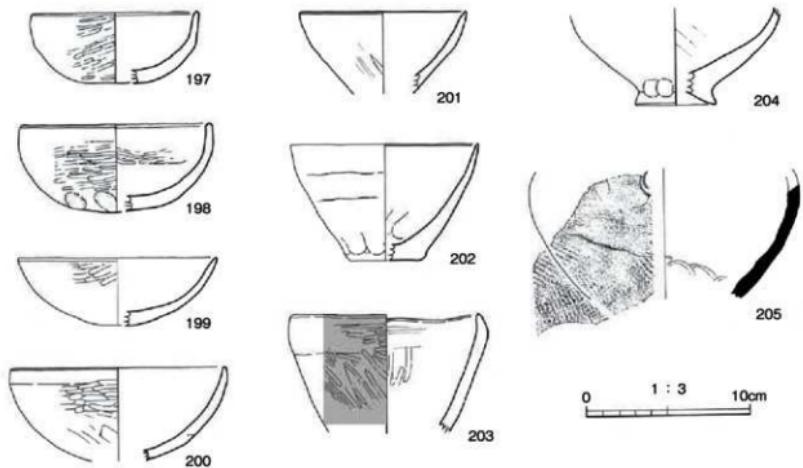


- 1 黒色土、基本土層底層に対応する。
- 2 黒褐色土 (Hue 10YR 2/3) シルト質、径10mm以下の御池ボラ粒を15%含む。しまりがやや弱い。
- 3 黒色土 (Hue 10YR 2/1) シルト質、径7mm以下の御池ボラ粒を10%含む。しまりが弱い。
- 4 黒色土 (Hue 10YR 2/1) シルト質、径10mm以下の御池ボラ粒を20%含む。しまりがやや強い。
- 5 黒色土 (Hue 10YR 2/1) シルト質、径10mm以下の御池ボラ粒を40%含む。しまりがやや強い。
- 6 黒色土 (Hue 10YR 17/1) シルト質、径3mm以下の御池ボラ粒を3%含む。しまりが弱い。
- 7 基本土層傍層および層ブロック混成土。竪穴建物の貼床を成す。
- 8 基本土層傍層および層ブロック混成土。竪穴建物の貼床を成さない。

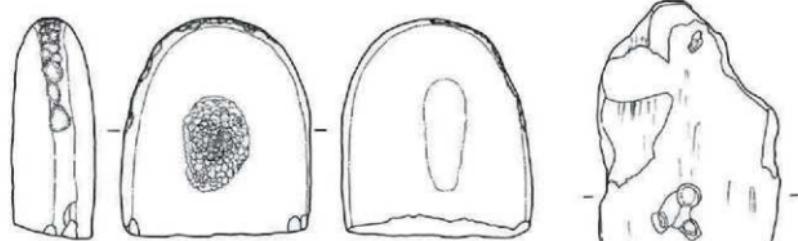
第42図 12号竪穴建物跡 (S = 1/60)



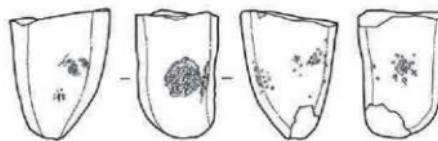
第43図 12号竪穴出土遺物①



第44図 12号竪穴出土遺物②



214



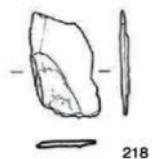
215



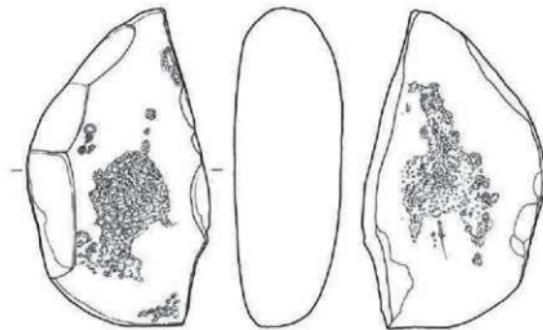
0 1 : 3 10cm



217



218



216



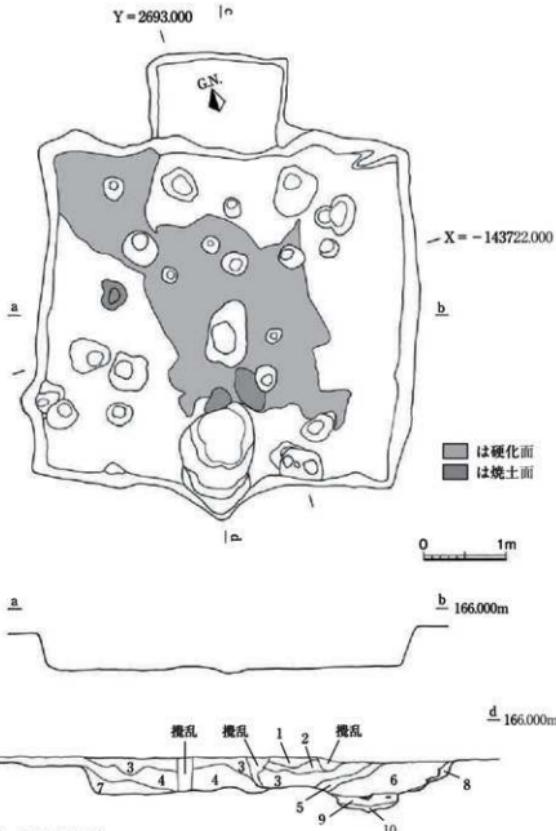
0 1 : 4 10cm



219

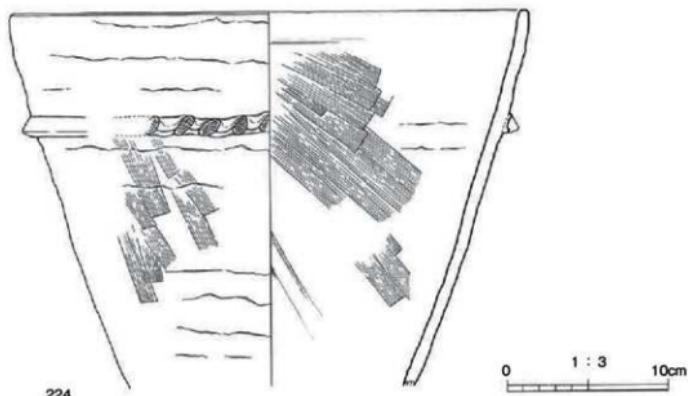
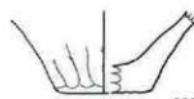
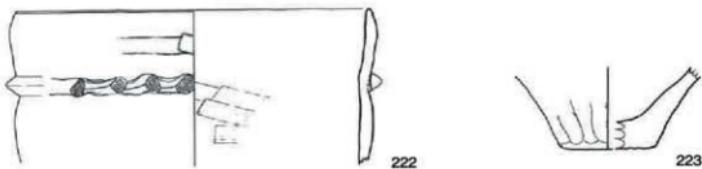
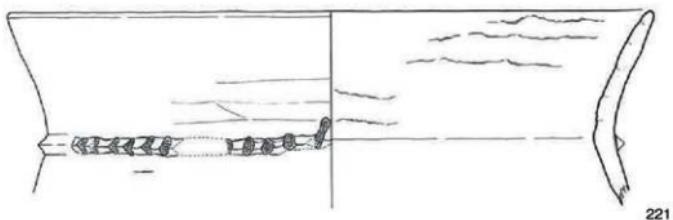
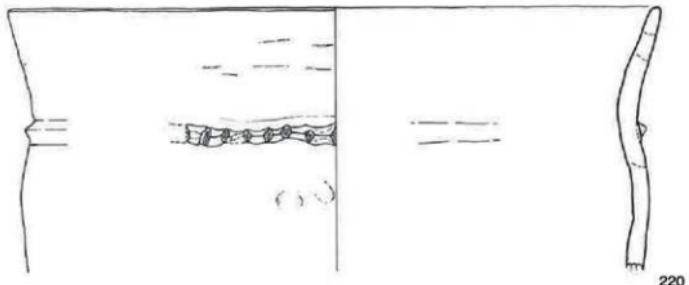
0 1 : 2 5cm

第45図 12号竪穴出土遺物③

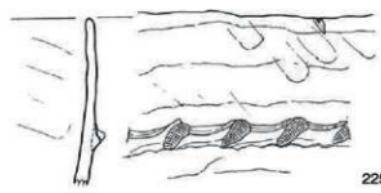


- 1 黒色土 (Hue 7.5YR 1.7/1)
- 2 黒褐色土 (Hue 7.5YR 2/2) 御池ボラ粒を30%含む。しまりが弱い。
- 3 黒色土 (Hue 7.5YR 2/1) しまりが弱い。
- 4 黒色土 (Hue 7.5YR 1.7/1) 径30mm程度の御池ボラ粒を50%含む。
- 5 黒色土 (Hue 10YR 1.7/1) 径20mm程度の御池ボラ粒を40%含む。しまりが弱い。炭化物を含む。
- 6 暗褐色土 (Hue 7.5YR 3/3) 径30mm程度の御池ボラ粒を含む。
- 7 暗褐色土 (Hue 7.5YR 3/3) 径30mm程度の御池ボラ粒を含む。6よりしまりが強い。
- 8 作成図面に未注記のため不明。
- 9 作成図面に未注記のため不明。
- 10 作成図面に未注記のため不明。

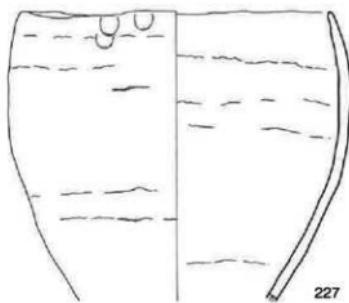
第46図 13号竪穴建物跡 (S = 1/60)



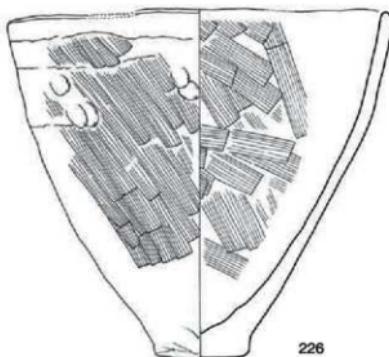
第47図 13号竪穴出土遺物①



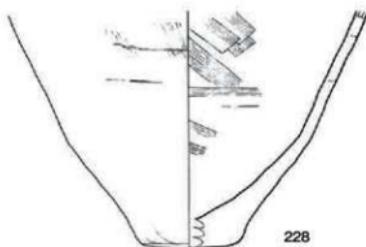
225



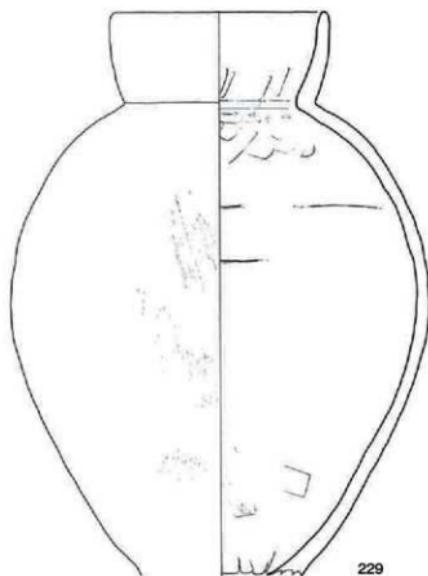
227



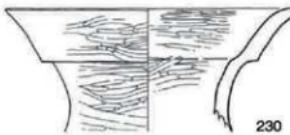
226



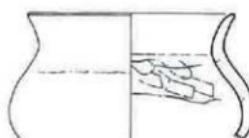
228



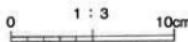
229



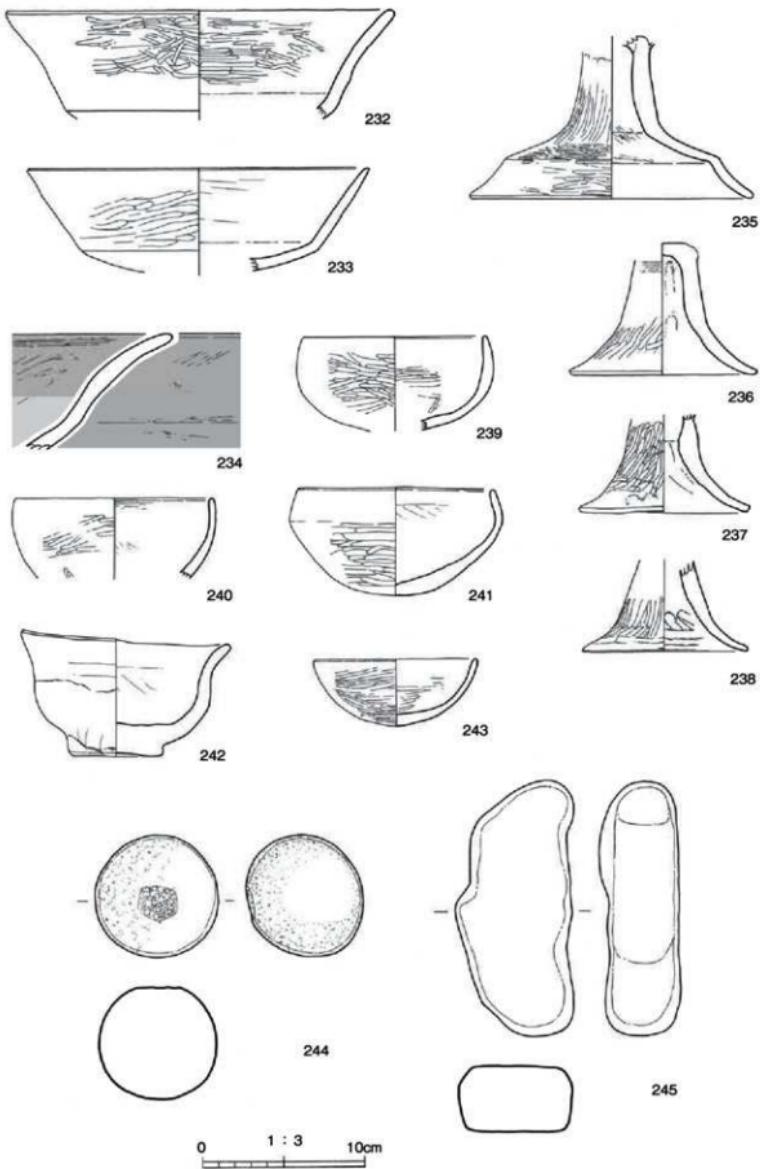
230



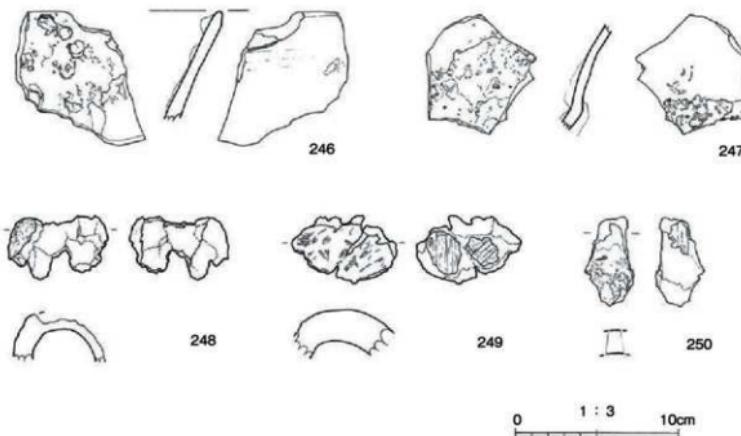
231



第48图 13号竖穴出土遗物②



第49圖 13号竪穴出土遺物③



第50図 13号竪穴出土遺物④

があり、半島産の陶質土器である可能性も含めて検討が必要であろう。その他、高坏の脚を転用した羽口、敲打痕や熱による赤変、鉄分の付着が確認でき金床石や鍛打用の鎌として使用されたと考えられる石器類、鉄滓のなどが出土しているところから、何らかの鍛冶が行われていたことは確実であろう。なお、羽口に転用されている高坏の支脚部は古墳時代前期まで遡りうるものではない。いずれにしろ、出土土器の一括性を論じるための情報が乏しく、時期決定はもちろんのこと、この竪穴建物における当時の生活を復元することもきわめて困難といわざるを得ない。

13号竪穴建物（遺構：第46図 出土遺物：第47図・第48図・第49図・第50図220～250）

B区の南端、東寄りで確認された方形の竪穴建物である。東西4.7m南北4.2mを測り、北側に東西1.8m南北1m程の突出部が確認できる。主柱穴は平面図、写真などから4本と推定できるが、高さの情報が失われてあり、詳細は不明である。床面中央から北西側に向けて硬化面が残っており、使用時は全面に貼床が施されていたと考えられる。南壁中央及び東寄りの2箇所で何らかの炉が設置されていたようであり、粘土や土坑が確認されているが情報が断片的で評価のしようがない。

出土遺物は、甕・壺・高坏・环・砥石・鍔の羽口・鉄滓などがある。土器類は12号と同様で、中村3期、今塩屋・松永4期に併行するものが主であるが、古手の特徴をもつ複合口縁壺の破片も出土している。羽口についてはベンガラが残存しているものもあり、高坏の転用であることが予想される。砥石については、敲打痕が残り鉄分が付着している部分が確認できる。

14号竪穴建物（遺構：第51図 出土遺物：第54図・第55図251～265）

A区の北壁や東寄りに接して検出された3.9m四方の方形の竪穴建物である。主柱穴は2本、床面中央に焼土を含む土坑が確認されており、貼床・壁溝は確認できていない。

出土遺物は甕・壺・高坏・轆の口縁部・轆の羽口・鉄滓・砥石・金床石などが出土している。土器類は中村3～4期、今塩屋・松永5～6期に概ね收まりそうであるが、脚台をもたない甕（第54図250）などは、古手の様相をもつ。出土状況が判然としないため判断が困難である。なお砥石・金床石は床面直上で出土しており、建物使用時と同時期のものと考えてよさうである。

15号竪穴建物（遺構：第52図 出土遺物：第56図・第57図・第58図266～302）

A区の北東隅に接して確認された方形の竪穴建物である。南北辺6.3mを測り、床面中央と考えられる位置に炉跡がある。主柱穴は2本検出されており、壁溝はない。貼床は施されていなかったようである。

出土遺物は、甕・壺・高坏・坏・鉢・砥石・轆の羽口などがある。土器類は中村3期～4期にかけての時期に收まるが、小型丸底壺（第56図273）や高坏の一部には古手の様相を物のものがあり、一括資料として扱うことがためらわれる。砥石には鋭い条痕があり鉄器の研磨に使用されたことが予想される。

16号竪穴建物（遺構：第53図 出土遺物：第59図・第60図・第61図・第62図303～356）

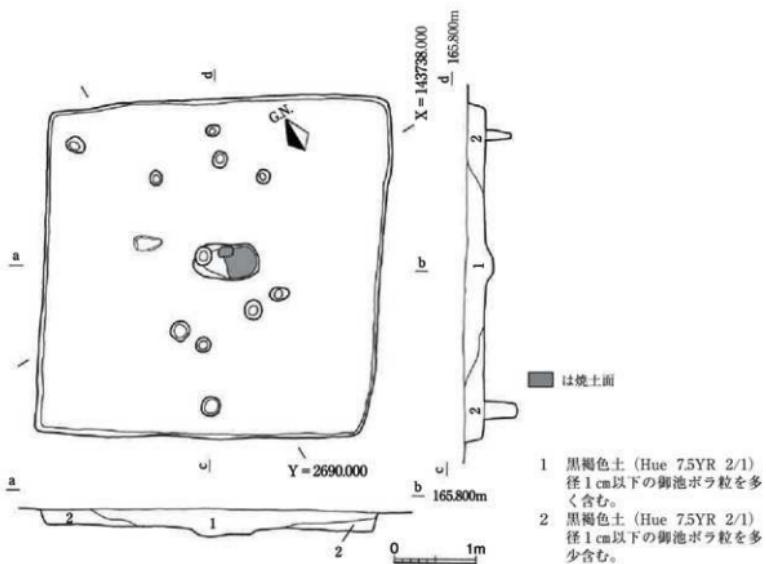
A区の北東隅付近で確認された東西4.2m、南北5.0m園る方形の竪穴建物である。主柱穴は4本で壁溝、貼床が施された形跡は確認されていない。

出土遺物は、甕・高坏・坏・小型壺などの土師器類、砥石・台石・鉄滓などの鍛冶関連と考えられる遺物のほか、小型の主頭鎌や初期須恵器片、土師質の仕切付角鉢（第61図342。本報告ではこう仮称する。）などが出土している。仕切付角鉢については3次調査の36号竪穴建物のものと接合している。仕切付角鉢は、大阪府小阪遺跡で須恵器であるがよく似た器形のものが韓式系土器や初期須恵器とともに出土している（三宮昌弘1989）。出土土師器の時期については中村4期にほぼ対応し、6世紀以降のものと考えられるが、前述したように初期須恵器や、仕切付角鉢など古墳時代中期に位置づけられそうな遺物も出土している。これらの遺物は依存状況が必ずしも良好ではないが、出土状況の詳細が不明であり遺構に伴わないと判断することもためらわれる。特に、大阪の小阪遺跡と同様に初期須恵器とともに異形の仕切付角鉢が出土していることは、平峰遺跡自体の評価も含めて重要な意味を持ちうるものであり、検討に耐えうるデータがないことは残念である。

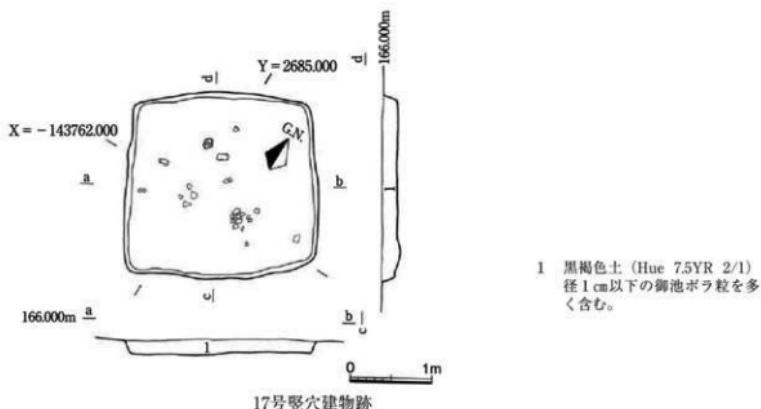
17号竪穴建物（遺構：第51図 出土遺物：第63図357～362）

A区北側の中央付近で確認された一辺2.1mの竪穴建物である。柱穴、壁溝、貼床などの内部施設は全く確認されていない。

出土遺物は、甕・台付鉢のほか、轆の羽口、一部に鉄分がこびりついた岩片、赤変した軽石などが出土している。規模、構造ともに住居として考えることにはやや無理があり、貯蔵穴など別の機能を考えるべきかも知れない。

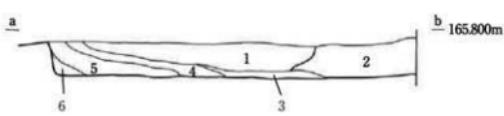
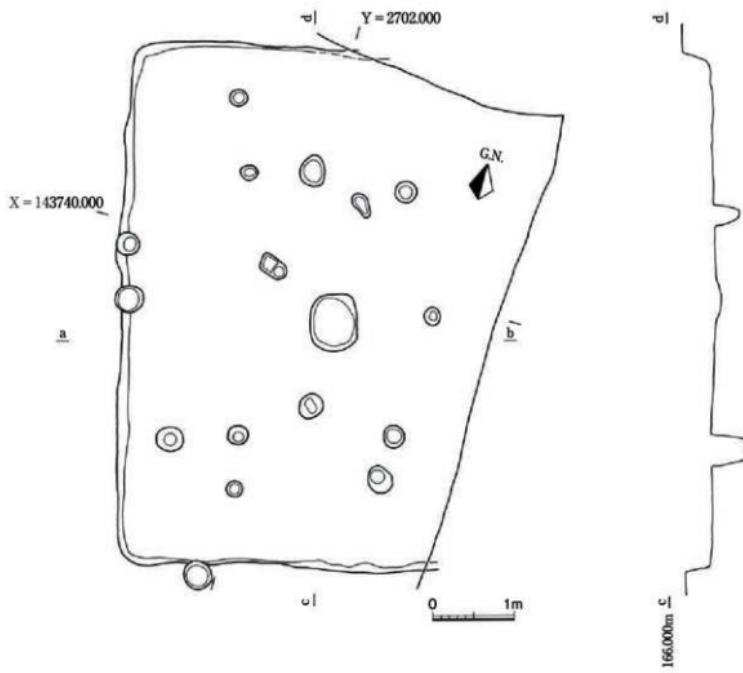


14号竖穴建物跡



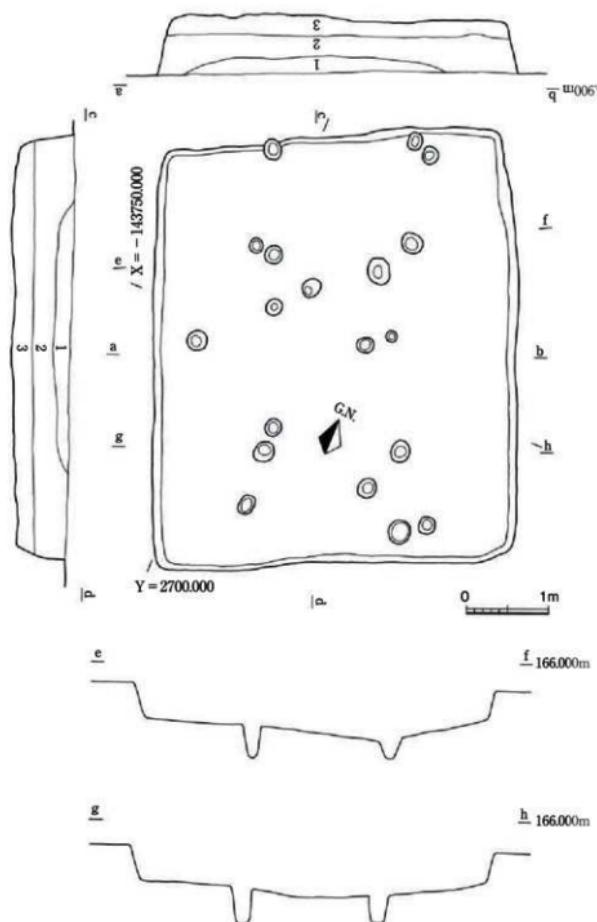
17号竖穴建物跡

第51図 14号及び17号竖穴建物跡 (S = 1/60)



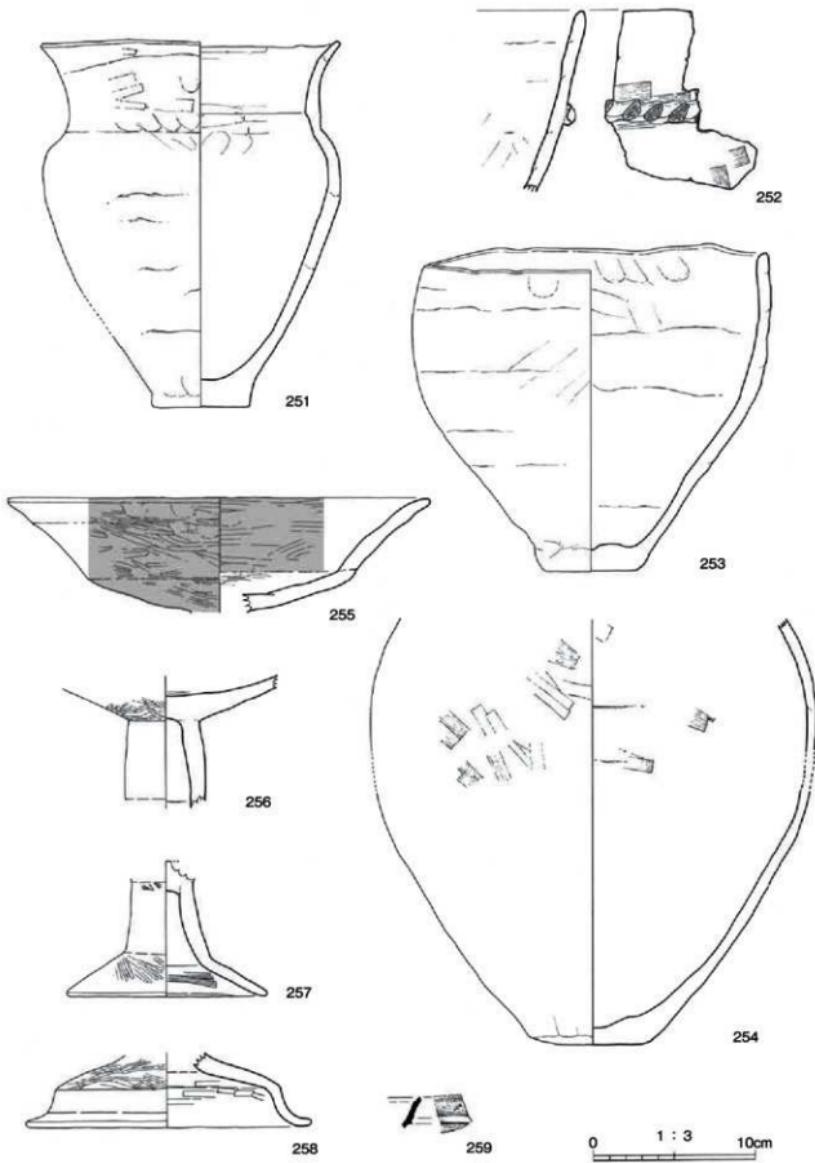
- 1 黒色土 (Hue 7.5YR 2/1) 1cm以下の御池ボラが混じる。粘性あり。
- 2 黒色土 (Hue 10YR 2/1) 1cm以下の御池ボラが30%程度混じる。
- 3 黒色土 (Hue 10YR 1.7/1) 御池ボラの極少量で粘性が強い。
- 4 黑褐色土 (Hue 7.5YR 2/2) 堅くしまった御池ボラのブロック状のものが多く混じる。
- 5 黑褐色土 (Hue 10YR 2/2) 6よりもやや御池ボラが多めに混じる。
- 6 黑褐色土 (Hue 10YR 2/2) 径1cm以下の御池ボラが少量混じる。

第52図 15号竖穴建物跡 (S = 1/60)

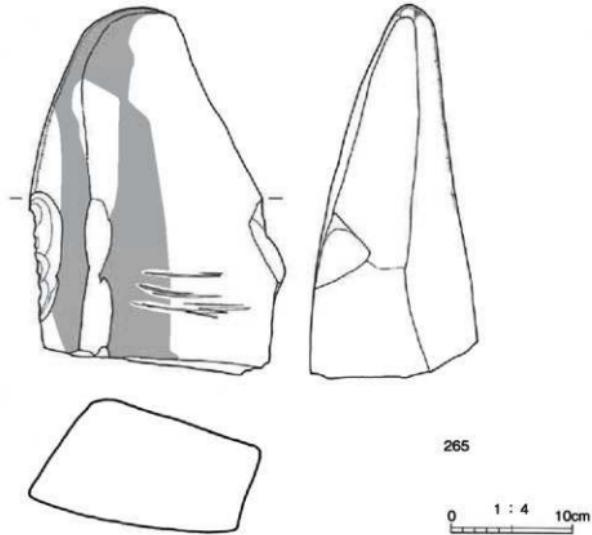
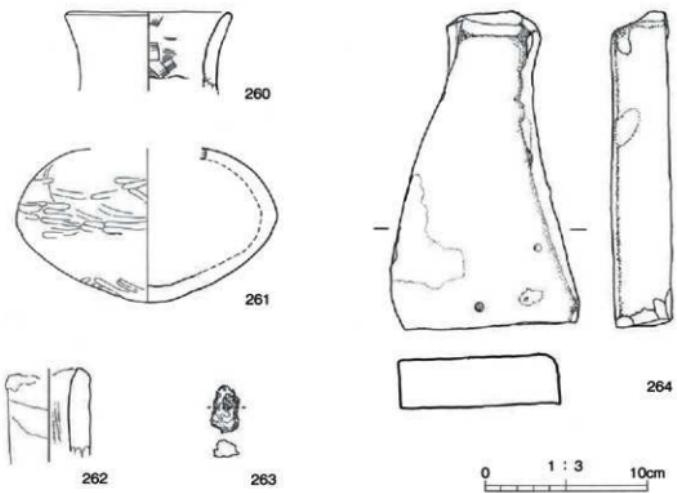


- 1 黒色土 (Hue 10YR 1.7/1) 径 1 cm 程度の御池ボラが混じる。
- 2 黒褐色土 (Hue 10YR 1.7/1) 1 よりわずかに明るい。径 1 cm 程度の御池ボラ粒が多量に混じる。
- 3 御池ボラとその上下の黒色土の混入土。堅穴建物の貼床を成す。

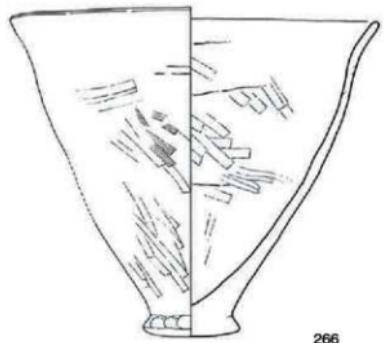
第53図 16号堅穴建物跡 (S = 1/60)



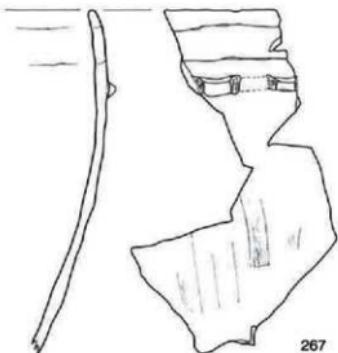
第54图 14号竖穴出土遗物①



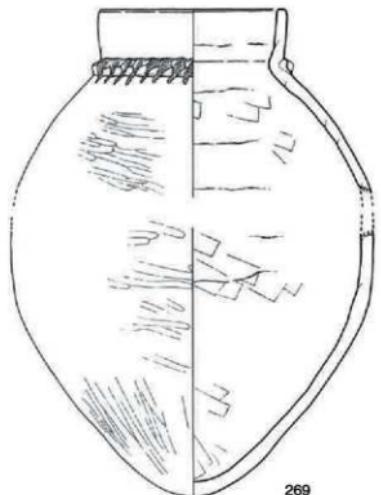
第55図 14号竖穴出土遺物②



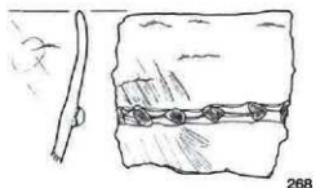
266



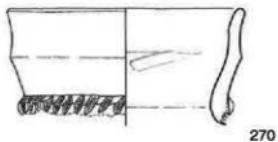
267



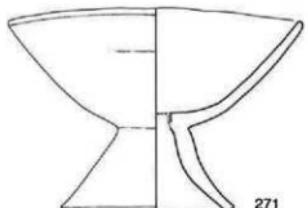
269



268



270



271



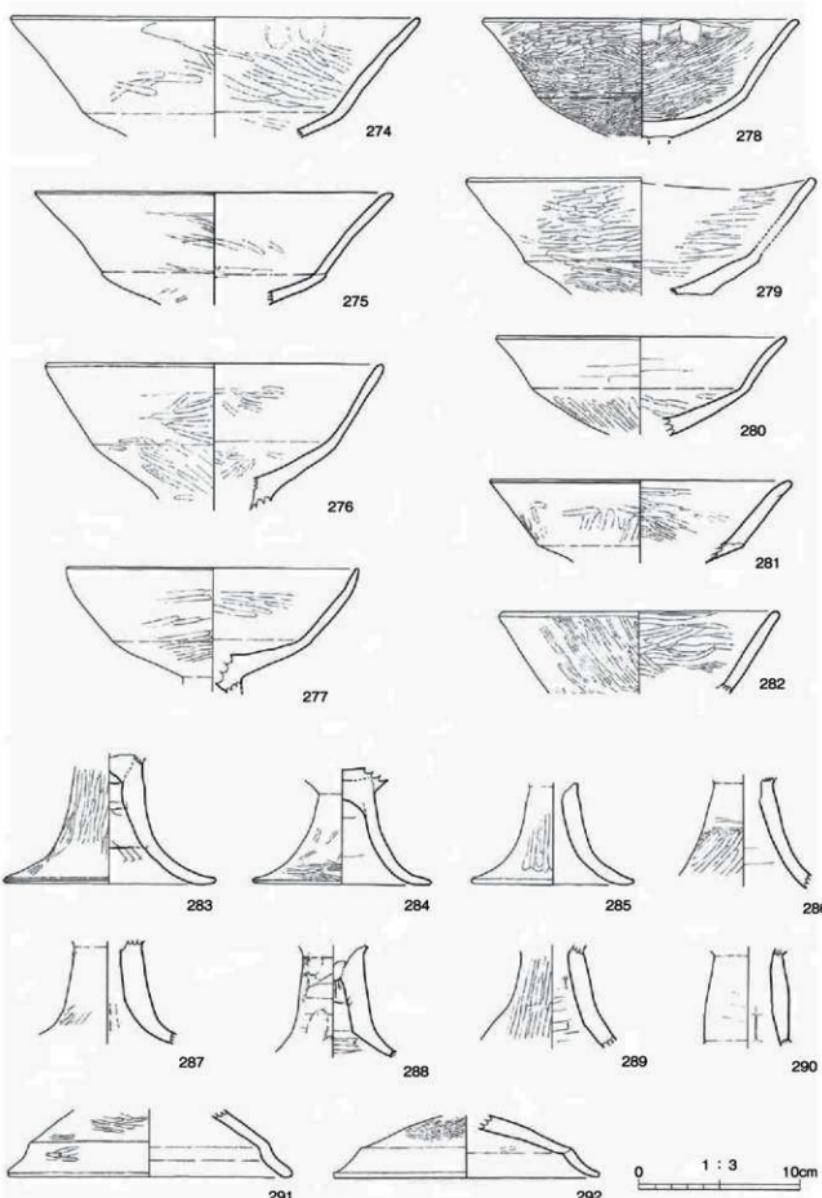
273

0 1 : 3 10cm

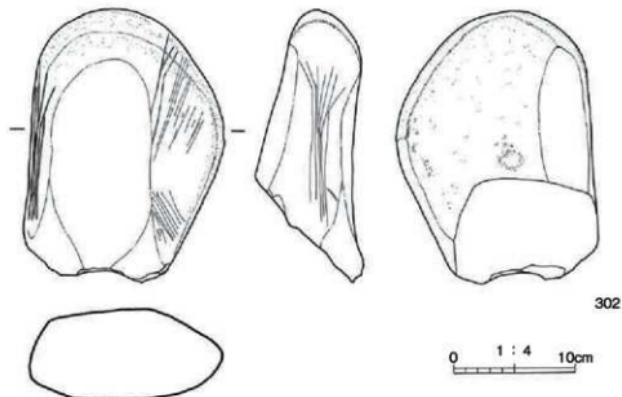
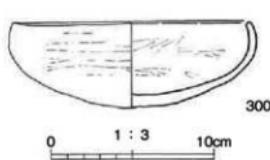
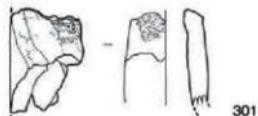
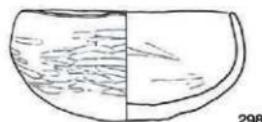
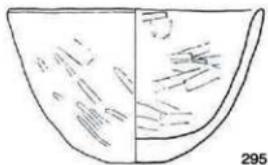
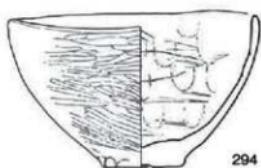


272

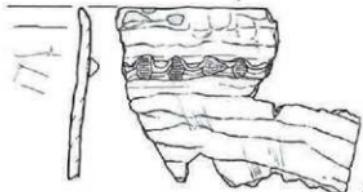
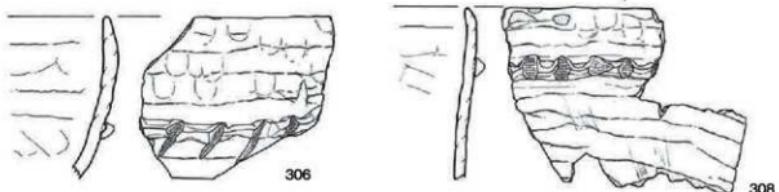
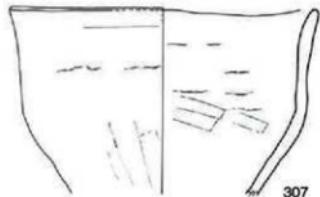
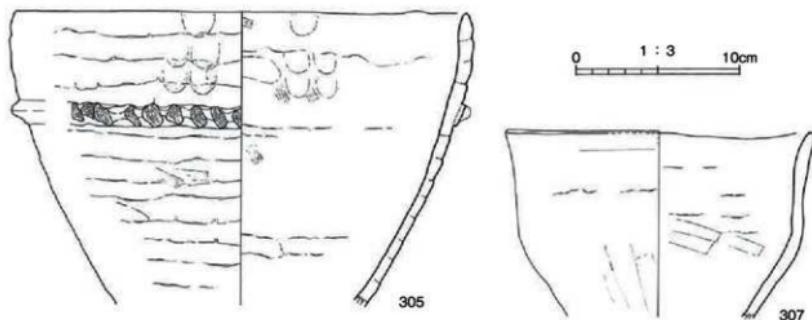
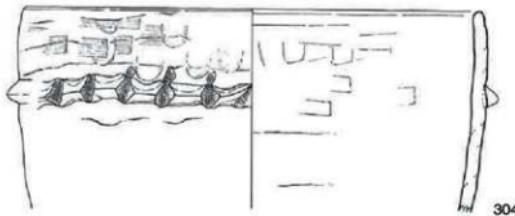
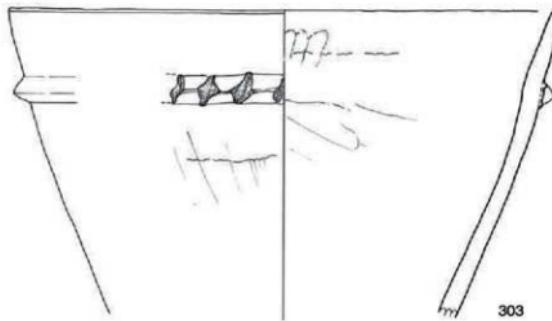
第56図 15号竪穴出土遺物①



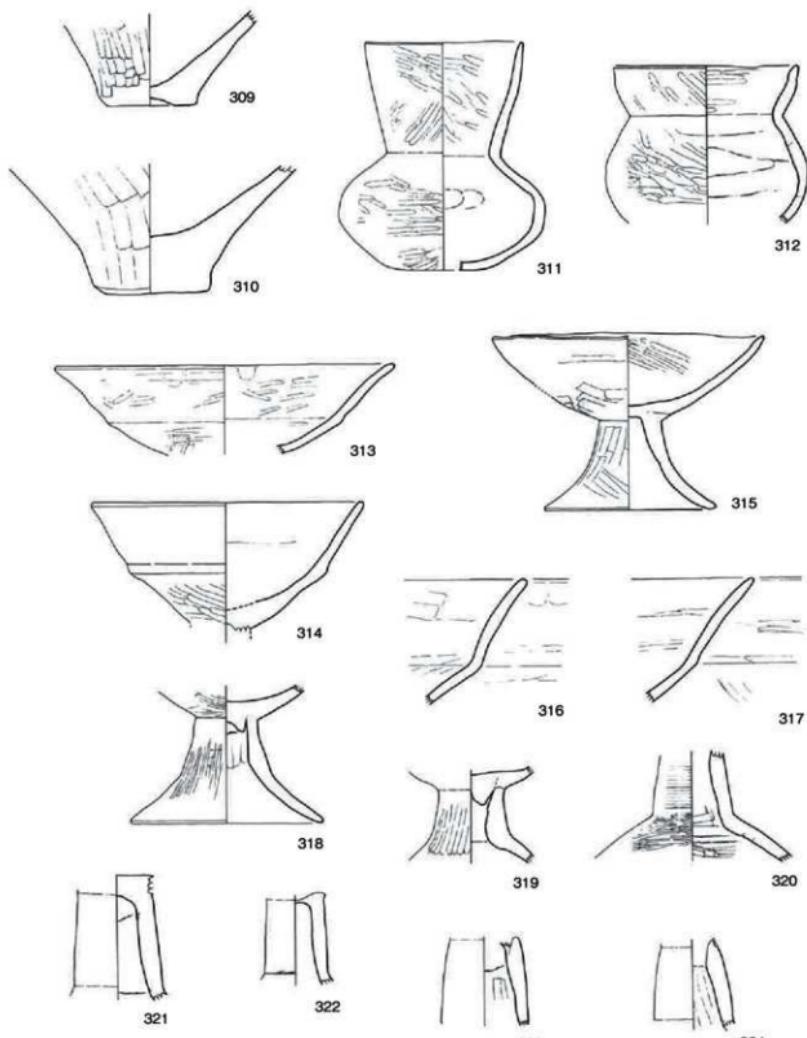
第57图 15号竖穴出土遗物②



第58图 15号竖穴出土遗物③

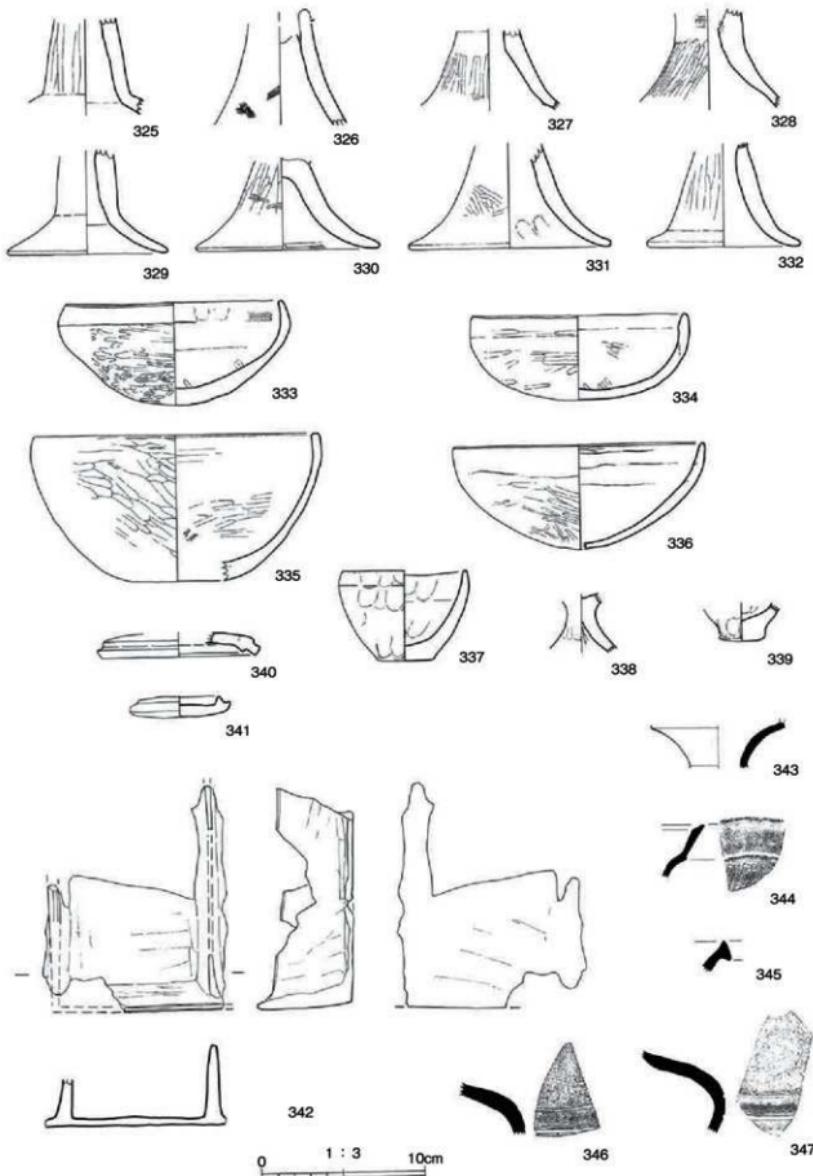


第59图 16号竖穴出土遗物①

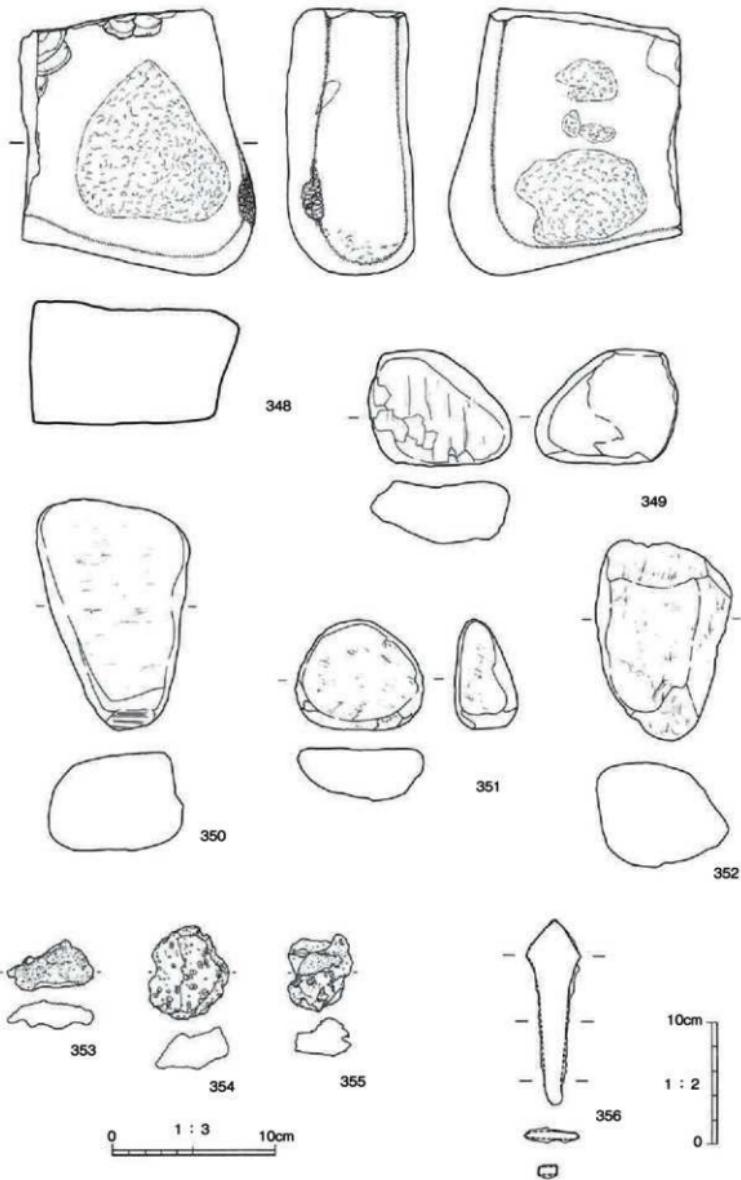


0 1 : 3 10cm

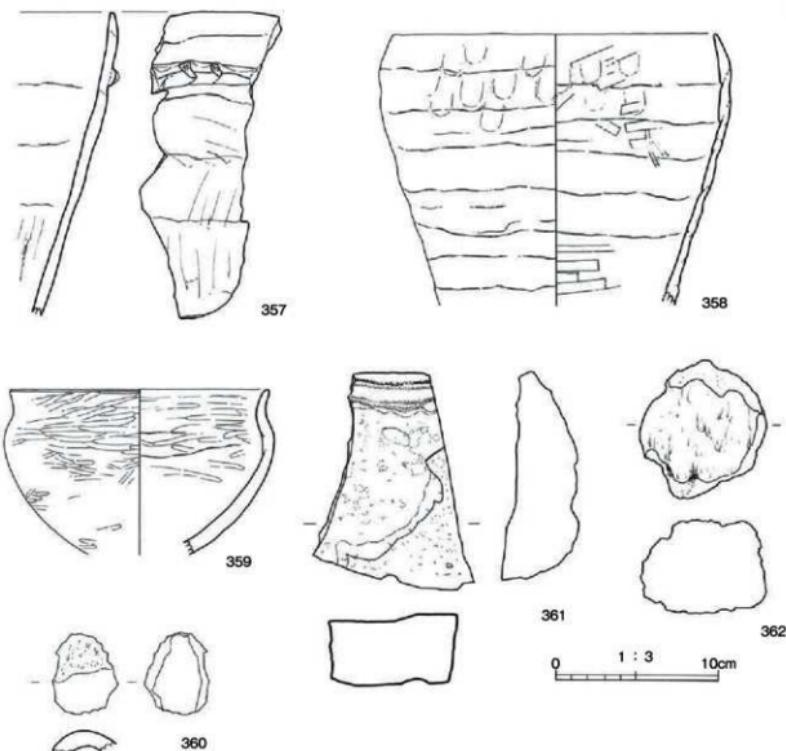
第60図 16号竪穴出土遺物②



第61图 16号竖穴出土遗物③



第62図 16号竪穴出土遺物④



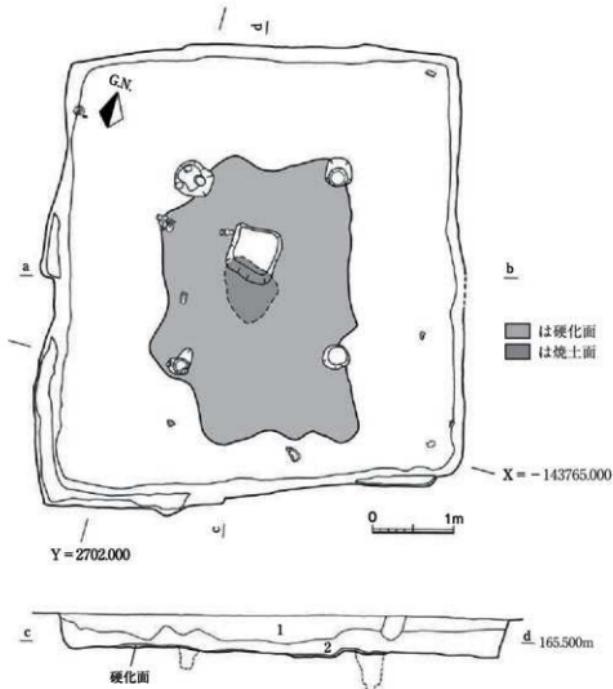
第63図 17号竪穴出土遺物

18号竪穴建物（遺構：第64図 出土遺物：第65図・第66図363～381）

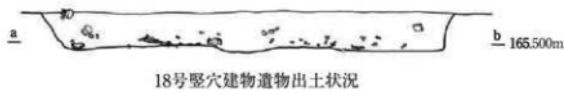
A区北側東寄りで確認された東西4.7m、南北5.2mを測る方形の竪穴建物である。主柱穴は4本で壁溝はない。床面中央には浅い土坑があり、その南側に焼土がかたまって検出されている。主柱に囲まれた内側を中心に硬化面が確認されており、貼り床が施されていたようだ。

出土遺物は、甕・高坏・坏・鉢・脚付塙などの土師器のほか、須恵器甕片、砥石、台石、鉄滓などが出土している。砥石や台石には鉄分が付着したものがあり、鉄滓も出土していることから何らかの鋳冶が行われていたことは間違いないだろう。また、出土土師器には脚付塙や高坏など赤色顔料を塗布されたものが目立ち、日常生活具と考えにくい。廃棄に際し祭祀行為が行われた可能性があろう。

時期は、甕の形状などからは中村3期に位置づけられそうである。



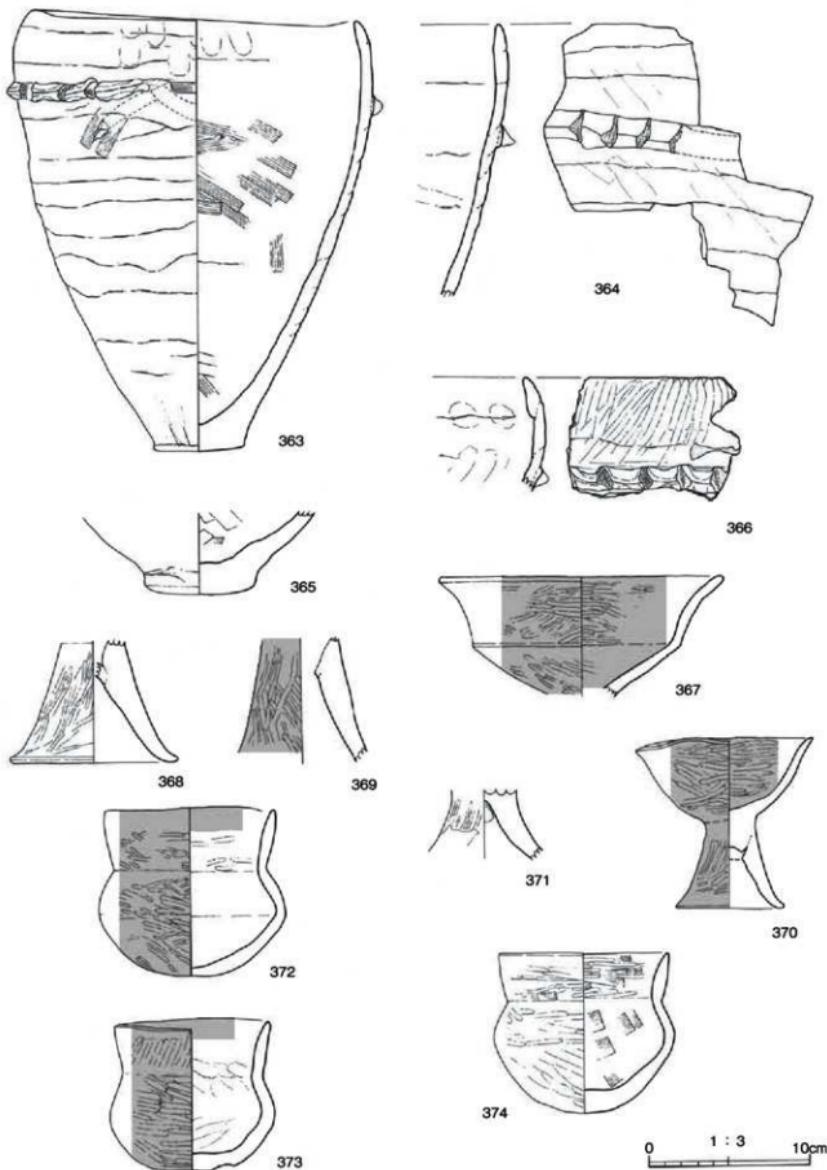
18号竪穴建物土層断面



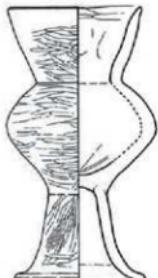
18号竪穴建物遺物出土状況

- 1 黒褐色土 (Hue 10YR 2/2) シルト質、径5mm以下の御池ボラ粒を3%含む。しまりがやや弱い。
- 2 黒褐色土 (Hue 7.5YR 1.7/2) シルト質、径10mm以下の御池ボラ粒を5%含む。しまりがやや弱い。
- 3 黒色土 (Hue 10YR 2/2) シルト質、径10mm以下の御池ボラ粒を3%含む。しまりがやや強い。

第64図 18号竪穴建物跡 (S = 1/60)



第65図 18号竪穴出土遺物①



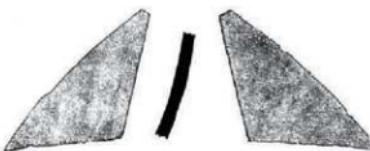
375



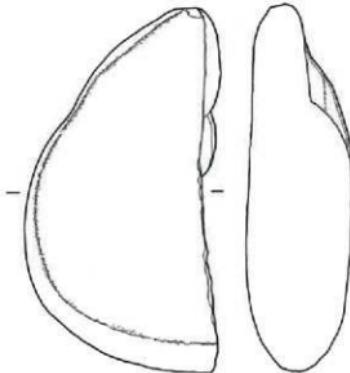
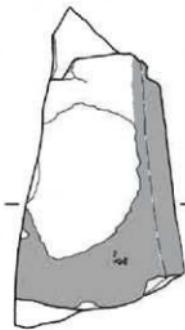
376



377



378



379

380

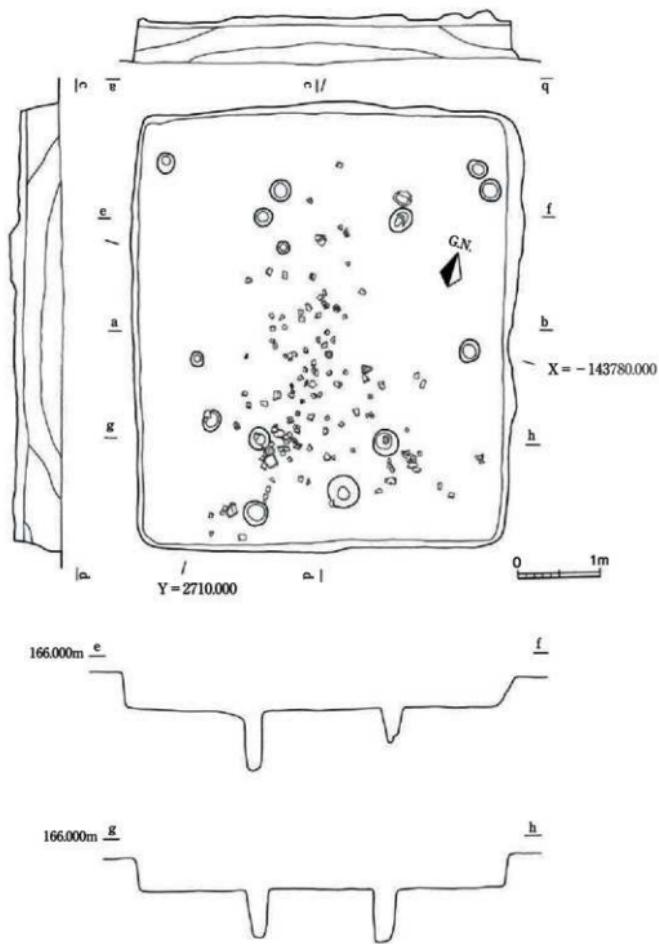
0 1 : 3 10cm



381

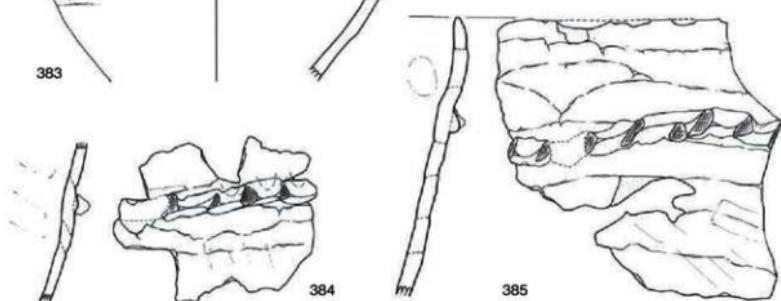
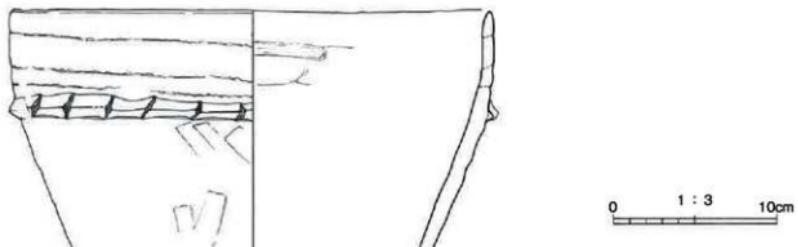
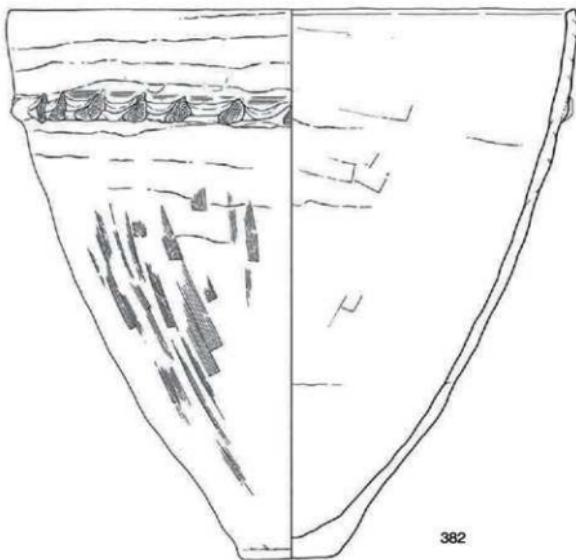
0 1 : 2 5cm

第66图 18号竖穴出土遗物②

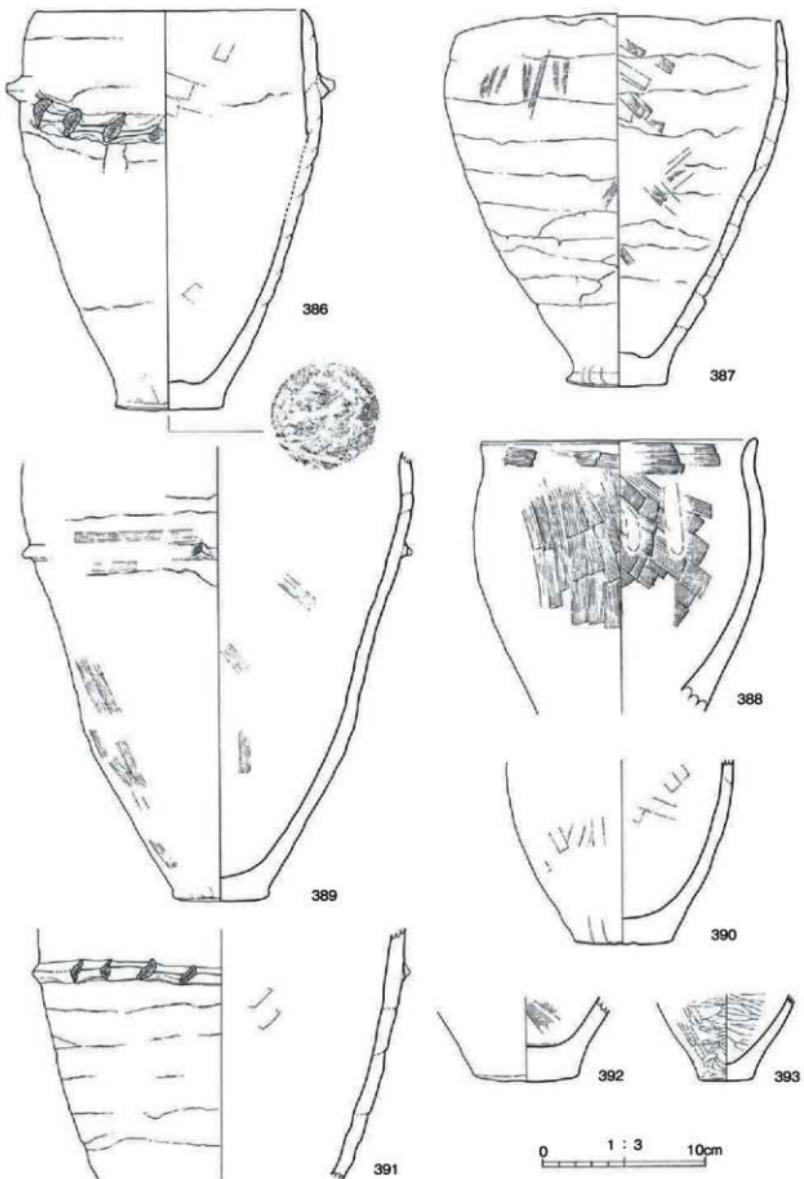


- 1 黒褐色土 (Hue 7.5YR 2/1) シルト質、径10mm以下の御池ボラ粒が多く混じる。
- 2 黒褐色土 (Hue 7.5YR 2/2) シルト質、径10mm以下の御池ボラ粒、10mm前後の炭化物が混じる。
- 3 黒褐色土 (Hue 7.5YR 2/1) シルト質、径10mm以下の御池ボラ粒が混じる。
- 4 黒色土 (Hue 7.5YR 1.7/1) 御池ボラブロックと黒色土ブロックの混成土。貼床を成す。

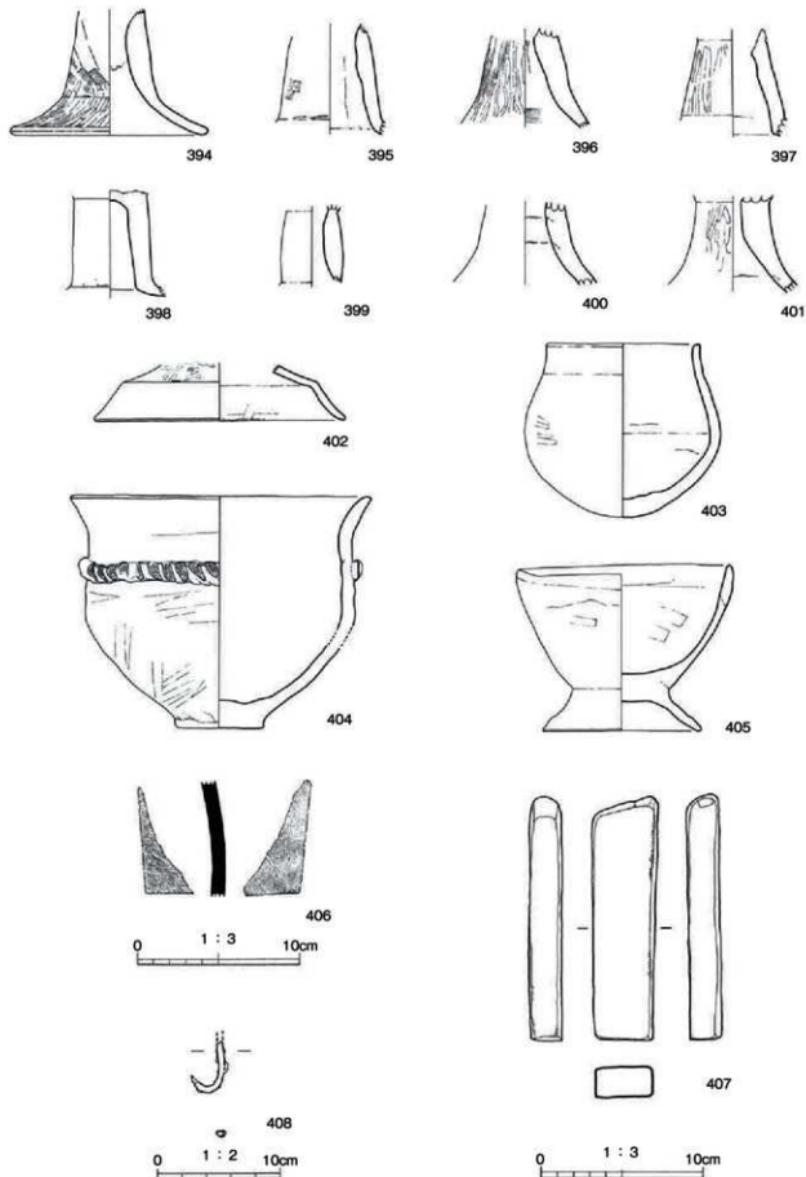
第67図 19号竖穴建物跡 (S = 1/60)



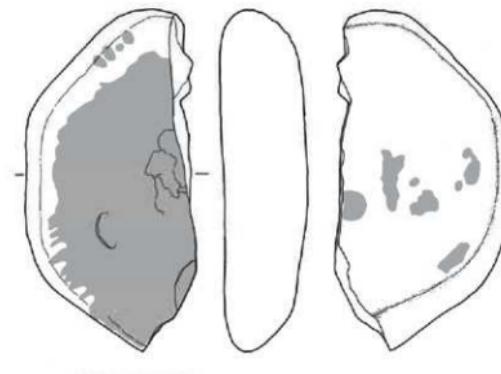
第68图 19号竖穴出土遗物①



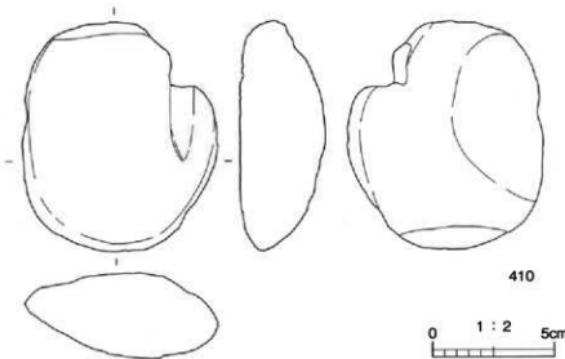
第69图 19号竖穴出土遗物②



第70図 19号竪穴出土遺物③



409



410

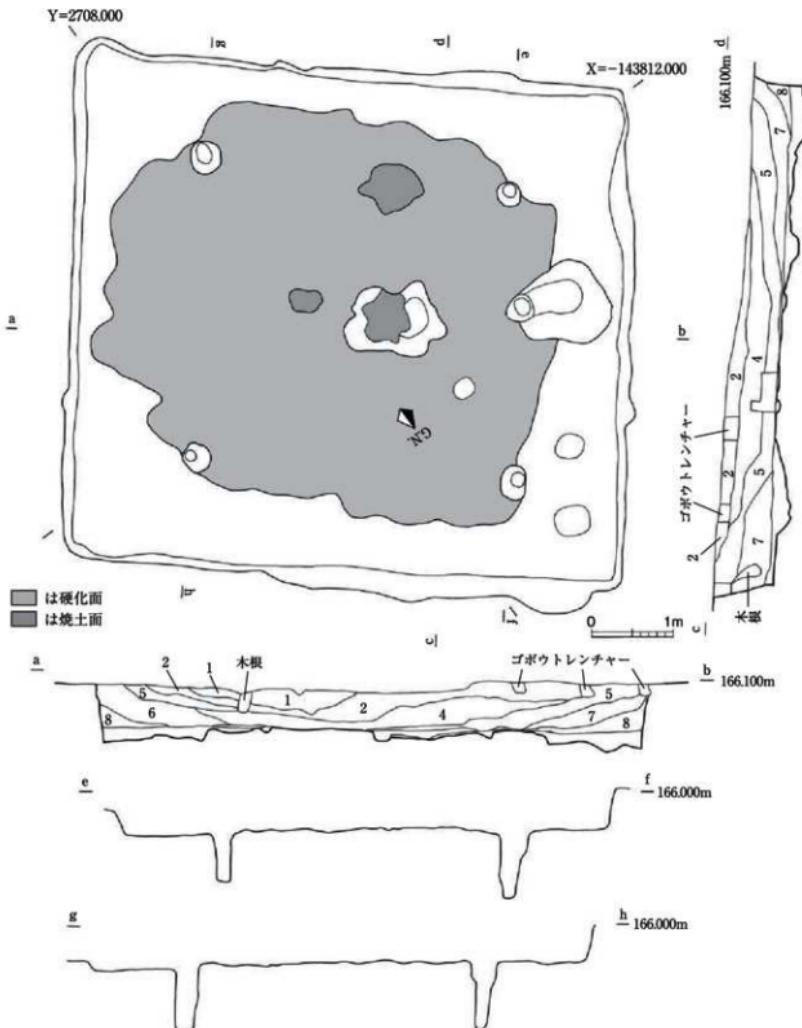
0 1 : 2 5cm

第71図 19号竪穴出土遺物④

19号竪穴建物（遺構：第67図 出土遺物：第68図・第69図・第70図・第71図382～410）

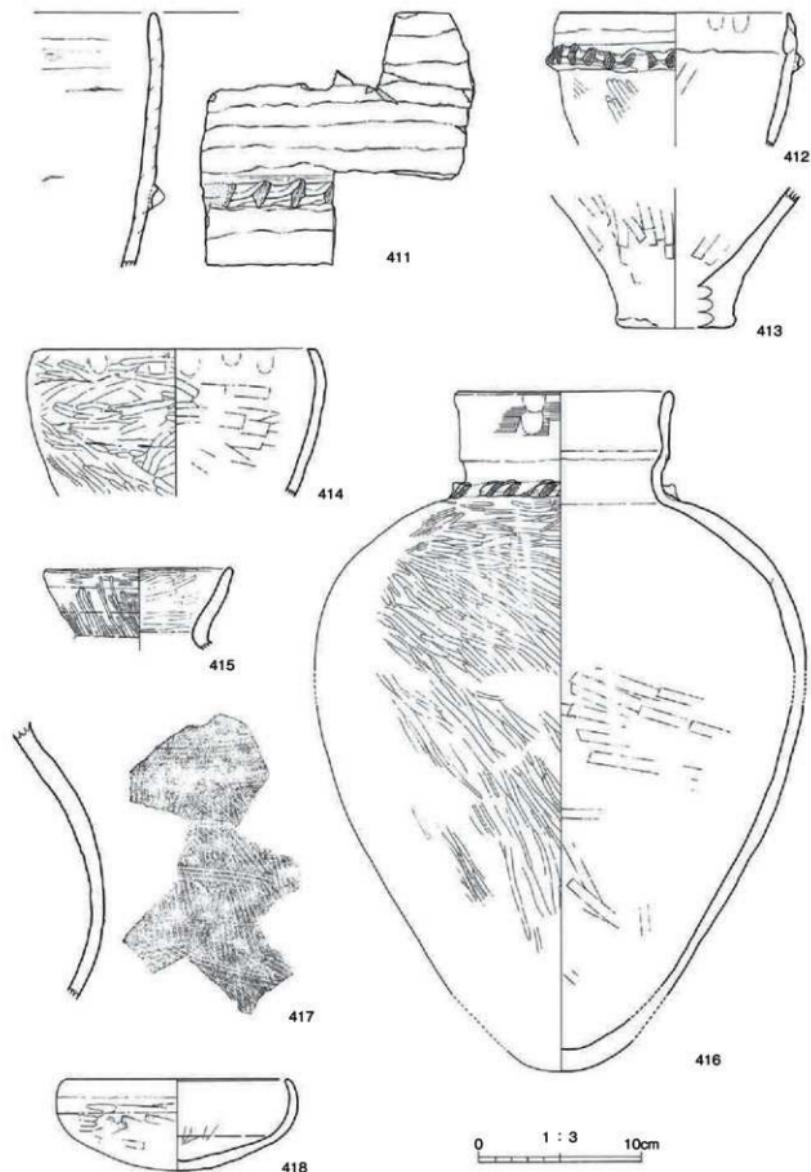
A区中央東寄りで検出された東西4.5m、南北5.3mを測る方形の竪穴建物である。主柱穴は4本、壁溝はない。硬化面は確認されておらず、貼床は施されていなかったようだ。

出土遺物は、甕・壺・高杯・鉢などの土器類、須恵器片、台石、砥石、赤変した軽石、鉄製釣り針などが出土している。時期は中村3～4期におさまるか。台石は全体に赤変しており、部分的に鉄分が付着している。砥石についても鉄分が付着した条痕が確認でき、規模は不明だが銀治作業を行っていたことが示唆される。

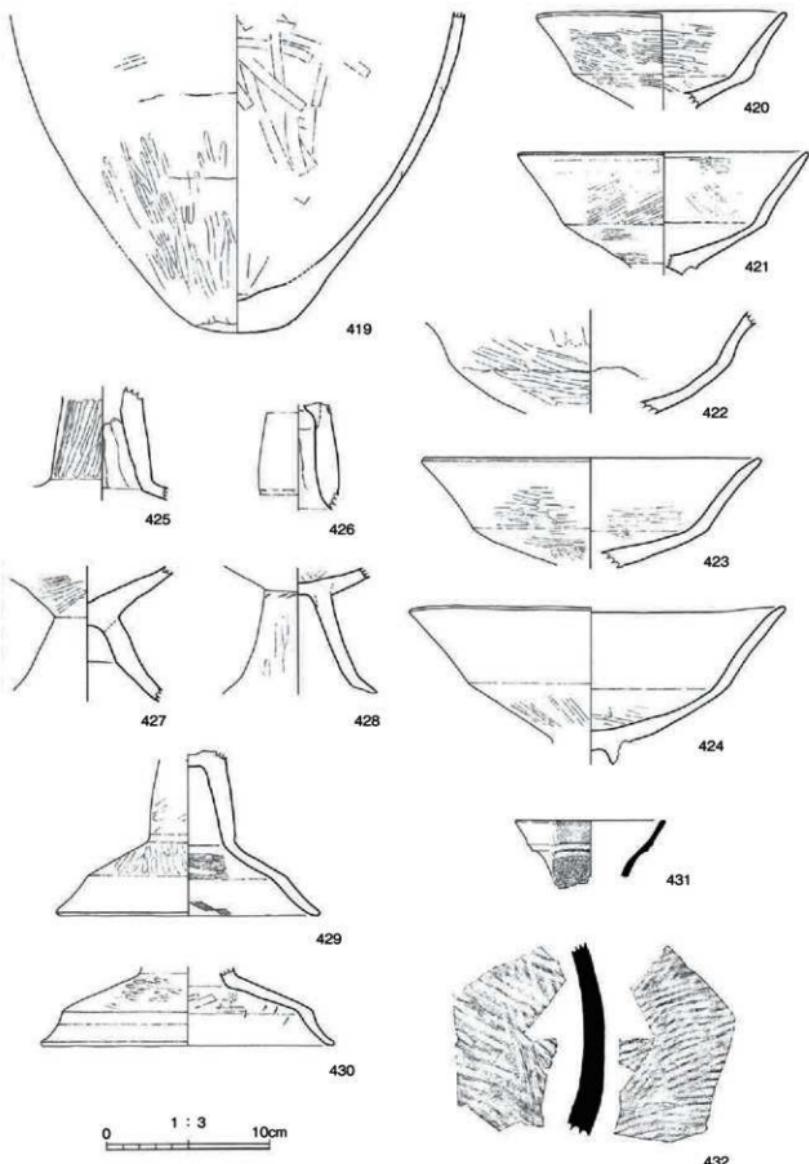


- 1 黒褐色土 (Hue 10YR 3/2) 御池ボラ粒が25%ほど混じる。しまりが弱い。
- 2 黒褐色土 (Hue 10YR 3/1) 径10mm以下の御池ボラ粒が50%ほど混じる。しまりが強い。
- 3 黒褐色土 (Hue 10YR 2/1) 径5 mm以下の御池ボラ粒が40%ほど混じる。しまりが弱い。
- 4 黒色土 (Hue 10YR 2/1) 径10mm以下の御池ボラ粒が30%ほど混じる。炭化物が1%ほど混じる。しまりが弱い。
- 5 黒褐色土 (Hue 10YR 3/1) 径10mm以下の御池ボラ粒が25%ほど混じる。炭化物が1%ほど混じる。しまりが弱い。
- 6 黒色土 (Hue 10YR 2/1) 径10mm以下の御池ボラ粒が25%ほど混じる。しまりが弱い。
- 7 黒色土 (Hue 10YR 2/1) 御池ボラブロックが50%ほど混じる。しまりが強い。
- 8 黑色土 (Hue 10YR 2/1) 径10mm以下の御池ボラ粒が25%ほど混じる。しまりが弱い。

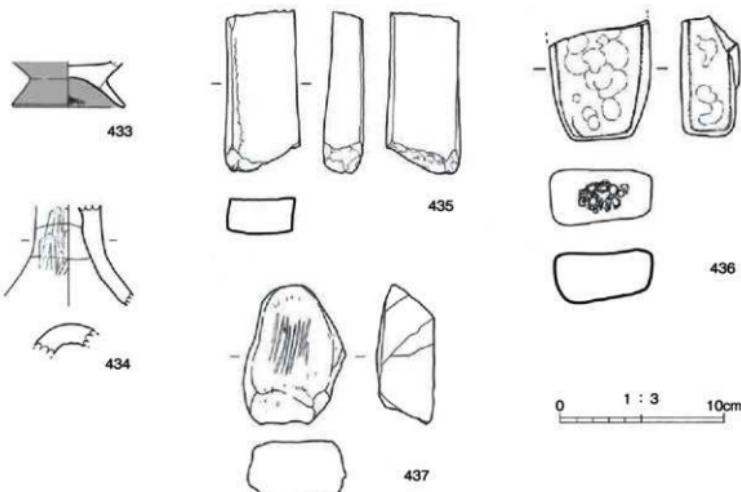
第72図 20号竖穴建物跡 (S = 1/60)



第73图 20号竖穴出土遗物①



第74図 20号竪穴出土遺物②



第75図 20号竪穴出土遺物③

20号竪穴建物（遺構：第72図 出土遺物：第73図・第74図・第75図411～437）

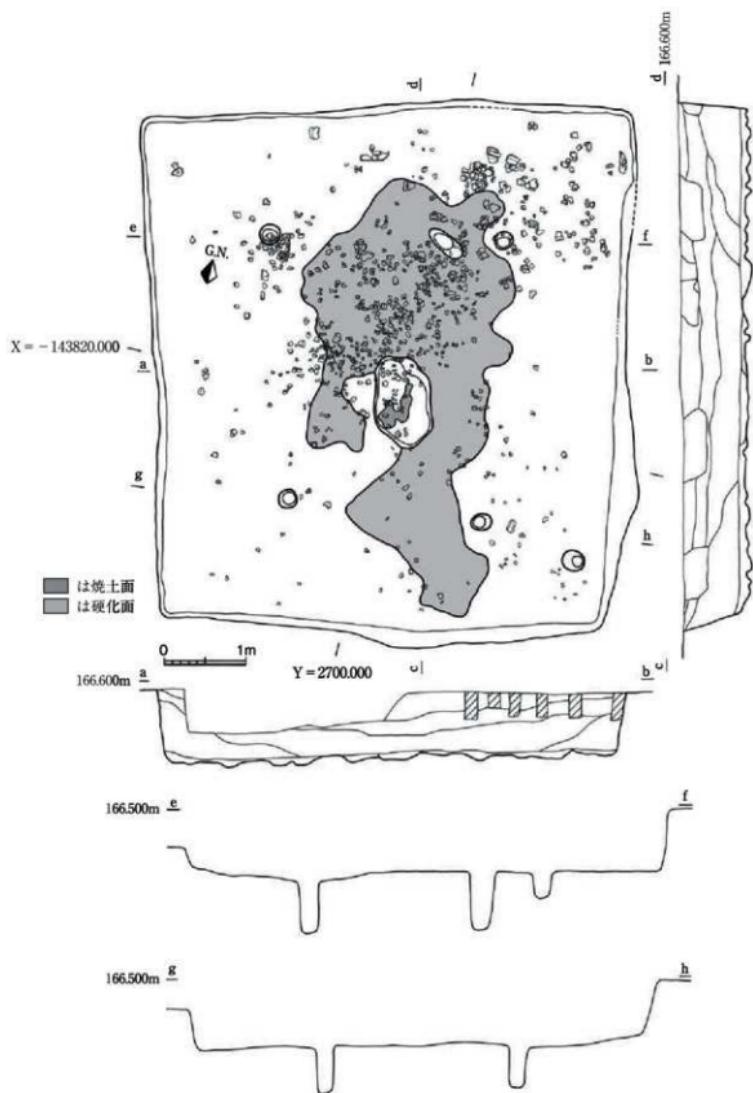
A区のほぼ中央部で検出された各辺6.1m×6.8mを測り、主軸を50°ほど西に向けた竪穴建物である。床面中央と南東壁近くに浅い土坑があり、中央の土坑については焼土が含まれる。主柱穴は4本検出されており、硬化面が壁面際以外の床面ほぼ全体で確認されている。壁溝はない。

遺物は、甕・壺・壺・高坏などの土師器類、甕の口縁部と考えられる須恵器、高坏の転用羽口、砥石などが出土している。出土遺物のうち、須恵器片（第74図432）と土師器片（第73図417）は古代のものと考えられ、20号竪穴建物は第6節で後述する竪穴状遺構に切られていることから混入であるとみられる。また、甕と考えられる須恵器片は初期須恵器の範疇で捉えられるものであり、5世紀の中葉を大きく下ることはなさそうである。なお、出土遺物の大半は中村3期にあたるもので、5世紀の後葉～末葉頃のものと考えられる。このように調査及び整理時に明らかな混入の選別すらできていない状態であり、細かな遺物の出土状態に至っては、ほとんど情報をえることができない。どの遺物が本来的に20号竪穴建物に伴うのか判断することが非常に困難であり遺構の評価は保留せざるを得ない。

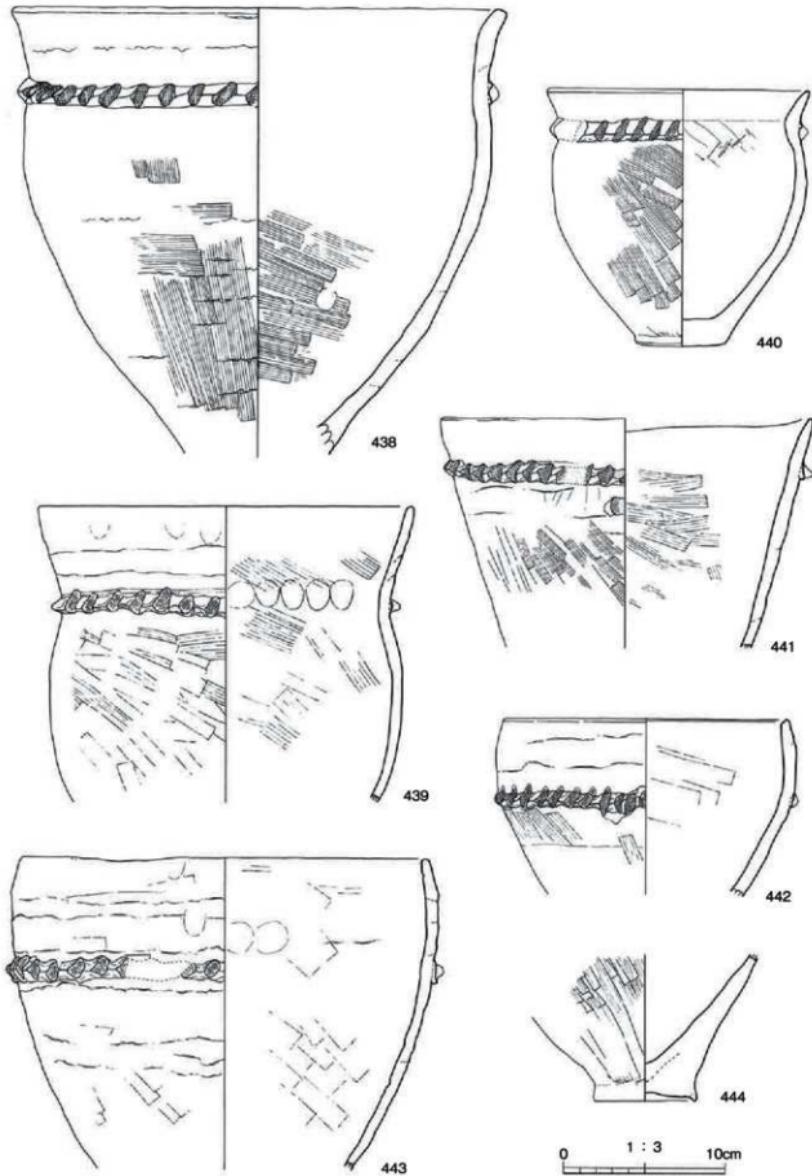
21号竪穴建物（遺構：第76図 出土遺物：第77図・第78図・第79図・第80図・第81図438～486）

A区の中央やや西寄りで確認された東西5.6m、南北6.3mを測る方形の竪穴建物である。主柱穴は4本、壁溝はない。中央に浅い土坑があり土坑内には焼土が検出されている。床面には主柱穴で囲まれた部分を中心に硬化面が確認されており、貼床が施されていたらしい。

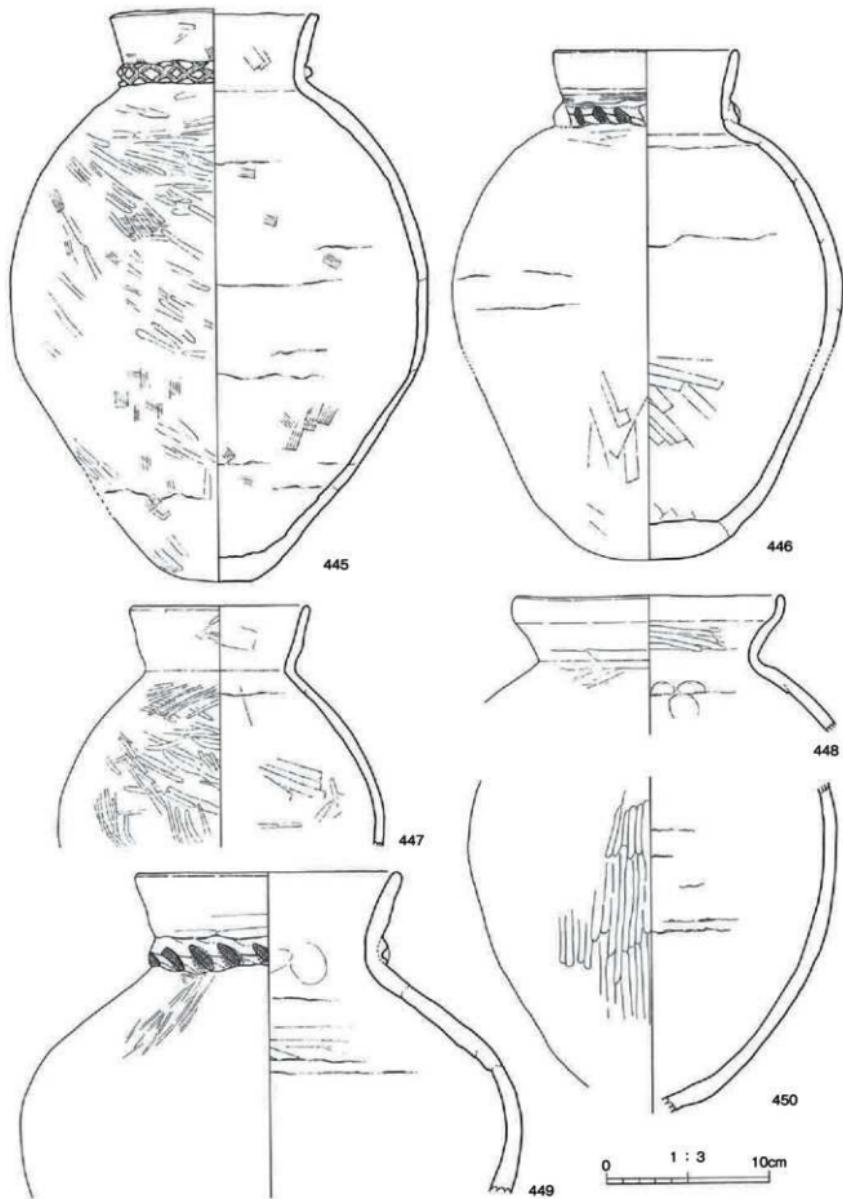
遺物は、埋土中から相当量の出土が見られたようだ。甕・壺・高坏・壺・鉢などの土師器類、甕・壺蓋などの須恵器片、輪の羽口・鉄滓などの鋳冶関連遺物、砥石、人為的な加工が施されている軽石などがあり、仕切りの数は少ないが、16号竪穴建物と同様な仕切付角鉢も出土している。時期は土師器の大



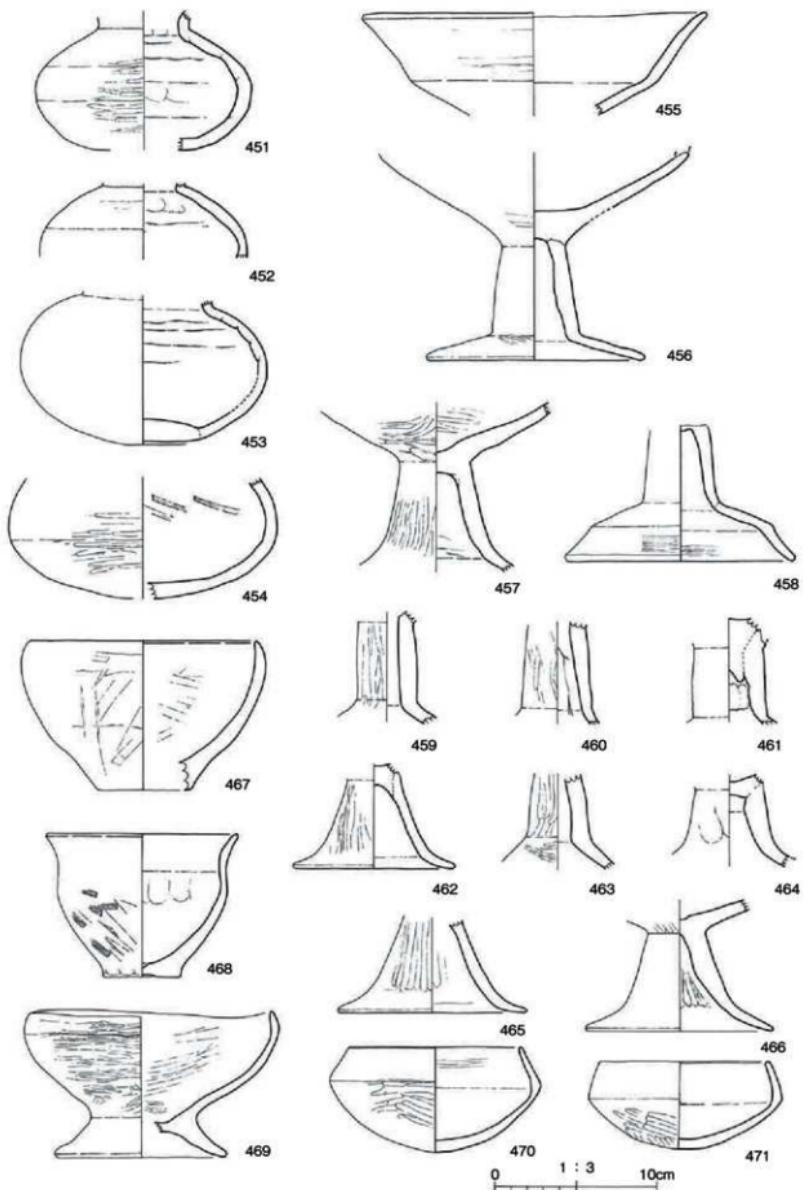
第76図 21号竪穴建物跡 (S = 1/60)



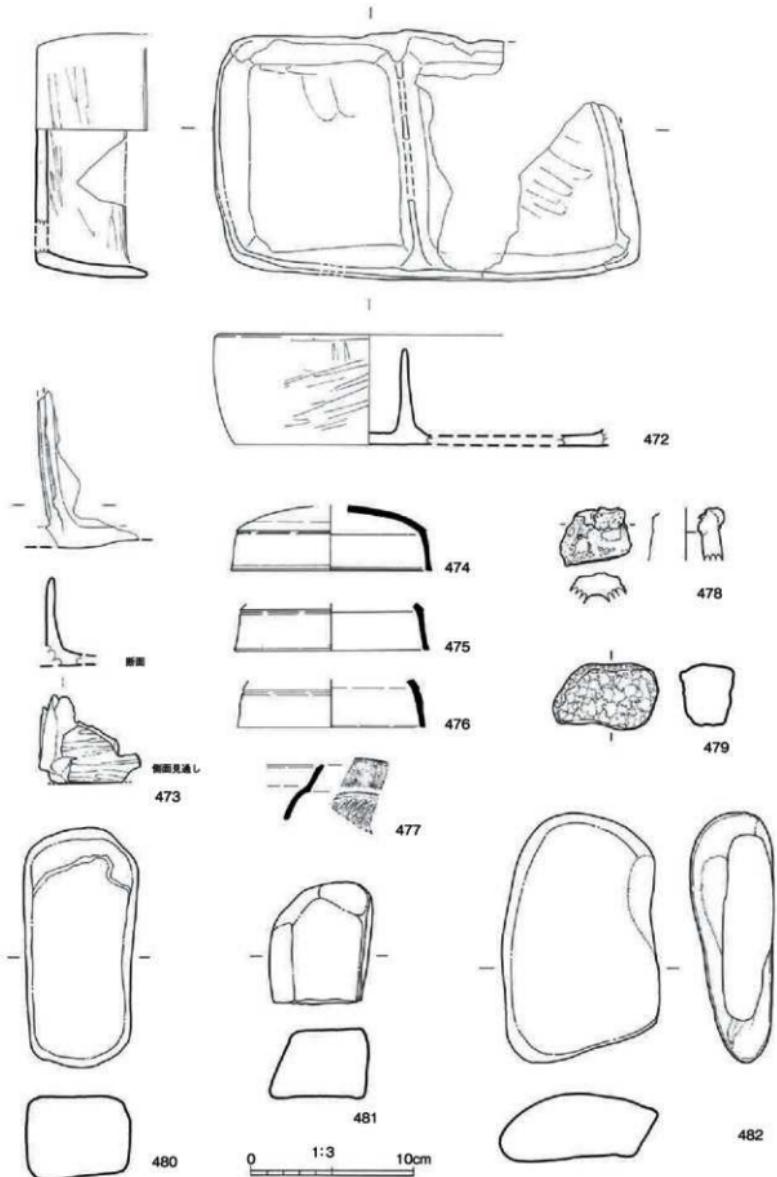
第77图 21号竖穴出土遗物①



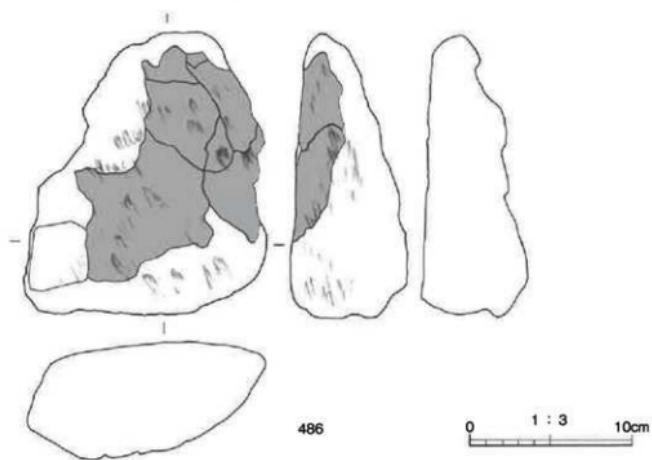
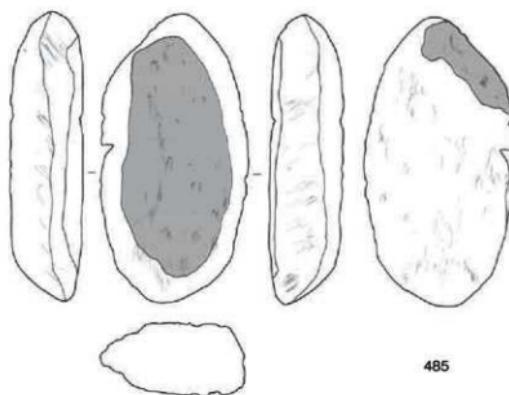
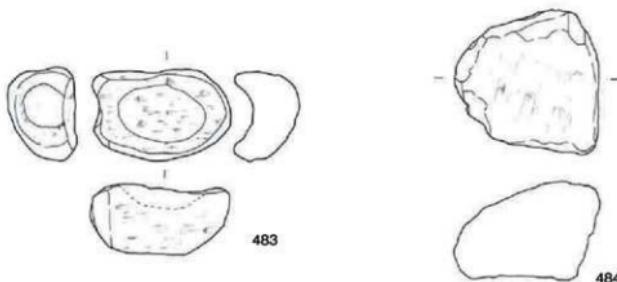
第78図 21号竪穴出土遺物②



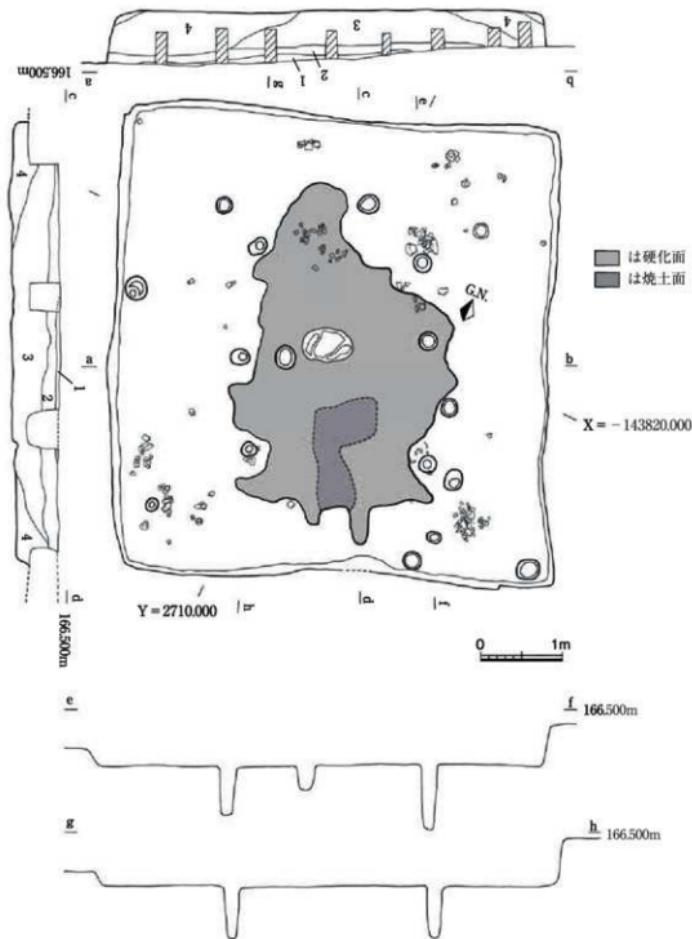
第79图 21号竖穴出土遗物③



第80図 21号竪穴出土遺物④

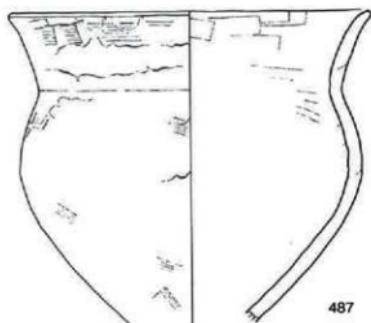


第81図 21号竪穴出土遺物⑤

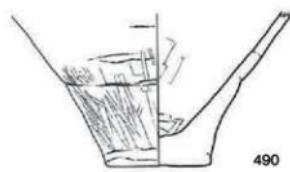


- 1 黒色土 基本土層Ⅲ層に同じ。
- 2 淡色土 基本土層Ⅳ層に同じ。
- 3 黑褐色土 (Hue 10YR 2/2) 径5mm以下の御池ボラ粒が10%ほど混じる。しまりがやや弱い。
- 4 黑色土 (Hue 10YR 2/1) 径10mm以下の御池ボラ粒が20%ほど混じる。しまりがやや強い。
- 5 黑色土 (Hue 10YR 1.7/2) 径5mm以下の御池ボラ粒が5%ほど混じる。しまりがやや弱い。

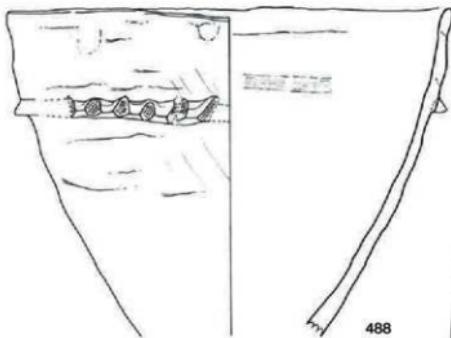
第82図 22号竪穴建物跡 (S = 1/60)



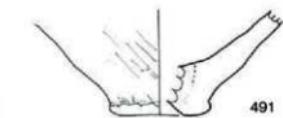
487



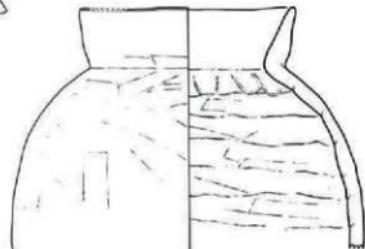
490



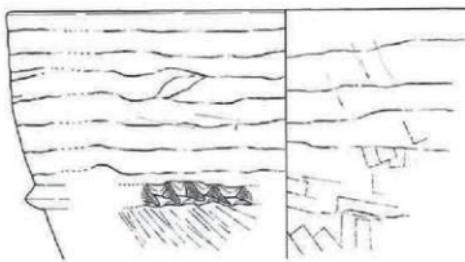
488



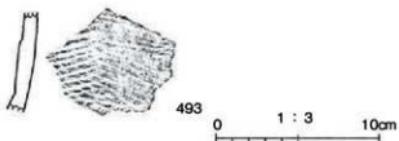
491



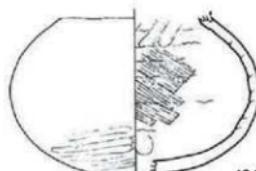
492



489

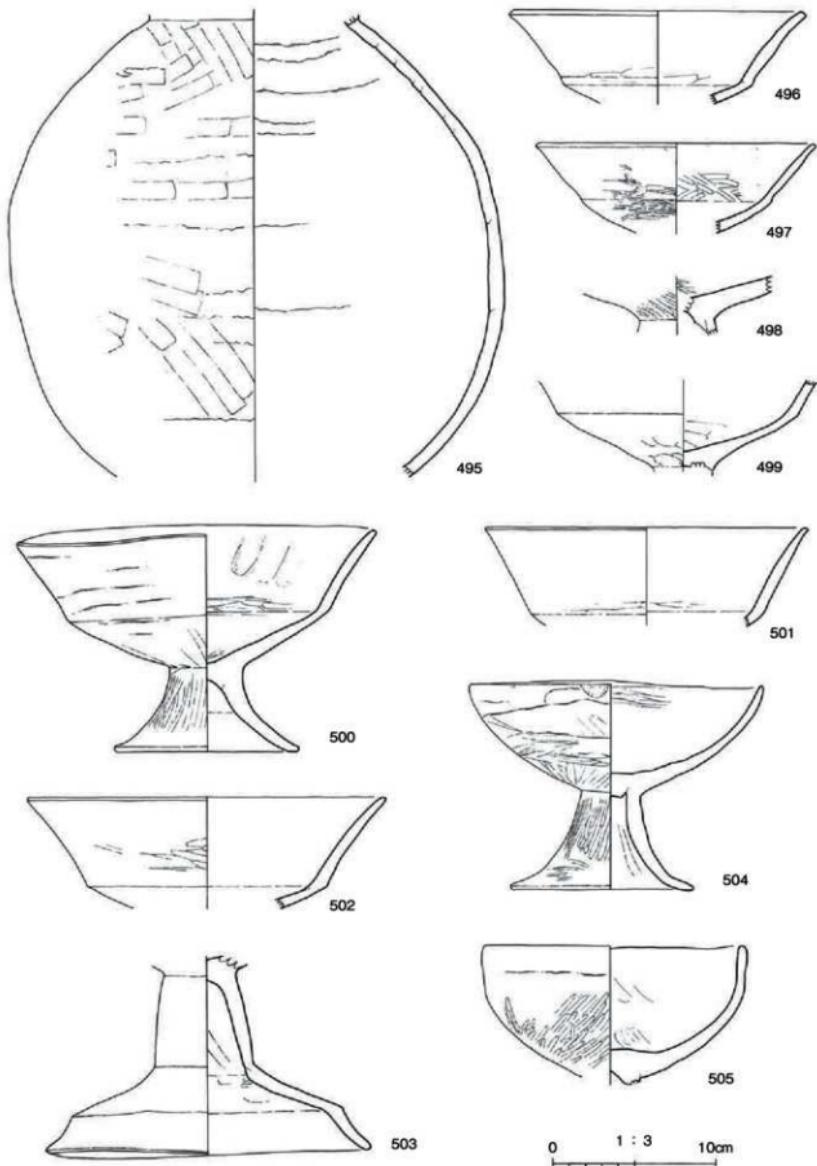


493

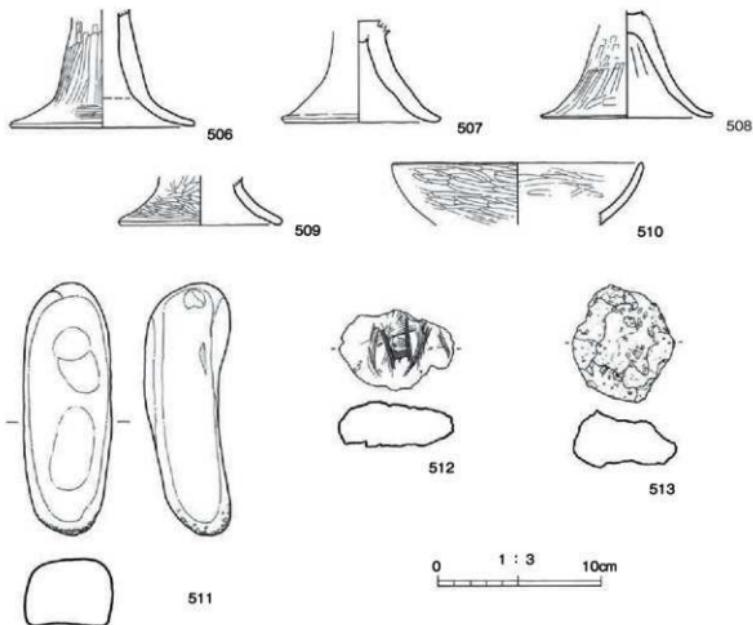


494

第83图 22号竖穴出土遗物①



第84图 22号竖穴出土遗物②



第85図 22号竪穴出土遺物③

半は中村3期におさまり、須恵器の年代観とも大きな誤差はない。埋土中に遺物が大量に出土したという状況から、廃棄後、長期にわたって遺物が流入し続けたと考えるより、廃棄時の祭祀などに伴って、遺物とともに埋められたと考えるべきかも知れない。しかしながら、土層断面図はあるもののそれぞれの埋土の状況が不明で遺構の埋没過程が詳らかにできないため、遺構の評価を行うことは困難である。

22号竪穴建物（遺構：第82図 出土遺物：第83図・第84図・第85図487～513）

A区の中央やや南寄りで確認された東西5.4m、南北5.5mの方形の竪穴建物である。主柱穴は4本で壁溝はない。床面中央には浅い土坑があり、主柱穴に囲まれた範囲を中心に硬化面が確認されている。

出土遺物は壺・甕・高坏などの土師器のほか砥石、鉄滓、寸莎入りの土器片などがある。時期は、中村3期的な様相、4期的な様相の両方が見て取れ過渡的な時期とも考えられるが、古代のものと考えられる外表面タキ、内面ケズリを有する甕（第83図493）の破片が混入しているなど出土状況がはっきりしないため、評価は保留せざるえない。出土した砥石には一部敲打痕があり、鍛打用の鎚として使用された可能性がある。寸莎入りの土器片や鉄滓が出土していることからも何らかの銀治作業が行われた可能性は高い。

23号竪穴建物（遺構：第86図 出土遺物：第87図・第88図514～540）

A区中央東壁近くで確認された長辺6.7m、短辺6.3mを測る方形の竪穴建物である。主柱穴は4本で壁溝はない。南東部に弱い張り出しがあり、そこから遺構中央部に向かい2基の浅い土坑が掘削されており中央の土坑からは焼土が検出されている。壁面際を除いて床面ほぼ全面に硬化面が確認されており、貼床が施されていたようである。

出土遺物は、甕・高坏・坏などの土師器類、加工痕のある軽石などが出土している。土師器の中には平底の鉢があり、あまり類例をみない形状である。また、甕の模倣土師も出土している。模倣土師はTK23型式あたりに併行するとみることも可能な形状をしている。甕の形状などから中村3期と考えれば特に矛盾のない時期といえようか。高坏のうち1点（第88図529）は被熱して赤変しており、甕の羽口などに転用されていた可能性がある。

24号竪穴建物（遺構：第89図 出土遺物：第90図・第91図・第92図・第93図541～584）

A区のやや南側東壁に接して形で検出された長辺6.0m、短辺5.7mを測る方形の竪穴建物である。建物の東側1/3ほどが調査区外になる。検出された範囲では主柱穴3本で壁溝は確認されていない。中央に焼土を含む浅い土坑があり、床面は貼床が施されており、壁際を除く部分は硬化している。

出土遺物は、甕・壺・高坏・坏などの土師器類のほか、土製紡錘車片、砥石、敲石、加工痕のある軽石、土師器高坏脚部を転用した甕の羽口などが出土している。また、細い棒状の鉄片を数本束ねたものが出土しており、砥石、敲石、転用羽口なども含め、鋸冶関連の遺物とみることが可能かもしれない。

遺構の時期は、出土土師器からは、中村3期、今塩屋・松永4期あたりでおさまるとみていいだろう。およそ5世紀の後半から末葉にかけてのものであるとしたい。

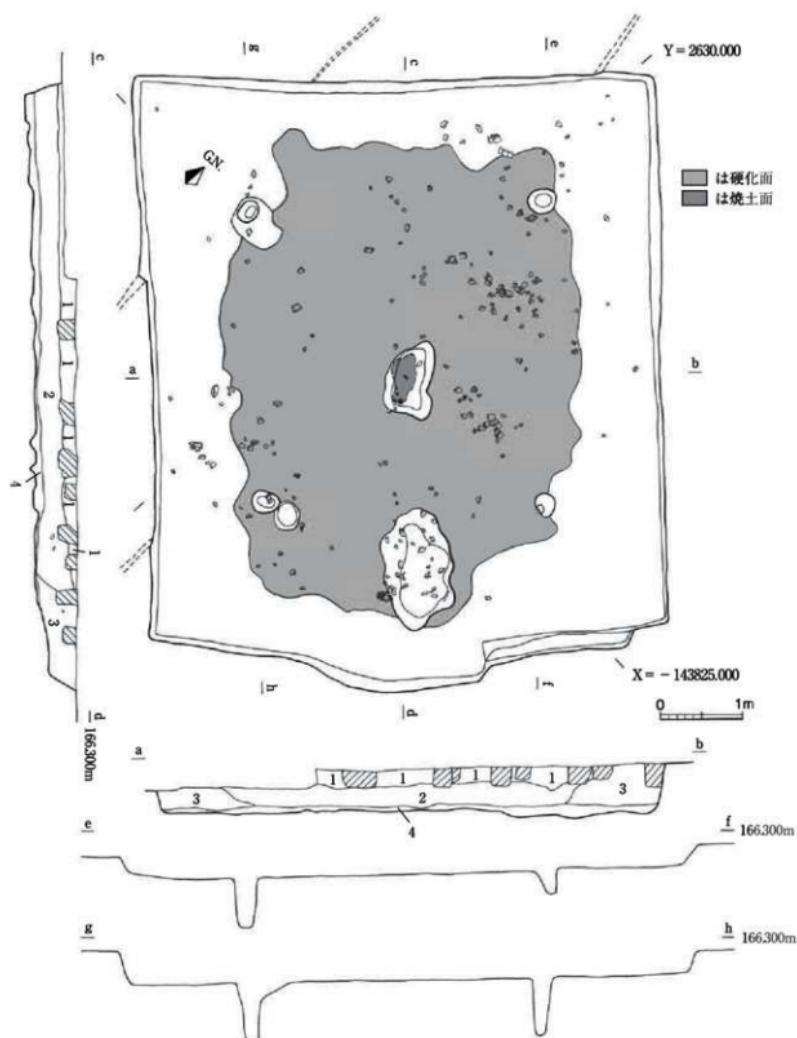
25号竪穴建物（遺構：第94図 出土遺物：第96図・第97図585～612）

A区のやや南側、西壁近くで確認された長辺3.2m、短辺3.0mの方形の竪穴建物である。柱穴、壁溝、貼床などの内部施設は全く確認されていないが、床面中央付近に焼土を含む浅いピットがいくつか確認されておりその周辺が硬化している。

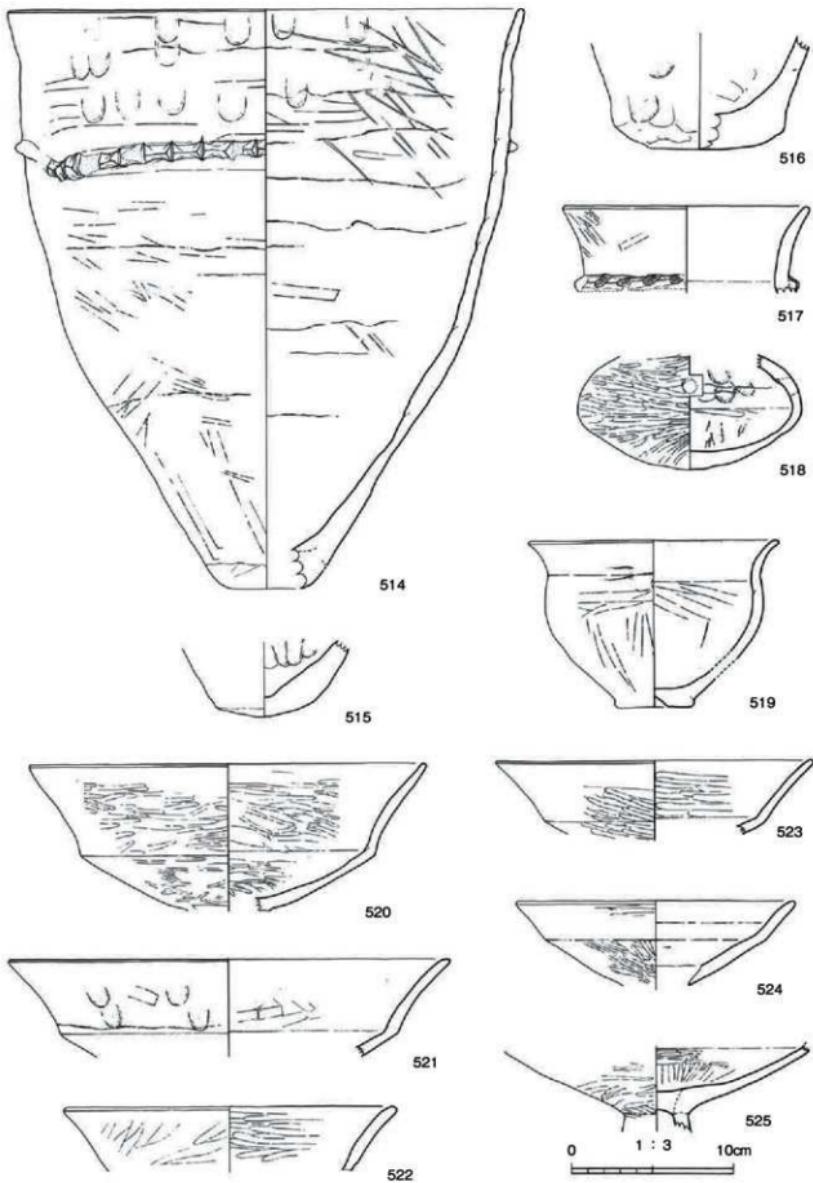
出土遺物は、甕・壺・高坏・坏などの土師器類のほか、砥石、加工痕のある軽石、甕の羽口や鉄滓などが出土している。砥石には鋭い条痕が刻まれたものがあり、羽口は専用のものようである。また、図化、データ化は諸事情によりしていないが、埋土中に鍛造剥片や粒状滓、椀型滓、寸莎入りの粘土塊などが出土していたと調査担当者のメモ書きにあり、この遺構が鋸冶関連のものであることを強く示唆する。位置関係から、後述する29号竪穴建物に付随する貯蔵穴の可能性も考えられ、その場合、建物廃棄時に鋸冶に伴う廃棄物を投棄したと捉えることも可能だろう。時期は、高坏の形態からは中村3期あたりが。

26号竪穴建物（遺構：第95図 出土遺物：第98図613～618）

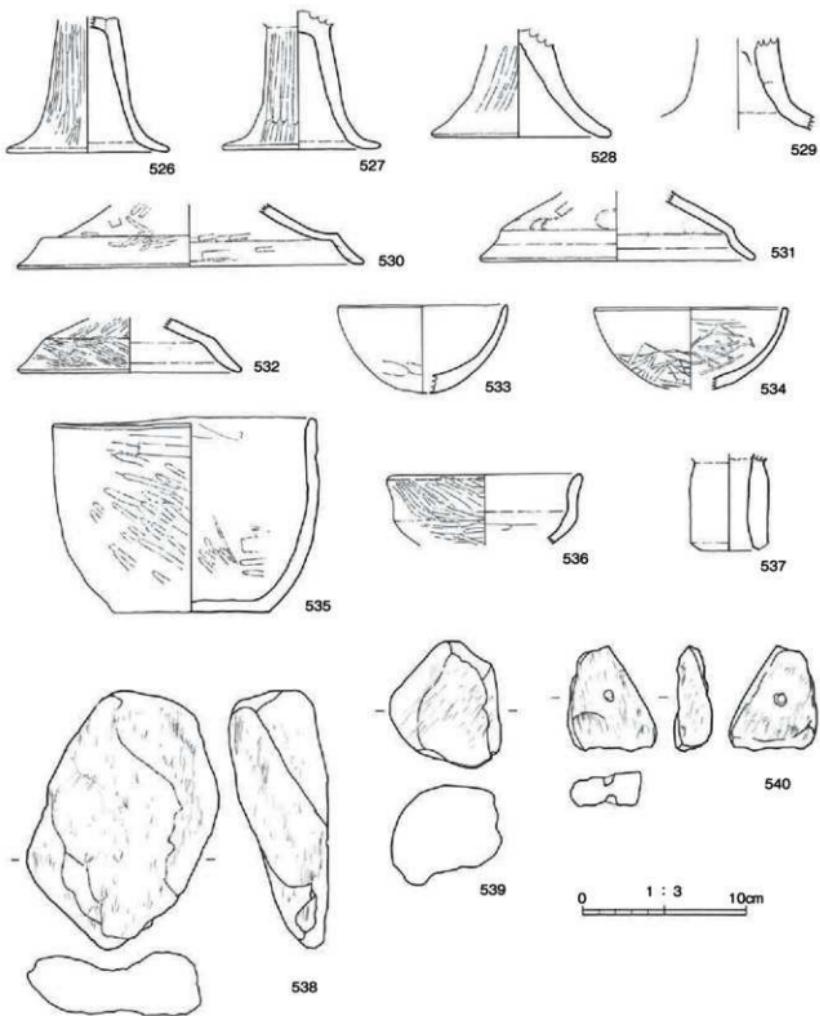
A区の南側、西壁に接して検出された東西4.6m、南北5.5mの方形の竪穴建物である。北西角の一部が調査区外になる。主柱穴は4本で壁溝はない。中央部に焼土を含む浅い土坑があり貼床が施されている。床面は中央から東寄りに硬化している。



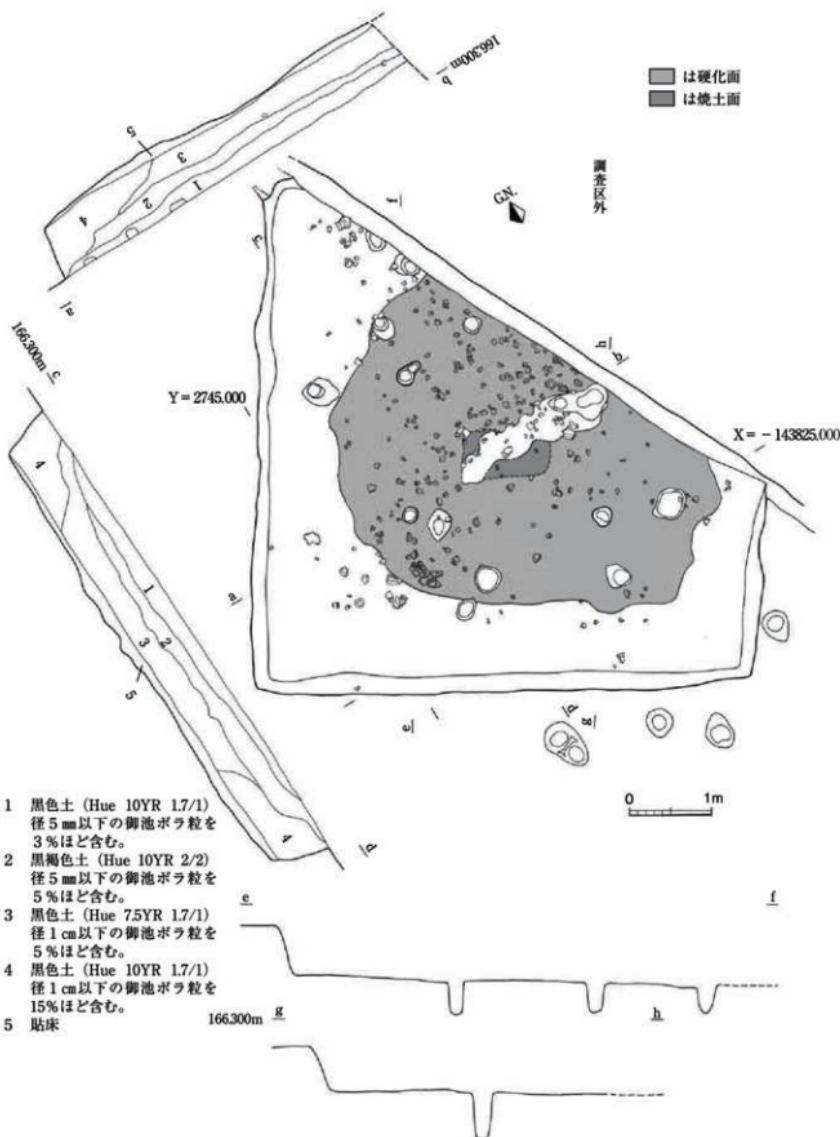
第86図 23号竪穴建物跡 (S = 1/60)



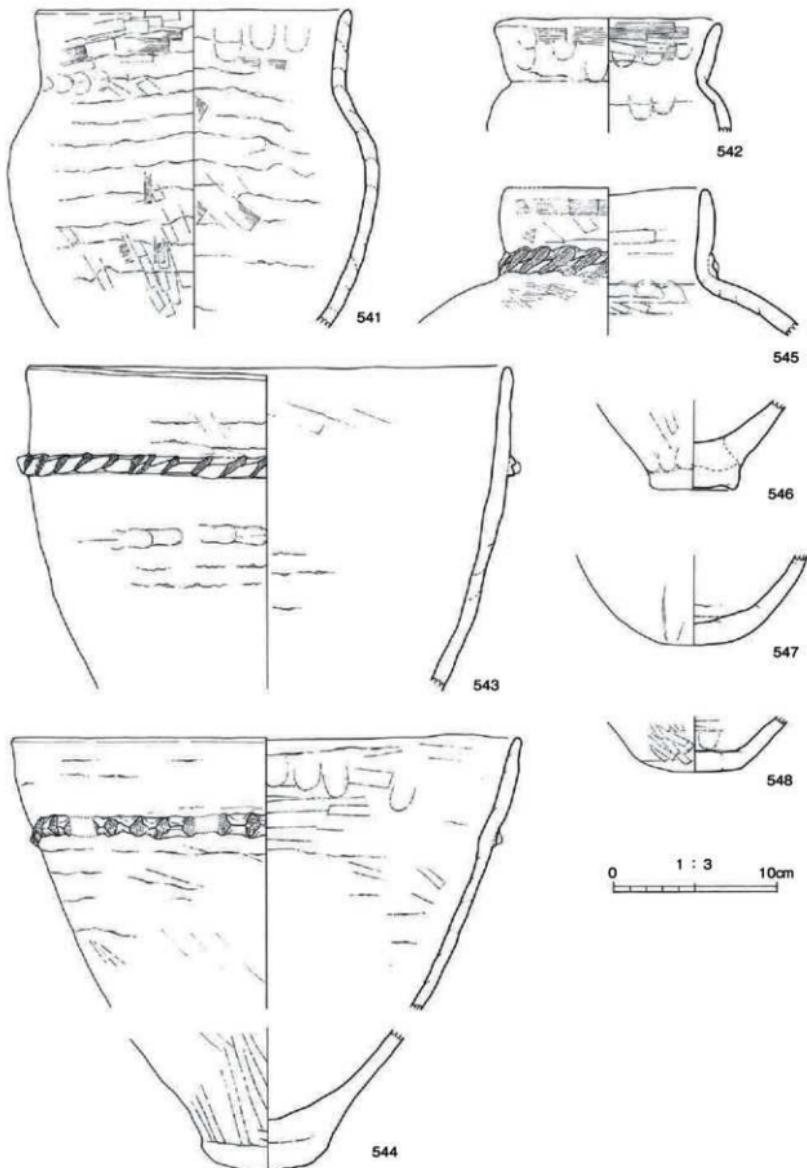
第87图 23号竖穴出土遗物①



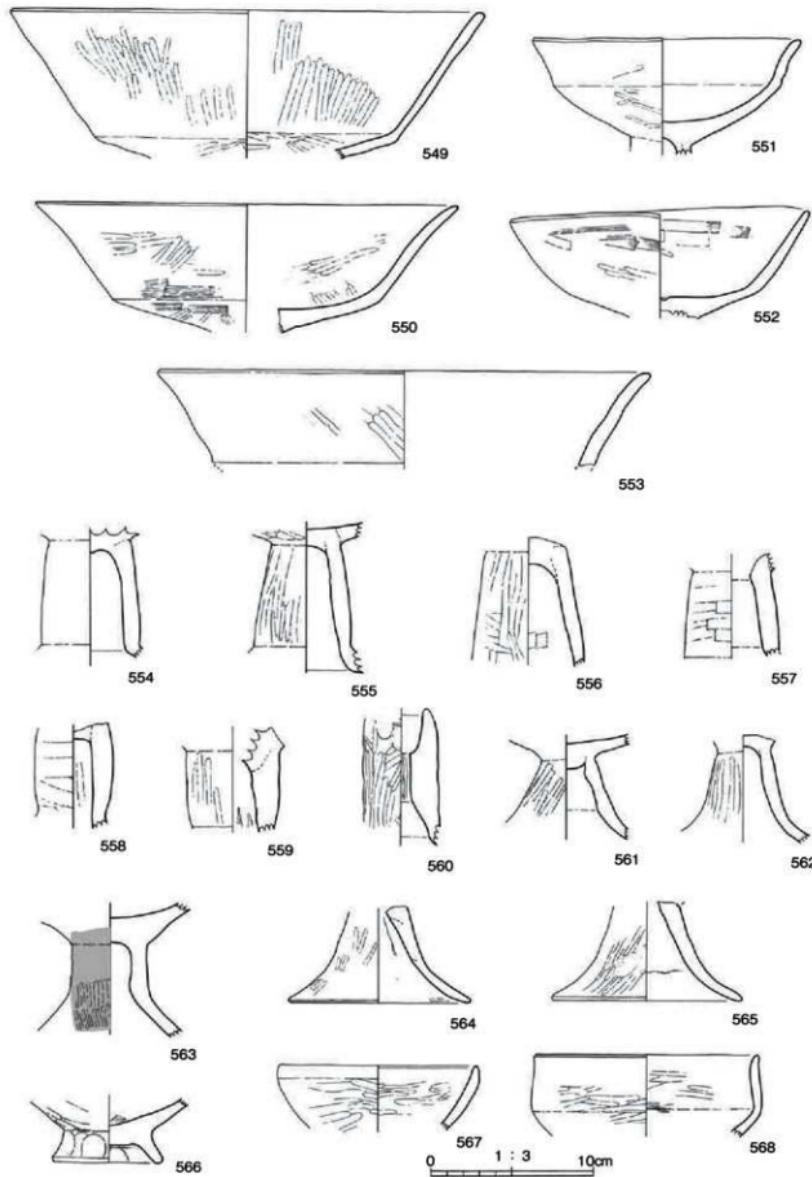
第88图 23号竖穴出土遗物②



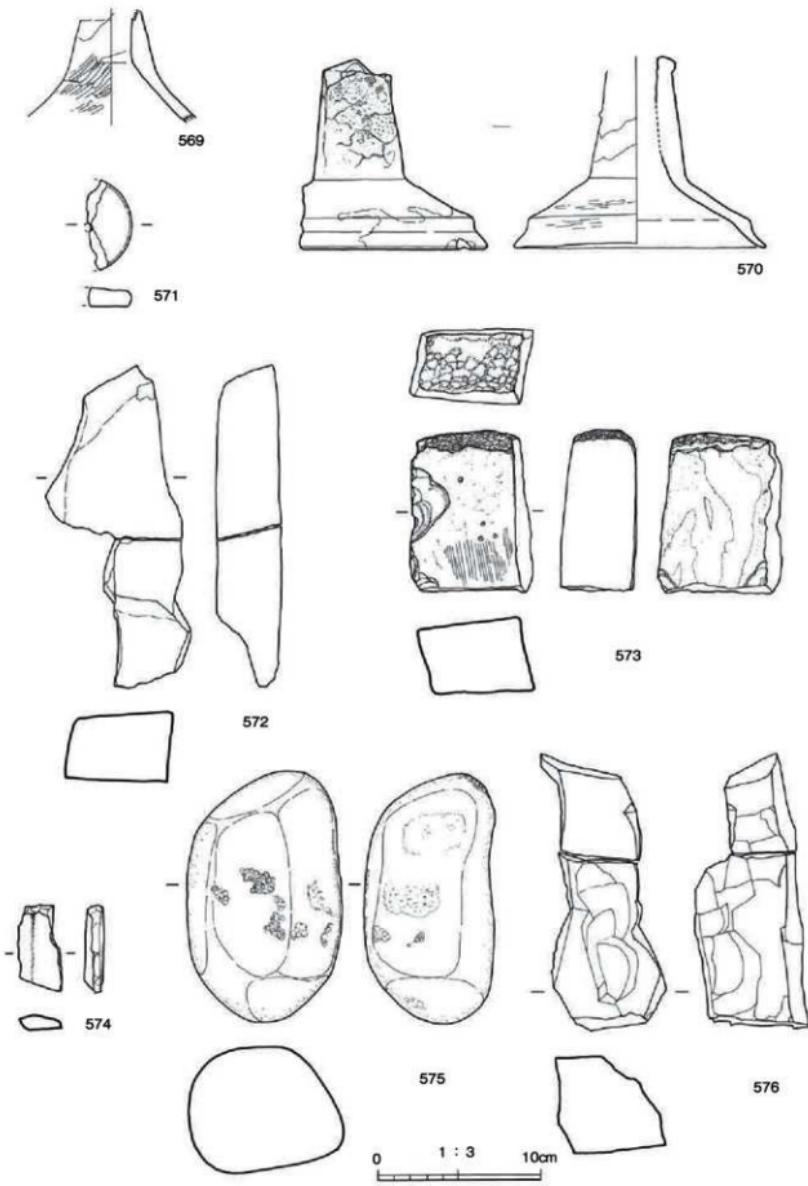
第89図 24号竖穴建物跡 (S = 1/60)



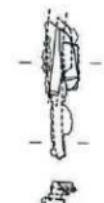
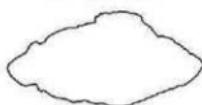
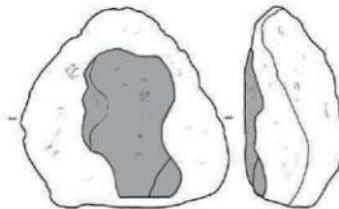
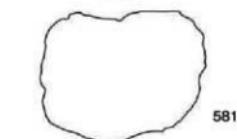
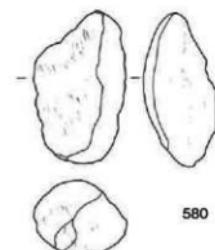
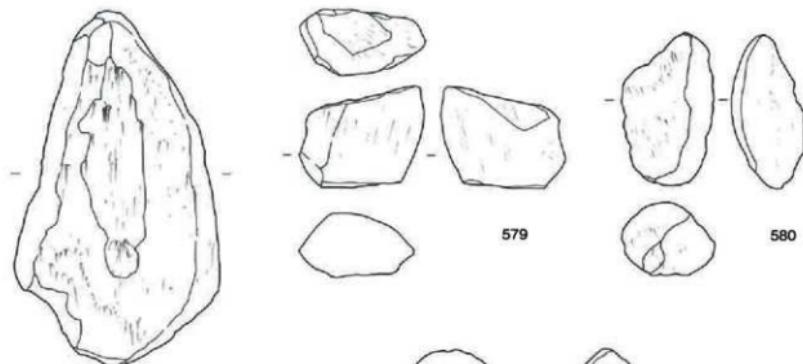
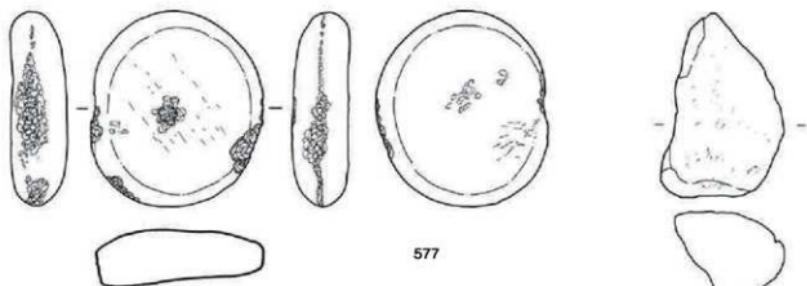
第90図 24号竪穴出土遺物①



第91図 24号竪穴出土遺物②



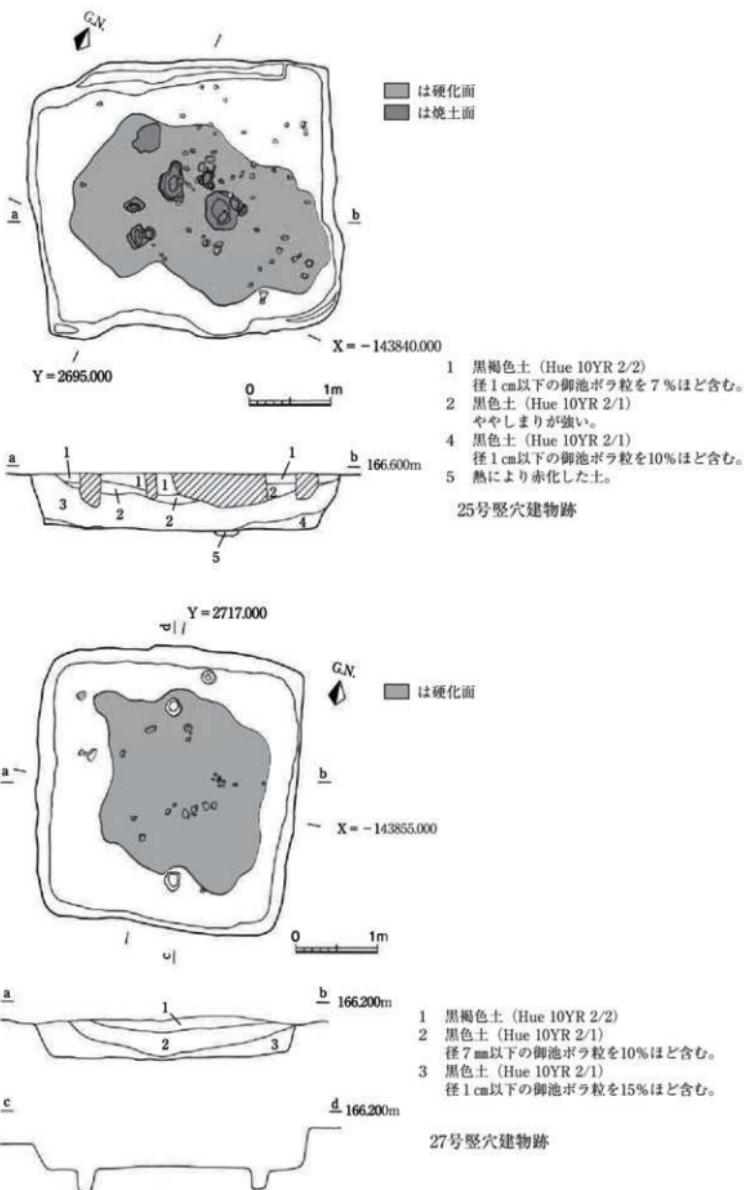
第92图 24号竖穴出土遗物③



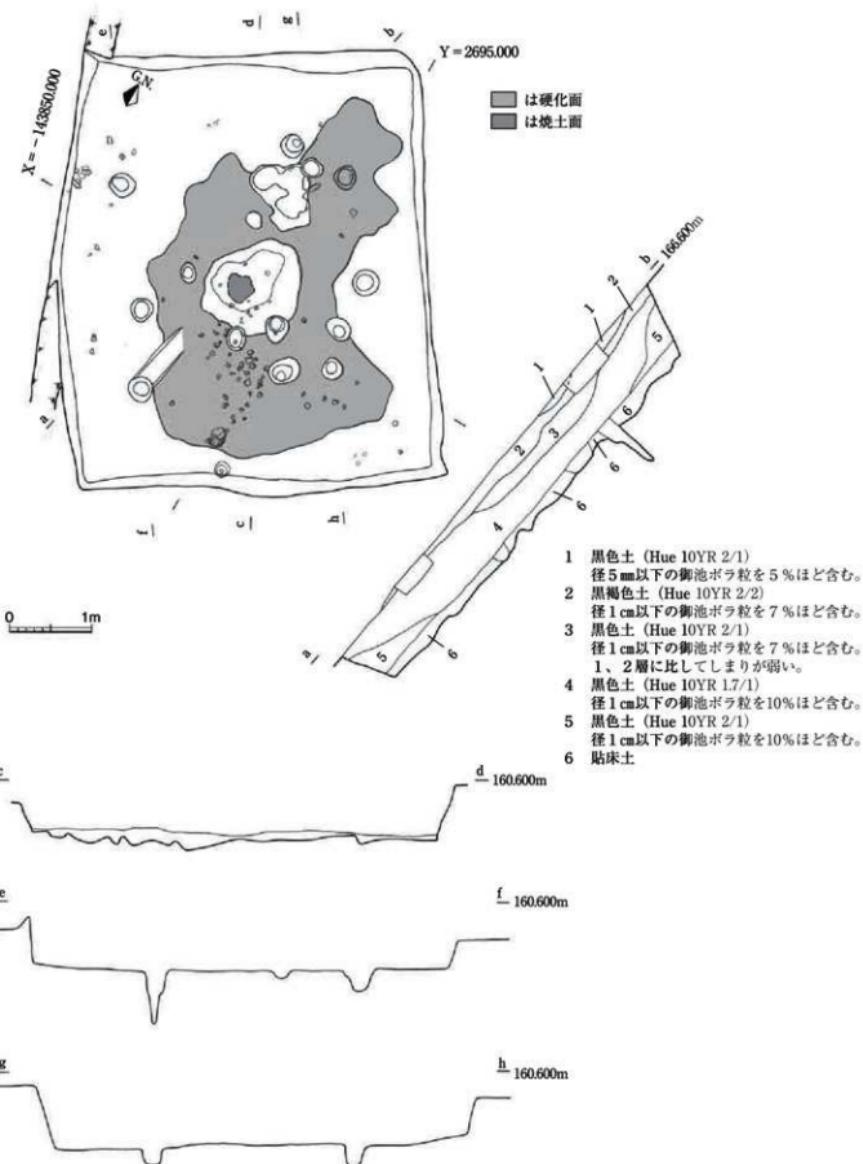
0 1 : 3 10cm

0 1 : 2 5cm

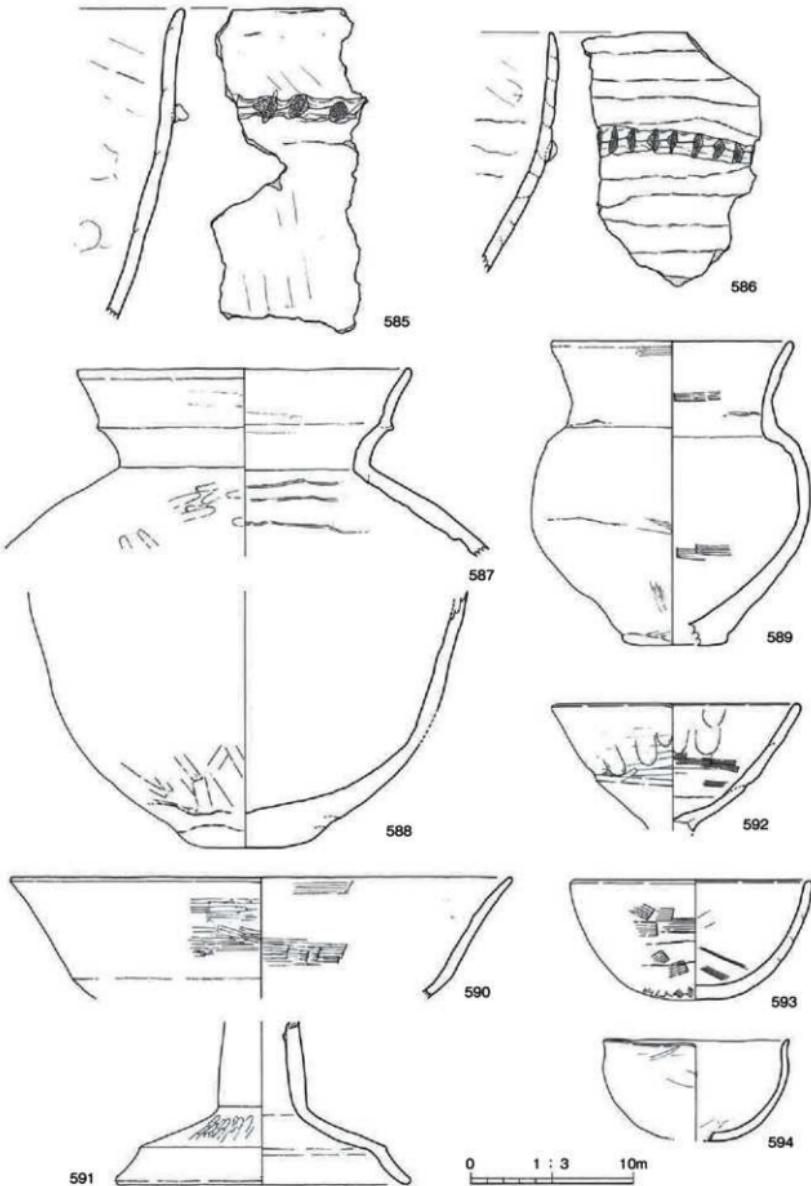
第93图 24号竖穴出土遗物④



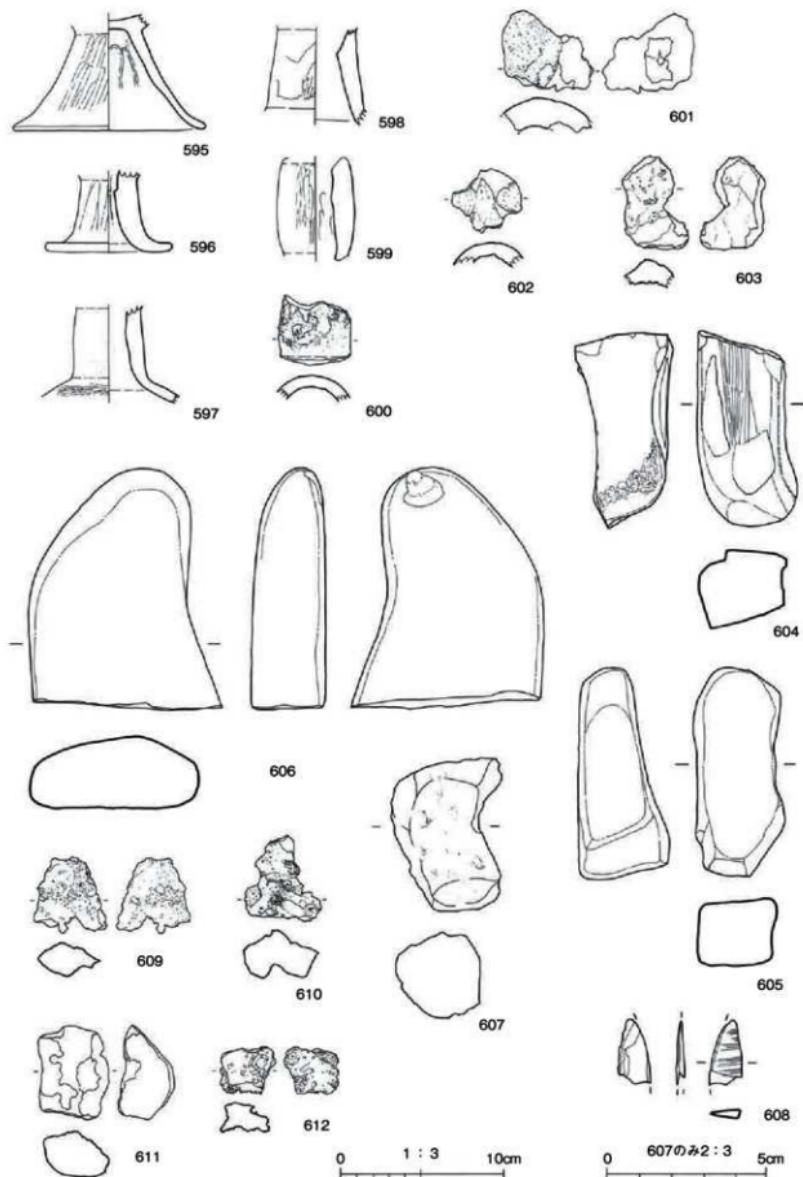
第94図 25号及び27号竪穴建物跡 (S = 1/60)



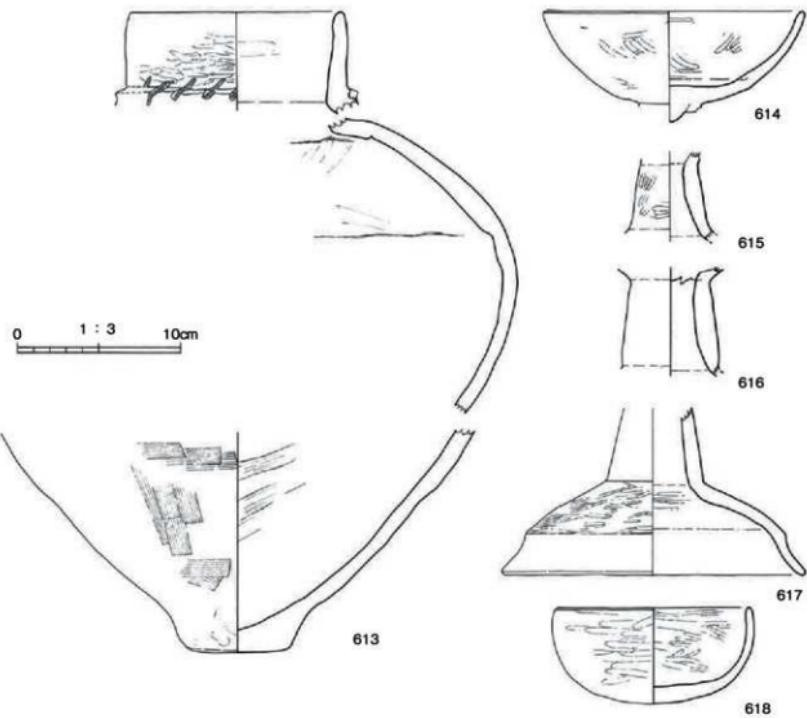
第95図 26号竖穴建物跡 (S = 1/60)



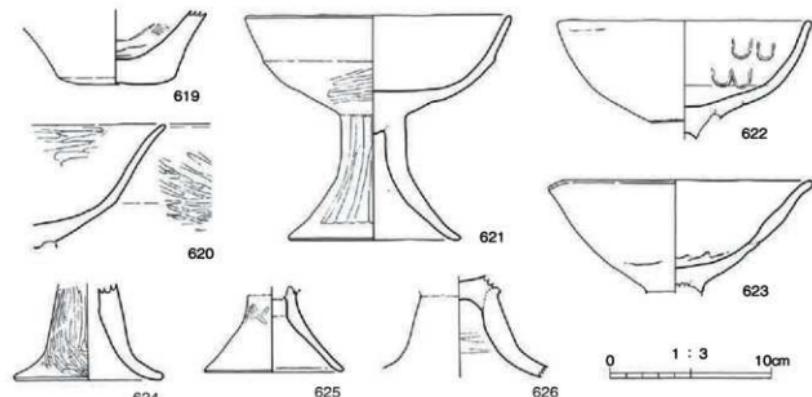
第96图 25号竖穴出土遗物①



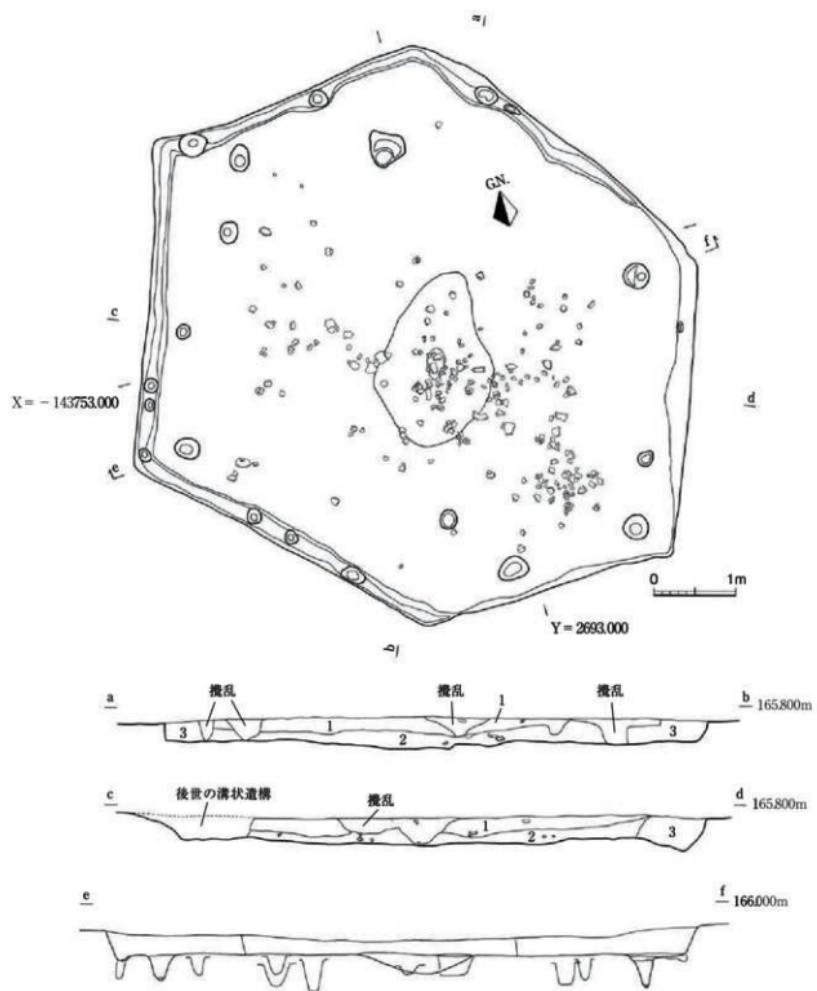
第97図 25号竪穴出土遺物②



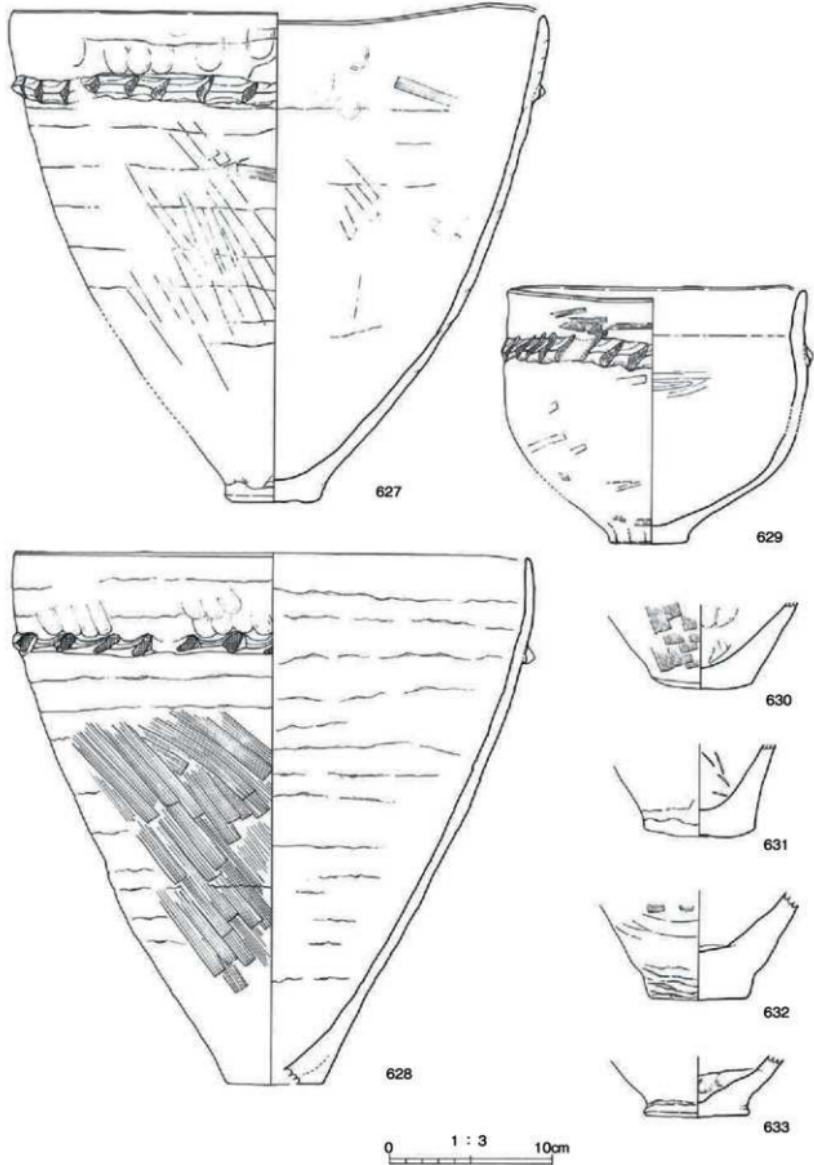
第98図 26号竪穴出土遺物



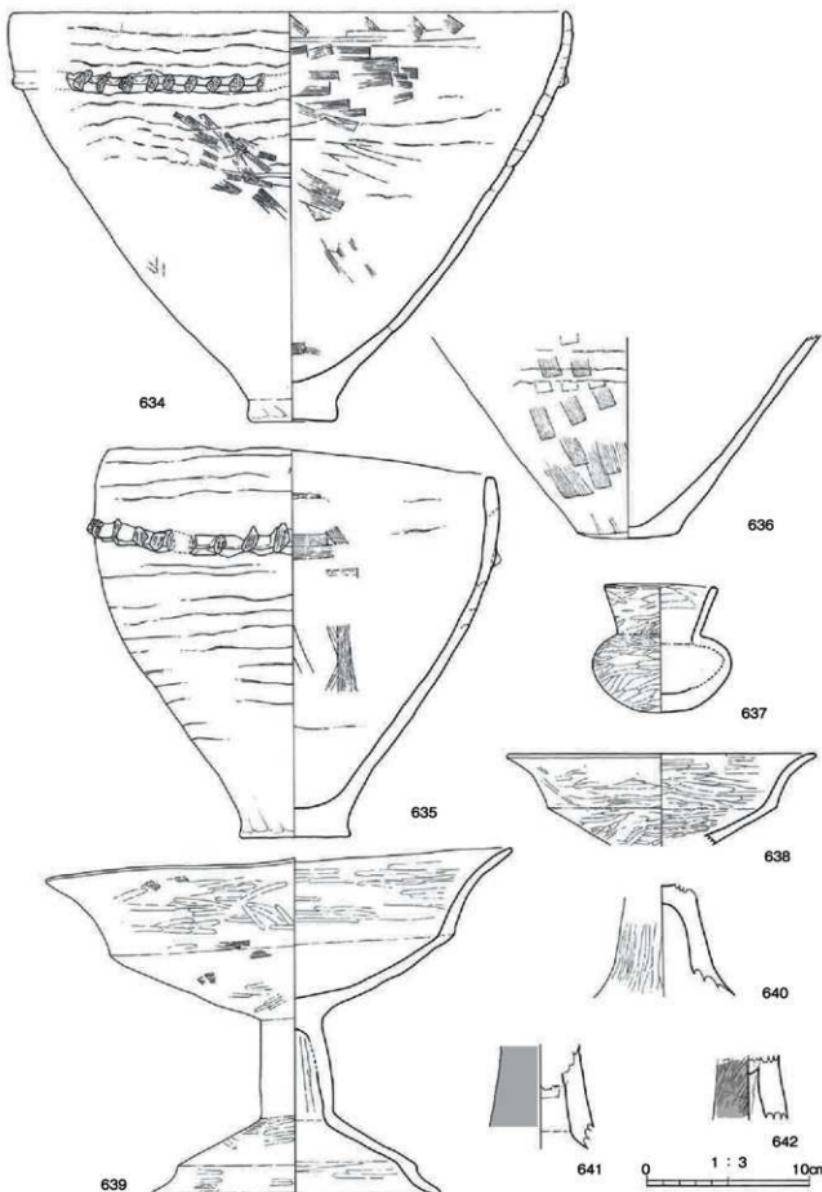
第99図 27号竪穴出土遺物



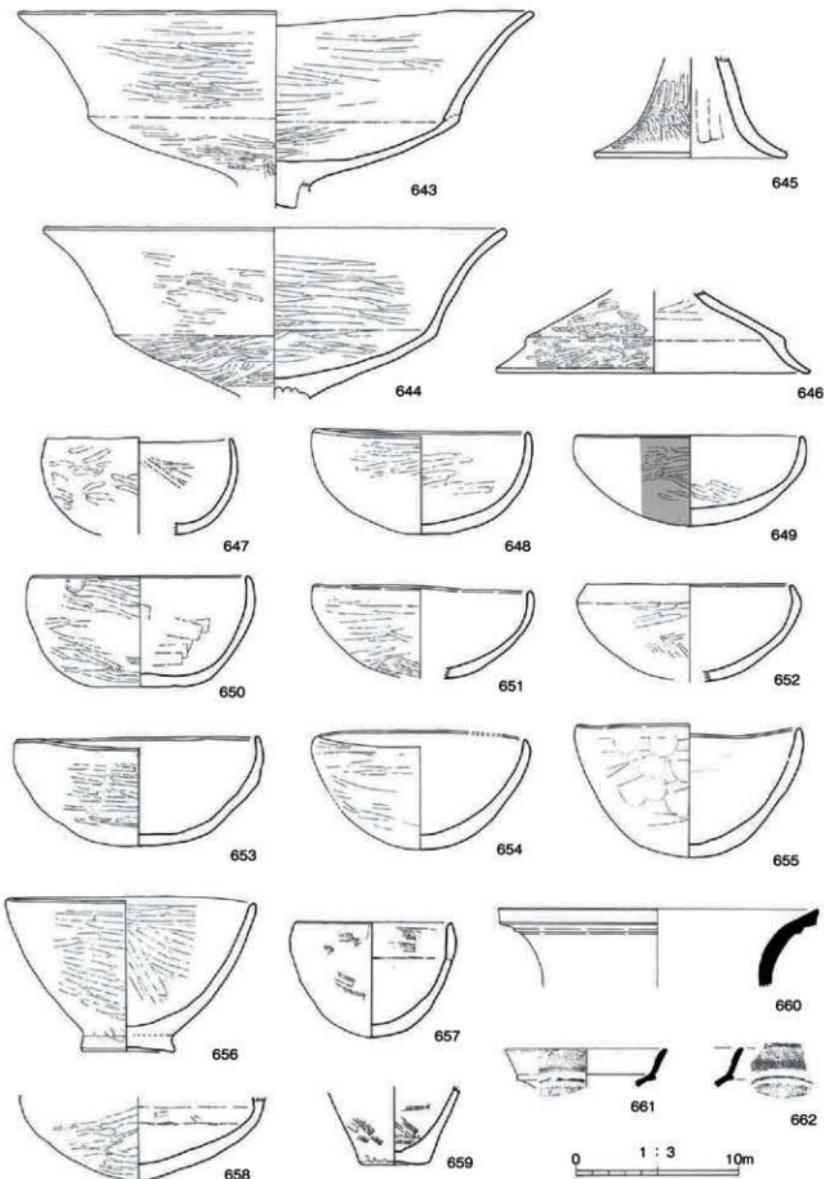
第100図 28号竖穴建物跡 (S = 1/60)



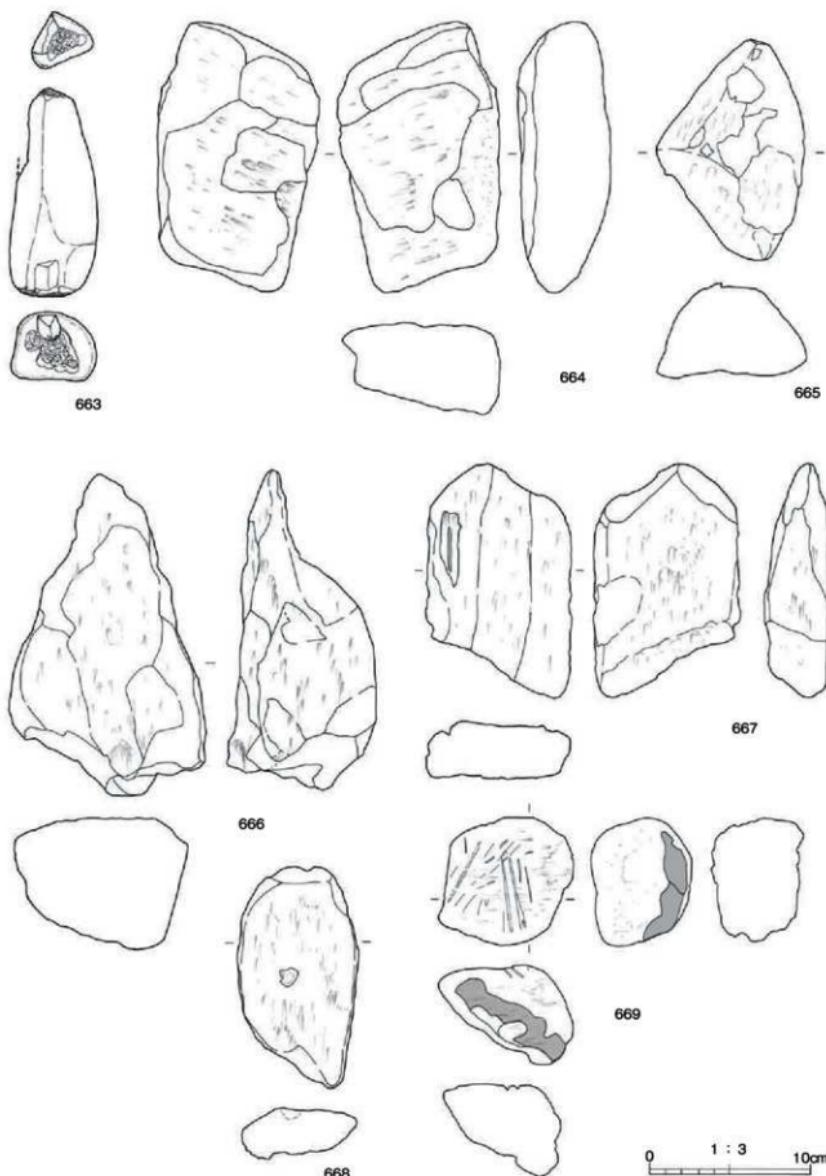
第101図 28号竪穴出土遺物①



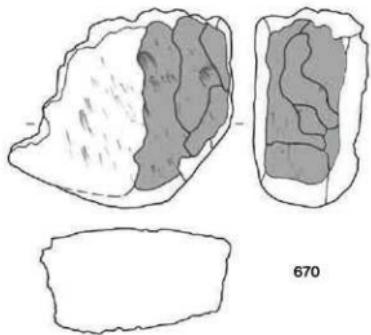
第102図 28号竪穴出土遺物②



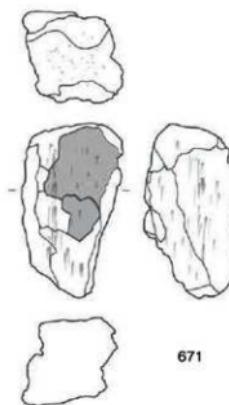
第103図 28号竪穴出土遺物③



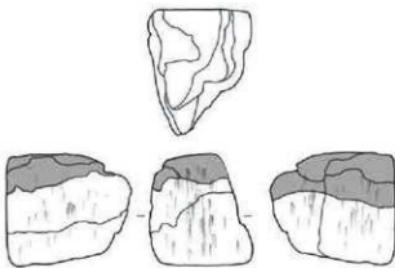
第104図 28号竪穴出土遺物④



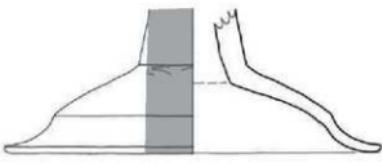
670



671



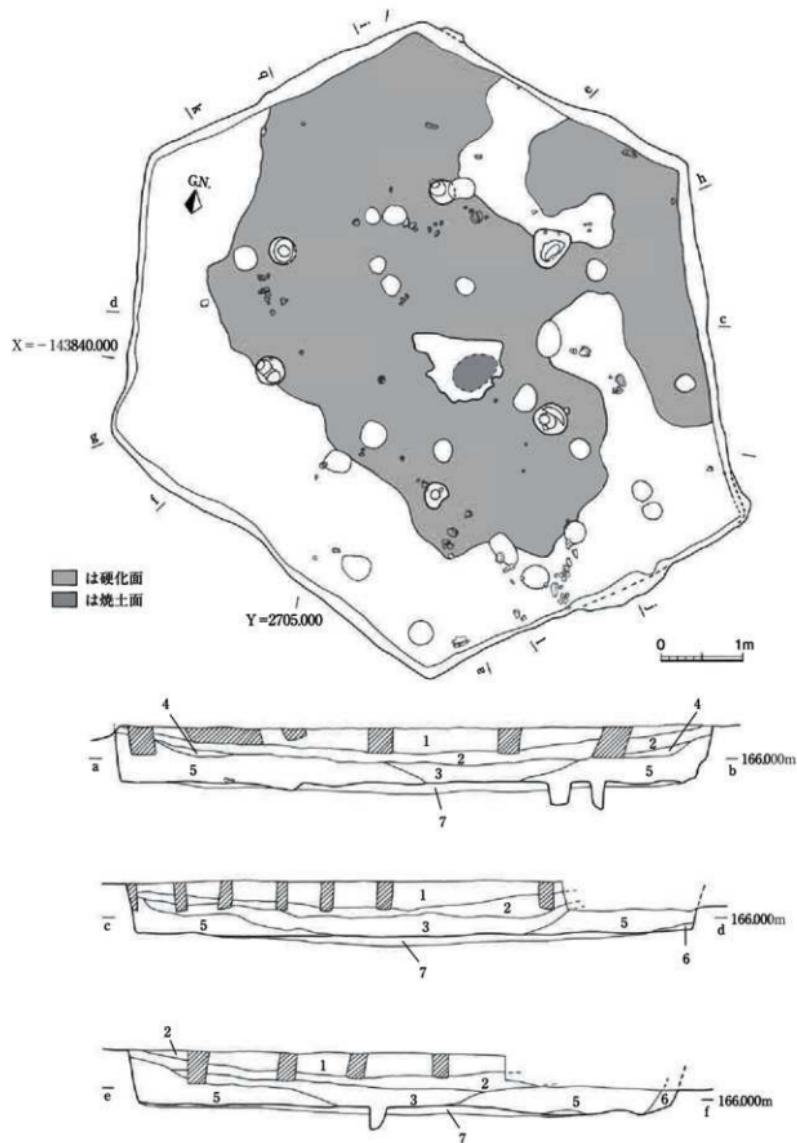
672



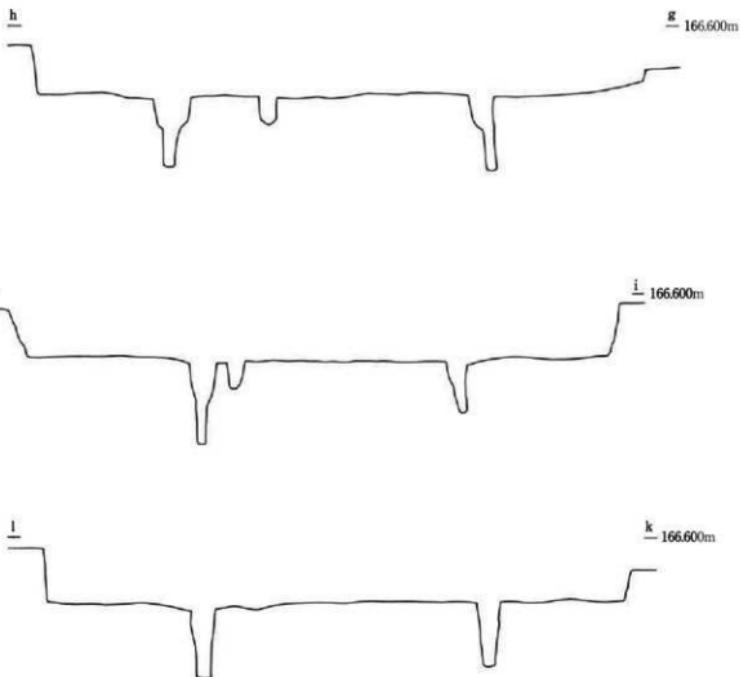
673

0 1 : 3 10cm

第105図 28号竪穴出土遺物⑤



第106図 29号竖穴建物跡① (S = 1/60)



- 1 基本土層Ⅲ層と同じ。
- 2 基本土層Ⅳ層と同じ。
- 3 黒色土 (Hue 10YR 2/2) 径 5 mm以下の御池ボラ粒を 5 %ほど含む。しまりが弱い。
- 4 黒色土 (Hue 1.7YR 2/1) 径 3 mm以下の御池ボラ粒を 2 %ほど含む。しまりが非常に弱い。
- 5 黒色土 (Hue 10YR 2/1) 径 8 mm以下の御池ボラ粒を 10%ほど含む。しまりが弱い。
- 6 黒色土 (Hue 10YR 2/1) 径 5 mm以下の御池ボラ粒を 7 %ほど含む。御池ボラブロックが混ざる。
- 7 基本土層Ⅲ～Ⅳ層の混成土。貼床を成す。

第107図 29号竪穴建物跡② (S = 1/60)

出土遺物は、壺・高壺・壺などの土師器類があるのみで、比較的少ない。時期は高壺の形状から中村3期、今塩屋・松永4~5期あたりと考えられ、概ね5世紀の末葉あたりであろう。

27号竪穴建物（遺構：第94図 出土遺物：第99図619~626）

A区の南側で検出された東西2.7m、南北3.0mの小型の竪穴建物である。主柱穴は2本で壁溝、貼床などは施されていないが壁際を除いて床面は硬化している。固化されていないが調査担当者のメモ書きによると建物内に炉跡があつたらしい。

出土遺物は、壺や高壺などの土師器類が出土しているが、全体に量は少ないようだ。高壺の形状から時期は中村3期、今塩屋・松永4~5期、5世紀の末葉前後と考えていいだろう。

28号竪穴建物（多角形竪穴建物 遺構：第100図 出土遺物：第101図・第102図・第103図・第104図・第105図627~673）

A区の北側や東寄りで検出されたやや歪な六角形の竪穴建物である。最短の一辺が3.3m、最長の一辺が4.6mを測り、平均すると一辺約3.9mとなる。床面中央には長軸2.2m程度の楕円形の窪みがあり、柱穴は六角形の各頂点に対し1本、計6本が掘られていたようである。壁溝は南壁・南東壁を除いた各壁沿いにあり、壁溝内には不均一な間隔で小ピットが穿たれている。土層断面図をみると貼床は施されていなかったようである。床面に硬化した部分も確認されていない。なお、床面の総面積は32.2m²を測る。

出土遺物は、櫛・小型丸底壺・高壺・壺などの土師器類、櫛・鷺などの須恵器片、敲石、加工痕のある輕石のほか、高壺の転用羽口などが出土している。時期は、高壺の形状からは中村3期、今塩屋・松永4期に位置づけることができ、5世紀の後葉前後の時期と考えられる。出土した須恵器片はやや古手の様相を示すが、小片であり埋没時の混入と判断した。

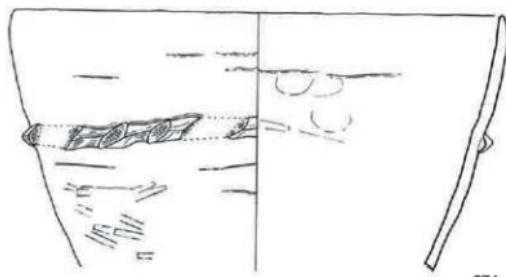
29号竪穴建物（多角形竪穴建物 遺構：第106図・第107図 出土遺物：第108図・第109図・第110図674~707）

A区の南側や西寄りで検出されたやや歪な六角形の竪穴建物である。最短の一辺が3.6m、最長の一辺が5.0mを測り、平均一辺約3.6mとなる。床面中央には焼土が検出されているが、その周囲に掘り込みなどはない。柱穴は各頂点に対応する形で6本あり、壁溝はない。西・南・南東壁際以外の床面が硬化しており、土層断面ではほぼ全面に貼床が確認されている。

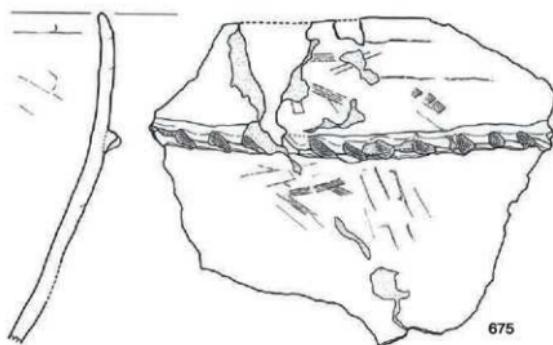
出土遺物は、櫛・壺・高壺・壺・鉢などの土師器類のほか縄の羽口、鐵滓、敲石、砥石などが出土している。砥石には鋭い条痕が残るものがある。時期は中村3期、今塩屋・松永4期に位置づけられ28号とほぼ同時期の建物と考えられる。

30号竪穴建物（多角形竪穴建物 遺構：第111図 出土遺物：第112図・第113図708~721）

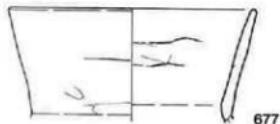
A区の北側、東壁にほぼ接して確認された五角形の竪穴建物である。最短の一辺4.5m、最長の一辺が5.1mを測り、5辺の平均は約4.8mである。平面図から受ける印象ではほぼ正五角形にみえる。床面中央と中央よりやや南西寄りの2箇所に焼土を含む浅い窪みがある。柱穴は各頂点に対応し5本あり、壁



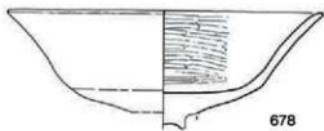
674



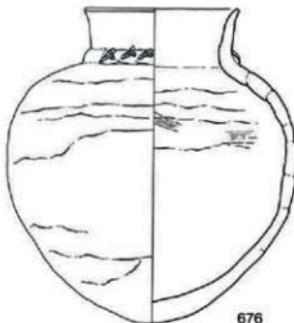
675



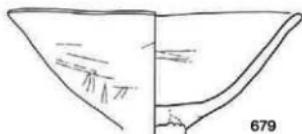
677



678



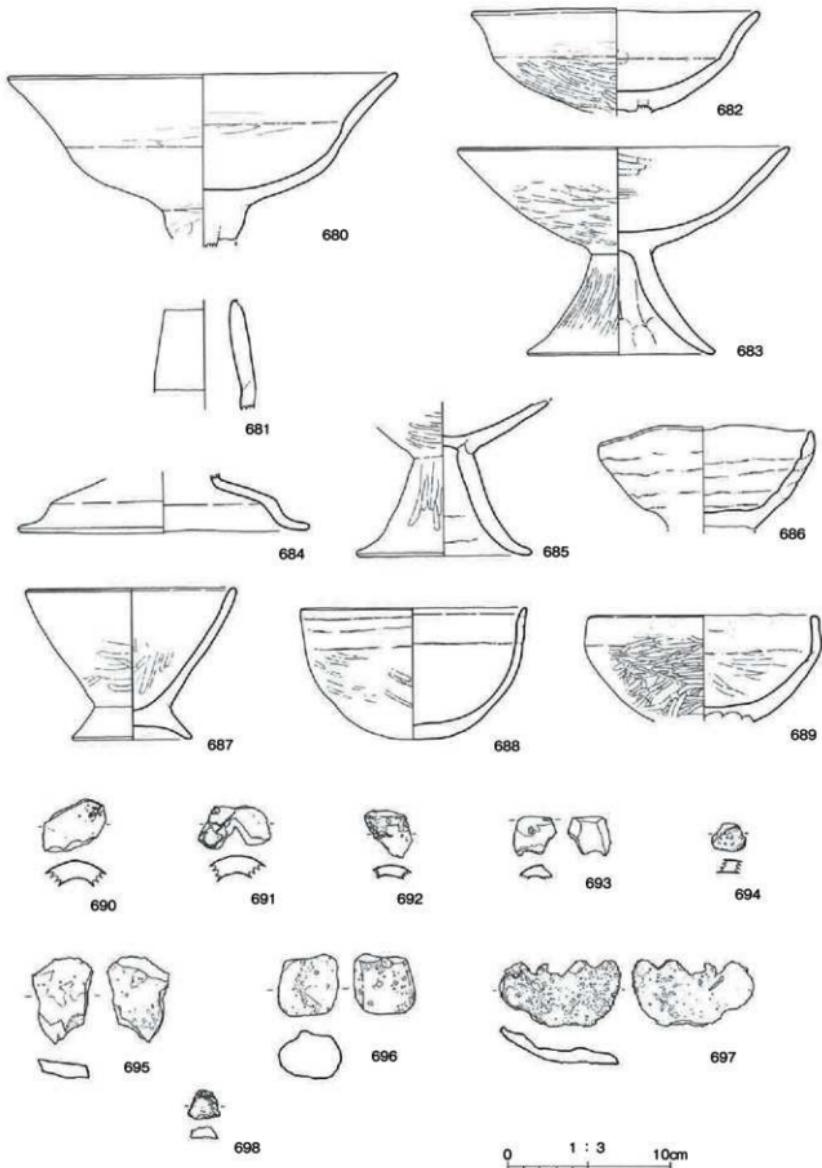
676



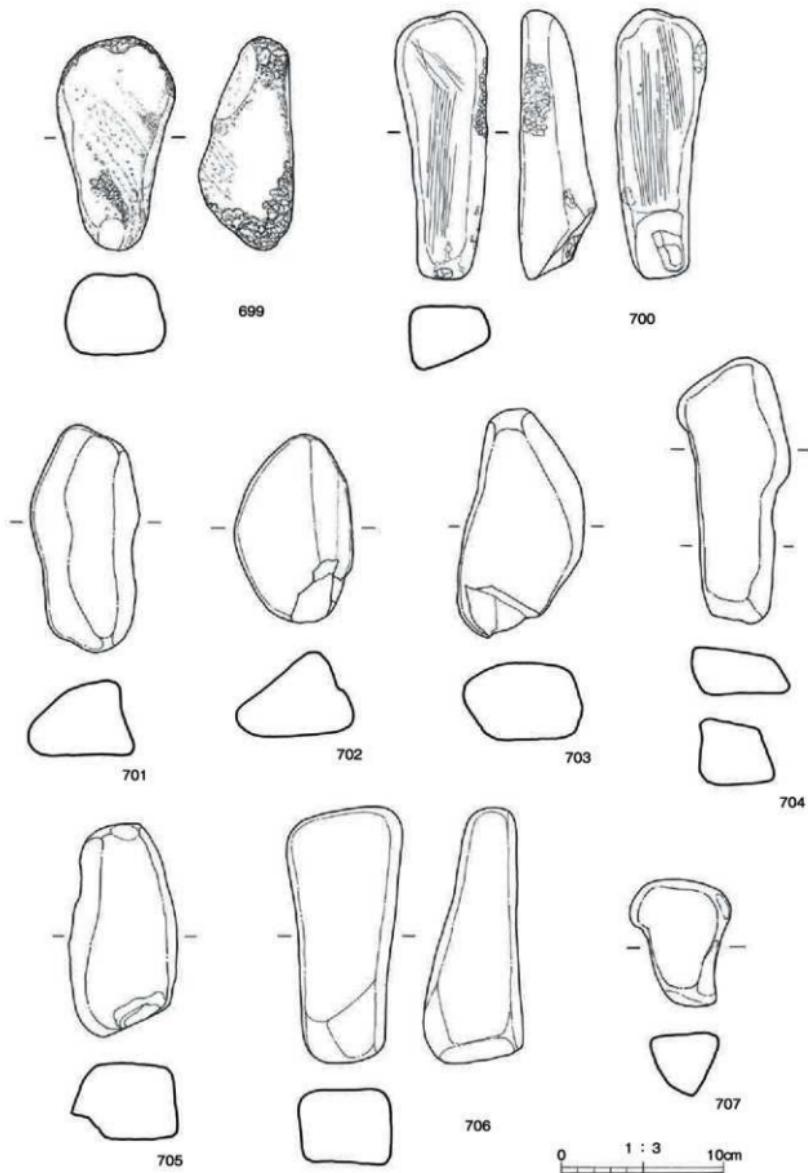
679

0 1 : 3 10cm

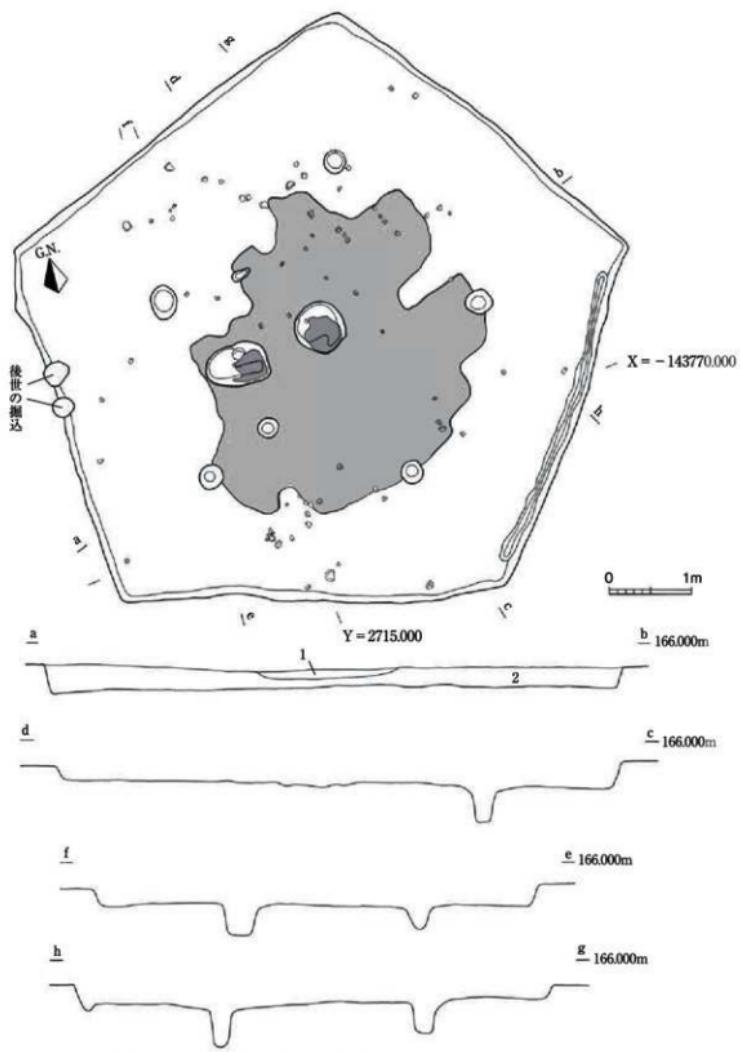
第108図 29号竪穴出土遺物①



第109図 29号竖穴出土遺物②

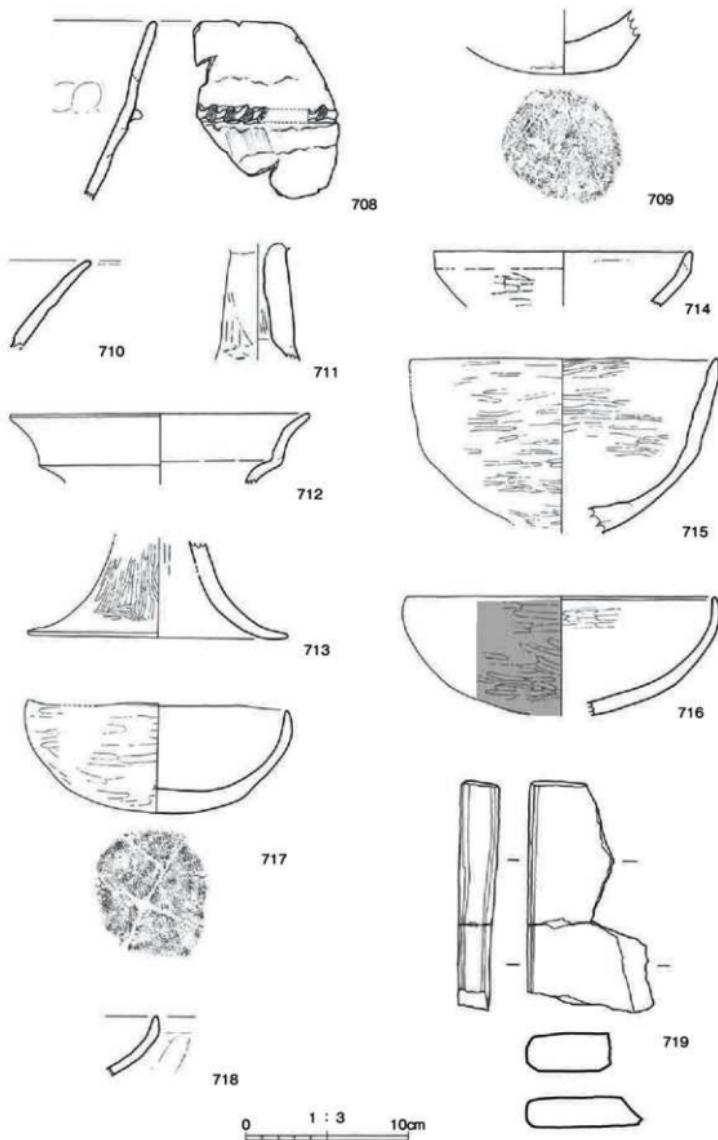


第110図 29号竪穴出土遺物③

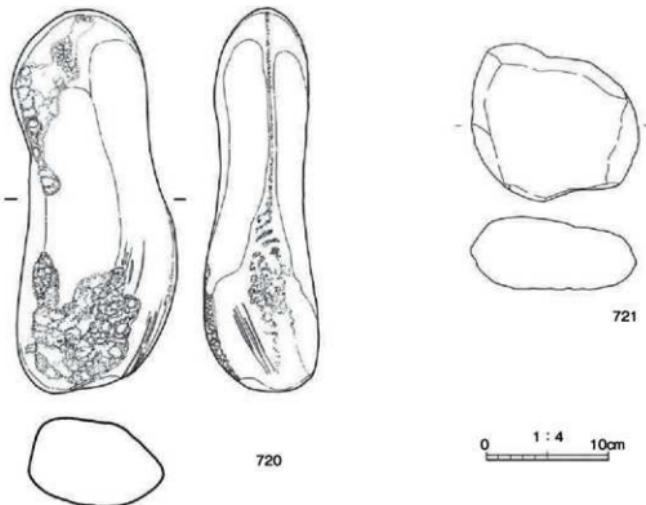


- 1 黒色土 (Hue 10YR 1.7/1) 径 1cm以下の御池ボラ粒を含む。
- 2 黒色土 (Hue 10YR 1.7/1) 径 1cmよりやや明るい。径 1cm以下の御池ボラ粒が多く混ざる。

第111図 30号竪穴建物跡 (S = 1/60)



第112図 30号竪穴出土遺物①



第113図 30号竪穴出土遺物②

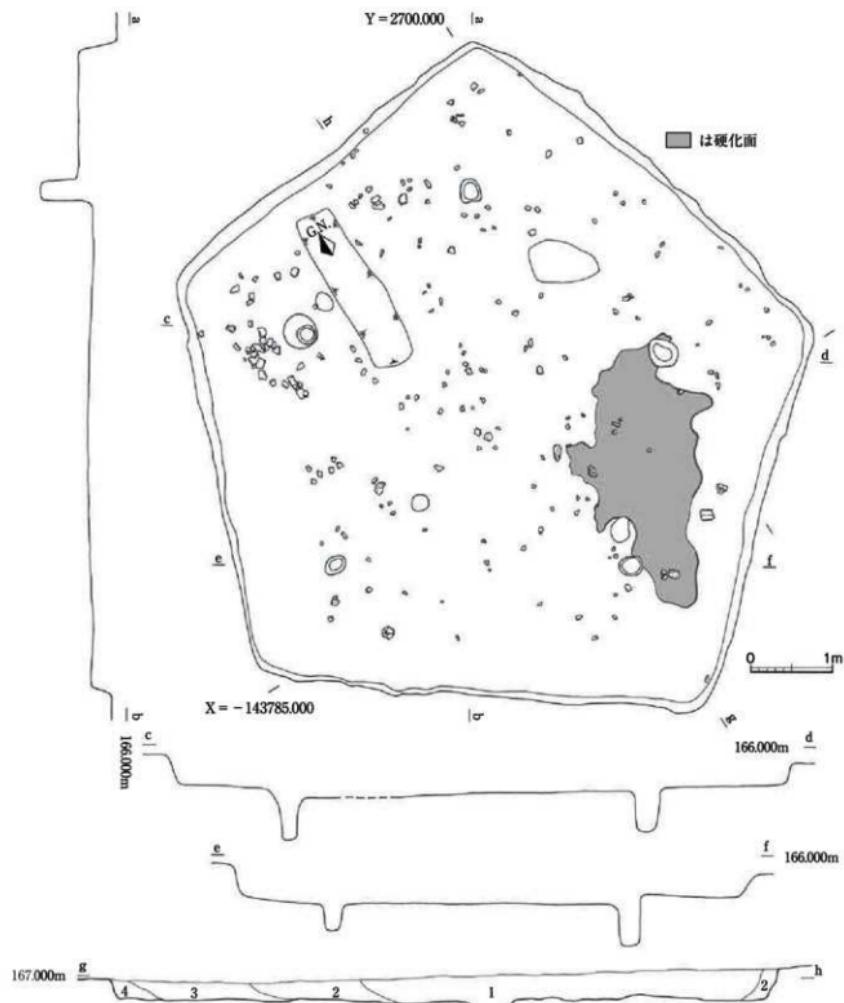
溝は南東壁にのみ確認できる。主に5本の柱穴で囲まれた範囲の床面が硬化しているが、土層断面で確認する限りでは貼床は施されていない。

出土遺物は、甕・壺・高杯・杯などの土師器、砥石、軽石などのほか、詳細は不明だが鉄、ベンガラ塊が出土したと調査者の記録にあり、これについては自然科学分析を行っている（第IV章参照）。砥石のうち大型の720は研面が赤変しており、部分的に敲打痕が確認できる。時期は、複合口縁壺が古い様相を示すが破片資料であり埋没過程での流入と判断し、その他の良好な状態の遺物から概ね今塩屋・松永6期、中村4期に相当し6世紀の中葉頃と考えたい。

31号竪穴建物（多角形竪穴建物 遺構：第114図 出土遺物：第115図・第116図722～749）

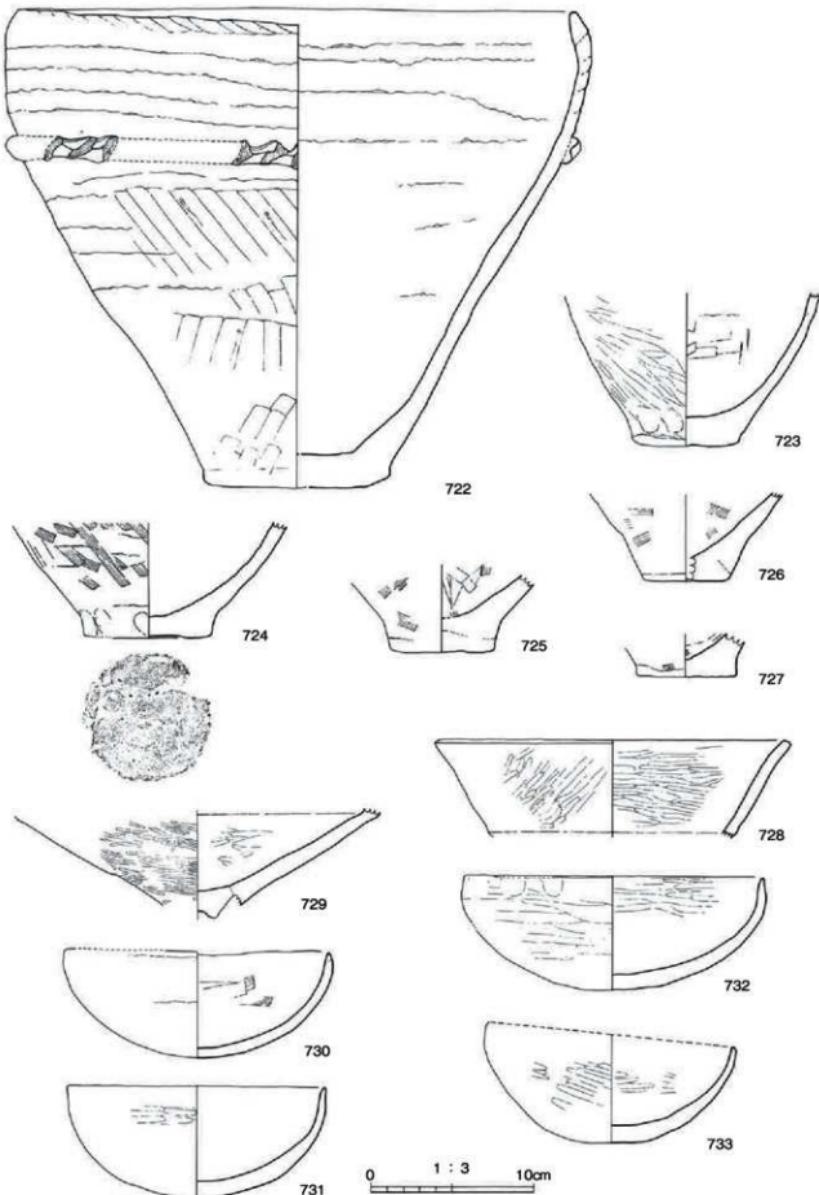
A区の中央、やや北寄りで確認された五角形の竪穴建物である。最長の一辺は5.5m、最短の一辺は4.7mで5辺の平均長は約5.0mとなる。平面形の印象はほぼ正五角形である。柱穴は各頂点に対応し5本穿たれており、壁溝はない。南東側の2本の柱穴間に硬化面が確認できるが、土層断面図をみる限り貼床は施されていない。

出土遺物は甕・壺・高杯・杯などの土師器類、甕の羽口、鉄滓、砥石ほか、弥生時代のものと考えられる磨製石器が出土している。また、調査者の記録にはベンガラ塊が多く出土したとあり、これについては自然科学分析を行っている（第IV章参照）。時期は、甕や杯の形状から今塩屋・松永6期、中村4期に相当し、30号竪穴建物と大きな時期差はないようである。

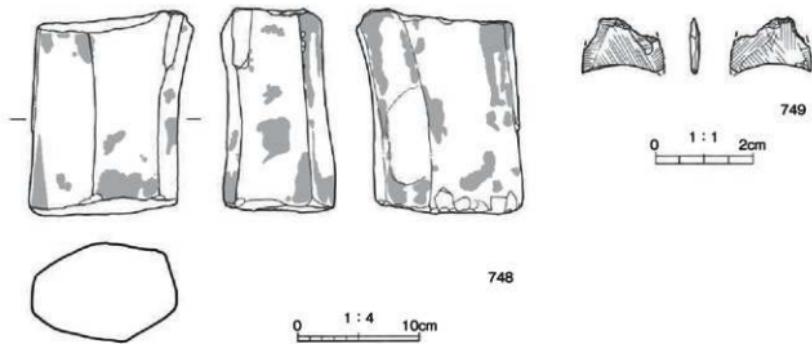
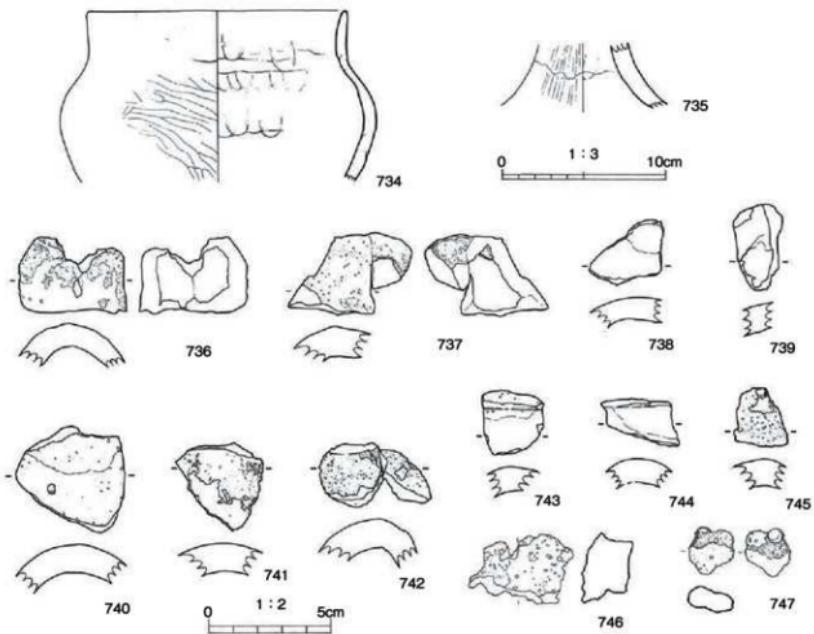


- 1 暗褐色土 (Hue 10YR 3/3) 径8mm以下の御池ボラ粒を10%ほど含む。
- 2 黒褐色土 (Hue 10YR 3/2) 径5mm以下の御池ボラ粒を5%ほど含む。
- 3 黑褐色土 (Hue 10YR 3/1) 径2mm以下の御池ボラ粒を30%ほど含む。
- 4 黑褐色土 (Hue 10YR 3/1) 径2mm以下の御池ボラ粒を3%ほど含む。

第114図 31号竪穴建物跡 (S = 1/60)



第115図 31号竖穴出土遺物①



第116図 31号竪穴出土遺物②

2 土坑

平峰遺跡の1次・2次調査では、古墳時代のものと考えられる土坑状の遺構が2基確認されている。いずれも歪な長方形で、検出面からの深さも浅い。以下、古墳時代の土坑について記述する。

4号土坑（遺構：第117図 出土遺物：第118図・第119図750～762）

B区の南やや西寄り、6号および7号竪穴建物の間で確認された南北2.8m、東西2.4mを測るやや歪な長方形をした土坑である。床面は壁面際を除くほぼ全面が硬化している。

出土遺物は、甕・高坏などの土師器類、大型の輪の羽口、軽石などのほか、弥生土器の高坏脚柱部を転用した羽口、おそらく近代の筆写用石版（第118図760）の破片と考えられるものなども出土している。高坏などは今塩屋・松永4期、中村2期～3期あたりに位置づけ可能であろうが、前述のように混入が多く遺構の時期が確定しがたい。出土数が最も多い土師器類から古墳時代のものと判断した。

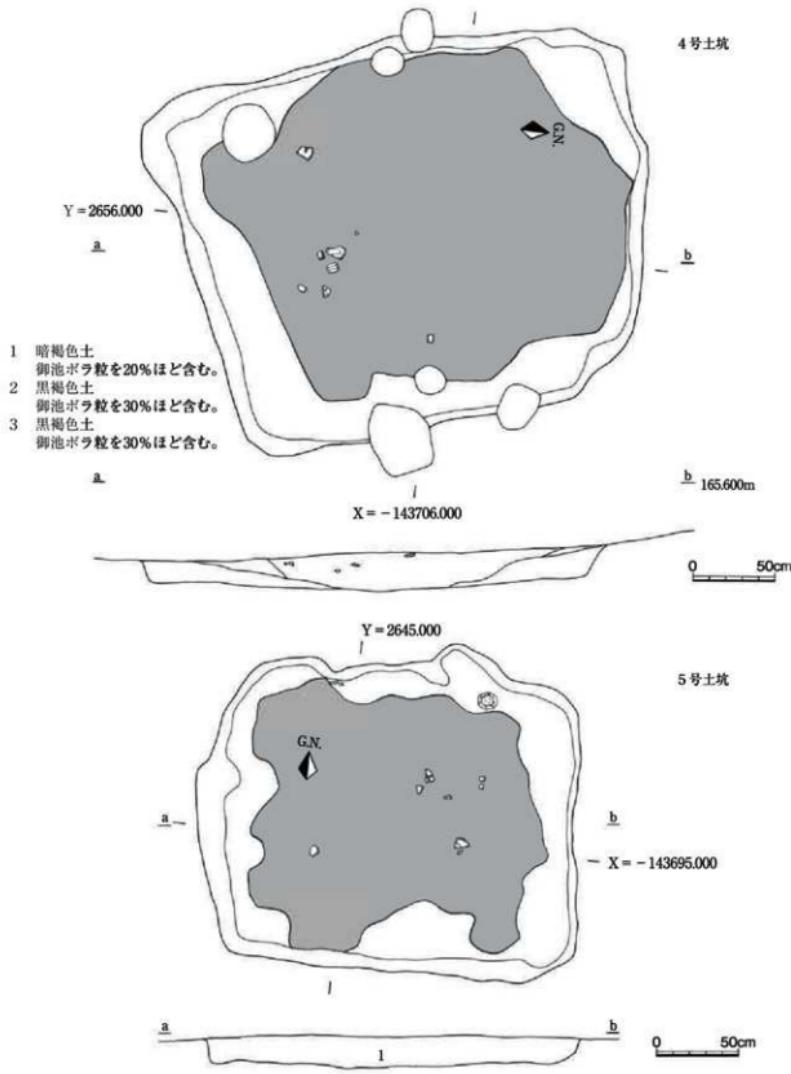
5号土坑（遺構：第117図 出土遺物：第120図763～764）

B区の西壁近く、5号竪穴建物の北で確認された南北1.9m、東西2.3mを測るやや歪な長方形をした土坑である。4号土坑同様、壁際を除く床面が硬化している。

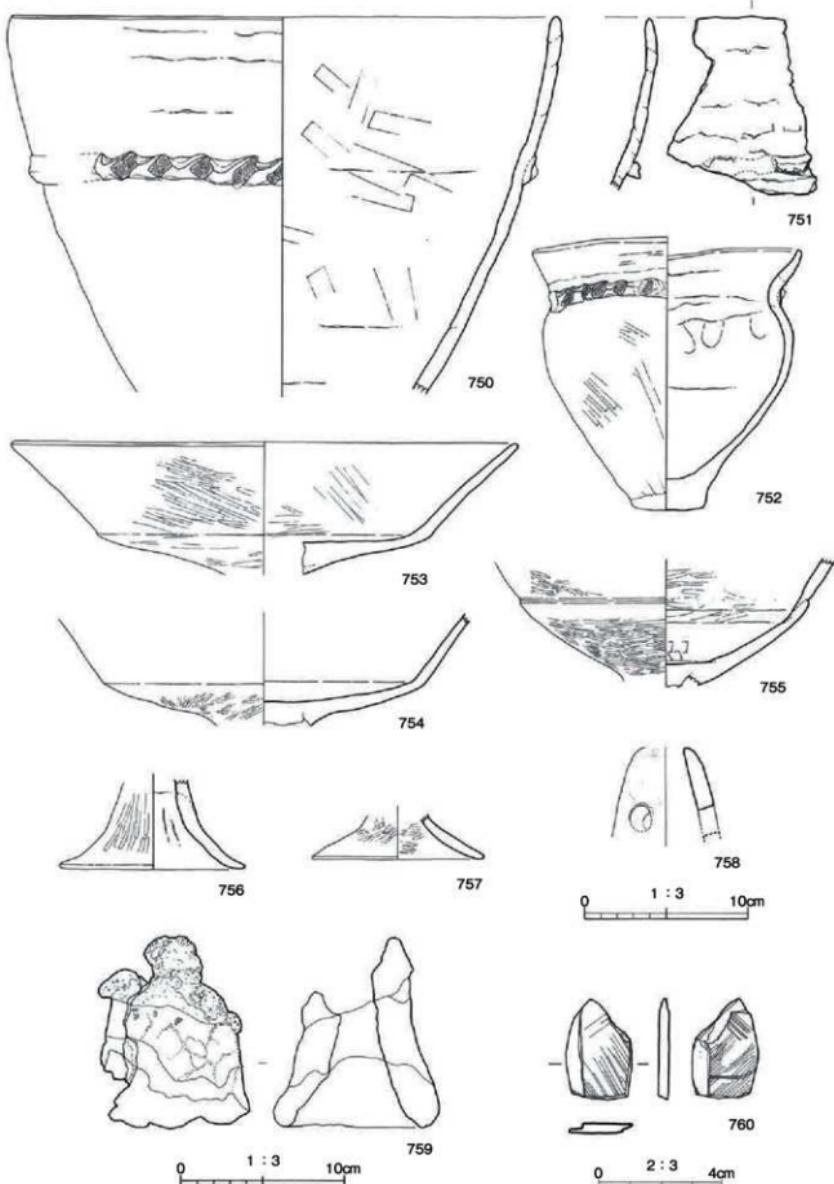
出土遺物は、壇と考えられる破片と、坏などの土師器が出土している。時期は、出土遺物も少なく断定しがたいが、中村3期の範疇で考えていよいだろう。

3 その他の遺物（第121図765～769）

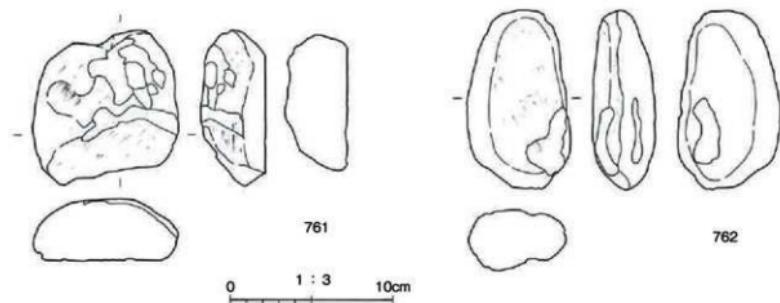
その他、遺構外から甕・高坏・坏などの破片が出土している。高坏などは大型で古手の様相をもつものなどもあり、古墳時代の初頭から集落が形成されていた可能性も示唆する。



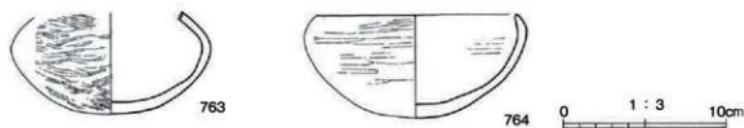
第117図 4号及び5号土坑 (S = 1/30)



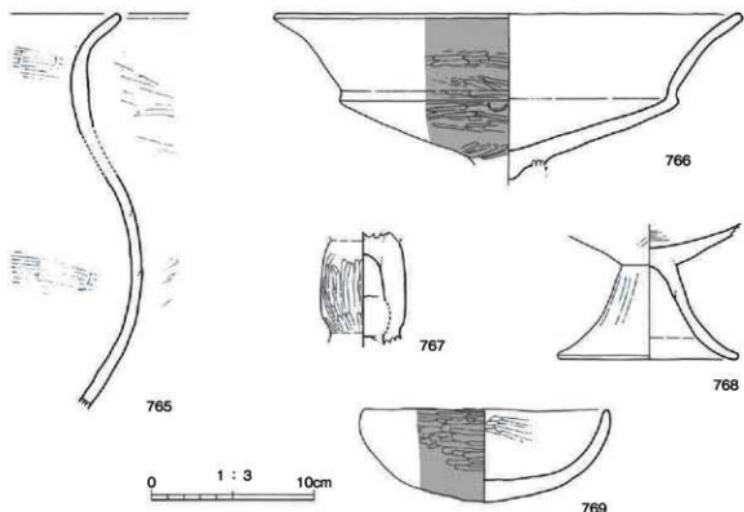
第118図 4号土坑出土遺物①



第119図 4号土坑出土遺物②



第120図 5号土坑出土遺物



第121図 遺構外出土遺物

【註】

(1) 今塙屋・松永編年と中村編年は、それぞれ違う地域を中心として編年を行っているが、一部重複する。都城盆地はそれぞれが対象とした地域からみれば縁辺となり、そのまま編年を使用することができないため、両者を参考とした。なお、それぞれの編年の対応は関係は以下のとおりである。

中村編年と今塙屋・松永編年の対関係表

年代	陶邑編年	中村編年	今塙屋・松永編年
300			1期
400	TK 73	1期	2期
	TK 216		3期
	TK 208		4期
	TK 23		
500	TK 47	3期	5期
	MT 15		
	TK 10		6期
	TK 43		7期
600	TK 209	4期	
	TK 217		8期
	TK 46		9期
700	TK 48		10期

【参考文献】

今塙屋毅行・松永幸寿2002「日向」『古墳時代中・後期の土師器- その編年と地域性-』 第5回九州前方後円墳研究会

中村直子2002「薩摩・大隅」『古墳時代中・後期の土師器- その編年と地域性-』 第5回九州前方後円墳研究会
三宮昌弘1989「初期須恵器製作集団と韓式系土器」『韓式系土器研究』Ⅱ 韓式土器研究会

第5表 古墳時代土器・土製品観察表(1)

番号	掲載図	種別	出土地点	器種	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴(混入物)	備考	
					口径	底径	器高	外面		内面			
								外面	内面	外面	内面		
45	第16回	土器器	1号墳	甕	32.0			ナデ、 刮目突彌	ナデ	灰黄褐色 (10Y R 5/2)	にぶい黄褐色 (10Y R 6/3)	5mmの灰色粒、2mmの黒色・透明 光沢粒、4mmの赤褐色・白褐色・ 褐斑・黑色粒	外面スス付着
46	#	土器器	#	甕	6.6			ハケ後ナデ、 タズリカ	指ナデ	にぶい黄褐色 (25Y R 7/3)	灰黄褐色 (25Y R 7/2)	1mm~6mmの灰褐色・にぶい褐色・灰 白色粒	
47	#	土器器	#	甕	8.7	5.2	5.4	ナデ、ナデ	ナデ	橙(25Y R 6/ 6)、にぶい黄 褐色(10Y R 7/4)	橙(25Y R 6/ 8)、淡黄(25 Y R 7/3)	3mmの黒褐色・灰白色粒	ほぼ完形
52	第18回	土器器	2号墳	甕	31.2			ナデ、 刮目突彌	工具ナデ	灰黄褐色 (10Y R 6/2)	灰黄褐色 (25Y R 6/2)	微細~4mmの橙・にぶい黄褐色・ 灰褐色・灰褐色・褐色	
53	#	土器器	#	甕	12.9			ハケ後ナデ、 刮目突彌	ナデ	浅黄褐色 (25Y R 7/3)	浅黄褐色 (25Y R 7/3)	微細~6mmのにぶい赤褐色・灰 褐色・灰白・淡黄色粒	
54	#	土器器	#	高坏	17.2			ナデ、ミガキ	ナデ	褐褐色 (10Y R 8/6)	淡黄褐色(10Y R 8/4)、にぶい黄 褐色(10Y R 7/4)	微細~1mmの透明・不透明・黑 色光沢粒、微細~1mmの黒褐色 ・黄褐色・褐色	
55	#	土器器	#	高坏				三ガキ	ハケ	にぶい赤褐色(5 Y R 5/3)、に ぶい黄褐色(5 Y R 6/4)	にぶい赤褐色(5 Y R 6/4)、に ぶい黄褐色(5 Y R 6/4)	微細~1mmの褐色・灰白・褐 及・灰褐色	
56	#	土器器	#	高坏				ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	褐色 (75Y R 4/4)	にぶい黄褐色 (10Y R 6/4)	3mmの明赤褐色粒、1mmの黒色・ 灰白色粒	
57	#	土器器	#	高坏				ミガキ、ナデ	ナデ	浅黄褐色 (25Y R 7/3)	灰黄褐色 (25Y R 6/2)	1mmの明褐色粒	
58	#	土器器	#	高坏	16.7			ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	明赤褐色 (10Y R 5/6)、橙 (75Y R 6/6)	黑(10Y R 2/ 1)、灰黄褐色 (10Y R 5/2)	微細~1mmの透明光沢・黑色光沢・ 灰色光沢・1mmの茶・灰白・5mmの茶 色粒	
59	#	土器器	#	高坏	17.6			ナデ、ミガキ	ナデ	橙(75Y R 6/ 6)、5Y R 6/6)	にぶい黄褐色 (10Y R 7/4)	微細~1mmの透明光沢・黑色光沢・ 淡黄・褐色	
63	第19回	土器器	#	高坏	17.2			ナデ	ナデ	淡黄褐色 (25Y R 6/ 3)、にぶい黄 褐色(75Y R 6/4)	にぶい黄褐色 (10Y R 7/4)	微細~1mmの褐色・茶色・透明 光沢粒	軽用羽口か
75	第21回	土器器	3号墳	甕	31.4			ナデ、 刮目突彌	ナデ	にぶい黄褐色 (10Y R 7/3)	にぶい黄褐色 (10Y R 7/4)	微細~3mmの透明・不透明・黑 色光沢粒、微細~3mmの灰褐色・ 褐斑・褐白灰・褐色	外面スス付着
76	#	土器器	#	甕				ナデ	ナデ	にぶい黄 (25Y R 6/3)	にぶい黄 (25Y R 6/3)	微細~2mmの灰褐色	
81	第4回上	土器器	4号墳					ナデ	ナデ	黑 (25Y 2/1)	にぶい黄褐色 (10Y R 5/4)	4mmの黒褐色・灰白色	
82	#	土器器	#					ナデ	ナデ	明黄褐色 (10Y R 6/6)	にぶい黄 (25Y 6/3)	2mmの黒褐色・橙色粒、1mmの黄 色粒	
83	第24回下	土器器	5号墳	甕	23.5			ナデ	ナデ	にぶい橙 (75Y R 6/4)	橙 (75Y R 6/6)	2mmの乳白色粒、3~5mmの褐・ 灰色・茶色粒	外面スス付着
84	#	土器器	#	高坏	21.1			ナデ、ミガキ	ミガキ	にぶい黄褐色 (10Y R 7/4)	浅黄褐色 (5Y R 7/3)	微細~4mmの赤褐色粒、微細~1 mmの黒褐色粒、1mmの白色光沢 粒	
85	#	土器器	#	高坏	18.4			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明黄褐色 (10Y R 6/6)	にぶい黄褐色 (10Y R 7/4)	微細~1mmの灰色光沢粒、微細 な黒褐色粒、微細~1mmの橙色 粒	
86	#	土器器	#	高坏				ミガキ	ミガキ	にぶい橙 (75Y R 7/4)	にぶい黄褐色 (10Y R 7/3)、橘色 (10Y R 6/1)	微細~1mmの透明光沢・黑色光 沢・茶・乳白色粒	
87	#	土器器	#	高坏	14.2			ミガキ後ナデ	ナデ	橙(75Y R 6/ 6)、にぶい黄 褐色(10Y R 7/4)	橙 (75Y R 6/6)	微細~2mmの黒褐色・淡黄・灰 白・黑色光沢粒	
88	#	土器器	#	高坏	16.2			ミガキ後ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 (10Y R 7/2)	灰黄褐色 (25Y R 7/2)	微細~3mmの灰黄・灰褐色・灰白 色粒	
92	第26回	土器器	6号墳	甕	24.8			ナデ、 刮目突彌	ナデ	にぶい黄褐色 (10Y R 7/3)	にぶい黄褐色 (10Y R 7/4)	1mm~4mmの灰褐色・褐灰色・ 橘色・1mm~3mmの黒褐色粒	外面スス付着
93	#	土器器	#	甕	23.6			ナデ、 刮目突彌	ナデ	にぶい黄褐色 (10Y R 6/4)	にぶい黄褐色 (10Y R 6/4)	5mmの灰褐色粒、2mmの灰白色粒	外面スス付着
94	#	土器器	#	甕	6.0			ナデ	ナデ	橙 (75Y R 6/6)	にぶい黄褐色 (10Y R 7/4)	2mmの褐色粒、1mmの乳白色粒	外面・剥落部 分が多い、全体に黒化。
95	#	土器器	#	甕か壺	12.6			ナデ、 刮目突彌	ナデ	明黄褐色 (25Y 6/6)	明黄褐色 (25Y R 6/6)	4mmの明褐色粒、橘色・茶色粒、3mm の黑色光沢・透明光沢粒	
96	#	土器器	#	甕	5.4			ナデ	ナデ	浅黄褐色 (25Y R 7/3)	にぶい黄褐色 (10Y R 6/4)	2mmの黑色光沢・4mmの暗赤色・ 橘灰色	
97	#	土器器	#	甕	3.1			ナデ	ナデ	明黄褐色 (10Y R 6/4)	明黄褐色 (25Y R 7/6)	2mmの黑色光沢・にぶい赤褐色・ 橘灰色	

第5表 古墳時代土器・土製品観察表(2)

番号	掲載図	種別	出土地点	器種	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴(混入物)	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
98	第26図	土器器	6号墳	高坏	26.4		ナデ、ミガキ	ミガキ、ナデ	楕(7.5YR 7/6), にぶい黄(10YR 8/3)	楕(7.5YR 6/6)	微細な無色透明光沢沢、1mmの灰褐色粒、4mmの茶褐色粒		
99	#	土器器	#	高坏	21.6		ナデ、ミガキ	ナデ	崩赤褐(2.5YR 5/8)	崩赤褐(5YR 5/8)	5mmの茶色粒		
100	#	土器器	#	高坏	20.8		ナデ	ナデ	浅黄褐(7.5YR 8/4)	にぶい黄褐(10YR 7/3)	2.5mmの灰褐色・茶褐色・灰白色粒、5mmの黄褐色粒	全体的に風化	
101	#	土器器	#	高坏			ナデ	ナデ	楕(7.5YR 7/6)	浅黄(2.5YR 7/4)	3mmの暗色・灰白色粒、微細な黒色光沢・透明光沢粒		
102	#	土器器	#	高坏	13.2		ナデ、ミガキ	ナデ	楕(7.5YR 6/6)	にぶい黄褐(10YR 6/4)	1mmの赤褐色粒、微細な黑色透明光沢沢		
103	#	土器器	#	高坏	10.4		ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい黄褐(10YR 7/4)	にぶい黄褐(10YR 7/4)	微細・1mmの透明光沢・黒色光沢・淡黄色粒		
104	#	土器器	#	高坏	10.4		ミガキ、ナデ	ナデ	楕(7.5YR 6/8)	明褐(7.5YR 5/8)	4mmの乳白色粒、3mmの透明光沢・微細な黄色味のある胚土粒、2mmの黒褐色粒		
107	第28図	土器器	7号墳	備	27.4	6.95	28.55	ナデ、 剣目突窓	ナデ	楕(7.5YR 7/6)	楕(5YR 6/6)	5mmの灰褐色粒、3mmの灰褐色・黑色光沢沢、微細な透明光沢沢	充形、 外側スリット付
108	#	土器器	#	備	25.2		ナデ、 剣目突窓	ナデ	にぶい黄褐(10YR 6/4)	にぶい黄褐(7.5YR 6/4)	1mm~2mmの灰白色粒、1mm~7mmの黒色・にぶい赤褐・淡灰色・1mmの茶褐色・微細な透明光沢沢	外側スリット付	
109	#	土器器	#	備	22.6		ナデ、 剣目突窓	ナデ	にぶい黄褐(10YR 6/4)	にぶい褐(7.5YR 5/4)	3mmの灰白色・黒色粒、5mmの暗褐色粒	#	
110	#	土器器	#	備	22.9		ナデ、 剣目突窓	ナデ	にぶい黄褐(10YR 7/3)	にぶい黄褐(10YR 7/3)	2mmの黒色光沢粒、5mmの灰褐色粒、2mmの暗褐色粒	#	
111	第29図	土器器	#	備	28.8		ナデ、 剣目突窓	ナデ	浅黄褐(7.5YR 8/6), 灰黄(7.5YR 5/1)	楕(7.5YR 7/6)	7mmの場所粒、3mm以下の黒色・透明光沢・灰褐色粒		
112	#	土器器	#	壺	19.8		ナデ、 剣目突窓	ナデ	黄褐(10YR 8/6)	明褐(10YR 7/6)	3mmの黒色光沢粒、4mmの褐色粒・乳白色粒		
113	#	土器器	#	高坏	19.8		ナデ	ナデ	楕(7.5YR 7/6)	明褐(10YR 7/4)	2mmの褐色粒		
114	#	土器器	#	高坏	28.0		ナデ、ミガキ	ナデ	楕(5YR 6/6)	明褐(10YR 6/6)	2mmの褐色粒		
115	#	土器器	#	高坏	13.5		ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	崩褐(7.5YR 8/6), 明褐(10YR 6/4)	楕(7.5YR 6/6)	微細・1mmの灰・黒色光沢・透明光沢・淡黄色粒		
116	#	土器器	#	高坏	15.4		ミガキ	ナデ	楕(7.5YR 6/6)	にぶい黄褐(10YR 6/4)	微細な黒色光沢・透明粒、1mmの暗褐色・にぶい赤褐色		
117	#	土器器	#	高坏	15.8		ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	楕(5YR 6/8)	楕(5YR 6/8)	2mmの光沢粒、3mmの黒色光沢粒、5mmの褐色粒		
118	#	土器器	#	壺	13.9	8.0	ナデ、ミガキ	ミガキ、ナデ	にぶい黄褐(10YR 7/4), 極(7.5YR 6/6)	にぶい黄褐(10YR 7/4), 極(7.5YR 7/4)	微細・1mmの透明光沢・黒色光沢・灰・灰褐色		
122	第31図	土器器	8号墳	備	26.8		ナデ、 剣目突窓	ナデ	浅黄褐(7.5YR 8/4)	楕(5YR 8/4)	微細な黑色粒、3mmの褐色・灰色・黑色光沢粒	外側スリット付	
123	#	土器器	#	備	31.8		ナデ、 剣目突窓	ナデ	にぶい褐(7.5YR 7/4)	にぶい褐(10YR 7/4)	7mmの灰褐色粒、5mmの褐色粒	#	
124	#	土器器	#	備	25.4		剣目突窓、 ハケ	ハケ、ナデ	にぶい黄褐(10YR 7/4), 黄褐(10YR 6/4), 黑褐(10YR 3/2)	にぶい黄褐(10YR 6/4), 黑褐(10YR 3/2)	3mmのにぶい褐色粒、4mmの褐色・黑色・微細な透明光沢沢	#	
125	#	土器器	#	備			ナデ、 剣目突窓	ナデ	浅黄(2.5YR 7/3)	浅黄(2.5YR 7/3)	微細・3mmの灰白・灰黄・褐色	#	
126	#	土器器	#	備	7.4		ナデ	ナデ	にぶい黄褐(10YR 7/3)	にぶい黄褐(10YR 7/3)	微細・5mmの灰白・褐色	底面に輪状の接合痕	
127	#	土器器	#	備	6.2		ナデ	ナデ	にぶい黄褐(10YR 6/3)	黑褐(10YR 3/1)	微細な白色粒・赤褐色の小礫		
128	#	土器器	#	小形壺	8.0		ミガキ、ナデ	ナデ	楕(5YR 6/6)	楕(5YR 6/6)	2mmの灰白・褐灰・灰褐色・黑色光沢・5mmの赤褐色・5mmの褐色粒		
129	第32図	土器器	#	高坏	19.7		ナデ	ナデ	にぶい黄褐(10YR 6/2), にぶい黄褐(10YR 7/2), 黄褐(10YR 6/2)	にぶい黄褐(10YR 6/2)	1mmの透明・黒色光沢沢、2mmの灰・褐灰色粒、6mmの褐色粒		
130	#	土器器	#	高坏	17.0		ハケ、ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	微細な灰褐・5mmの灰・黒・灰白色粒		

第5表 古墳時代土器・土製品観察表(3)

番号	掲載図	種別	出土地点	器種	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴(混入物)	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
131	第32回	土器器	8号墳	高坏	17.2		ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐色 (5YR 5/8)	暗(7.5YR 7/6), 暗(7.5YR 6/6)	1mmの黒・暗灰・褐色粒, 2mmの透明・不透明黒色光沢粒, 3mmの灰黃褐色粒		
132	#	土器器	#	高坏	16.7	12.15	ナデ、ミガキ	ナデ	漆器 暗(7.5YR 6/6), 漆器 (7.5YR 7/6)	漆器 暗(7.5YR 7/6), 漆器 (7.5YR 6/6)	微細な透明白沢・黒色光沢・灰色粒, 1mmの黑色光沢・茶色粒		
133	#	土器器	#	高坏			ミガキ、ナデ	ミガキ	暗 (5YR 7/8)	暗 (7.5YR 7/6)	微細な乳白色・褐色・透明白沢粒, 3mmの褐色・乳白色・灰色・黑色粒		
134	#	土器器	#	高坏			ナデ	ナデ	にぶい暗 (7.5YR 6/4)	にぶい暗 (10YR 7/2)	微細・3mmの褐色・灰黃褐色粒		
135	#	土器器	#	壺	8.4		ナデ	ナデ	にぶい暗 (7.5YR 6/4)	にぶい暗 (10YR 6/4)	微細・1mmの透明白・黑色光沢粒, 4mmの褐色・灰褐色		
136	#	土器器	#	高坏	13.0		ナデ、ミガキ	ナデ	暗 (7.5YR 7/6), 明赤褐色 (10YR 7/6)	にぶい黄褐色 (10YR 7/4)	微細な透明・黒色光沢粒, 5mmの灰褐色・黒・灰白, にぶい赤褐色		
137	#	土器器	#	桶	12.7		ミガキ、ナデ	ナデ	暗 (5YR 6/6)	暗 (7.5YR 6/6)	微細・3mmのにぶい赤褐色・灰褐色, 淡黃・灰白色粒		
140	第34回	土器器	9号墳	壺	24.8		ナデ、 剥目突彌	ナデ	黒 (5YR 2/1)	暗 (7.5YR 6/6)	2mmの黒褐色・暗赤色粒, 3mmのにぶい褐色粒	外附ス付番	
141	#	土器器	#	壺			ナデ、 剥目突彌	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR 5/4)	にぶい黄褐色 (10YR 7/4), 明赤褐色 (10YR 6/2)	1mmの黄褐色粒, 5mmの暗褐色・黑色光澤粒, 2mmの褐色・褐灰色粒	#	
142	#	土器器	#	桶	13.0	2.3	7.1	ミガキ、ナデ	ナデ、ミガキ	明赤褐色 (10YR 7/6), にぶい黄褐色 (10YR 6/3)	明赤褐色 (10YR 7/6), にぶい黄褐色 (10YR 7/4)	1mmの光沢粒, 2mmの黒褐色粒, 4mmの褐色粒	
143	#	土器器	#	桶	11.6	1.7	ミガキ、ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR 7/6), にぶい黄褐色 (10YR 7/3)	にぶい黄褐色 (10YR 7/6)	2mmの光沢粒, 4mmの褐色粒	ほぼ完形	
144	#	土器器	#	鉢	7.0		ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR 7/4), にぶい黄褐色 (10YR 7/3), にぶい黄褐色 (10YR 7/4)	にぶい黄褐色 (10YR 7/4), にぶい黄褐色 (10YR 6/3), にぶい黄褐色 (10YR 7/3)	1mmの光沢粒, 2mmの明褐色粒, 3mmの赤褐色粒		
149	第36回	土器器	10号墳	壺	30.8		ナデ、 剥目突彌	ナデ	灰黃褐色 (10YR 5/2), にぶい黄褐色 (10YR 2/3)	明赤褐色 (10YR 5/2), にぶい黄褐色 (10YR 2/3)	5mmの褐色・黒褐色粒, 4mmの淡黃褐色, 2mmの淡黃褐色・黑色粒	外附ス付番	
150	#	土器器	#	壺	28.0		ナデ、 剥目突彌	ナデ	黒 (10YR 1.1/1)	にぶい黄褐色 (10YR 6/3)	7mmの黒褐色・赤褐色粒, 褐細	#	
151	#	土器器	#	壺			ナデ、 剥目突彌	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR 6/3)	にぶい暗 (7.5YR 6/4)	4mmのにぶい黄褐色粒, 微細・2mmの暗褐色・褐灰色粒, 褐細な透明・黑色光沢粒	#	
152	#	土器器	#	壺	24.8		ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR 7/2)	にぶい黄褐色 (10YR 6/3)	3mmの灰褐色・黑褐色粒, 4mmの褐色粒	#	
153	第37回	土器器	#	壺			ナデ、丁寧な ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR 7/4), 明赤褐色 (7.5YR 3/1)	にぶい黄褐色 (10YR 7/4), 明赤褐色 (7.5YR 4/2)	1mmの茶・茶・黑色光沢・淡黃・褐色粒		
154	#	土器器	#	壺	13.2		ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR 7/4)	にぶい黄褐色 (10YR 6/4)	3mmのにぶい褐色粒・赤褐色粒, 2mmの褐灰色粒		
155	#	土器器	#	鉢	15.9	4.9	14.3	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR 7/2), 黄褐色 (2.5YR 5/1)	にぶい黄褐色 (10YR 7/2), 黄褐色 (2.5YR 5/1)	6mmの黑色・褐色粒		
156	#	土器器	#	壺	7.7		ナデ	ナデ	にぶい暗 (7.5YR 6/4)	にぶい暗 (7.5YR 6/4)	6mmの黑褐色粒・にぶい黄褐色粒, 5mmの明赤褐色粒, 3mmの黑褐色粒		
157	#	土器器	#	壺	7.8		ナデ、 織縫状压痕	ナデ	にぶい暗 (7.5YR 6/4)	にぶい暗 (7.5YR 7/3)	4mmの黑褐色粒・にぶい黄褐色粒, 2mmの灰褐色粒・褐色粒		
158	#	土器器	#	壺	5.8		工具ナデ、 ナデ	ナデ	にぶい暗 (5YR 6/4)	にぶい暗 (5YR 7/4)	3mmの褐色・黑褐色粒, 2mmの灰白色粒, 1mmの透明白沢・茶・赤褐色粒		
159	#	土器器	#	壺	5.3		ナデ、 織縫状压痕	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR 7/3)	にぶい黄褐色 (10YR 7/4)	5mmの灰・暗・淡黃褐色粒, 1-3mmの灰・茶・透明白沢粒		
160	#	土器器	#	高杯	30.8	6.6	ミガキ	ミガキ	暗 (5YR 6/6)	淡黃褐色 (10YR 6/6)	3mmの赤褐色・黑色光澤粒, 1mmの光沢粒, 2mmの黑褐色粒		
161	#	土器器	#	高杯	21.0		ミガキ	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR 7/4)	にぶい暗 (7.5YR 7/4)	3mmの赤褐色・黑色光澤粒		
162	#	土器器	#	高杯	20.3		ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐色 (10YR 6/6)	明赤褐色 (10YR 8/4)	1mmの黑色光澤粒, 4mmの黄色・茶色粒		
163	第38回	土器器	#	高杯	15.2		ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐色 (10YR 6/6)	にぶい黄褐色 (10YR 5/3)	1mmの黄色光澤粒, 2mmの黑褐色粒, 3mmの明褐色光澤粒		
164	#	土器器	#	高坏			ナデ	ナデ	明赤褐色 (5YR 5/6)	暗 (5YR 6/8)	2mmの黑色光澤粒・白色粒・褐色光澤粒		

第5表 古墳時代土器・土製品観察表(4)

番号	掲載図	種別	出土地点	器種	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴(混入物)	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
165	第38回	土器器	10号墳	高坏	19.2	8.9	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙 (SYR 6/6)	橙 (SYR 6/6)	4mmの黒褐色粒、3mmの褐色粒、2mmの透明光沢粒		
166	#	土器器	#	楕	6.0		ミガキ	ナデ	赤褐色(SYR 4/8), 黑褐色(SYR 2/1)	にぶい褐色(SYR 5/4), 黑褐色(SYR 3/2)	2mmの乳白色粒、1mmの褐色粒		
167	#	土器器	#	楕	13.2	4.2	5.5	ナデ	ナデ	橙 (SYR 7/6)	明黄褐 (TOY R 7/6)	4mmの褐色砂粒	
168	#	土器器	#	楕	9.3	2.8	4.6	ナデ	ナデ	橙 (SYR 7/6)	にぶい橙 (SYR 7/4)	3mmの暗灰色粒、2mmの同褐色粒、透明粒、1mmの黑褐色粒	
173	第40回	土器器	11号墳	楕	28.9		ナデ、ハケ	ナデ、一部ハケ	明黄褐 (TOY R 7/6)	橙 (SYR 7/6)	4mmの灰褐色粒、1~3mmの褐色、灰色、黑色、乳白色粒、透明な乳白色、黑色粒		
174	#	土器器	#	楕	30.4		ナデ、剥目突審	ナデ	灰褐色 (SYR 4/1)	にぶい橙 (SYR 5/4)	3mmの灰褐色、暗褐色、1mmの黑褐色粒		
175	#	土器器	#	楕			ナデ、剥目突審	ナデ	にぶい黄褐 (TOY R 5/3)	にぶい黄褐 (TOY R 7/4)	1~3mmの黒、茶、透明粒、5mmの褐色粒		
176	#	土器器	#	壺			ハケ、ナデ、剥目突審	ナデ	にぶい橙 (SYR 7/4)	橙 (SYR 7/6)	微細~3mmのにぶい橙、にぶい赤褐、灰白、灰褐色粒		
177	#	土器器	#	高坏	10.4		ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	橙 (SYR 6/6)	橙 (SYR 6/6)	微細~3mmのにぶい橙、橙、黑褐、灰白色粒		
178	#	土器器	#	高坏			ミガキ、ナデ	ナデ	明黄褐 (SYR 5/6)	黄灰 (SYR 5/1)	微細~3mmの黒褐、灰黄褐、灰白色粒		
179	第41回	土器器	#	高坏	30.9		ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	橙 (SYR 6/6)	にぶい黄褐 (TOY R 6/4)	微細~2mmの茶、透明光沢、黑色光沢粒		
180	#	土器器	#	高坏	29.1		ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙 (SYR 6/6)	にぶい黄褐 (TOY R 6/4)	微細~2mmの茶、透明光沢、黑色光沢粒、5mmの大茶、灰色粒		
181	#	土器器	#	壺	13.7	7.7	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	にぶい黄褐 (TOY R 7/3)	にぶい黄褐 (TOY R 7/4)	2mmの灰色、白色光沢粒、3mmの黑色粒、4mmの赤褐色粒		
182	#	土器器	#	壺	11.7	6.25	ナデ、ミガキ	ナデ	灰黄褐 (TOY R 4/2)	灰黄褐 (TOY R 4/2)	微細な透明光沢粒、1mmの黑色粒、4mmの褐色粒、3mmの明褐色粒		
185	第43回	土器器	12号墳	楕	16.2		ナデ	ナデ	にぶい橙 (SYR 7/4)	橙 (SYR 7/6)	1mmの黑色、赤褐色粒、2mmの黑褐色粒、5mmの明褐色粒、暗褐色粒		
186	#	土器器	#	楕	11.2		ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	橙 (7.5Y R 7/8), 明黄褐 (TOY R 7/6)	橙 (7.5Y R 7/6)	1mmの黒褐色、光沢粒、2mmの明赤褐色粒		
187	#	土器器	#	楕	18.2	6.6	ナデ、剥目突審	ナデ	にぶい1號 (7.5Y R 6/4), 剥 (TOY R 3/1)	橙 (SYR 6/6), 白 (SY R 7/2)	5mmのにぶい赤褐色粒、2mmの褐色、黑褐色、赤褐色、光沢のある黒褐色粒		
188	#	土器器	#	壺	18.8		ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	橙 (SYR 8/7), 白 (SYR 10/9)	にぶい1號 (TOY R 7/3), 反黄褐 (TOY R 4/2)	5mmのにぶい橙、にぶい褐色、灰褐色、灰白色粒		
189	#	土器器	#	鉢	13.4		ナデ	ナデ	明黄褐 (TOY R 7/6)	にぶい1號 (TOY R 7/4), 橙 (SYR 7/6)	2mmの黑褐色粒、3mmの透明光沢粒、4mmの赤褐色、灰褐色粒		
190	#	土器器	#	楕	5.7		ナデ	ナデ	灰白 (SY R 8/2)	にぶい1號 (TOY R 7/3)	4mmの褐色光沢粒、1mmの透明光沢粒、5mmの白色光沢粒、2mmの灰白色粒、2mmの灰白色、黑色光沢粒		
191	#	土器器	#	壺	5.0		ナデ	ナデ	暗灰 (N 31)	にぶい1號 (TOY R 7/4)	4mmの褐色光沢粒、1mmの透明光沢粒、5mmの白色光沢粒、2mmの灰白色光沢粒、2mmの灰白色、黑色光沢粒		
192	#	土器器	#	楕	5.2		ナデ	ハケ	にぶい1號 (TOY R 7/3)	にぶい1號 (TOY R 7/2)	2mmの灰黄褐色粒、1mmの黑褐色粒		
193	#	土器器	#	高坏	18.8	19.2	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙 (SYR 6/6)	にぶい1號 (TOY R 7/4), 橙 (SYR 6/6)	4mmのにぶい褐色、茶、灰色粒、2mmのにぶい褐色、褐色光沢粒、2mmの灰白色粒、光沢粒		
194	#	土器器	#	高坏	15.8		ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙 (7.5Y R 7/6), 白 (SY R 6/8)	橙 (7.5Y R 7/6)	2mmの灰白色粒、褐色光沢粒、光沢粒、1mmの赤褐色粒	丸形	
195	#	土器器	#	高坏			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	にぶい1號 (SYR 6/4)	にぶい1號 (SYR 6/4)	4mmの黑褐、にぶい橙、灰白色粒		
196	#	土器器	#	高坏			ナデ、ミガキ	ナデ、ナデ	赤 (10R 4/6)	にぶい1號 (SYR 6/6), 灰黄 (2.5Y G/2)	1mmの灰色、黑色光沢粒、3mmの黑色光沢粒、1mmの褐色光沢粒	丹塗り	
197	第44回	土器器	#	楕	10.2		ミガキ、ナデ	ナデ	橙 (SYR 6/6)	橙 (SYR 6/6)	4mmのにぶい黄褐、褐色、灰白色粒		
198	#	土器器	#	楕	11.4		ミガキ、ナデ	ナデ、ミガキ	橙 (SYR 6/6)	橙 (SYR 6/6)	2mmの黒褐、黄褐、灰白色粒		

第5表 古墳時代土器・土製品観察表(5)

番号	掲載図	種別	出土地点	器種	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴(混入物)	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
199	#	土師器	12号墳	桶	12.2			三ガキ、ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	褐(75YR 6/6)	明黄褐(10YR 6/6)	2mmの黄褐色粒、1mmの黒褐色粒、微細な光沢粒	
200	#	土師器	*	桶	13.5			三ガキ	ナデ、ミガキ	褐(75YR 7/4)	褐(75YR 7/6)	2mmの黒褐色光沢粒、灰白色粒、3mmの明褐色粒、褐灰色粒、灰褐色	
201	#	土師器	*	桶	10.4			ナデ	ナデ	浅黄褐(75YR 8/4)	浅黄褐(75YR 8/4)	1mmの褐色、黒褐色粒	
202	#	土師器	*	鉢	11.6	4.2	7.2	ナデ	ナデ	褐(75YR 6/6) 浅黄褐(10YR 6/3)	にぶい黄褐(10YR 7/4)	3mmの暗褐色、褐灰色粒、3mmの黒褐色粒、1mmの褐色粒	
203	#	土師器	*	鉢	11.5			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	赤(10YR 4/6) (丹塗り)	褐(25YR 6/6) (丹塗り)	2mmの黒色光沢粒、1mmの灰白・黑色粒	
204	#	土師器	*	台付鉢	5.0			ナデ、脂押さえ	ナデ	褐(5YR 6/6) にぶい褐(75YR 5/4)	褐(75YR 6/6)	4mmの赤褐色の粒、2mmの赤褐色粒、黒褐色粒	
205	#	須恵器	*	瓦原				椅子目タタキの後でナデ	ナデ、压痕	暗灰(3N1)	灰(N41)	-	
206	#	土師器	*	高杯	12.2			ナデ	ナデ	オリーブ灰(7.5Y 3/1) 黄灰(2.5Y 9/1)	にぶい黄褐(5YR 6/4) にぶい黄褐(10YR 6/3)	3mmの乳白色・褐色・灰色粒	鉢付着、軸用羽口
220	#	土師器	13号墳	備	39.0			ナデ、 剥自突毫	風化	浅黄褐(10YR 8/3)	浅黄褐(10YR 6/4)	6mmの黒褐色粒、褐色粒、褐灰色粒、橙色粒、4mmの暗黃褐色粒、3mmの透明光沢粒	
221	#	土師器	*	備	39.4			ナデ、 剥自突毫	ナデ	にぶい黄褐(10YR 7/3) (10YR 6/3)	にぶい黄褐(10YR 7/4) (10YR 6/3)	7mmの黒褐色粒、赤褐色粒、2mmの褐褐色粒、暗褐色粒	
222	#	土師器	*	備	21.6	10.7		ナデ、 剥自突毫	ハケ	黒(2.5Y 2/1)	褐(75YR 6/6)	6mm以下の褐灰色粒、3mm以下の明褐色	
223	#	土師器	*	備	6.0			ナデ	ナデ	にぶい褐(75YR 6/6)	褐(75YR 6/6)	5mmの赤褐色粒、4mmの黒褐色、褐色粒、2mmの灰白色粒、透明光沢粒	
224	#	土師器	*	備	31.4			ナデ、ハケ、 剥自突毫	ナデ、ハケ	浅黄褐(10YR 8/4) (10YR 4/2)	浅黄褐(10YR 8/4) (10YR 4/2) 灰褐(10YR 7/3)	6mmの場灰色粒、4mmの明黃褐色、褐色粒	
225	#	土師器	13号墳	備				ナデ	ナデ	褐(75YR 7/6)	褐(5YR 6/6)	4mmの黒褐色、褐灰色粒、2mmの灰白・赤褐色、光沢粒	
226	#	土師器	*	備	23.0	5.5	21.4	ナデ、ハケ	ナデ、ハケ	にぶい黄褐(10YR 7/4)	明黄褐(10YR 7/6)	4mmの黒褐色、灰白色、淡黄色で美しい光沢粒	ほぼ完形
227	#	土師器	*	備	19.1			ナデ	ナデ	にぶい黄褐(10YR 7/3)	にぶい黄褐(10YR 6/4)	3mmの灰褐色、にぶい黄褐色、灰白色	
228	#	土師器	*	備	5.8			ナデ	ナデ	褐(5YR 6/6) にぶい褐(10YR 7/3)	にぶい褐(10YR 7/3)	4mmの褐色粒、2mmの白色・黒褐色	
229	#	土師器	*	壺	13.0			ナデ	ナデ	褐(5YR 6/6), 浅黄褐(10YR 8/4) (10YR 7/4)	にぶい黄褐(10YR 7/3)	7mmの褐色・黑色粒	
230	#	土師器	*	壺	17.8			ミガキ	ミガキ	にぶい黄褐(10YR 7/3), にぶい褐(10YR 6/6) (10YR 2/2)	重褐(10YR 5/4) 浅黄褐(10YR 4/2) 浅黄褐(10YR 6/2)	2mmの褐色粒、1mmの褐灰色粒、微細な褐褐色粒	
231	#	土師器	*	小形器	13.4			ナデ	ナデ	褐(5YR 6/6)	にぶい褐(10YR 7/4)	5mmの赤褐色、3mmの褐褐色、赤褐色	
232	#	土師器	*	高坏	24.0			ミガキ	ミガキ	にぶい褐(75YR 7/4)	にぶい褐(75YR 7/3)	2mmの褐色・暗褐色・褐色	
233	#	土師器	*	高坏	20.8			ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	褐(7.5YR 7/6)	にぶい黄褐(10YR 7/4)	2mmの淡黄色・黒褐色・光沢粒、濃細な赤褐色粒	
234	#	土師器	*	高坏				ミガキ	ミガキ	赤(10YR 4/6) (丹塗り)	赤(2.5YR 6/6) (丹塗り)	2mmの赤褐色・灰色粒	丹塗り
235	#	土師器	*	高坏	17.2			ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	にぶい黄褐(10YR 7/3), にぶい褐(10YR 6/4)	にぶい黄褐(10YR 6/3)	1mmの透明光沢粒、2mmの黑色・茶褐色	
236	#	土師器	*	高坏	11.3	8.2		ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	褐(7.5YR 6/6), 浅黄(2.5YR 6/4)	にぶい黄褐(2.5YR 6/3)	3mmの淡黄色粒、2mmの黒褐色・褐色	
237	#	土師器	*	高坏	10.2			ナデ、ミガキ	ナデ、ナデ	にぶい褐(10YR 7/4)	にぶい褐(75YR 6/4)	3mmの灰白色・茶褐色・光沢粒	
238	#	土師器	*	桶	11.2	3.1	5.8	ミガキ後ナデ	ナデ	明黄褐(2.5YR 5/8)	明黄褐(75YR 5/6)	1mmの褐色砂粒	
239	#	土師器	*	桶	11.2			ミガキ	ナデ	褐(75YR 6/6) にぶい黄褐(10YR 6/4)	褐(75YR 6/6) (10YR 6/4)	1mm以下の金色光沢粒、2mm以下の白色・茶色	

第5表 古墳時代土器・土製品観察表(6)

番号	掲載図	種別	出土地点	器種	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴(混入物)	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
240	第45回	土器器	13号墳	桶	12.7	6.0	ナデ、ミガキ 吸丁寧にナデ か?	ミガキの後に ナデ	粗 (7.5YR 6/6)	明褐色 (7.5YR 5/6)	2mmの黒褐色・粒状		
241	#	土器器	#	桶	12.0	6.7	5.1	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	にぶい黄褐色 (7.5YR 6/4)	にぶい黄褐色 (7.5YR 7/4)	5mmの茶色粒、3mmの黑色粒	
242	#	土器器	#	鉢	12.6	5.2	725	ナデ	粗 (SYR 7/6) (7.5YR 7/ 6)	褐 (SYR 7/6)	4mmの茶色・灰白色粒		
243	#	土器器	#	杯	9.8	4.0	4.1	ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	明褐色 (SYR 5/6)	明褐色 (7.5YR 5/6), 褐 (7.5YR 6/6)	4mmの橙色粒、1mmの黒褐色・光 沢粒	
251	第54回	土器器	14号墳	甕	18.1	5.9	22.3	ナデ	ナデ	浅黄褐色 (10YR 8/4)	浅黄褐色 (7.5YR 8/4)	微細な光沢粒・褐色粒、3mmの 褐色・灰色粒、5mmの灰褐色粒	
252	#	土器器	#	甕				ナデ、ハケ、八ヶ	八ヶ	粗 (SYR 6/6)	にぶい黄褐色 (10YR 6/4)	2mmの橙色・灰色光沢粒、4mmの 黒褐色・灰白色粒	
253	#	土器器	#	甕	16.7 ~ 20.6	5.8		ナデ	ナデ	灰黃褐色 (10YR 6/2)	にぶい黄褐色 (10YR 6/4)	9mmの黒褐色・灰褐色・にぶい赤 褐色・灰白色・黑色光沢粒	ほぼ完形
254	#	土器器	#	壺		7.1		ハケ	ハケ	粗 (SYR 7/6)	浅黄褐色 (10YR 8/4)	微細な白色粒、2mmの褐色・ 灰褐色粒	
255	#	土器器	#	高杯	25.6			ミガキ	ミガキ	赤 (10R 4/6)	赤明褐色 (5YR 5/6)	4mmの灰白色粒、微細な透明光 沢粒	丹塗り
256	#	土器器	#	高杯				ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	にぶい黄褐色 (10YR 7/4)	浅黄褐色 (10YR 8/4)	微細な透明光沢粒、2mmの黒 色・灰白色粒	
257	#	土器器	#	高杯	12.1			ナデ	ミガキ、ナデ	にぶい黄褐色 (10YR 7/4)	にぶい黄褐色 (7.5YR 6/4)	2mmの透明光沢粒・青緑な黑 褐色・褐斑・灰褐色・褐色粒	
258	#	土器器	#	高杯	17.2			ミガキ、ナデ	ナデ	粗 (7.5YR 7/6) にぶい黄褐色 (10YR 7/4)	にぶい黄褐色 (10YR 7/4)	微細 - 1mmの黒色・透明光沢粒、 褐色 - 2mmの橙色・灰褐色・黑色・ 黒褐色・灰白色・褐色粒	
259	#	須恵器	#	瓦瓶				ナデ	まだらな自 然模	暗灰(N 31)	灰(N 61)	微細な白色粒	
260	第55回	土器器	#	壺	10.3			ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	明褐色 (7.5YR 5/6)	にぶい黄褐色 (10YR 6/4)	微細な灰色光沢粒、1mmの白灰 色・黒褐色粒	
261	#	土器器	#	壺				ナデ、ミガキ	ナデ	赤 (10R 4/6)	にぶい黄褐色 (2.5YR 6/4)	微細な灰色光沢粒・灰白色粒、 1mmの赤褐色・黒褐色粒	
262	#	土器器	#	高杯				丁寧なナデ	ナデ?	にぶい黄褐色 (10YR 6/4)	浅黄 (2.5Y 7/4)	2mmの白色透明・茶・褐色粒	輪部利用の転 用口部
266	第56回	土器器	15号墳	甕	22.4	5.4	225	ナデ、工具刷、 一部ハケ、 指頭刷	ナデ、ミガキ、 工具刷	粗 (SYR 6/6) 粗 (SYR 7/6)	粗 (SYR 6/8)	微細 - 3mmの不透明・透明光沢 粒、1mm - 3.5mmの灰白色・黒褐色 ・褐褐色・黑色・灰褐色粒	
267	#	土器器	#	甕				ナデ、ハケ	ナデ	浅黄褐色 (7.5YR 8/4)	浅黄褐色 (10YR 8/4)	微細な乳白色粒、3mmの褐色・ 灰色粒	
268	#	土器器	#	甕				ハケ、ナデ、 刻目突起	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR 6/2)	にぶい黄褐色 (10YR 7/4)	6mmの黒褐色粒、3mmの灰褐色・ にぶい黄褐色・灰白色粒	
269	#	土器器	#	壺				ナデ、ミガキ、 刻目突起	ナデ	粗 (7.5YR 7/ 6) にぶい黄褐色 (10YR 7/4)	浅黄褐色 (10YR 8/4)	3mmのにぶい赤褐色・白灰色・ 褐色・にぶい橙色粒、1mmの透 明光沢粒	
270	#	土器器	#	壺	11.3			ミガキ	ナデ	粗 (7.5YR 7/ 6) にぶい黄褐色 (10YR 7/4)	にぶい黄褐色 (10YR 7/4)	4mmの褐色・灰褐色・褐 褐色・黒褐色粒、1mmの光沢粒	
271	#	土器器	#	高杯	18.0	10.7		ナデ	ナデ	粗 (SYR 6/6) にぶい黄褐色 (7.5YR 7/4)	にぶい黄褐色 (10YR 7/4)	3mmの白灰・にぶい茶・灰褐 褐色・透明光沢粒	
272	#	土器器	#	高杯	19.2			ミガキ	ナデ、ミガキ	浅黄 (2.5Y 7/3)	浅黄 (2.5Y 7/4)	1mmの褐色・黑色粒、微細な透 明光沢粒	
273	#	土器器	#	小形壺	6.9	9.1		ナデ、ミガキ	ナデ	浅黄 (2.5Y 7/3)	浅黄 (2.5Y 7/4)	4mmのにぶい赤褐色・灰褐色・にぶ い橙色粒	完形
274	第57回	土器器	#	高杯	25.2			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	粗 (SYR 6/6) 明褐色 (5YR 5/6)	粗 (SYR 7/ 6), 灰褐色 (2.5Y 7/2)	微細な透明光沢・白灰色粒、4 mmの橙色粒	
275	#	土器器	#	高杯	22.0			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明褐色 (5YR 5/6)	明褐色 (10YR 7/4)	微細な乳白色粒・灰色粒、1mm の白色光沢・褐色粒	
276	#	土器器	#	高杯	20.8			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	深褐 (SYR 7/6)	深褐 (SYR 8/4)	微細な白色粒・灰色粒、1mm の白色光沢・褐色粒	

第5表 古墳時代土器・土製品観察表(7)

番号	掲載図	種別	出土地点	器種	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴(混入物)	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面	
277	第57回	土器器	15号墳	高坏	17.7		ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	澄(SYR 6/6) 灰(SYR 6/6)	灰白(SYR 7/2) 2), 棕(2.5YR 6/6)	2mmの灰褐色・灰白・黒色光沢粒	
278	#	土器器	#	高坏	19.6		ミガキ	ミガキ	澄(SYR 6/8)	棕(SYR 6/8), 明黄褐色 (10YR 7/6)	微細な透明・黒色光沢粒。1mmの黒褐色粒・褐色粒。6mmの棕・黄褐色	
279	#	土器器	#	高坏	21.2		ナデ、ミガキ	ミガキ	澄(SYR 6/6) 6), 明黄褐色 (10YR 5/6)	棕(7.5YR 6/6) 6), にぶい黄褐色 (10YR 6/4)	1mmの黒色光沢・棕・褐灰色・黄褐色・にぶい褐色	
280	#	土器器	#	高坏	17.8		ナデ	ナデ、ミガキ	浅黄褐色 (10YR 8/4)	にぶい黄褐色 (7.5YR 5/4)	微細な乳白色粒。1mmの褐色粒	
281	#	土器器	#	高坏	18.6		ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	にぶい黄褐色 (10YR 8/4)	にぶい黄褐色 (7.5YR 5/4)	微細な光沢粒。3mmの橙色粒。4mmの赤褐色粒。1mmの黒褐色粒	
282	#	土器器	#	高坏	16.8		ナデ、ミガキ	ミガキ	にぶい黄褐色 (10YR 7/4)	にぶい黄褐色 (10YR 7/4)	微細な透明光沢・棕・褐灰色・灰白色	
283	#	土器器	#	高坏	12.9		ミガキ	ナデ	浅黄褐色 (10YR 8/3)	灰黄褐色 (10YR 6/2)	3mmの灰白色粒・黒褐色・浅黄色	
284	#	土器器	#	高杯	10.8		ナデ、ミガキ	ナデ	浅黄褐色 (10YR 8/4)	にぶい黄褐色 (10YR 7/3)	微細な透明黒色光沢・棕・灰白色	
285	#	土器器	#	高坏	10.0		ミガキ、ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 (7.5YR 7/3)	にぶい黄褐色 (7.5YR 6/3), 灰 (10YR 7/1)	3mmの黒・にぶい棕・赤褐色・灰白色・透明光沢粒	
286	#	土器器	#	高坏	3.6		ナデ、ミガキ	ナデ	明黄褐色 (10YR 7/6)	にぶい黄褐色 (10YR 6/3)	3mmの灰白・灰褐色・透明光沢粒	
287	#	土器器	#	高坏			ナデ、ハケ	ナデ	澄(SYR 7/6)	にぶい黄褐色 (10YR 6/3)	1mmの透明・黒色光沢粒。3mmの黒褐色・灰白色	
288	#	土器器	#	高坏			ナデ、ハケ	ナデ、ハケ	澄(SYR 7/6)	にぶい黄褐色 (7.5YR 7/6)	2mmの赤褐色・灰白・黒褐色・棕・褐灰色	
289	#	土器器	#	高坏	3.8		ミガキ、ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 (SYR 5/3)	にぶい黄褐色 (7.5YR 5/3), にぶい 黄褐色(SYR 6/4)	4mmの灰青・褐灰色・灰白色・透明光沢粒	
290	#	土器器	#	高坏			ナデ	ナデ	浅黄褐色 (2SYR 7/4)	にぶい黄褐色 (10YR 7/2)	3mmの灰黄褐色・黒褐色・灰白色	
291	#	土器器	#	高坏	17.0		ミガキ、ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR 6/3)	にぶい黄褐色 (2.5YR 6/3)	2mmのにぶい赤褐色・灰褐色・灰白色・透明光沢粒	
292	#	土器器	#	高坏	16.2		ナデ、ミガキ	ナデ	澄(SYR 7/6)	にぶい黄褐色 (7.5YR 7/4)	微細な褐色・灰色粒・1mmの褐色・灰色	
293	第58回	土器器	#	鉢	14.2	7.0	八ケ	八ケ、ナデ	浅黄褐色 (10YR 8/4)	にぶい黄褐色 (10YR 7/3)	微細な乳白色・褐色粒・3mmの乳白色・灰・褐色	
294	#	土器器	#	鉢	15.1	4.8	9.6	ミガキ	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR 6/4), にぶい 黄褐色(10YR 5/2)	微細な透明・黒色光沢粒。4mmの浅黄褐色粒・1mmの黒褐色粒	
295	#	土器器	#	鉢	15.8		ミガキ、ハケ	ナデ、ハケ	澄(SYR 7/8)	澄(SYR 7/8)	微細な灰・褐色・乳白色粒・2mmの大粒・褐色粒・3mmの灰・褐色粒	
296	#	土器器	#	坏	16.6		ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	にぶい黄褐色 (10YR 6/4)	澄(SYR 7/6) にぶい黄褐色(10YR 6/4), にぶい 黄褐色(10YR 5/2)	2mmの透明・黒色光沢粒。4mmの褐色・白色粒・1mmの灰白色・黑色粒	
297	#	土器器	#	坏	14.8	6.8	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	澄(SYR 7/6)	澄(SYR 6/6)	1mmの黒・灰白・黒褐色・灰褐色・黑色光沢粒	
298	#	土器器	#	坏	12.9	6.9	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	澄(SYR 6/6)	澄(SYR 6/6)	微細な灰色光沢粒・5mmの赤褐色・3mmの赤褐色・小粒	
299	#	土器器	#	坏	12.9		ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	澄(SYR 6/6)	澄(SYR 6/6)	1mmのにぶい褐色・3mmの褐色・微細な透明光沢粒	
300	#	土器器	#	坏	14.4	5.25?	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明黄褐色 (SYR 5/6)	澄(SYR 6/6)	1mmの灰白色粒・5mmの赤褐色・にぶい黄褐色・灰黄色粒	
303	第59回	土器器	16号墳	瓶	33.6		ナデ、刻目突帯	ナデ	浅黄褐色 (2SYR 7/3)	にぶい黄褐色 (10YR 7/3)	6mmの灰褐色・にぶい赤褐色・にぶい黄褐色・灰黄色粒	
304	#	土器器	#	瓶	28.1		ハケ、ナデ、ナデ、 刻目突帯	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR 7/3)	にぶい黄褐色 (7.5YR 6/4)	2mmの不透明光沢粒・4mmの灰白・黒・灰褐色・褐灰色・4mmの灰白色	
305	#	土器器	#	瓶	27.6		ナデ、 刻目突帯	ナデ	黑 (7.5YR 17/1)	にぶい黄褐色 (10YR 5/3)	2mmの透明光沢粒・5mmの赤褐色粒・3mmの黄褐色粒・微細な灰白色	
306	#	土器器	#	瓶			ナデ、 刻目突帯	ナデ	にぶい黄褐色 (10YR 7/3)	にぶい黄褐色 (10YR 7/4)	4mmの黒褐色・灰白・褐灰色粒・3mmの不透明光沢粒・6mmの灰褐色	

第5表 古墳時代土器・土製品観察表(8)

番号	掲載図	種別	出土地点	器種	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴(混入物)	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面	
307	第59図	土器器	16号墳	廣	18.8		ナデ	ナデ	にぶい黄褐 (10YR 7/2)	にぶい黄褐 (10YR 7/3)	3mmの灰白・にぶい黄褐・灰褐色・透明光沢粒	
308	#	土器器	#	廣			ナデ、 剣目突堤	ナデ	にぶい黄褐 (10YR 7/2)	にぶい黄褐 (10YR 7/4)	1mmの黒色光沢粒、5mmのにぶい 赤褐・褐灰・灰白色粒	
309	第60図	土器器	#	廣	5.4		ケズリ、ナデ	ナデ	にぶい黄褐 (10YR 6/4)	にぶい黄褐 (10YR 7/4)	3mmの灰白・灰褐色・にぶい褐色 粒	
310	#	土器器	#	廣	7.1		ナデ	ナデ	明褐 (75YR 5/6)	にぶい褐 (75YR 6/4)	5mmの灰白・黄灰・灰褐色・ 黒色粒・ウンセ	
311	#	土器器	#	壺	9.7	140	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	淡黄褐 (75YR 8/4)	淡黄褐 (75YR 8/4)	微細な灰色・褐色・乳白色粒、 2mmの黒色光沢粒・褐色・灰褐色 色粒	
312	#	土器器	#	壺	11.2		ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	赤褐 (4/6)、明褐 (75YR 5/6)	明赤褐 (25YR 5/8)	微細な透明光沢粒、3mmの灰白 色粒	
313	#	土器器	#	高坏	20.9		ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	淡黄褐 (75YR 8/4)	淡黄褐 (75YR 8/3)	微細な灰色・褐色・黑色光沢 粒、1mmの褐色・反光色粒	
314	#	土器器	#	高坏	16.6		ナデ、ミガキ	ナデ	褐 (75YR 6/6)	褐 (75YR 6/4)	4mmのにぶい赤褐・灰褐色・ 透明光沢粒	
315	#	土器器	#	高坏	16.8	10.9	ナデ	ナデ、ミガキ	褐 (75YR 6/6)	褐 (75YR 6/6)	微細な透明光沢粒、1mmの反 色・赤褐色粒	
316	#	土器器	#	高坏	36.4		ナデ	ナデ	浅黄褐 (75YR 8/6)、褐 (75YR 6/6)	灰白 (6/1) 黄 灰 (25YR 4/6)	4mmの灰白・灰褐色・にぶい褐色 粒	
317	#	土器器	#	高坏	22.5		ナデ、ミガキ 後ナデ	ミガキ後ナデ	明黄褐 (10YR 6/6)	灰白 (2.5Y R 8/2)、にぶい 褐 (5YR 7/4)	微細・2mmのにぶい黄褐・にぶ い褐・黒・灰白の砂粒	
318	#	土器器	#	高坏	11.9		ミガキ、ナデ	ナデ	褐 (5YR 6/6)	にぶい褐 (75YR 6/4)	1mmの褐色粒、微細な灰色光 色粒・白灰色粒、2mmの黑褐色粒	
319	#	土器器	#	高坏	4.0		ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい褐 (75YR 7/4)	にぶい褐 (75YR 7/4)	2mmの灰青・灰白・にぶい褐・ 灰褐色粒	
320	#	土器器	#	高坏			ナデ、ハケ、 ミガキ	ナデ	褐 (5YR 6/ 8)、 褐 (75YR 7/4)	褐 (5YR 6/8)	微細な透明・黒色・不透明光沢 粒、1mm程度の灰白色・黑褐色・ 黑褐色粒、1mm~3mm大の褐色色粒	
321	#	土器器	#	高坏			ナデ	ミガキ	淡黄褐 (10YR 8/4)	黄灰 (2.5Y R 6/1)	微細な黒色・褐褐色・灰白色 粒、1mmの透明光沢粒	
322	#	土器器	#	高坏		-	-	-	淡黄褐 (75YR 8/6)	黄褐 (75YR 8/8)	微細な灰・褐・乳白色粒、2mm の灰・乳白色粒	
323	#	土器器	#	高坏		-	-	ナデ	淡黄褐 (75YR 8/6)	褐 (75YR 7/6)	微細な褐色・透明な光沢粒、2 mmの乳白色粒、5mmの褐色色粒	
324	#	土器器	#	高坏			ナデ	ナデ	前赤褐 (5YR 5/6)、 にぶい黄褐 (10YR 7/4)	褐 (5YR 6/6)	微細な透明・黑色光沢粒、1mm の黒・赤褐・灰白・場色色粒	
325	第61図	土器器	#	高坏			ミガキ、ナデ	ナデ	褐 (5YR 6/ 6)、 にぶい黄褐 (10YR 6/4)	にぶい黄褐 (10YR 6/4)	1mmの褐・赤褐・灰白・黑褐色、 透明光沢粒	
326	#	土器器	#	高坏			ミガキ、ナデ	ナデ	にぶい黄褐 (5YR 6/4)	黄灰 (2.5Y R 5/1)、灰黄褐 (10YR 6/4)	4mmの灰白色粒、5mmの灰褐色色粒、 微細な透明光沢粒	
327	#	土器器	#	高坏			ナデ、ミガキ	ナデ	明赤褐 (2.5YR 5/6)	褐 (5YR 6/6)	2mmの灰白色粒、黒色・透明光 沢粒、2mmの褐色色粒	
328	#	土器器	#	高坏			ハケ	ナデ	にぶい黄褐 (10YR 7/4)	にぶい黄褐 (10YR 7/4)	微細な透明の光沢粒、1mm程 の黒・褐灰色・灰褐色色粒	
329	#	土器器	#	高坏	10.0		ナデ	ナデ	淡黄褐 (10YR 6/ 8)、明赤褐 (10YR 7/6)	淡黄褐 (10YR 6/3)、明黄褐 (10YR 7/6)	4mmの黒褐・灰白・にぶい褐 色・透明光沢・黒色光沢粒	
330	#	土器器	#	高坏	11.3		ナデ	ナデ、 一部工具痕	にぶい褐 (75YR 6/4)	にぶい褐 (2.5Y R 6/3)	微細な透明光沢粒・黒褐色 色粒	
331	#	土器器	#	高坏	12.2		ミガキ、ナデ	ナデ	褐 (5YR 6/6) 褐 (75YR 6/6)	にぶい褐 (10YR 7/4)	微細な透明・黒色光沢粒、2mm の褐灰・灰白色粒	
332	#	土器器	#	高坏	9.05		ミガキ、ナデ	ナデ、ミガキ	黄褐 (10YR 8/6)	淡黄褐 (75YR 8/6)	2mmの灰白色粒、微細な透明光 沢粒、10mmの灰黄色・褐色色 粒	
333	#	土器器	#	壺	13.1	63	ミガキ、ナデ	ハケ、ミガキ	黄褐 (10YR 8/6)	淡黄褐 (75YR 8/6)	微細な褐・灰色粒・黑色光沢 粒、2mmの褐・灰白色・3mmの灰 褐色色粒	ほぼ完形
334	#	土器器	#	壺	13.1	52	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	黄褐 (75YR 8/8)	褐 (75YR 7/6)	微細な褐褐色色粒・3mmの褐色 色粒	

第5表 古墳時代土器・土製品觀察表(9)

番号	掲載図	種別	出土地点	器種	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴(混入物)	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
335	第61回	土師器	16号墳	鉢	17.4	5.8	10.0	三ガキ、ナデ ナデ、ミガキ ハケ	昭和褐色(5YR 5/8)、にぶい黄褐色(10YR 6/4)	褐(2.5YR 6/6)	2mmの透明・黒色光沢粒、灰白・灰褐色粒		
336	#	土師器	#	桶	15.1			三ガキ? ナデ	にぶい黄褐色(10YR 6/4)、にぶい黄褐色(10YR 6/4)	褐(10YR 7/6)	微細な透明・黒色光沢粒、3mmの灰白・赤褐色粒		
337	#	土師器	#	小形鉢	7.5	3.4	5.55	ナデ	にぶい黄褐色(10YR 6/3)、にぶい黄褐色(10YR 6/3)	褐(10YR 6/2)	微細な透明・黒色光沢粒、1mmの灰白・黑褐色粒、3mmの褐灰色粒		
338	#	土師器	#	ミニフタ				ナデ	にぶい黄褐色(10YR 7/4)	にぶい黄褐色(10YR 7/4)	3mmの灰白・黒・褐色粒、5mmの褐灰・灰褐色粒		
339	#	土師器	#	ミニフタ	2.7			ナデ	にぶい黄褐色(7.5YR 6/4)	にぶい黄褐色(7.5YR 6/4)	1mmの黒色・不透明・透明光沢粒		
340	#	土師器	#	ミニフタ				丁寧なナデ	ナデ	にぶい黄褐色(10YR 7/3)	灰黃褐色(10YR 6/2)	2mmの灰白・黒色粒	
341	#	土師器	#	ミニチュア	1.3			ナデ	浅黃褐色(10YR 8/3)	にぶい黄褐色(10YR 7/3)	2mmのにぶい黄褐色・灰白・灰褐色粒		
342	#	土師器	#	異形鉢				ナデ	ナデ	浅黃褐色(7.5YR 7/6)	褐(7.5YR 7/6)	2mmの褐・灰・黒色光沢粒。3mmの褐色粒	
343	#	須恵器	#	壺				ナデ	自然釉	灰(N 51)	灰(N 41)	1mmの白色粒	
344	#	須恵器	#	瓦泉				ナデ、 レンジ状文	まだらな自然釉	褐灰(N 31)	灰(N 61)	微細な黒・白色粒	
345	#	須恵器	#	縦縞壺				ナデ	自然釉	褐灰(N 31)	灰(N 61)	微細な白色粒	
346	#	須恵器	#	瓦泉				ナデ	ナデ	灰(N 51)	灰(N 61)	1mmの白色粒	
347	#	須恵器	#	瓦泉				ナデ、波状文	ナデ	灰(N 51)	灰(N 51)	1mmの黒・白色粒	
357	第63回	土師器	17号墳	横				八ケ、ナデ、 刻目突毫	ナデ、ハケ	浅黃褐色(10YR 8/4)	にぶい黄褐色(10YR 7/4)	微細な灰褐色粒、2mmの灰褐色粒、6mmの褐・灰褐色粒	
358	#	土師器	#	甕	19.8			ナデ	ナデ	にぶい黄褐色(10YR 7/3)	にぶい黄褐色(10YR 7/4)	5mmの褐灰・黒褐・灰褐・褐・橙色粒	
359	#	土師器	#	鉢	15.7			三ガキ	ミガキ	にぶい黄褐色(10YR 7/3)、にぶい黄褐色(7.5YR 7/3)	褐(2.5YR 6/6)	2mmの透明・不透明・黒色光沢粒、5mmの赤褐色・黒・褐色粒	丹塗り
363	第65回	土師器	18号墳	甕	19.8	5.6	27.2	ナデ、 刻目突毫	ハケ、ナデ	浅黃褐色(10YR 8/3)、にぶい黄褐色(10YR 8/4)	透黃褐色(10YR 8/4)、にぶい黄褐色(10YR 7/4)	微細な透明・黒色光沢粒、2mmの赤褐色・黒褐・灰褐色粒	
364	#	土師器	#	甕				ナデ、 刻目突毫	ナデ	卵形灰(7.5YR 7/2)	にぶい黄褐色(10YR 7/3)	5mmのにぶい赤褐色・にぶい黄褐色・灰褐色・透明光沢粒	
365	#	土師器	#	壺		6.6		ナデ	ナデ	浅黃褐色(10YR 8/3)、灰黃褐色(10YR 6/2)	にぶい黄褐色(10YR 7/3)	微細な透明・黒色光沢粒、3mmの赤褐色・褐褐色・5mmの赤褐色粒	
366	#	土師器	#	甕				三ガキ、 刻目突毫	ナデ	褐(7.5YR 6/6)	褐(7.5YR 7/6)	微細な透明黒色光沢粒、4mmの黒・灰白色粒、8mmの灰褐色粒	
367	#	土師器	#	高坏	17.3			三ガキ、ナデ	ミガキ	赤(10R 5/6)	赤(10R 5/6)	微細な灰褐色粒・透明な光沢粒・乳白色粒、2mmの灰褐色粒・透明な光沢粒	
368	#	土師器	#	高坏	9.8			ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい黄褐色(7.5YR 5/3)、にぶい黄褐色(7.5YR 6/4)	褐(5YR 6/6)	微細な灰白色粒・透明・黒色光沢粒、1mmの赤褐色・褐灰色・灰褐色粒	
369	#	土師器	#	高坏				三ガキ	ナデ	灰黃褐色(10R 4/6)	灰黃褐色(10YR 5/2)	1mmの透明・不透明光沢粒、2mmの赤褐色・灰白・褐・淡黃褐色	丹塗り
370	#	土師器	#	高坏	10.8	6.7	10.4	三ガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	昭和褐色(5YR 5/6)、赤赤褐色(5YR 5/6)	昭和褐色(5YR 5/6)、赤赤褐色(5YR 5/6)	1.5mmの灰褐色・灰黃褐色・灰白色・透明光沢粒	丹塗り
371	#	土師器	#	高坏				三ガキ	ナデ	褐(5YR 6/6)、赤赤褐色(5YR 6/6)、淡黃褐色(5YR 6/6)	褐(5YR 6/6)、赤赤褐色(5YR 6/6)、淡黃褐色(5YR 6/6)	1.5mmの透明・不透明・黒色光沢粒・黒褐・灰白・橙・灰褐色粒	丹塗り
372	#	土師器	18号墳	小形壺	10.3			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	赤(10R 5/6)	赤(2.5YR 7/6)	微細な透明光沢粒・3mmの灰褐色・灰・乳白色粒、4mmの灰褐色	丹塗り
373	#	土師器	#	小形壺	9.4	5.4	9.3	ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい黄褐色(2.5YR 5/4)	昭赤褐色(2.5YR 5/6)	4mmの灰褐色・灰・白・赤褐色粒、1mmの白灰・黒褐色粒	完形
374	#	土師器	#	小形壺	10.2			ハケ、ミガキ	ハケ	昭赤褐色(5YR 5/6)	昭赤褐色(5YR 5/6)	微細な透明光沢粒・3mmの赤褐色粒	

第5表 古墳時代土器・土製品観察表(10)

番号	掲載図	種別	出土地点	器種	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴(混入物)	備考	
					口径	底径	高さ	外面	内面	外面	内面		
375	第66回	土師器	18号墳	脚付小形壺	8.1	7.9	16.9	三ガキ	ミガキ、丁寧なナデ	褐色(75YR 7/6) にぶい黄(7.5YR 7/4)	1.5mmの透明・黒色・不透明の光沢粒、2mmの褐灰・にぶい赤褐色	丹塗り	
376	#	土師器	#	桶	16.8			丁寧なナデ	-	褐色(75YR 6/6)	1.5mmの透明・不透明・黒色光沢粒、2mmの黒場・灰白・黒・赤褐色		
377	#	土師器	#	桶	11.5	4.0	6.5	三ガキ	ナデ	黄灰色(2.5YR 4/1)、にぶい黄(7.5YR 7/3)	1mmの透明光沢粒・4mmの赤褐色粒・3mmの灰白色・黒褐色粒		
378	#	須恵器	#	甕				ナデ、タタキ	ナデ	灰(N 51)	灰(N 51)	-	
382	第68回	土師器	19号墳	甕	34.6	5.8	33.8	ナデ、ハケ、 刮目突毫	ナデ	にぶい黄(7.5YR 6/3)	3mmの灰白色粒、6mmの褐灰色粒、4mmの灰褐色・赤褐色		
383	#	土師器	#	甕	29.4			ナデ、ハケ、 刮目突毫	ナデ	にぶい黄(10YR 7/2)、にぶい黄(75YR 6/4)	2mmの灰白・灰褐色		
384	#	土師器	#	甕				ナデ、ハケ、 刮目突毫	ナデ	にぶい黄(7.5YR 7/4)	1mmの透明光沢粒、2mmの赤褐色		
385	#	土師器	#	甕				ナデ、ハケ、 刮目突毫	ハケ、ナデ	にぶい黄(7.5YR 6/4)	微細な光沢粒、3mmの赤褐色粒、1mmの黄灰・白灰色粒		
386	第69回	土師器	#	甕	16.4	6.4	24.6	ナデ、ハケ、 刮目突毫	ナデ	褐色(25YR 6/6) にぶい黄(10YR 7/2)	1.5mmの透明光沢粒、4mmの黒褐色粒、3mmの灰白・褐色		
387	#	土師器	#	甕	17.0 ~ 19.5	6.1	22.9	ナデ	ハケ	にぶい黄(7.5YR 6/4)	1mmの赤褐色粒・粗細な光沢 灰黄褐(10YR 6/3)、褐色(75YR 5/6)	壳形	
388	#	土師器	#	甕	16.6			ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	にぶい黄(10YR 7/3)	2mmの灰白色粒、4mmの灰黄褐・ 褐色		
389	#	土師器	#	甕			5.6	ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	にぶい黄(7.5YR 7/4)	微細な乳白色粒、透明な光沢 灰黄褐(10YR 8/4)		
390	#	土師器	#	甕			6.0	ナデ、ハケ	ナデ	浅黄褐(10YR 8/4)	微細な透明白光沢粒、3mmの褐・ 灰色		
391	#	土師器	#	甕	22.2			ナデ、 刮目突毫	ナデ	にぶい黄(7.5YR 6/3)	4mmの灰白・灰褐色		
392	#	土師器	#	甕	6.4			ナデか	ハケ	にぶい黄(7.5YR 6/3)	4mmの黄色光沢粒、7mmのにぶい 赤褐色粒・4mmの灰白・褐灰色 粒、2mmの透明光沢粒		
393	#	土師器	#	小形壺	3.3			三ガキ	ミガキ	褐色(75YR 6/6)	微細な赤褐色・黒褐色・灰白色 の粒粒及び透明光沢粒、表面 3mmの黒褐色光沢		
394	第70回	土師器	#	高坏	15.8			ハケ、ナデ、 三ガキ	ナデ、ナデ	褐色(SYR 6/6) 黄褐(10YR 8/6)	微細な透明光沢粒、褐灰・灰 白・灰褐色粒、2mmの褐色・黑 褐色光沢		
395	#	土師器	#	高坏				ナデ、ハケ	ナデ、ハケ	褐色(SYR 6/6)	1mmの透明・黒色光沢粒、 黒・灰白・灰褐色		
396	#	土師器	#	高坏				ハケ、ミガキ	ナデ、ハケ	浅黄褐(10YR 7/4)	2mmの浅黄褐色粒、1mmの透明光 沢粒、2.5mmの黒褐色		
397	#	土師器	#	高坏				ミガキ	ナデ	明赤褐(5YR 5/6)	微細な透明白光沢粒、黒・ 黑色		
398	#	土師器	#	高坏				ナデ、ミガキ	ナデ	浅黄褐(75YR 8/4)	1mmの褐色・灰色粒、5mmの褐・ 灰色		
399	#	土師器	#	高坏				ナデ	ナデ	褐色(5YR 7/6)	微細な透明光沢粒・黒・ 褐色粒、2mmの乳白・褐・黑色 粒		
400	#	土師器	#	高坏				ハケメ、ナデ	ナデ	にぶい黄(7.5YR 6/6)	微細な透明光沢粒・ 2mmの黒色		
401	#	土師器	#	高坏				ミガキ	ナデ	にぶい黄(7.5YR 6/4)	微細な光沢粒・灰白色粒、1mm の黒褐色		
402	#	土師器	#	高坏	15.4			ハケ、ミガキ、 ナデ	ナデ	にぶい黄(7.5YR 7/4)	1mmの灰白色粒、4mmの褐灰・ 赤褐色		
403	#	土師器	#	鉢	9.3		10.6	ナデ、ミガキ	ナデ	浅黄褐(75YR 8/6)	微細な乳白色粒・透明白光 沢粒、2mmの灰・褐色		
404	#	土師器	#	鉢	18.0 5.1 ~ 5.6	14.2	ナデ、 刮目突毫	丁寧なナデ		褐色(25YR 6/8) にぶい黄(10YR 8/4)	微細な透明白光沢・黒色光沢粒、 2.5mmの灰白色・赤褐色		
405	#	土師器	#	台付鉢	13.0	9.7	10.2	ナデ	ハケ	浅黄褐(75YR 8/4)	微細な透明白光沢粒・乳白色粒、 2mmの灰・褐色		

第5表 古墳時代土器・土製品観察表(11)

番号	掲載図	種別	出土地点	器種	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴(混入物)	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
406	第70回	須恵器	19号墳 裏又は裏					ナデ	ナデ	灰(N 51)	灰(N 61)	微細な黒・白色粒	
411	第73回	土師器	20号墳 裏					ナデ、 刮目突毫	ナデ、ハケ	灰黄褐 (10Y R 5/2)	にぶい黄褐 (10Y R 6/4)	微細な透明光沢粒。1mmの黒・ 灰白・赤褐色。3mmの灰褐色粒	
412	#	土師器	*	小形壺	14.2			ナデ、 刮目突毫	ナデ	にぶい黄褐 (10Y R 7/3)	にぶい黄褐 (10Y R 7/4)	微細な乳白色粒。2mmの赤褐色 粒	
413	#	土師器	*	壺	6.3			ナデ	ナデ	にぶい黄褐 (10Y R 6/4)	壺 (75Y R 6/6)	4mmの赤褐・灰褐色粒。1mmの透 明光沢粒。橙色粒。1cmの黑色粒	
414	#	土師器	*	鉢	16.4			ナデ、ミガキ ナデ、ハケ	壺 (75Y R 6/6)	壺 (75Y R 6/6)	2.5mmの透明・黑色光沢粒。3mm の灰白・灰褐・赤褐色・浅黄褐色 粒		
415	#	土師器	*	小型壺	11.3			ハケ、ミガキ ミガキ、ナデ	にぶい壺 (75Y R 5/6)	明褐 (75Y R 5/6)	2.5mmの黒褐・灰褐・褐色 粒。1mmの灰褐色		
416	#	土師器	*	壺	13.0	41.75		ハケ、ミガキ 刮目突毫	ハケ、ナデ	にぶい黄褐(10 Y R 7/4)、にぶい 黄褐(10Y R 6/4)、 黄褐(10Y R 6/1)	壺 (75Y R 6/4)	1mmの透明光沢粒。1.5mmの黒色 光沢粒。3mmの褐色・黒褐・灰 褐・灰白色粒	
417	#	土師器	*	壺				ナデ	ハケ、ケズリ	にぶい壺 (75Y R 6/4)	にぶい壺 (75Y R 6/4)	微細な透明光沢粒。4mmの赤褐色 粒。3mmの褐色灰色粒。1mmの赤 褐・黒褐色粒	
418	#	土師器	*	壺	13.5	555		ナデ、ミガキ ナデ	明黄褐 (10Y R 7/6)、壺 (75Y R 6/6)	壺 (75Y R 6/6)	微細な黒褐・褐色粒。1mmの浅 黄色褐色		
419	第74回	土師器	*	壺				ナデ、ミガキ ナデ	にぶい壺 (75Y R 7/4)	にぶい壺 (10Y R 7/4)	4mmの灰白・灰褐・黑褐色粒。5mm のにぶい褐色。3mmの透明光沢粒 と1mmの黑色光沢粒		
420	#	土師器	*	高壺	15.3			ナデ、ミガキ ナデ、ミガキ	にぶい壺 (10Y R 7/4)	にぶい壺 (10Y R 7/4)	1mmの透明・黑色光沢粒。赤・ 灰褐・黒褐色		
421	#	土師器	*	高壺	17.9			ナデ、ハケ ミガキ、ナデ	黄褐 (5Y R 8/6)	浅黄褐 (10Y R 8/4)	微細な灰色粒・黒褐色粒。2mm の灰白・褐色粒。3mmの灰・褐色 粒		
422	#	土師器	*	高壺	8.0			ナデ、ミガキ ナデ	壺 (5Y R 8/8)	明黄褐 (10Y R 7/6)	3mmの灰白・にぶい赤褐・浅黃 色粒		
423	#	土師器	*	高壺	20.5			ナデ、ミガキ ナデ、ミガキ	にぶい壺 (75Y R 6/4)	にぶい壺 (75Y R 6/4)	2.5mmの不透明の光沢粒。3.5mm のにぶい褐・黑褐・灰褐・赤褐色 粒。4mmの褐灰色粒		
424	#	土師器	*	高壺	22.1			ナデ、ミガキ ナデ後ミガキ	壺 (75Y R 7/6)	にぶい壺 (75Y R 7/4)	微細な光沢粒。表面 - 3mmの灰 白色粒。6mmの赤褐色の小石		
425	#	土師器	*	高壺	43~ 6.3			ミガキ後ナデ	ナデ	壺 (75Y R 6/6)	褐灰 (75Y R 4/1)	2mmの灰白・赤褐色・にぶい褐 色・透明光沢粒	
426	#	土師器	*	高壺				ナデ	ナデ	にぶい壺 (75Y R 6/4)	褐灰 (2.5Y 5/1)	1mmの透明・黑色光沢粒。1mmの 灰白・黑色粒	
427	#	土師器	*	高壺	40.0			ミガキ、ナデ	ナデ	淡黄 (2.5Y 8/3)	浅黄褐 (10Y R 8/3)	4mmの黄灰・褐灰・灰白・黑色 光沢粒	
428	#	土師器	*	高壺				ナデ、ミガキ ナデ	壺 (75Y R 6/6)	壺 (5Y R 6/8)	1mmの透明・黑色光沢粒。2mmの 灰白・褐灰・褐・灰褐色		
429	#	土師器	*	高壺	16.0			ミガキ、ナデ ナデ、ハケ	浅黄褐 (75Y R 8/6)	にぶい黄褐 (10Y R 7/4)	2mmの透明・黑色光沢粒。1.5mm の黒褐・灰褐・褐色		
430	#	土師器	*	高壺	17.9			ナデ、ハケ、 ミガキ	浅黄褐 (75Y R 8/4)、壺 (75Y R 7/6)	にぶい黄褐 (10Y R 8/6)	微細な乳白・褐色粒。2mmの灰 色・褐色		
431	#	須恵器	*	瓦衆	9.6			ナデ、波状文 まだらな自 然模	灰(N 41)	灰(N 61)	微細な白色粒		
432	#	須恵器	*	壺				タタキ	工具瓶	陶灰黄 (2.5Y 5/2)	にぶい壺 (75Y R 5/3)	微細な白色粒	
433	第75回	土師器	*	台付杯	7.0			ナデ	ナデ	赤褐 (2.5Y R 4/6)	赤褐 (2.5Y R 4/6)	1mmの白色、透明粒	丹塗り
436	第77回	土師器	21号墳	壺	30.5			ナデ、ハケ、 刮目突毫	ナデ後ナデ、 刮目突毫	にぶい黄褐 (10Y R 7/3)	にぶい黄褐 (10Y R 7/3)	7mmのにぶい褐・黑褐・灰褐・ 灰白・灰黄色・透明光沢粒	
439	#	土師器	*	壺	22.8			ナデ、ハケ、 刮目突毫	ナデ後ナデ、 刮目突毫	黄褐 (75Y R)	浅黄褐 (2.5Y R 8/6)	5mmの褐色・灰白色粒。1mmの灰・ 褐色粒。微細な乳白色粒	
440	#	土師器	*	壺	16.0	5.5		ナデ、ハケ、 刮目突毫	ナデ後ナデ、 刮目突毫	壺 (75Y R 7/6)	にぶい壺 (75Y R 6/4)	4mmの灰白・浅黄褐・褐色	
441	#	土師器	*	壺	22.6			ナデ、ハケ、 刮目突毫	ナデ、ハケ、 刮目突毫	にぶい黄褐 (10Y R 6/3)	にぶい壺 (75Y R 5/3)	2mmの黒褐色粒。7mmの褐灰・灰 褐色	

第5表 古墳時代土器・土製品観察表(12)

番号	掲載図	種別	出土地点	器種	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴(混入物)	備考		
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面			
442	第77図	土器器	21号墳	廣	17.1		ナデ、ハケ、 刮目突帯	ナデ、ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	にぶい黄(7 YR 7/4)、にぶい 黄(10YR 2/1)	青緑な透明白沢感、1mmの赤褐色、 3mmの構灰色粒、7mmの灰白色粒			
443	#	土器器	#	廣	24.8		ナデ、ハケ、 刮目突帯	ナデ、ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	にぶい黄(7 YR 6/6)	2mmの浅黃色粒、5mm以下の褐色 粒、6mmの大灰白色粒			
444	#	土器器	#	廣	6.2		ナデ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄(7 YR 7/3)	6mmの灰場・黒褐・褐灰・にぶい 黄白色粒			
445	第78図	土器器	#	壺	11.9	4.7	35.0	ハケ、ミガキ、 刮目突帯	ハケ後ナデ	浅黄(7 SYR 5/6)	にぶい黄(7 YR 6/4)	2mm以下の白灰色、微細な透明白 沢感、2mm以下の褐色粒、3mm 以下の赤褐色、10mmの大赤褐色小石		
446	#	土器器	#	壺	11.2		ナデ、刮目突帯	ナデ、ハケ	浅黄(10YR 8/4)、浅黄(7 SYR 8/6)	浅黄(10YR 8/4)、浅黄(7 SYR 8/6)	15mmのにぶい橙・灰褐・黑褐・ 褐色粒			
446	#	土器器	#	壺			ナデ、ハケ	ナデ、ハケ	浅黄(10YR 8/4)、浅黄(7 SYR 8/6)	浅黄(10YR 8/4)、浅黄(7 SYR 8/6)	2mmの灰場・黒褐色・稀灰色粒、 微細な透明白沢感			
447	#	土器器	#	壺	10.6		ナデ、ミガキ	ナデ後ミガキ	にぶい黄(7 YR 7/4)	にぶい黄(7 YR 7/4)	4mmの灰白・褐灰・黑褐色・ 赤褐色粒			
448	#	土器器	#	壺	16.5		ナデ、ミガキ	ナデ	橙(7SYR 6/4)、にぶい 黄(7SYR 6/4)	橙(7SYR 7/6)、にぶい 黄(7SYR 7/6)	微細な透明白沢感・黒・淡黄色 粒、2mmの茶・淡黄・白色粒、6 mmの褐色粒			
449	#	土器器	#	壺	16.0		ナデ、 刮目突帯	ナデ	にぶい黄(7 YR 7/3)	にぶい黄(7 YR 7/3)	3mmの黄灰・黒褐・灰白・褐灰 色粒、1mmのにぶい赤褐色粒、 微細な透明白沢感			
450	#	土器器	#	壺			ミガキ、ナデ	ナデ	にぶい黄(10 YR 7/3)、浅黄 (2SYR 7/4)	にぶい黄(10 YR 7/2)、にぶい 黄(2SYR 6/4)	5mmの灰場・灰白・にぶい赤褐色 粒、透明白沢感			
451	第79図	土器器	#	小形壺			ミガキ	風化	浅黄(2 SYR 8/4)	浅黄(2 SYR 8/6)	1mm・2mmの大茶褐色粒。微細な 乳白色粒			
452	#	土器器	#	小形壺			ナデ	ナデ	黄(10YR 8/6)	黄(10YR 8/4)	1mmの褐・黑色粒			
453	#	土器器	#	坏			ナデ	ナデ	にぶい黄(7 YR 6/4)、にぶい 黄(2SYR 6/3)	にぶい黄(6 YR 6/6)、にぶい 黄(2SYR 6/3)	3mmの灰白・灰黄・灰褐・にぶい 黄白色粒			
454	#	土器器	#	壺			ミガキ	ナデ	浅黄(7 SYR 8/6)	橙(7SYR 7/6)	微細な透明の光沢粒、2mmの 灰・褐色粒、4mmの褐色粒			
455	#	土器器	#	高坏	21.2		ナデ	ナデ	橙(7SYR 6/6)	橙(7SYR 6/6)	微細な透明の光沢粒、3mm以下 の灰褐色粒、3mmの大茶褐色粒、1 mm以下の白灰色粒			
456	#	土器器	#	高坏	13.6		ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい黄(10 YR 7/4)、にぶい 黄(7SYR 7/4)	にぶい黄(10 YR 7/4)、にぶい 黄(7SYR 7/4)	微細な褐・褐・黒・透明光沢 粒、2mmの黑色光沢・褐色粒			
457	#	土器器	#	高坏			ミガキ、ナデ	ナデ、ミガキ	橙(7SYR 7/6)	にぶい黄(7 YR 6/4)	4mmのにぶい黄(7 YR 6/4)、褐 白・褐色粒			
458	#	土器器	#	高坏	13.9		ナデ	ナデ、指ナデ	にぶい黄(7 YR 7/4)、 明黄(10YR 7/6)	にぶい黄(7 YR 7/4)、明黄 (10YR 7/6)	4mmのにぶい赤褐色・灰白・灰褐色 粒			
459	#	土器器	#	高坏			ミガキ、ナデ	ナデ	浅黄(10YR 8/4)	褐灰(10YR 8/4)	微細な透明白沢感、1mmの赤 褐色・灰白・黑褐色粒			
460	#	土器器	#	高坏			ミガキ	ナデ	橙(5SYR 6/6)	にぶい黄(7 YR 7/3)	1mmの透明・黑色光沢粒、2mm の褐・褐・灰白・黑褐色粒			
461	#	土器器	#	高坏	4.2 - 4.5		ナデ	ナデ	灰陶(2SYR 7/4)、 橙(7SYR 9/8)	にぶい黄(7 YR 7/3)	3mmの黒・褐褐・にぶい橙・灰 白色粒			
462	#	土器器	#	高坏	9.8		ミガキ、ナデ	ナデ	にぶい黄(7 SYR 7/4)	にぶい黄(7 SYR 7/4)	2mmの灰場・褐灰・黑褐色粒、5 mmのにぶい赤褐色粒			
463	#	土器器	#	高坏	4.0		ミガキ、ナデ	ナデ	にぶい黄(7 YR 7/4)	浅黄(2 SYR 7/4)	3mmの灰褐色・にぶい橙色粒			
464	#	土器器	#	高坏			ナデ	ハケ、ナデ	にぶい橙(7 SYR 6/2)	灰黄(2 SYR 6/2)	2mmの灰白・褐灰・赤褐色粒、6 mmの橙色粒			
465	#	土器器	#	高坏	11.6		ミガキ、ナデ	ナデ	明黄(10YR 6/6)	橙(7SYR 6/6)	3mmの灰白・にぶい褐色粒			
466	#	土器器	#	高坏	11.5		ミガキ、丁寧 なナデ、ナデ	丁寧なナデ、 ナデ	橙(7SYR 6/6)、明黄 (2SYR 6/4)	橙(7SYR 7/6)	微細な透明白沢感・灰・褐色粒、 2mmの茶・黑色光沢			
467	#	土器器	#	鉢	13.8	5.4	9.15	ナデ	ナデ	にぶい黄(10 YR 6/4)、明黄 (2SYR 6/4)	浅黄(7 SYR 8/4)	1mmの透明・黑色光沢粒、3mm の黄・褐色・5mmの灰黄色 粒		
468	#	土器器	#	鉢	11.6	4.6	8.8	ナデ、ハケ	ナデ	浅黄(7 SYR 8/3)	にぶい黄(7 YR 7/4)	微細な透明・黑色光沢粒、2mm の茶・黑色光沢		

第5表 古墳時代土器・土製品観察表(13)

番号	掲載図	種別	出土地点	器種	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴(混入物)	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
469	第79図	土器器	21号墳	台付壺	148	10.1	9.1	三ガキ	ナデ、ミガキ	褐色(75YR 7/6) にぶい黄褐色(75YR 6/6)	褐色(75YR 7/6) にぶい黄褐色(75YR 7/4)	1.5mmの黒色、透明光沢粒、2mmのにぶい赤褐色、橙、灰白、灰褐色粒	
470	#	土器器	#	壺	10.8			ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい黄褐色(10YR 7/2)	にぶい黄褐色(10YR 7/3)	2mmの黒褐色・灰白色粒	
471	#	土器器	#	壺	10.5			ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい黄褐色(10YR 7/4)	明黄褐色(10YR 7/6)	4mmのにぶい橙・灰白・灰褐色粒	
473	第80図	土器器	#	圓形鉢		6.9		ナデ	ナデ	明黄褐色(10YR 7/6)	にぶい黄褐色(10YR 7/4)	黄緑な白色の光沢粒、3mmの褐色粒	
474	#	須恵器	#	坏蓋	12.4			回転ナデ	回転ナデ	灰(N 41)	暗灰(N 31)	小謹、1mmの白色粒	
475	#	須恵器	#	坏蓋	12.0			回転ナデ	回転ナデ	灰(N 41)	灰(N 42)	微細な白色粒	
476	#	須恵器	#	坏蓋	11.6			回転ナデ	回転ナデ	灰(N 41)	暗灰(N 31)	微細な白色粒	
477	#	須恵器	#	豆皿				ナデ、波状文	自然釉	灰(N 41)	暗灰(N 31)	1mmの白色粒	
478	第83図	土器器	22号墳	備	22.4			ナデ、ハケ	ハケ、ナデ	にぶい黄褐色(75YR 5/4)	にぶい黄褐色(10YR 6/4)	3mmの黄色光沢粒、微細な光沢粒、2mmの灰白色光沢粒、3mmの黑色・暗赤褐色粒、5mmの褐色粒	
488	#	土器器	#	備	27.2			ハケ、 剣目突基	ハケ、ナデ	浅黄褐色(10YR 8/4)	にぶい黄褐色(10YR 7/3)	微細な乳白色粒、透明光沢粒、1mmの灰褐色粒、3mmの乳白色・褐色粒	
489	#	土器器	#	備	34.0			ナデ、 剣目突基	ナデ	にぶい黄褐色(10YR 7/4)	にぶい黄褐色(10YR 7/3)	1mmの透明光沢粒、5mmの赤褐色・灰褐色・構灰・灰白・褐色粒	
490	#	土器器	#	備		6.3		ナデ	ナデ	褐色(75YR 7/6) にぶい黄褐色(10YR 7/4)	にぶい黄褐色(75YR 7/4)	1.5mmの不透明の光沢粒、4mmの黒・黒褐色・灰白・構灰・灰褐色粒、7mmの褐色粒	
491	#	土器器	#	備		5.0		ナデ	指ナデ、ナデ	灰黄褐色(10YR 6/2)	褐灰(10YR 4/1)	2.5mmの黒・灰白・灰黃褐色粒	
492	#	土器器	#	壺	12.0 ~ 13.0			ナデ	ナデ	にぶい黄褐色(10YR 7/4)	にぶい黄褐色(10YR 7/3)	微細な透明白色光沢粒、1mmの灰褐色・黑色光沢粒、6mmの赤褐色・黄褐色・灰白色光沢粒	
493	#	土器器	#	壺				タタキ、 タタキ後泥	ケズリ	にぶい黄褐色(10YR 6/4)	にぶい黄褐色(10YR 7/4)	3mmの淡黄・灰・褐色・透明光沢・黑色光沢粒	
494	#	土器器	#	壺				ナデ、ミガキ	ナデ	褐色(75YR 6/6) にぶい黄褐色(75YR 7/3)	褐色(75YR 6/6)	4mmの赤褐色・にぶい橙・橙・灰褐色粒	
495	第84図	土器器	#	壺				ナデ	ナデ	灰黄褐色(10YR 6/2)	にぶい黄褐色(10YR 6/3)	7mmの赤褐色・にぶい赤褐色・にぶい褐色・灰褐色・灰白色光沢粒	
496	#	土器器	#	高壺	17.7			ナデ	ナデ	褐色(75YR 7/6) にぶい黄褐色(10YR 6/4)	にぶい黄褐色(10YR 7/4)	微細な透明・黒色光沢粒、1.5mmの黒褐色・橙・灰白色光沢粒	
497	#	土器器	#	高壺	16.8			ナデ、ミガキ	ナデ	明赤褐色(5YR 5/8)	褐色(5YR 6/6)	2mmの透明・黑色光沢粒、1mmの黒・黒褐色・灰白・褐色光沢粒、4mmの赤褐色光沢粒	
498	#	土器器	#	高壺	4.7			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	褐色(10YR 7/8)	褐色(5YR 6/8)	2mmの赤褐色・灰褐色・にぶい橙・灰白色光沢粒	
499	#	土器器	#	高壺	3.9			ナデ	ナデ	にぶい黄褐色(5YR 6/4)	にぶい黄褐色(75YR 6/4)	3mmの灰褐色・灰白色光沢粒	
500	#	土器器	#	高壺	21.8	11.1	13.9	ナデ、ミガキ	ミガキ、ナデ	褐色(75YR 6/6) にぶい黄褐色(10YR 5/3)	褐色(75YR 7/6) にぶい黄褐色(10YR 5/3)	1mmの透明光沢粒、3mmの赤褐色・黑褐色・灰白・灰褐色光沢粒	
501	#	土器器	#	高壺	19.3			ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい黄褐色(10YR 6/6) にぶい黄褐色(10YR 5/3)	褐色(75YR 6/6) にぶい黄褐色(10YR 5/3)	1mmの不透明の光沢粒、1.5mmの黒褐色・橙・灰白・黑色光沢・2.5mmの褐色光沢粒	
502	#	土器器	#	高壺	22.0			ナデ、ミガキ	ナデ	浅黄褐色(10YR 8/4) にぶい黄褐色(10YR 7/4)	にぶい黄褐色(10YR 7/3)	1mmの透明白色光沢粒、微細な黒褐色・にぶい橙・灰白・灰褐色光沢粒	
503	#	土器器	#	高壺	20.0			ナデ	ナデ	褐色(75YR 6/6)	褐色(75YR 6/6)	1mmの灰色光沢粒、2mmの黒褐色粒・3mmの白灰色・灰色光沢粒	
504	#	土器器	#	高壺	18.0	12.9	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	にぶい黄褐色(10YR 7/8)	にぶい黄褐色(10YR 7/4)	微細な透明白色光沢粒、白色粒	
505	#	土器器	#	高壺	16.0		三ガキ、ナデ 後三ガキか?	一部ハケ、 ミガキ	樹脂(5YR 7/8)	浅黄褐色(5YR 8/4)	微細な透明白色光沢粒、3mmの赤褐色・白色光沢粒		
506	第85図	土器器	#	高壺	11.0		ミガキ	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色(10YR 8/3)	にぶい黄褐色(10YR 6/4)	1mmの透明白色光沢粒、2mmの黒褐色・白色光沢粒	

第5表 古墳時代土器・土製品観察表(14)

番号	掲載図	種別	出土地点	器種	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴(混入物)	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
507	第85図	土師器	22号墳	高坏	9.8		ナデ	ナデ	橙 (75YR 6/6)	橙 (75YR 6/8)	1mmの灰色光沢粒、黒褐色粒、3mmの灰白・橙・赤褐色粒		
508	#	土師器	#	高坏	10.7		ナデ	ナデ	橙 (75YR 6/6)	橙 (75YR 6/6)	1mmの灰色光沢粒、4mmの赤褐・白灰・黒褐色粒		
509	#	土師器	#	高坏	9.7		ミガキ、ナデ	ナデ	橙 (75YR 6/6)	にぶい橙 (75YR 7/4)	1.5mmの透明・黑色光沢粒、1mmの灰白・褐・黒褐色粒		
510	#	土師器	#	-	15.2		ミガキ	ミガキ	明黄褐 (10YR 7/6)	橙 (75YR 7/6)	1mmの透明・黑色光沢粒、3mmの灰褐・橙・にぶい赤褐色粒		
514	第87図	土師器	23号墳	儀	31.4	5.6	ナデ、 刻目突帯、 一部ミガキ	ナデ	黒(10YR 2/1) 褐(10YR 4/4)	にぶい黒 (25YR 5/2)	1mmの透明・不透明・黑色光沢粒、5mmの暗赤褐・灰白・褐・黑色粒		
515	#	土師器	#	儀	6.0		ナデ	ナデ	浅黄 (25Y 7/3)	灰黄 (25Y 6/2)	6mmの褐・にぶい橙・黒褐色粒		
516	#	土師器	#	儀	8.0		ナデ	ナデ	浅黄 (25Y 7/4)	にぶい黄褐 (10YR 7/3)	5mmの灰白・灰黄・灰褐色粒		
517	#	土師器	#	壺	15.2		ナデ、 刻目突帯	ナデ	にぶい黄褐 (10YR 7/4)	にぶい黄褐 (10YR 7/4)	2mmの透明光沢粒、4mmの褐色粒、1mmの灰白・黑色粒		
518	#	土師器	#	壺			ミガキ	ナデ	橙 (75YR 6/6)	にぶい黄褐 (10YR 7/4)	微細な透明・黑色光沢粒、1mmの灰白・黑・褐・浅黄褐色粒	穿孔あり	
519	#	土師器	#	鉢	15.2	4.8	102	ナデ	ナデ	浅黄 (25Y 7/4)	にぶい黄褐 (10YR 6/4)	3mmの黑色光沢粒、5mmの灰褐・にぶい褐・灰褐色粒	
520	#	土師器	#	高坏	24.2		ナデ、ミガキ ナデ	ナデ、一部	橙 (75YR 6/6)	橙 (75YR 7/6)	微細な褐色粒、黑色光沢粒、1mmの褐・赤褐・橙・灰褐色粒		
521	#	土師器	#	高坏	27.0		ナデ	ナデ	浅黄褐 (75YR 8/6)	浅黄褐 (75YR 8/8)	微細な褐色粒、2mmの褐・灰色粒		
522	#	土師器	#	高杯	20.0		ナデ、ミガキ ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	にぶい黄褐 (10YR 7/4)	にぶい黄褐 (10YR 7/4)	微細な黒褐・黑・褐色粒		
523	#	土師器	#	高坏	19.5		ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	橙 (75YR 6/6)	橙 (7.5YR 6/6), にぶい黄褐 (10YR 6/4)	2mmのにぶい褐・灰白色粒		
524	#	土師器	#	高坏	17.0		ミガキ、ナデ	ナデ	橙 (5YR 6/6), 明黄褐 (25Y 5/2)	明黄褐 (25Y 5/2)	微細な透明・黑色光沢粒・灰白・黑・灰褐色粒		
525	#	土師器	#	高坏			ミガキ	ミガキ	にぶい橙 (75YR 7/4)	にぶい黄褐 (10YR 6/3), 黄灰 (25Y 6/1)	1mmの透明・黑色光沢粒、1.5mmのにぶい橙・灰褐・黒褐色粒、2mmの褐褐色粒		
526	第88図	土師器	#	高坏	9.8		ミガキ	風化	橙 (5YR 6/8)	黄褐 (7.5YR 7/8)	1.5mmの透明・黑色光沢粒、1mmの橙・灰褐・浅黄褐色粒		
527	#	土師器	#	高坏	39. 4.6		ミガキ、ナデ	ナデ	橙 (5YR 6/6)	橙 (75YR 6/6)	2mmの灰白・褐・灰褐色・透明光沢・黑色光沢粒		
528	#	土師器	#	高坏	4.4		ミガキ、ナデ	ナデ	橙 (75YR 7/6)	浅黄 (25Y 7/3)	3mmの明赤褐・灰白・灰褐色・透明光沢粒		
529	#	土師器	#	高坏			ナデ	全体的に粗い 仕上げ、粘土 のたるみ	橙 (5YR 7/6)	赤褐 (10R 6/6), にぶい黄褐 (7.5YR 6/4)	微細な乳白色粒、4mmの灰・褐・灰色粒		
530	#	土師器	#	高坏	21.0		ミガキ、一部 ナデ	ナデ	橙 (5YR 7/8)	にぶい黄褐 (10YR 6/4)	微細な透明の光沢粒・乳白色粒		
531	#	土師器	#	高坏	16.3		ナデ	ナデ	にぶい黄褐 (10YR 7/4)	にぶい黄褐 (10YR 7/3)	微細な透明・黑色光沢粒、1mmの灰白・灰褐・赤褐色粒		
532	#	土師器	#	高坏	13.2		ミガキ	ナデ	にぶい黄褐 (10YR 7/4)	にぶい黄褐 (10YR 7/4)	微細な透明・黑色光沢粒・黑色・にぶい褐色粒		
533	#	土師器	#	鉢	10.4		ナデ	ナデ	橙 (5YR 6/8)	橙 (5YR 6/8)	微細な灰白色粒・光沢粒、1mm-2mmの明赤褐色粒		
534	#	土師器	#	鉢	11.7		ナデ	ナデ、ミガキ	にぶい黄褐 (10YR 7/4)	橙 (5YR 7/6)	1mmの透明・黑色光沢粒・黒褐・灰褐色粒、4mmの橙色粒		
535	#	土師器	#	鉢	15.9	9.4	11.6	ミガキ、一部 ナデ	ナデ、ミガキ	浅黄褐 (10YR 8/4)	黄褐 (7.5YR 8/8)	微細な乳白色粒、2mmの灰・褐・灰色粒	
536	#	土師器	#	鉢	11.5		ミガキ	ナデ	にぶい黄褐 (10YR 7/4)	浅黄褐 (10YR 8/4)	1.5mm程のにぶい褐・灰白・灰褐色粒		
537	#	土師器	#	高坏			ナデ	ナデ	橙 (75YR 6/6)	橙 (5YR 6/6)	1mmの透明光沢粒・黑・褐・灰色粒		

第5表 古墳時代土器・土製品観察表(15)

番号	掲載図	種別	出土地点	器種	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴(混入物)	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面	
541	第90回	土器器	24号墳	廣	19.0		ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	柾(75Y R 7/6), 黒褐(75Y R 6/4) YR 3(1)	にぶい黄褐(75Y R 6/4)	2mmの透明光沢粒、5mmの赤褐色粒、1mmの白灰、黒色粒	
542	#	土器器	*	小形廣	13.6		ハケ、ナデ	ナデ	柾(SYR 6/6)	柾(SYR 6/8)	2mmの灰白色粒、3mmの赤褐色粒、1.5mmの黒褐色粒	
543	#	土器器	*	廣	29.6		ナデ、 刮目突窓	ナデ	にぶい黄褐(10Y R 7/2)	にぶい黄褐(10Y R 7/4)	5mmの黒褐・にぶい褐・灰褐・にぶい橙色粒	
544	#	土器器	*	廣	30.8		ナデ、 刮目突窓	ナデ	灰黄褐(10Y R 6/2)	灰黄褐(10Y R 6/2), 黑褐(10Y R 3/1)	2.5mmの透明・黒色光沢粒、3mmの黒褐・灰白色粒、5mmの灰褐・褐色粒	
544	#	土器器	*	廣	75.7		ナデ一部ケズリ	ナデ	にぶい黄褐(10Y R 7/4)	褐灰(75Y R 4/1)	1.5mmの透明・不透明の光沢粒、2mmの灰白色粒、7mmの灰褐・褐灰・黒褐色粒	
545	#	土器器	*	壺	12.0		ハケ、ミガキ、 刮目突窓	ナデ、部分的に ハケ	にぶい黄褐(10Y R 7/4)	にぶい黄褐(10Y R 7/4)	1mmの透明・黒色光沢粒、3mmの白灰・赤褐・黒褐・灰褐・黒褐色粒	風化
546	#	土器器	*	壺	5.2		ナデ	ナデ	にぶい黄褐(10Y R 7/3)	にぶい黄褐(10Y R 7/3)	1mmの透明・黒色光沢粒、4mmの赤褐色・灰白色粒、7mmのにぶい赤褐・黒褐・城灰色粒	
547	#	土器器	*	壺	5.1		ナデ	ナデ	にぶい黄褐(10Y R 6/4)	柾(SYR 6/6)	微細な透明・黒色光沢粒、3mmの白灰・黒褐色粒、6mmの褐灰色粒	
548	#	土器器	*	鉢	6.0~ 6.5		ナデ	ナデ	柾(75Y R 7/6)	にぶい黄褐(10Y R 7/4)	1mmの透明・黒色光沢粒、2.5mmの褐灰・灰褐色粒	
549	第91回	土器器	*	高坏	29.2		ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	黄褐(10Y R 8/6)	にぶい黄褐(10Y R 7/4)	微細な乳白色粒、1mmの褐色・黑色粒	
550	#	土器器	*	高坏	25.8		ナデ、ミガキ、 ハケ	ナデ、ミガキ	柾(SYR 7/8)	黄褐(10Y R 8/6)	微細な透明光沢粒、黒・褐色粒、2mmの暗・灰色粒	
551	#	土器器	*	高坏	16.3		ナデ、ミガキ	ナデ	明黄褐(10Y R 6/6)	柾(75Y R 6/6)	微細な光沢粒、黒白色粒、1mmの黑色粒、2mmの赤褐色粒	
552	#	土器器	*	高坏	18.2		ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	柾(75Y R 6/6)	柾(75Y R 7/6)	1mmの黒褐・赤褐色粒	
553	#	土器器	*	高坏	30.2		ミガキ、ナデ	ナデ	柾(SYR 6/6)	柾(SYR 6/6), 褐灰(10Y R 5/1)	2.5mmの灰黄・灰白・灰褐色粒	
554	#	土器器	*	高坏	5.0~ 6.0		ナデ	ナデ	柾(SYR 6/6)	褐灰(75Y R 4/1)	2mmの灰白・灰褐色・黒色光沢粒	
555	#	土器器	*	高坏			ミガキ	ミガキ、ナデ	柾(SYR 6/6)	灰黄褐(10Y R 5/2)	微塵・1.5mmの透明・黒色光沢粒、書道・1mmの赤褐色・黒・白色粒、2mmの黑色粒、浅黃褐色粒	
556	#	土器器	*	高坏			ミガキ	ナデ	にぶい黄褐(10Y R 7/4)	浅黄褐(10Y R 8/4)	1mmの黒色光沢粒、灰白・灰褐・橙色粒	
557	#	土器器	*	高坏			ナデ	ナデ	にぶい黄褐(10Y R 7/4)	褐灰(2SY 5/1)	微細な透明・黒色光沢粒、1mmの灰白色粒	
558	#	土器器	*	高坏			丁寧なナデ、 三ガキ	ナデ	柾(75Y R 7/6)	柾(5Y R 7/6)	微細な透明の光沢粒、黒・褐色粒、1mmの黑色光沢粒、灰白・黑褐色粒、2mmの淡黄褐色粒	
559	#	土器器	*	高坏			ミガキ	ナデ	にぶい黄褐(75Y R 7/4)	にぶい黄褐(5Y R 7/3)	微細な乳白色粒、透明な光沢粒、1mmの乳白色	
560	#	土器器	*	高坏			ナデ、ミガキ	ナデ	柾(SYR 6/6), 褐灰(2.5Y 7/2)	黄灰(2.5Y 6/1), にぶい黄褐(5Y R 7/4)	1mmの透明・黒色光沢粒、2mmの灰白・にぶい赤褐色・褐灰・黒褐色粒	
561	#	土器器	*	高坏			ナデ	丁寧なナデ、 ミガキ	明黄褐(10Y R 7/6)	明黄褐(10Y R 7/6), 淡黄褐(2.5Y 8/4)	2mmの光沢粒、1mmの黒褐・明黄褐・赤褐色粒	
562	#	土器器	*	高坏			ミガキ	ナデ	柾(75Y R 7/6)	明黄褐(10Y R 7/6)	微塵・1mmの光沢粒・白色粒、1mmの黑色粒、2mm~3mmの明赤褐色粒、2mm~5mmの淡褐色粒	
563	#	土器器	*	高坏 (丸まり)	4.6		ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	柾(SYR 6/6), にぶい黄褐(10Y R 7/3)	にぶい黄褐(10Y R 7/3)	3mmの褐灰・灰白色粒	
564	#	土器器	*	高坏	11.2		ミガキ、ナデ	ナデ	浅黄褐(75Y R 8/4)	褐灰(75Y R 4/1)	微細な灰白・透明光沢粒	
565	#	土器器	*	高台付鉢	11.7		ミガキ後ナ デ、丹塗り	ナデ	にぶい黄褐(10Y R 7/4)	灰黄褐(10Y R 7/2)	1mmの透明光沢粒、灰白・にぶい黄褐・褐・黒褐色粒	
566	#	土器器	*	小型鉢	12.1		ナデ、ハケ	ナデ、ミガキ	明黄褐(75Y R 5/6)	明黄褐(75Y R 5/6)	微細な橙・灰白・灰褐・黒褐色粒	

第5表 古墳時代土器・土製品観察表(16)

番号	掲載図	種別	出土地点	器種	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴(混入物)	備考	
					口径	底径	器高		外面	内面			
566	第91図	土器器	24号墳	鉢	13.6			ナデ、ミガキ	ナキ	にぶい黄褐色(10YR 6/3), 灰褐色(10YR 6/2), 桐灰褐色(10YR 4/1)	青緑色透明光沢粒、1mmの黒・浅黄褐色粒	風化	
569	第92図	土器器	*	高坏				ミガキ	ナデ	橙(2SYR 6/8)	橙(2SYR 7/6)	2mmの黒褐色粒	脚部転用の羽口
570	*	土器器	*	高坏	14.25			ナデ	ナデ	にぶい黄褐色(10YR 7/4)	浅黄褐色(2SYR 7/4)	1mmの黒・褐・茶・透明光沢粒	脚部転用の羽口
585	第96図	土器器	25号墳	壺				ナデ、ハケ、 刮目突等	ナデ	灰黄褐色(10YR 6/2)	にぶい黄褐色(10YR 7/4)	4mmの透明・黒色光沢粒、6mmの 褐灰色粒、2mmの黒・黒褐色粒	
586	*	土器器	*	壺				ナデ、 刮目突等	ナデ、ハケ	褐灰(10YR 6/1)	明黄褐色(2SYR 6/6)	5mmのにぶい褐・褐灰・灰白・ 透明光沢粒	
587	*	土器器	*	壺	20.2			ナデ、ミガキ	ナデ	橙(5YR 7/8)	橙(5YR 7/8)	微細な透明の光沢粒、2mmの 褐・茶・乳白色粒、4mmの黒・ 褐褐色粒	
588	*	土器器	*	壺	6.9			ナデ	ナデ、 一部ハケ	橙(7SYR 7/6), にぶい黄褐色(10YR 7/4)	にぶい黄褐色(10YR 7/4)	2mmの透明・黒色光沢粒、4mmの 褐・灰・褐・白・黑色粒	
589	*	土器器	*	壺か壺	14.3			ナデ	ナデ	黑褐色(10YR 3/1)	浅黄褐色(10YR 8/4), 黑褐色(10YR 8/4)	微細な乳白色・褐色・灰褐色・ 乳白色粒、1mm-2mmの大・灰色粒	
590	*	土器器	*	高坏	30.8			ナデ、ミガキ	ハケ	にぶい黄褐色(10YR 6/4)	灰黄褐色(10YR 5/2)	3mmの灰褐色粒、4mmの赤褐色粒	
591	*	土器器	*	高坏	18.1			ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい橙(7SYR 6/4)	にぶい橙(10YR 6/4)	微細な灰色光沢粒、2mmの赤褐色 粒、2mmの褐色光沢粒	
592	*	土器器	*	高坏	15.0			ミガキ、ナデ	ハケ、ナデ	にぶい黄褐色(10YR 6/3)	にぶい黄褐色(10YR 7/4)	微細な透明・黒色光沢粒、5mm の赤褐色・黑褐色光沢粒	
593	*	土器器	*	壺	14.5	7.4		ナデ、円状工 具痕	ナデ	にぶい黄褐色(10YR 5/2)	橙(5YR 7/6), にぶい黄褐色(10YR 5/2)	1mmの透明・黒色光沢粒、3mm の赤褐色・灰褐色光沢粒	
594	*	土器器	*	壺	11.3			なで	ナデ	にぶい橙(7SYR 7/6), 橙(7SYR 7/6)	明黄褐色(2SYR 7/6), 橙(10YR 7/6)	5mmのにぶい橙・灰褐色・灰白 色・透明光沢粒	
595	第97図	土器器	*	高坏	11.8			ナデ、ミガキ	ナデ	明黄褐色(2SYR 7/6), 橙(10YR 6/6)	明黄褐色(2SYR 7/6), 橙(10YR 7/6)	3mmのにぶい黄褐色・灰白・橙・ 黑色粒	
596	*	土器器	*	高坏	8.6 or 7.6			ミガキ、ナデ	ナデ	橙(7SYR 7/6)	明黄褐色(10YR 7/6)	1mmの透明・黒色光沢粒、1.5mm の灰白・黑褐色・灰褐色・赤褐色光沢 粒	
597	*	土器器	*	高坏				ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい黄褐色(10YR 7/4), 橙(7SYR 7/6)	にぶい黄褐色(10YR 7/4)	微細な不透明・透明・黒色光沢 粒、3mmの赤褐色・褐褐色・灰褐色 光沢粒	
613	第98図	土器器	*	壺				にぶい黄褐色(10YR 7/2), 黑褐色(7SYR 5/5)	にぶい黄褐色(10YR 7/4)	5mmのにぶい赤褐色・灰褐色・ にぶい橙・灰白・黑色粒	接合しないが同一の3個体 。		
614	*	土器器	*	高坏	15.4			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	にぶい橙(5YR 6/6)	にぶい黄褐色(10YR 7/4)	微細な灰色光沢・透光光沢粒、 2mmの褐色・赤褐色・2mmの橙色 粒、4mmの白色粒	
615	*	土器器	*	高坏				ナデ、ミガキ	ナデ	橙(5YR 6/6)	にぶい黄褐色(10YR 7/4)	微細な灰色光沢・透光光沢粒、 1mmの白・黄褐色・3mmの白・黑色 粒	
616	*	土器器	*	高坏				ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい黄褐色(10YR 7/4)	にぶい黄褐色(10YR 7/4)	1cmの赤褐色の小礫、微細な透 明光沢粒、1mmの白・黑色粒、3mm の赤褐色光沢粒	
617	*	土器器	*	高坏	18.3			ナデ、ミガキ	ミガキ、ナデ	橙(7SYR 7/6), にぶい黄褐色(10YR 7/4)	灰褐色(2SYR 6/2)	微細な黑褐色・灰白・橙色粒	
618	*	土器器	*	壺	11.7			ミガキ	ミガキ	橙(7SYR 6/6)	橙(7SYR 6/6)	微細な透明・黒色光沢粒、1mm の灰褐色・灰褐色・4mmの橙色 粒	
619	第99図	土器器	27号墳	壺	7.1		調整不明	一部ハケ	にぶい黄褐色(10YR 7/3)	灰白(10YR 8/2)	1.5mmの透明・黒色光沢粒、4mm のにぶい褐・褐灰・灰褐色光沢粒		
620	*	土器器	*	高坏				ミガキ	ナデ				
621	*	土器器	*	高坏	16.3	10.6		ミガキ	ミガキ	橙(7SYR 7/6)	橙(5YR 6/6)	5mmのにぶい橙・灰白・淡黃 色・灰褐色・にぶい黄褐色・透光光 沢粒	
622	*	土器器	*	高坏	15.4			全 体 的 に 風 化、ナデ	全 体 的 に 風 化、ナデ	橙(7.5YR 7/6), 浅黄褐色(7SYR 6/6)	橙(7.5YR 7/6), 浅黄褐色(7SYR 7/6)	2mmの黒褐色・透光光沢粒、5mm の赤褐色・にぶい黄褐色・黄褐色・ 灰褐色・8mmの褐色光沢粒	
623	*	土器器	*	高坏	16.1			ナデ	ナデ	にぶい黄褐色(10YR 6/4)	橙(5YR 7/8)	微細な透明・黒色光沢粒、3mm の赤褐色・灰白・黑褐色光沢粒	
624	*	土器器	*	高坏	8.9			ミガキ	ナデ	にぶい黄褐色(10YR 7/3)	褐灰(10YR 4/1)	微細な透明・黒色光沢粒、2.5mm の赤褐色・灰白・黑褐色光沢粒	

第5表 古墳時代土器・土製品観察表(17)

番号	掲載図	種別	出土地点	器種	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴(混入物)	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
625	第99回	土器器	27号墳	高坏	8.3		三ガキ、ナデ	ナデ	橙 (75Y R 7/8)	浅黄褐 (75Y R 8/6)	微細な透明の光沢粒・乳白色粒・灰褐色粒、2mmの褐色粒		
626	#	土器器	#	高坏			ナデ、ミガキ	ナデ	橙 (75Y R 7/6)	にぶい黄褐 (10Y R 7/4)	微細な透明光沢粒、4mmの灰白・橙・灰・褐色粒、5mmの褐色粒		
627	第101回	土器器	28号墳	横	32.6	5.1	30.7 八ヶ、ナデ、 刻目文帯	工具ナデ	浅黄褐 (10Y R 8/4)	浅黄褐 (75Y R 8/4)	2mmの透明・不透明・黑色光沢粒、4mmの褐褐・黒・赤褐・褐色		
628	#	土器器	#	横	31.4	5.8	32.6 八ヶ、ナデ、 刻目文帯	ナデ	灰黄 (75F 7/2)	にぶい黄褐 (10Y R 7/3)	3mmにぶい橙・3mmにぶい褐・灰褐・灰白色・透明光沢粒		
629	#	土器器	#	鉢	18.0	4.7	15.9 八ヶ、ナデ、 刻目文帯	ナデ、ミガキ	橙 (75Y R 7/6)	にぶい黄褐 (10Y R 6/6)	微細な透明・黑色光沢粒、4mmの褐褐・褐・灰・褐色粒		
630	#	土器器	#	横	6.3		八ヶ、ナデ	ナデ	明黄褐 (10Y R 6/6)	にぶい黄褐 (10Y R 7/3)	3mmの灰黄褐・にぶい黄褐・黒・灰白色・透明光沢粒		
631	#	土器器	#	横	6.8			ナデ	ナデ	にぶい黄褐 (10Y R 6/3)	橙 (75Y R 7/6)	2mmの灰黄・灰白・黒褐色・黑色光沢	
632	#	土器器	#	横	6.0		一部八ヶ、 ナデ	ナデ	にぶい黄褐 (10Y R 7/4)	灰黄	1mmの透明・黑色光沢粒、2mmの浅黄・灰白色粒、5mmの灰褐・褐色・黑色光沢		
633	#	土器器	#	横か蓋	6.35			ナデ	ナデ	橙 (75Y R 7/6)	にぶい黄褐 (10Y R 7/4)	微細・1mmの透明・不透明・黑色光沢粒、1mm・3mmの褐色・黑色・灰白色・1mm・5mmの赤褐色・褐色光沢粒	
634	第102回	土器器	#	横	34.0	5.4	25.4 八ヶ、ナデ、 刻目文帯	ナデ、ハケ	橙 (75Y R 6/6)	にぶい黄褐 (10Y R 6/4)	1mmの反光光沢・透明白光・白色光沢粒、3mmの黒褐・赤褐色光沢粒		
635	#	土器器	#	横	23.5	6.8	23.8 八ヶ、 刻目文帯	ナデ、ハケ	浅黄褐 (10Y R 8/4)	浅黄褐 (75Y R 8/6)	微細な乳白色・褐色光沢・透明白光・乳白・褐色・灰色光沢		
636	#	土器器	#	横	6.0		八ヶ、ナデ	ナデ	浅黄褐 (25Y 7/4)	浅黄褐 (25Y 7/3), 橙 (75Y R 6/6)	3mmのにぶい橙・黒・灰白・灰褐色光沢		
637	#	土器器	#	小型壺	6.8	7.9	三ガキ	ミガキ、ナデ	にぶい黄褐 (10Y R 7/3)	浅黄 (25Y 7/3)	微細な透明・黑色光沢粒、2.5mmのにぶい黄褐色光沢		
638	#	土器器	#	高坏	18.8		三ガキ	ミガキ	橙 (75Y R 7/6)	にぶい黄褐 (10Y R 7/4)	1mmの透明・黑色光沢粒、1.5mmの褐褐・灰褐・黒褐・赤褐色光沢		
639	#	土器器	#	高坏	28.8	17.8	21.6 ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙 (75Y R 6/8)	黄褐 (75Y R 7/8)	1mmの反光光沢粒・褐色光沢・2mmの赤褐・灰白・黒褐色		
640	#	土器器	#	高坏			三ガキ、ナデ	ナデ	にぶい黄褐 (10Y R 6/3)	にぶい黄褐 (10Y R 6/3)	2mmの黄元・灰白色粒、4mmの橙褐色光沢・6mmの褐褐・反光光沢		
641	#	土器器	#	高坏				ナデ	ナデ	法貫青 (75Y R 8/4), 明黄褐 (25Y R 8/2)	黄褐 (75Y R 7/6)	1mmの透明・黑色光沢粒、3mmの褐褐・灰白・褐色・にぶい橙色光沢	丹塗り
642	#	土器器	#	高坏			三ガキ	ナデ	杏褐 (25Y R 4/8)	にぶい黄褐 (10Y R 7/3)	微細な透明光沢粒・微細・3mmののんびり黄色光沢・灰白・褐色光沢	丹塗り	
643	第103回	土器器	#	高坏	31.5		三ガキ	ミガキ	浅黄褐 (75Y R 7/6)	にぶい黄褐 (10Y R 7/4), 橙 (75Y R 7/6)	1.5mmの透明・不透明・黑色光沢粒・2mmの橙・褐色・2.5mmのにぶい赤褐色光沢		
644	#	土器器	#	高坏	28.2		三ガキ、ナデ	ナデ、ミガキ	橙 (75Y R 6/6)	にぶい黄褐 (10Y R 7/4)	1.5mmの透明・黑色光沢粒・2mmの橙・褐色・2.5mmのにぶい赤褐色光沢		
645	#	土器器	#	高坏	11.6		ナデ、ミガキ	ナデ	橙 (75Y R 7/6)	にぶい黄褐 (10Y R 7/4)	微細な透明・黑色光沢粒・1mmの橙・淡黄褐・灰白・黑色光沢		
646	#	土器器	#	高坏	19.2		三ガキ、ナデ	ナデ	浅黄褐 (75Y R 8/6)	浅黄褐 (10Y R 8/3)	微細な乳白色光沢・透明白光・光沢粒・2mmの褐・黒・灰・褐色		
647	#	土器器	#	坏	11.2		三ガキ、ナデ	ナデ	にぶい橙 (75Y R 7/3)	深橙 (75Y R 8/4)	微細な灰・褐・乳白色光沢・3mmの灰褐・黒・乳白色光沢		
648	#	土器器	#	坏	13.1	3.7	6.3 ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ	にぶい橙 (75Y R 7/4)	橙 (75Y R 7/6)	微細な透明・黑色光沢粒・1mmの橙・灰白色・透明白光・砂粒		
649	#	土器器	#	坏	(丹塗り)	13.8	5.6 ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	明赤褐 (25Y R 5/6)	明赤褐 (25Y R 5/6)	2mmの褐灰・灰白・にぶい橙色・透明白光・黑色光沢		
650	#	土器器	#	坏	13.2	6.1	6.8 ミガキ	ナデ	にぶい黄褐 (10Y R 7/3)	浅黄褐 (10Y R 7/6)	1mmの透明・黑色光沢粒・1mmの橙色光沢・微細・2mmの灰褐色・赤褐色・黄褐色光沢		
651	#	土器器	#	坏	13.3	5.7	5.7 ミガキ、ナデ	ナデ	にぶい黄褐 (10Y R 7/3)	浅黄褐 (10Y R 8/4)	1mmの透明・黑色光沢粒・黑褐・灰褐色		
652	#	土器器	#	坏	12.6		ナデ、ミガキ	ナデ	明黄褐 (10Y R 7/6)	灰黄褐 (10Y R 7/6)	2mmの灰褐・にぶい橙・灰白色光沢		

第5表 古墳時代土器・土製品観察表(18)

番号	掲載図	種別	出土地点	器種	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴(混入物)	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
653	第10回	土器器	28号墳	环	14.7	5.6	6.7	ミガキ、ナデ	ナデ	浅黄 (25Y 7/4)	灰黄 (25Y 7/2)	5mmの灰白・褐灰・橙・にぶい 緑・黒色粒	
654	#	土器器	#	鉢	12.9		7.3	ミガキ、ナデ	ナデ	橙(5Y R 6/ にぶい黄 6), 淡黄(25 Y 7/3)	橙(5Y R 6/ 6), 淡黄(25 Y 7/3)	微細な灰白色・濃褐色・透明光 沢沢	
655	#	土器器	#	鉢	13.6		8.2	ナデ	ナデ	にぶい黄 橙(10Y R 6/ 3)	にぶい黄 橙(75Y R 6/ 4)	微細な黒褐色粒・1mmの透明光 沢沢・3mmの褐色粒	
656	#	土器器	#	鉢	15.2	5.6	9.5	ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	灰黄(25Y 7/ 3/3)	灰黄(25Y 7/ 6), 灰黄(25 Y 7/6)	4mmの黒褐色・にぶい橙・灰白・ にぶい赤褐色・透明光沢沢	
657	#	土器器	#	小型鉢	9.5		7.1	ナデ、ハケ	ナデ	橙(75Y R 7/ 6), 灰黄(25 Y 7/2)	明黄褐(10Y R 7/6), 灰黄 (25Y 6/2)	1mmの灰色光沢・黒褐色・灰白・ 灰色	
658	#	土器器	#	鉢				ミガキ	ナデ	橙 (75Y R 7/6)	墨 (10Y R 2/1)	微細な灰褐色・乳白色粒・褐色粒・ 1mmの乳白色粒・褐色粒・2mm - 3 mmの褐色粒	
659	#	土器器	#	小型 鉢?	4.35			ハケ、ナデ	ハケ、ナデ	灰白(25Y 8/ 2), にぶい橙 (75Y 7/2)	灰白(25Y 8/ 2), 灰黄 (25Y 7/2)	微細な透明光沢粒・1mmの赤 褐色・灰色・黒褐色・灰白色	
660	#	須恵器	#	広口壺	19.5			回転ナデ	回転ナデ	灰 (75Y 6/1)	灰 (75Y 6/1)	1mmの墨・白色粒	
661	#	須恵器	#	瓦泉	9.7			回転ナデ、 波紋	自然釉	灰 (75Y 4/1)	オリーブ墨 (75Y 2/1)	-	
662	#	須恵器	#	瓦泉				ナデ、 自然釉	ナデ、 自然釉	灰 (75Y 5/1)	オリーブ墨 (75Y 3/1)	微細な白色粒	
673	第105回	土器器	#	高杯				ミガキ	ナデ	にぶい黄 橙(10Y R 7/2)	にぶい黄 橙(10Y R 7/2)	小鏡・1mmの灰・黒・褐色粒	丹塗り
674	第108回	土器器	29号墳	模	30.0			ナデ、 到目突毫	ナデか、 底化	黄褐 (10Y R 8/3)	淡黄褐 (10Y R 8/4)	2mmの灰・褐・黒褐色・5mmの 褐色・灰色	
675	#	土器器	#	模				ナデ、 ハケ、 到目突毫	ナデ、 一部ハケ	にぶい黄 橙(10Y R 5/3)	にぶい黄 橙(10Y R 7/4)	1mmの透明・黒褐色光沢沢・5mmの 黒褐色・赤褐色・橙・褐灰色	
676	#	土器器	#	壺	8.3		19.6	ナデ、 ハケ、 到目突毫	ナデ、 一部ハケ	淡黄褐 (10Y R 8/3)	淡黄褐 (10Y R 8/4), 湖赤褐 (10Y R 3/3)	微細な赤褐色粒・1mmの赤褐色 粒・2mmの黒褐色光沢沢	
677	#	土器器	#		15.1			ナデ	ナデ	灰黄 (25Y R 6/2)	灰黄 (25Y R 6/2)	1mmの赤褐色・灰色	
678	#	土器器	#	高坏	19.3			ナデ、ミガキ	ナデ	橙(75Y R 7/6)	橙(75Y R 7/6)	4mmのにぶい黄褐色・灰白・褐 灰色	
679	#	土器器	#	高坏	18.0			ナデ、 一部三 方キ	ナデ、 部分的 にミガキ	橙(75Y R 7/6)	橙(75Y R 7/6)	微細な透明・黒褐色光沢沢・2mm の褐斑・灰白・にぶい褐色	
680	第109回	土器器	#	高坏	28.3			ナデ	ナデ	浅黄褐 (10Y R 8/3)	灰白 (25Y 8/2)	微細な透明・黑色光沢沢・2mm の褐斑・灰白・にぶい褐色	
681	#	土器器	#	高坏				ナデ	ナデ	黄褐 (75Y R 8/8)	褐灰 (75Y R 4/1)	1mmの乳白色粒・褐色	
682	#	土器器	#	高坏	17.6			ナデ、ミガキ、 ナデ	ナデ	橙(5Y R 6/ 6), にぶい橙 (75Y R 7/4)	橙(5Y R 6/ 6), にぶい黄 橙(10Y R 6/6)	微細な透明・黑色光沢沢・2mm の褐斑・黒褐色粒・5mmの赤褐色 粒	
683	#	土器器	#	高坏	20.2		12.75	ミガキ	ナデ、 一部ミガキ	にぶい橙 (75Y R 7/4)	淡黄褐 (75Y R 8/6)	微細な透明光沢経・黒褐色・灰褐色	
684	#	土器器	#	高坏	17.9			ナデ、 部分的 に工具痕	ナデ	にぶい橙 (75Y R 7/4)	淡黄褐 (10Y R 8/4)	微細な褐・黒・透明光沢色	
685	#	土器器	#	高坏	10.8			ミガキ、ナデ	ナデ	橙(5Y R 6/ 6), 橙(75Y R 7/6), にぶい黄 橙(10Y R 6/4)	橙(75Y R 7/ 6), にぶい黄 橙(10Y R 6/4)	微細な淡黄・灰・透明光沢経・ 2mmの褐・灰・淡黄色粒・5mmの 褐色	
686	#	土器器	#	鉢	13.0			ナデ	ナデ	灰白(25Y 8/ 2), にぶい黄 橙(10Y R 7/4)	淡黄褐 (10Y R 8/4)	2mmの灰褐色・にぶい橙・灰黄・ 灰色	
687	#	土器器	#	高台 付坏	12.5	7.1	9.3	ミガキ? ナデ	ミガキ、ナデ	にぶい黄 橙(7.5Y R 6/ 6), にぶい黄 橙(10Y R 7/4)	にぶい黄 橙(10Y R 8/ 2), 灰白(25Y R 7/2)	微細な透明・黒褐色光沢経・2mm の赤褐色・灰白・黒褐色・褐色	
688	#	土器器	#	碗	13.7		8.1	ナデ、ミガキ	ナデ	橙(5Y R 6/ 6), にぶい黄 橙(10Y R 7/4)	橙(75Y R 6/ 6), にぶい黄 橙(10Y R 7/4)	1.5mmの透明・不透明・黒褐色光 沢・4mmの褐・褐灰色・灰褐色・ 黒褐色	
689	#	土器器	#	碗	13.6			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	橙(5Y R 6/ 6), にぶい黄 橙(10Y R 7/4)	にぶい黄 橙(10Y R 7/4)	1mmの不透明の光沢粒・赤褐色・ 黒・灰褐色	
708	第112回	土器器	30号墳	模				ナデ、 ハケ、 到目突毫	ナデ	にぶい橙 (10Y R 7/4)	淡黄 (25Y 8/3)	3mmの黄褐色粒・5mmの赤灰色粒	

第5表 古墳時代土器・土製品観察表(19)

番号	掲載図	種別	出土地点	器種	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴(混入物)	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
709	第112図	土師器	30号墳	壺	6.7		ナデ、木葉底	ナデ	淡黄 (25Y R 8/3)	淡黄 (25Y R 7/3)	1mmの透明光沢粒、5mmの黄粒・明赤褐色粒、3mmの灰色粒		
710	#	土師器	#	高坏			ナデ	ミガキ、ナデ	淡黄褐 (10Y R 8/3)	淡黄褐 (10Y R 8/4)	微細な乳白色・透明な光沢粒、1mmの褐色・灰色粒		
711	#	土師器	#	高坏			ミガキ	ナデ	にぶい黄褐 (10Y R 7/4)	にぶい黄褐 (25Y R 7/4)	微細な透明・黒色光沢粒、1mmの褐色・褐色灰粒、5mmの淡黄色粒		
712	#	土師器	#	壺	18.3		ナデ	ナデ	灰黄褐 (10Y R 4/2), にぶい黄褐 (10Y R 6/3)	灰黄褐 (10Y R 5/2)	2.5mmの灰白・灰黄褐色粒		
713	#	土師器	#	高坏	15.9		ミガキ、ナデ	ナデ	橙 (75Y R 6/6)	にぶい橙 (75Y R 6/4)	微細な透明・黒色光沢粒、2mmの淡黄褐・灰・にぶい褐色粒		
714	#	土師器	#	坏			ナデ	ナデ	黄褐 (10Y R 8/6)	黄褐 (10Y R 8/6)	微細な乳白色粒、2mmの褐色・双色粒		
715	#	土師器	#	坏	18.7		ミガキ	ミガキ	にぶい橙 (75Y R 6/4)	橙 (75Y R 6/6)	1.5mmの黑色光沢粒、2.5mmの透明光沢粒、1mmの灰白・橙・にぶい赤褐・褐色灰粒		
716	#	土師器	#	坏	18.8		ミガキ	ミガキ	明赤褐 (25Y R 5/6)	明赤褐 (25Y R 5/6), にぶい赤褐 (SYR 5/4)	微細な透明光沢・黒色光沢・淡黄色粒、2mmの茶・黑色光沢	丹塗り	
717	#	土師器	#	坏	15.9	6.75	ミガキ	丁寧なナデ	明黄褐 (10Y R 7/6)	橙 (75Y R 7/6)	2.5mmの灰褐・褐灰・黒褐色粒		
718	#	土師器	#	坏			ナデ	八ヶ	橙 (SYR 7/6)	淡褐 (SYR 8/4)	1mmの褐色粒		
722	第115図	土師器	31号墳	壺	34.3	29.3	ナデ、 剣目突帯	ナデ	灰黄 (2.5Y R 6/2), 橙 (75Y R 6/6)	橙 (75Y R 7/6), にぶい橙 (75Y R 7/3)	4mmの灰褐・にぶい褐・灰色粒		
723	#	土師器	#	壺or壺	6.5		ミガキ、ナデ	ナデ	前赤褐 (5Y R 5/6), にぶい黄褐 (10Y R 6/4)	橙 (75Y R 6/6)	1mmの透明光沢粒、3mmの灰白・黒褐色粒、5mmの赤褐・褐色灰粒		
724	#	土師器	#	壺	7.8		八ヶ、ナデ	丁寧なナデ	にぶい黄褐 (10Y R 7/4)	橙 (75Y R 7/6)	1mmの透明光沢粒、2mmの褐灰・灰白・黒褐色粒、5mmの褐色粒		
725	#	土師器	#	壺	6.3		八ヶ、ナデ	八ヶ、ナデ	橙 (75Y R 7/6)	橙 (75Y R 7/6)	1mmの透明・黒色光沢粒、3mmの灰白・4mmの褐灰・灰褐色粒		
726	#	土師器	#	壺	5.2		八ヶ	八ヶ、ナデ	淡黄褐 (10Y R 8/4)	黄褐 (10Y R 8/6)	1mmの褐色・乳白色粒、3mmの褐・灰色粒		
727	#	土師器	#	壺	6.0		ナデ、 一部八ヶ	ナデ、 一部八ヶ	にぶい黄褐 (10Y R 7/3)	にぶい黄褐 (10Y R 7/3)	微細な透明・黒色光沢粒、4mmの褐褐・灰褐・褐色粒		
728	#	土師器	#	高坏	21.0		ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	にぶい橙 (75Y R 7/4)	橙 (75Y R 7/6)	微細な透明光沢・黒色・灰褐色粒		
729	#	土師器	#	高坏			ミガキ、ナデ	ナデ、ミガキ	明赤褐 (25Y R 5/6)	橙 (75Y R 7/6), にぶい黄褐 (10Y R 7/3)	1mmの透明・黑色光沢粒、2mmの褐灰・5mmの褐灰・灰褐色粒	丹塗り	
730	#	土師器	#	坏	16.2	6.7	ナデ	ナデ、 一部八ヶ	ナデ、 一部八ヶ	橙 (SYR 7/6)	橙 (75Y R 7/6)	微細な透明光沢粒、4mmの褐・褐灰・灰褐色粒	
731	#	土師器	#	碗	15.8	6.9	ナデ、ミガキ	ナデ	淡黄褐 (75Y R 8/4)	淡黄褐 (75Y R 8/6)	2mmの褐・灰・乳白色粒		
732	#	土師器	#	坏	18.3	7.05	ナデ、ケズリ	ミガキ	淡黄褐 (75Y R 8/4)	淡黄褐 (75Y R 8/5)	1mmの黒色光沢粒、2mmの透明光沢・赤褐・灰白・灰褐色粒		
733	#	土師器	#	碗	15.3	7.4	ミガキ、 ケズリ	ナデ、ミガキ	淡黄褐 (10Y R 8/3)	淡黄褐 (10Y R 8/4)	1mmの褐色・灰褐色・4mmの褐色粒、7mmの褐色粒		
734	第116図	土師器	#	鉢	15.9		ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい黄褐 (10Y R 7/4)	にぶい黄褐 (10Y R 7/3)	2mmの透明・黒色光沢粒、3mmの褐灰・褐色粒		
735	#	土師器	#	脚付鉢			ナデ、ミガキ	ナデ	にぶい黄褐 (10Y R 7/3)	にぶい黄褐 (10Y R 7/4)	4mmの褐色粒、1mmの透明粒・灰褐色粒		
750	第118図	土師器	4号 土坑	壺	33.6		ナデ、 剣目突帯	ナデ	黑褐 (10Y R 3/1)	にぶい黄褐 (10Y R 6/3)	5mmの茶色粒		
751	#	土師器	#	壺	165	4.5	16.8	ナデ、 剣目突帯	ナデ	にぶい黄褐 (10Y R 8/3)	にぶい黄褐 (10Y R 5/1)	微細な透明光沢粒、1mmの白灰色粒、2mmの橙色粒、5mmの灰褐色粒	
752	#	土師器	#	高坏	30.8		ミガキ	ミガキ、回転 ナデ	にぶい橙 (75Y R 7/6)	橙 (6Y R 6/1)	4mmの乳白色粒、6mmの褐色粒		
753	#	土師器	#	高坏			ミガキ	ミガキ	にぶい橙 (75Y R 7/6)	橙 (75Y R 7/6), 橙 (6Y R 4/1)	微細な光沢粒、3mmの茶褐・灰褐色粒		

第5表 古墳時代土器・土製品観察表(20)

番号	掲載図	種別	出土地点	器種	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴(混入物)	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
754	第118図	土師器	4号土坑	高环				ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	にぶい黄橙 (10YR 6/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	1mmの透明光沢粒・柱状黑色光沢粒、2mmの灰白色粒	
755	#	土師器	*	高环				ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	櫛(SVR 6/6)	櫛(SVR 6/6)	2mmの透明・黒色光沢粒、3mmの 場所・灰褐色・黒褐色・にぶい橙・ 黄灰色粒	
756	#	土師器	*	高环	11.4			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	にぶい黄橙 (10YR 6/4)	にぶい黄橙 (10YR 6/4)	微細な透明光沢粒、1mmの灰黄色 粒・柱状黑色光沢粒、3mmの茶色 粒	
757	#	土師器	*	高环	10.6			ナデ、ミガキ	ナデ、ミガキ	櫛 (SVR 6/6)	櫛 (SVR 6/6)	微細な透明光沢粒、1mmの橙色 粒・柱状黑色光沢粒	
763	第120図	土師器	5号土坑					ミガキ	ナデ	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	微細な透明・黒色光沢粒、2.5mm の棒・にぶい黄橙・灰白色粒	
764	#	土師器	*		12.4	6.3		ナデ、ハケ	ナデ、ハケ	櫛(SVR 6/6)	櫛(SVR 6/6)	1.5mmの透明・不透明・黒色光沢 粒、2mmのにぶい赤褐色・灰褐色・ 褐色・灰白色粒	
765	第121図	土師器	遺構外	備				ナデ、ミガキ	ハケ	明赤褐色 (2SYR 7/3)	櫛 (7SYR 4/3)	微細な透明光沢粒、1mmの大 の灰白色粒、1mm - 6mmのにぶい橙色 粒、5mmの大の黒褐色粒	
766	#	土師器	*	高环	28.6			ミガキ、ナデ	ナデ	にぶい赤褐色 (5YR 5/4)	赤褐色 (7SYR 6/2), にぶい赤褐色 (5YR 5/4)	4mmの灰褐色・にぶい赤褐色・灰 白・灰色・透明光沢粒	
767	#	土師器	*	高环				ナデ、ミガキ	ナデ	櫛 (5YR 5/4)	櫛 (5YR 6/6)	微細な透明光沢粒、2mmの透 明・黑褐色・灰白色・褐色粒	
768	#	土師器	*	高环	10.9			ミガキ、ナデ	ミガキ、ナデ	櫛 (5YR 7/6)	櫛 (5YR 7/6)	微細な透明光沢粒、1.5mmの櫛・ 赤褐色粒、4mmの淡黄橙・灰 褐色・褐色灰色粒	
769	#	土師器	*	环	14.9	5.8		ミガキ、ナデ	ミガキ	明赤褐色 (2SYR 5/6)	明赤褐色 (5YR 5/6)	2mmの黒色光沢・透明光沢・ 灰褐色・淡黄色粒、3mmの褐色 粒	

第6表 石器計測表①(1)

番号	出土位置	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
48	1号竪穴	軽石製品	4.9	3.3	2.4	8.5	軽石	穿孔
49	"	剥片	2.65	1.45	1.0	2.6	チャート	
50	"	"	1.6	1.3	0.3	0.4	チャート	
51	"	"	2.2	1.5	0.4	0.6	チャート	
60	2号竪穴	砥石	8.15	5.0	2.0	64.4	砂岩	
61	"	磨石+敲石	8.0	6.6	3.3	188.9	安山岩	
62	"	軽石製品	11.3	8.2	6.7	177.0	軽石	
77	3号竪穴	磨石+敲石	5.9	3.5	5.1	82.3	砂岩	
78	"	軽石製品	9.7	5.0	2.75	34.1	軽石	
89	5号竪穴	敲石	15.5	3.9	3.6	363.2	砂岩	
106	6号竪穴	剥片	4.9	3.3	0.8	11.2	頁岩	
121	7号竪穴	軽石製品	5.9	9.5	4.3	87.7	軽石	
145	9号竪穴	台石(金床石)	12.6	12.2	5.6	863.5	安山岩	
169	10号竪穴	砥石	5.4	4.7	2.1	70.5	安山岩	
170	"	台石	17.7	11.3	6.3	2,043	安山岩	
171	"	敲石	19.6	6.0	4.1	748.9	砂岩	
183	11号竪穴	台石	22.8	12.7	5.0	2,400	安山岩	
214	12号竪穴	敲石+砥石	13.8	11.9	5.0	1,139	砂岩	
215	"	凹石	8.0	5.1	5.9	348.6	砂岩	
216	"	台石	22.9	11.2	5.1	285.0	軽石	
217	"	磨製石器の破片	6.5	3.8	0.5	13.7	粘板岩	
218	"	台石+凹石	26.1	14.5	8.6	4,500	砂岩	
244	13号竪穴	敲石	7.0	-	-	536.5	安山岩	ほぼ球形
245	"	台石	15.9	7.0	4.3	882.4	砂岩	
264	14号竪穴	台石(金床石)	20.2	15.0	3.3	1,254	安山岩	
265	"	台石(金床石)	30.0	20.3	11.9	9,800	安山岩	
302	15号竪穴	砥石	23.4	16.5	9.0	3,533	砂岩	
348	16号竪穴	敲石+砥石	16.5	14.6	7.8	3,091	砂岩	
349	"	軽石製品	7.1	8.8	3.8	45.0	軽石	使用痕
350	"	"	14.2	9.3	5.9	208.0	軽石	
351	"	"	6.8	7.9	3.8	55.5	軽石	使用痕
352	"	"	12.3	8.3	6.5	180.2	軽石	使用痕
361	17号竪穴	台石	13.5	10.0	4.4	720.5	安山岩	
362	"	軽石製品	8.6	7.8	5.8	83.5	軽石	
379	18号竪穴	台石(金床石)	20.1	10.4	10.2	2,450	安山岩	
380	"	台石	22.6	11	6.5	2,350	砂岩	
407	19号竪穴	砥石	15.2	4.1	20.5	236.3	砂岩	
409	"	台石(金床石)	28.0	13.9	6.8	4,500	砂岩	
410	"	軽石製品	18.8	16.1	7.1	516.0	軽石	
435	20号竪穴	砥石	9.9	4.7	2.5	193.0	砂岩	
436	"	敲石?+砥石	7.4	6.2	3.5	264.0	硅質砂岩	
437	"	軽石製品	8.5	6.4	3.5	53.1	軽石	
480	21号竪穴	台石	15.0	7.0	5.3	1,008	安山岩	
481	"	台石	7.6	6.5	4.5	364.1	安山岩	
482	"	台石	15.6	9.7	5.2	1,028	砂岩	
483	"	軽石製品	5.7	8.6	4.3	57.3	軽石	
484	"	"	8.6	8.9	6.1	112.8	軽石	
485	"	"	17.8	9.1	4.5	221.3	軽石	

第6表 石器計測表①(2)

番号	出土位置	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石材	備考
486	21号竪穴	軽石製品	17.4	14.9	7.2	363.7	軽石	
511	22号竪穴	敲石	15.7	5.4	4.4	645.5	砂岩	
538	23号竪穴	軽石製品	16.1	11.9	3.9	198.1	軽石	
539	"	"	7.7	6.8	5.6	84.6	軽石	
540	"	"	6.4	5.5	2.3	20.0	軽石	
572	24号竪穴	台石	19.9	8.4	4.3	639.5	安山岩	
573	"	砥石+敲石	10.1	7.6	4.7	646.4	凝灰岩?	
574	"	砥石又は台石	5.4	2.1	1.2	23.0	砂岩	
575	"	敲石+磨石	15.6	9.6	8.2	1,813	砂岩	
576	"	台石(金床石?)	16.4	7.1	6.8	888.1	安山岩	
577	"	凹石+敲石	12.1	10.7	3.5	653.8	砂岩	
578	"	軽石製品	11.2	7.75	5.6	105.6	軽石	
579	"	"	21.8	12.6	8.1	510.3	軽石	
580	"	"	7.1	7.7	4.0	41.0	軽石	
581	"	"	8.8	5.7	4.5	47.4	軽石	
582	"	"	12.3	12.8	5.9	148.7	軽石	
583	"	"	9.4	7.1	3.4	56.0	軽石	
604	25号竪穴	砥石+台石(金床石)	12.2	6.1	6.0	512.6	砂岩	
605	"	砥石	14.9	11.9	4.7	1,118	砂岩	
606	"	台石	9.4	6.8	5.3	75.7	軽石	
607	"	不明	13.1	5.5	5.6	533.9	砂岩	
608	"	磨製石鏡の破片	2.0	1.0	0.28	0.6	粘板岩	
663	28号竪穴	軽石製品	16.6	10	5.7	339.1	軽石	
664	"	"	13.5	9.1	5.7	162.4	軽石	
665	"	"	19.8	12.1	9.2	502.3	軽石	
666	"	"	14.4	9.0	4.0	138.5	軽石	
667	"	"	13.6	7.5	2.8	81.9	軽石	
668	"	"	7.9	7.8	5.7	112.0	軽石	
669	"	"	13.8	12.3	6.5	308.0	軽石	
670	"	"	10.7	6.2	5.4	93.1	軽石	
671	"	"	6.9	6.4	7.4	86.0	軽石	
699	29号竪穴	敲石	13.3	7.3	4.9	576.5	砂岩	
700	"	敲石+砥石	16.9	5.7	4.8	573.7	砂岩	
701	"	不明	14	7.0	4.7	629.9	安山岩	
702	"	不明	11.6	7.3	5.3	454.3	砂岩	
703	"	不明	14.2	7.8	4.8	697.3	安山岩	
704	"	不明	16.6	6.9	4.1	546.6	安山岩	
705	"	不明	13.3	6.5	4.7	589.4	安山岩	
706	"	不明	16.1	7.1	4.7	896.6	砂岩	
707	"	不明	7.9	6.2	4.0	232.3	砂岩	
719	30号竪穴	砥石	14.3	7.8	2.5	326.7	流紋岩	いわゆる「天草砥石」
720	"	敲石+砥石	31.1	12.5	9.2	4,970	砂岩	
721	"	台石	12.8	13.7	5.9	2848	軽石	
748	31号竪穴	砥石+台石(金床石)	16.8	13.0	8.1	3,079	砂岩	
749	"	磨製石鏡	1.1	1.7	0.2	0.4	粘板岩	
760	4号土坑	磨製石鏡	3.1	2.1	0.3	3.0	粘板岩	
761	"	軽石製品	9.6	9.0	3.8	743	軽石	
762	"	"	11.0	6.4	3.8	62.7	軽石	

第6節 古代以降の遺構と遺物

1 遺構と遺物

豎穴状遺構（遺構：第122図 出土遺物：第123図770～781）

A区の中央、20号豎穴建物と重なって検出された方形の遺構である。短軸3.3m、長軸3.5mを測り遺構内には柱穴状に4基のピットが穿たれる。床面には焼土が分布がみられ、そこを囲むように硬化面が広がる。

出土遺物は、櫛・壺・皿・鉢などの土師器、一輪挿し様の須恵器小壺などが出土している。時期は壺類の形状からは、9世紀の後半から10世紀にかけてとみていいだろう。

6号土坑（出土遺物：第127図787）

平面図が失われており、遺構の形状・位置を特定することができなかった。6号土坑出土の遺物としては、内面にケズリを有する土師器片が出土しており、9世紀代のものであろうか。

道路状遺構（遺構：第124図・第125図 出土遺物：第126図782～786）

A区の南側をほぼ東西に横切る道路状遺構である。検出面での幅約2.5mから約4.8mで、中央に60～70cm程度の硬化面が2面確認されている。石器剥片が出土しているが、縄文時代の包含層からの流入であろう。土層断面に文明降下軽石（1475年桜島起源）の堆積が確認でき、その堆積状況から古代末から中世にかけてのものと判断された。比較的大型な道路状遺構であり、後述する溝状遺構やピット群も含め古代から中世の平峰遺跡を評価するのに重要な位置を占めるだろう。

溝状遺構（遺構：第4図）

B区内を、東西、南北方向にめぐる溝状遺構である。B区の全面を区画するようにめぐっており、図下はしていないが出土遺物などから中世の区画溝と考えられる。

ピット群

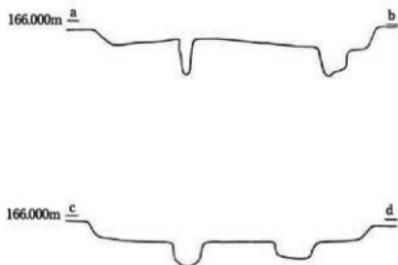
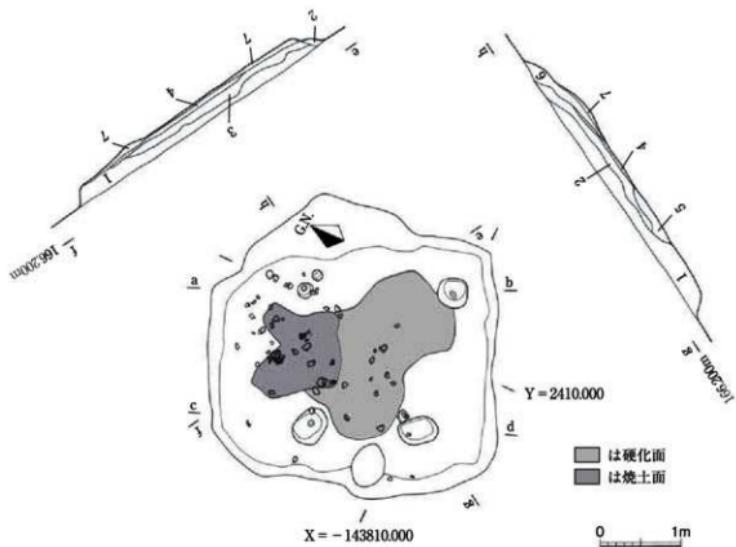
図化していないが、主にB区内で溝状遺構に区画されるように検出されている。掘立柱建物跡として認識することはできなかったが、中世集落を形成する可能性は高いだろう。

その他の遺構・遺物（第127図788～800）

その他、古代の甕、瓶、壺、古代・中世の輸入磁器類、近世の肥前系染付けなどが出土している。また、時期不明で図化していないが、土坑2基（7号および8号）が確認されている。

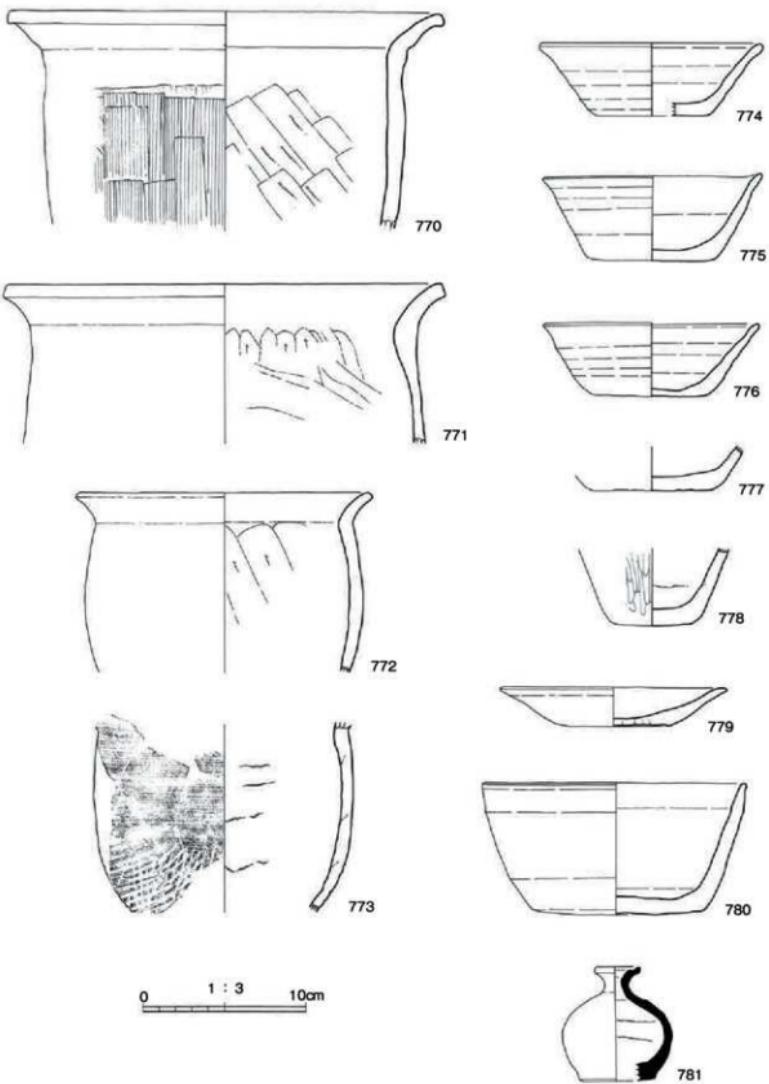
2 小結

古代以降の成果については、記録の不備もありあまり目立ったものはないが、遺物の中には「巳」と墨書きされた古代の壺や輸入陶磁器類も確認されており、近辺に富裕層の屋敷地があった可能性もある。大型の道路状遺構や集落の区画と考えられる溝状遺構なども含め、今後、改めて検討する必要があろう。

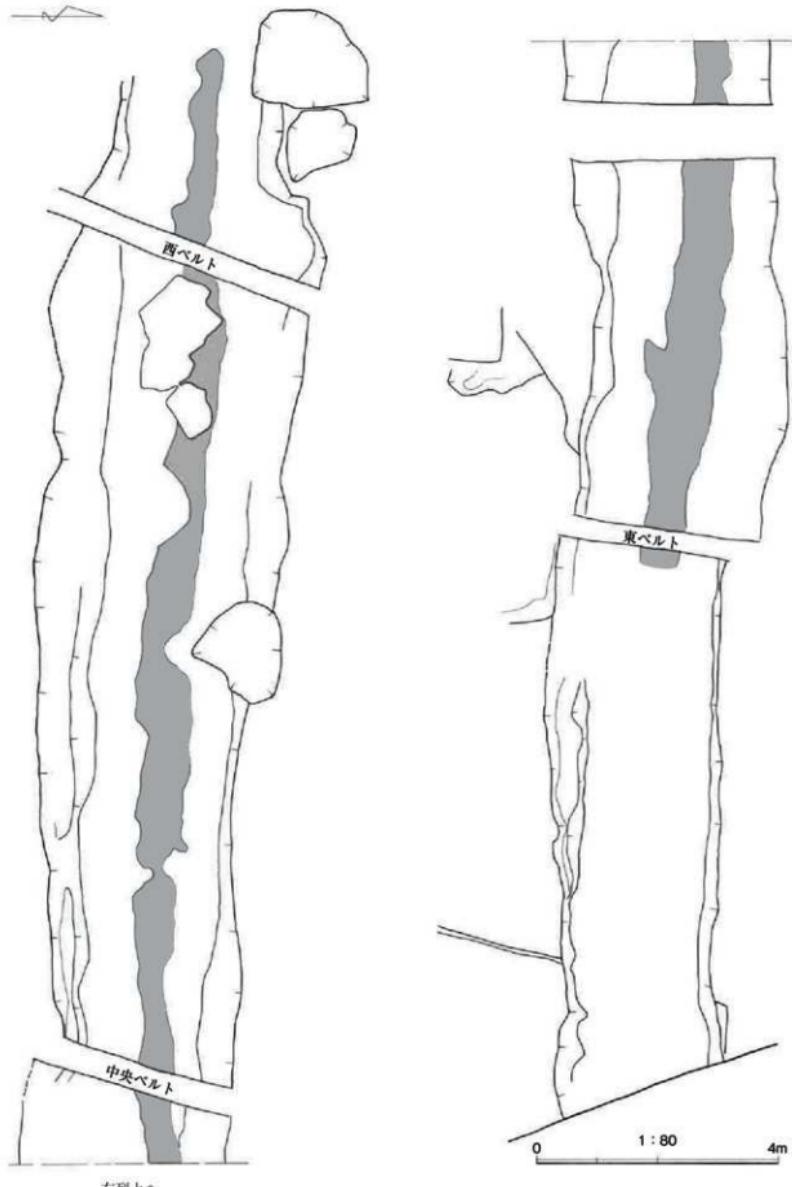


- 1 暗褐色土 (10YR 3/3) 御池ボラ粒を15%ほど含む。
- 2 暗褐色土 (10YR 3/1) 御池ボラ粒を15%ほど含む。
- 3 暗褐色土 (10YR 3/1) にぶい黄褐色 (10YR 5/4) 粘土ブロック (竈拂塗土か) 40%、炭化物10%ほど混在。御池ボラ粒を15%ほど含む。
- 4 灰黄褐色土 (10YR 6/2) 炭化物・灰様のものが10%ほど混ざる。
- 5 黑褐色土 (10YR 3/1) 御池ボラ粒を25%ほど含む。
- 6 黑褐色土 (10YR 3/2) 御池ボラ粒を30%ほど含む。
- 7 不明。

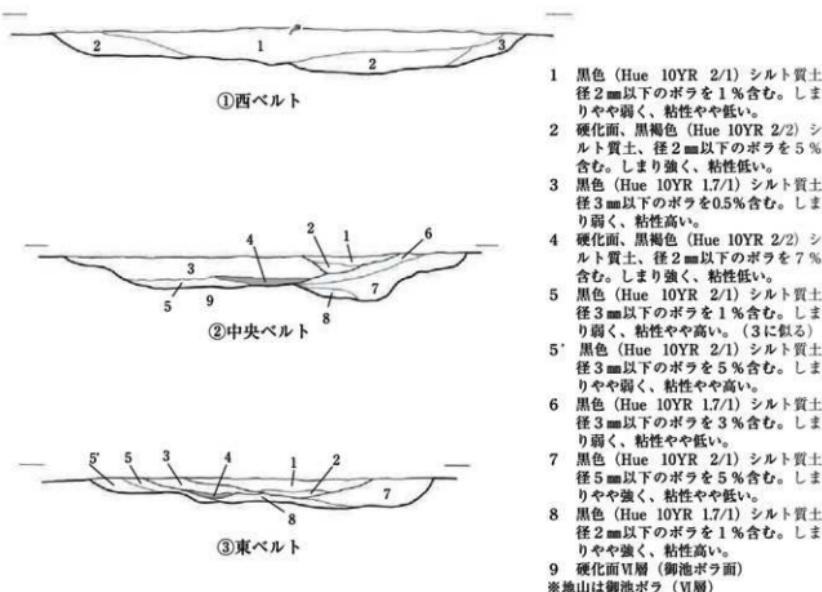
第122図 竪穴状遺構 (S = 1/60)



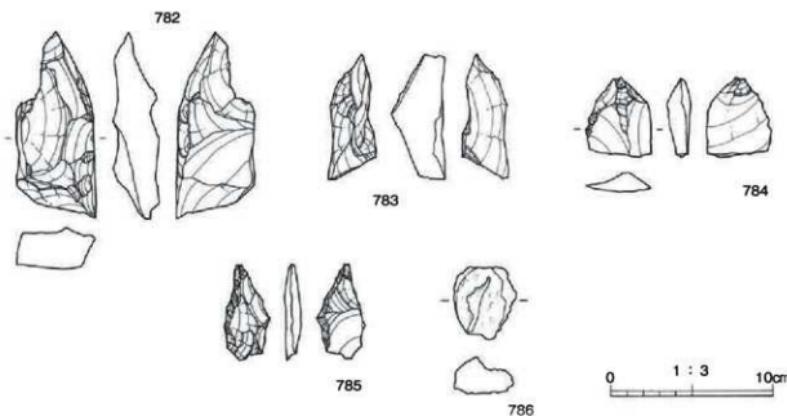
第123図 竪穴状遺構出土遺物



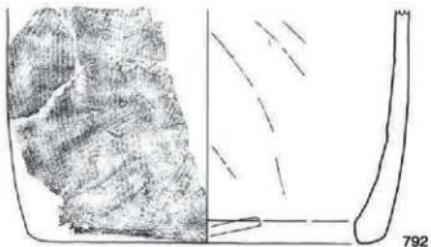
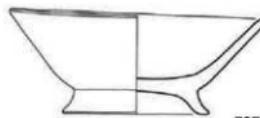
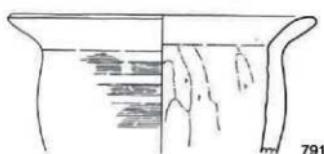
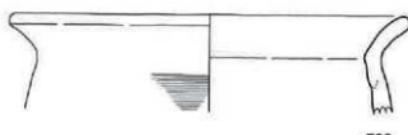
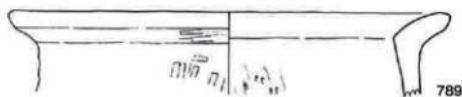
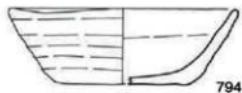
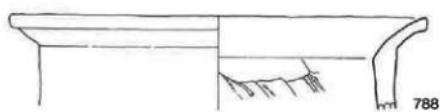
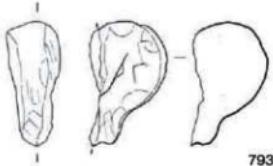
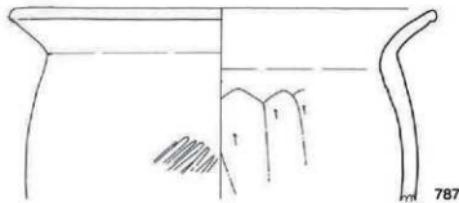
第124図 道路状遺構



第125図 道路状遺構埋土



第126図 道路状遺構埋土中遺物



0 1 : 3 10cm

第127図 6号土坑・その他の遺構出土遺物

第7表 古代土器観察表

番号	掲載図	種別	出土地点	器種	法量(cm)		手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴(混入物)	備考	
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
770	第12回	土師器	豊六状	壺	26.4			ナデ、ハケ	ナデ、ケズリ	褐色(75YR 6/6) にぶい黄橙(10YR 6/3)	4mmの灰黄褐色・灰白・にぶい褐色		
771	#	土師器	#	壺	26.8			ナデ	ナデ	褐色(75YR 6/6) にぶい黄橙(10YR 6/3)	微細な透明光沢・黒色光沢粒、1mmの透明光沢粒、3mmの褐・茶色粒		
772	#	土師器	#	小形壺	17.6			ナデ	ナデ、ケズリ	褐色(75YR 6/6) にぶい黄橙(10YR 6/3)	微細な透明光沢・黒色光沢粒、1mmの透明光沢粒、3mmの褐・茶色粒		
773	#	土師器	#	壺				ハケ	ナデ	褐色(75YR 6/6) にぶい黄橙(10YR 6/3)	微細な透明光沢粒、1mmの白灰・黑褐色粒、2mmの灰白色粒		
774	#	土師器	#	壺	13.6	6.8	5.45	ナデ ヘラ切り	ナデ	褐色(75YR 7/6) にぶい黄橙(10YR 6/4)	1mmの赤褐色・灰褐色・灰白色粒		
775	#	土師器	#	鉢	13.35	8.0	5.4	ナデ、ケズリ	ナデ	褐色(75YR 7/6) にぶい黄橙(10YR 6/6)	1mmの黒色・灰色・白色光沢粒、白灰・赤灰色粒、3mmの灰褐色粒、4mmの暗赤灰色粒		
776	#	土師器	#	壺	13.1	7.1	4.6	ナデ、ケズリ	ナデ、線刻	褐色(75YR 7/6) にぶい黄橙(10YR 7/3)	微細な黑色粒、2mmの赤褐色粒		
777	#	土師器	#	壺				ナデ	ナデ	褐色(75YR 7/6) にぶい黄橙(10YR 7/3)	1mmの灰・褐色粒		
778	#	土師器	#	碗				ミガキ、ナデ	ナデ	褐色(5YR 6/6), 棚(75YR 6/6)	2mmの淡黄・灰・乳白・褐・透明光沢粒、5mmの灰白色粒		
779	#	土師器	#	皿	13.45	6.8	2.5	ナデ	ミガキ	褐色(75YR 5/6) にぶい黄橙(10YR 7/1)	微細な灰白色粒、1mm大の赤褐色		
780	#	土師器	#	鉢	14.6	10.7	8.1	ナデ、ケズリ	ナデ	褐色(75YR 6/6) にぶい黄橙(10YR 7/6)	1mmの赤褐色粒、3mmの黑褐色粒		
781	#	須恵器	#	小型壺	2.7	4.8	7.0	ナデ、 回転ナデ	回転ナデ	灰白(5YR 7/2), 茶色(5YR 6/2)	2mmの黑褐色粒		
787	第12回	土師器	6号坑	壺	24			ナデ	ナデ、ケズリ	褐色(75YR 7/6), 暗赤黃(25YR 5/2)	2mmの茶褐色・灰褐色粒、透明光沢粒		
788	#	土師器	A1	壺	25.4			ナデ	ナデ、ケズリ	褐色(75YR 7/6) にぶい黄橙(10YR 7/6)	3.5mmの灰褐色・にぶい褐・浅黄・灰白色粒		
789	#	土師器	D5	壺	26.5			工具ナデ	ナデ	褐色(5YR 6/6) にぶい黄橙(10YR 7/6)	微細な灰褐色・乳白色粒、2mmの褐・黑・灰・透明光沢粒、4mmの褐・黑・乳白色粒		
790	#	土師器	I号溝	壺	24.0			ナデ、ハケ	ナデ、ケズリ	褐色(75YR 7/6) にぶい黄橙(10YR 7/6)	1mmの透明白色光沢粒、3mmの褐・灰褐色・灰白・橘灰色粒		
791	#	土師器	A1	壺	18.6			ナデ、ハケ	ナデ、ケズリ	褐色(75YR 6/6) にぶい黄橙(10YR 6/6)	1mmの透明白色光沢粒、3mmの褐・黑・灰褐色粒		
792	#	土師器	R11	瓶	18.8 or 22.0			ハケ	ケズリ	褐色(75YR 6/6) にぶい黄橙(10YR 7/3)	2mmの透明白色光沢粒、3mmの褐・灰褐色・灰白・橘灰色粒		
793	#	土師器	R11III -IV	瓶						褐色(75YR 6/6) にぶい黄橙(10YR 7/3)	微細・2mmの黒色・不透明光沢粒、2mmの灰褐色・灰白・橘灰色		
794	#	土師器	A1	壺	13.9	8.4	4.65	回転ナデ、 ヘラ切り	回転ナデ	褐色(5YR 6/6) にぶい黄橙(10YR 7/4)	3mmの灰褐色・灰白・にぶい褐色		
795	#	土師器	24号墳	壺	12.7	7.0	5.2	ナデ、ケズリ、 ヘラ切り		褐色(75YR 7/4) にぶい黄橙(10YR 7/4)	1.5mmの褐・黑褐色・黑色粒		
796	#	土師器	20号墳	碗	10.7	7.0	4.25	ナデ、 ヘラ切り	ナデ	浅黄褐色(10YR 8/4) にぶい黄橙(10YR 8/4)	浅黄褐色(10YR 8/4)・深黄褐色(10YR 8/4)	微細な黑色・褐色粒	
797	#	土師器	20号墳	壺	15.3	8.05	6.45	ミガキ、 回転ナデ、 ナデ	ミガキ	にぶい黄橙(10YR 7/4), 茶色(10YR 5/2), 黑(10YR 5/2)	微細な透明光沢粒、1mmの淡黄・茶色粒		
798	#	土師器	22号墳	壺			3.0	施釉、露胎	施釉	種調 オリーブ灰(5GY 6/1) にぶい黄橙(10YR 7/1)	胎土調 灰白(5Y 7/1)	-	
799	#	土師器	-	高台付鍋			6.2	施釉、露胎	施釉	種調 オリーブ灰(10YR 6/2) にぶい黄橙(10YR 7/1)	胎土調 灰白(5Y 7/1)	-	
800	#	土師器	-	碗	11.0			施釉	施釉	灰白色(75YR 8/1) にぶい黄橙(10YR 8/1)	灰白色(75YR 8/1)	-	